

科目名	言語文学I(一)		担当教員	☆ 小林 理正	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	三十六歌仙の歌を読む				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中古文学作品に関する基礎知識を習得する。 ・中古文学作品の分析方法を習得する。 ・古典文学研究の基本的な手法を習得する。 				
授業概要	<p>「三十六歌仙」とは、藤原公任『三十六人撰』に選ばれた三十六人の歌人らを指す。本演習は、三十六歌仙の和歌を任意に一首選び、それらへの注釈をつづじて、用例や表現類例の検索方法および読み解くうえでの勘所をおさえ、古典文学研究の基礎的な手法を身につけることを目標としている。</p>				
評価方法・基準	<p>発表 70%(用例を適切に検索出来ているか、分析方法や根拠・論理展開は妥当か、など)、授業中の発言 30%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。授業中での発言・質疑応答を重視する。</p>				
課題のフィードバック方法	<p>発表やその後の質疑応答については、その場で講評する。また、発表内容や構想等に関しては、適宜相談に応じる。</p>				
履修上の注意事項等	<p>発表準備は早めに取りかかることを推奨する。発表者が発表当日に無断欠席した場合は、単位は認めない。</p>				
テキスト					
参考書	和歌のルール 渡辺泰明編 笠間書院 2015				
授業内容	<p>1. ガイダンス・前期発表担当決め ----- [予習・復習] 演習を行う際の注意点を振り返る。辞書・事典等で自分の担当歌にみえる語句を調べる。</p> <p>2. 発表の準備方法について①—三十六歌仙の基礎知識および用例の検索方法と分析のポイント— ----- [予習・復習]講義を振り返り、担当歌人について言及する諸資料を確認しておく。</p> <p>3. 発表の準備方法について②—和歌の修辞技法と解釈上の注意点— ----- [予習・復習]自分の担当歌について、用例検索と分析を行い、発表準備を進めておく。</p> <p>4. 演習発表「柿本人麿」 ----- [予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。</p>				

科目名	言語文学I(一)	担当教員	☆ 小林 理正
授業内容	5. 演習発表「凡河内躬恒」		

	[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	6. 演習発表「大伴家持」		

	[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	7. 演習発表「在原業平」		

	[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	8. 演習発表「素性法師」		

	[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	9. 演習発表「猿丸太夫」		

	[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
10. 演習発表「藤原兼輔」			

[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
11. 演習発表「藤原敦忠」			

[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
12. 演習発表「源公忠」			

[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
13. 演習発表「斎宮女御」			

[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
14. 演習発表「藤原敏行」			

[予習・復習]発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
15. 補足とまとめ			

[予習・復習]			
演習を通して学んだ方法や視点について、自分なりにまとめておく。			

科目名	言語文学I(二)		担当教員	三宅 晶子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	狂言の魅力、室町・江戸期の人々の考え方、行動・表現・言葉などを知り、現代人との共通性と相違について学ぶ。				
到達目標	映像を見て、何が演じられているのか理解できる。現代人の言語表現との関係性を理解できる。能・狂言について何かが語れるようになる。能楽堂に足を運び、実際の能・狂言を鑑賞する。				
授業概要	<p>毎回テーマの異なった狂言を一曲取り上げ、そのあらすじ、見所などを解説した後、舞台映像を鑑賞する。その映像についての幾つかの問題をあらかじめ与えておき、それについての解答と、鑑賞した自由な感想、質問をリアクションペーパーにまとめ、提出する。</p> <p>次週前半で、前週とりあげた狂言に関しての詳しい解説を行う。問題の正解と解説を行う。質問に対して答える。</p>				
評価方法・基準	<p>平常点（積極的な授業への参加を重視、毎回授業終了時に、その日の内容に関する小テストと感想・質問などの報告書を提出。授業内容の理解度を評価）50%</p> <p>レポート(最終レポート、狂言に関して一つのテーマを定め論じる)50%</p>				
課題のフィードバック方法	小テストの課題を段階的に与え、それについての知見について、提出の度にコメントを付して返却し、次の授業の時に正解を説明し、質問に答える。レポートに関しては、テーマの定め方、論の進め方、参考書などを指導する。				
履修上の注意事項等	<p>毎回新しい情報を提供し、それを踏まえて次の段階へと進んでいくので、その積み重ねが大切である。</p> <p>実際の舞台映像を鑑賞して理解することに重点を置いているので、上映中にはよく観て理解すること。</p>				
テキスト	授業時に配布				
参考書					
授業内容	<p>1. 能・狂言についての概説 入門ビデオ鑑賞</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] この授業で何を学びたいか自覚を持つ・ノートの整理</p> <p>2. 狂言についての解説 狂言に関する入門ビデオ鑑賞</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 能と狂言の関係を理解</p> <p>3. 附子(ぶす) 和泉流・大蔵龍 狂言の表現法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 〈附子〉についての概要・ノートの整理</p> <p>4. 茸(くさびら)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 〈茸〉についての概要・ノートの整理</p>				

科目名	言語文学I(二)	担当教員	三宅 晶子
授業内容	5. 川上(かわかみ)		

	[予習・復習] <川上>についての概要・ノートの整理		
	6. 木六駄(きろくだ) 和泉流 野村万作		

	[予習・復習] <木六駄>についての概要・ノートの整理		
	7. 木六駄(きろくだ) 和泉流 野村万蔵		

	[予習・復習] 野村万作の演技・ノートの整理		
	8. 木六駄(きろくだ) 大蔵流 山本東次郎・茂山千作		
	[予習・復習] 和泉流の演技・流儀や演者による違いを理解		
	9. 寝音曲(ねおんぎょく) 和泉流 野村万蔵 と能<海士>「玉ノ段」		

	[予習・復習] <寝音曲>についての概要・ノートの整理		
	10. 寝音曲(ねおんぎょく) 大倉流 茂山千作 と能<放下僧>		

[予習・復習] 和泉流の演技・流儀や演者による違いを理解			
11. 釣狐(つりぎつね) ドキュメンタリー鑑賞			

[予習・復習] <釣狐>の概要・ノートの整理			
12. 釣狐(つりぎつね) 和泉流 野村万作			

[予習・復習] 和泉流<釣狐>の概要・ノートの整理			
13. 釣狐(つりぎつね) 大蔵流 山本東次郎			

[予習・復習] 大倉流<釣狐>の概要・和泉流との違いを把握			
14. 唐相撲(とうずもう)			

[予習・復習] <唐相撲>の概要・ノートの整理			
15. スーパー狂言<ムツゴロウ>			

[予習・復習] <ムツゴロウ>の概要・ノートの整理			

科目名	言語文学I(三)		担当教員	中尾 和昇	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	初期草双紙(青本)をよむ				
到達目標	①草双紙に関する基礎的知識を習得する。②近世文学の基礎的な読解方法を習得する。③典拠の利用方法について理解する。				
授業概要	近世中後期に流行した「草双紙」は、子供向けの「赤本」からはじまり、内容の変化にしたがって、「黒本」「青本」「黄表紙」「合巻」へと発展した娯楽絵本である。この授業では、都賀庭鐘作の読本『繁野話』第五篇「白菊の方猿掛の岸に怪骨を射る話」を典拠とする、青本『猿影岸変化退治』(富川房信画、明和7年[1770]刊)を精読することで、読本作品の絵本化の特徴を理解したい。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業への積極性を評価する)、口頭発表 40%(資料の完成度・基礎的な読解力を評価する)、レポート 30%(精確性・客観性・論理性を評価する)。				
課題のフィードバック方法	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。レポートに関しては、添削した後個別に指導をおこなう。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返された場合は、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	草双紙事典 叢の会 東京堂出版 2006				
授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスを読み、授業内容を理解しておく。この授業の計画について把握する。</p> <p>2. 発表資料の作成方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(語釈や現代語訳といった基礎的な読解作業・資料の作り方など)についての理解を深める。</p> <p>3. 初期草双紙の世界</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(初期草双紙の概要)についての理解を深める。</p> <p>4. 『猿影岸変化退治』とその典拠</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(『猿影岸変化退治』とその典拠の概要)についての理解を深める。</p>				

科目名	言語文学I(三)	担当教員	中尾 和昇
授業内容	<p>5. 読解①『猿影岸変化退治』上巻Ⅰ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 1丁表・1丁裏2丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>6. 読解②『猿影岸変化退治』上巻Ⅱ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 2丁裏3丁表・3丁裏4丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>7. 読解③『猿影岸変化退治』上巻Ⅲ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 4丁裏5丁表・5丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>8. 読解④『猿影岸変化退治』中巻Ⅰ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 6丁表・6丁裏7丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は場面の理解を深める。</p> <p>9. 読解⑤『猿影岸変化退治』中巻Ⅱ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 7丁裏8丁表・8丁裏9丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>10. 読解⑥『猿影岸変化退治』中巻Ⅲ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 9丁裏 10丁表・10丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>11. 読解⑦『猿影岸変化退治』下巻Ⅰ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 11丁表・11丁裏 12丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>12. 読解⑧『猿影岸変化退治』下巻Ⅱ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 12丁裏 13丁表・13丁裏 14丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>13. 読解⑨『猿影岸変化退治』下巻Ⅲ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 14丁裏 15丁表・15丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。</p> <p>14. 『猿影岸変化退治』典拠総括</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 発表者は『猿影岸変化退治』の全場面を総括した資料を作成し、他の受講生は全場面を振り返っておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は作品理解を深める。</p> <p>15. まとめー初期草双紙における読本作品利用ー</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(初期草双紙における読本作品利用)についての理解を深める。</p>		

科目名	言語文学I(四)		担当教員	山田 昇平	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	現代小説を日本語学的に読む				
到達目標	(1)日本語学的な視点を持つ、(2)ことばを考えるための基礎的な方法を身に着ける、(3)辞書などの語学ツールの種類や使い方を身に着ける				
授業概要	現代の小説(2004年以降)を資料に、そこで用いられる日本語を観察し、考察を行う(文学的な作品解釈ではない)。 2~6回は、考察にあたっての準備として、教科書の講読及び、基礎的な知識に関する講義を行う。7~14回は、各自資料となる小説を選択し、発表・議論を行う。これにより、日本語学(国語学)の基本的な考え方や姿勢を身に着けたい。 資料の選択には偏りを防ぐためジャンルを指定する予定だが、相談に応じる。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえた最終レポート 70%(内容の充実度・日本語に対する独自性のある問題設定・問題に対する適切な回答を総合的に判断する) ・議論 30%(生産性のある質問や意見・積極的な参加などを評価する) ・出席は加点対象としないが、欠席は減点対象とする				
課題のフィードバック方法	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。				
履修上の注意事項等	発表は個人発表で、毎回一人ずつの発表を予定するが、人数や進行に合わせて調整する。事前連絡なしに発表者が欠席した場合、単位を認めない。				
テキスト	小説の言葉尻をとらえてみた 飯間浩明 光文社新書 2017				
参考書	日本語の大疑問 国立国語研究所編 幻冬舎新書 2021				
授業内容	1. 国語学・日本語学とは? ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容を確認しておく 2. 教科書読み合わせ—内容・疑問点の整理 ----- [予習・復習] 教科書を通読しておく 3. 調査ツールの確認 ----- [予習・復習] 紹介したツールを各自使用しておく 4. 教科書読み合わせ—独自調査 ----- [予習・復習] 教科書を通読しておく				

科目名	言語文学I(四)	担当教員	山田 昇平
授業内容	5. 教科書読み合わせ—発表		

	[予習・復習] 発表時に不足していた点をまとめておく		
	6. 模擬発表・国語辞典について		

	[予習・復習] 発表方法を確認しておく。国語辞典についての知識を整理しておく		
	7. テーマ相談		

	[予習・復習] 発表テーマを考えておく		
	8. 発表(1)—ファンタジー小説		

	[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく		
	9. 発表(2)—ミステリー小説		

	[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく		
10. 発表(3)—コメディ小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
11. 発表(4)—サスペンス小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
12. 発表(5)—政治小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
13. 発表(6)—スポーツ小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
14. 発表(7)—冒険小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
15. まとめ			

[予習・復習] これまでの授業・発表資料を見直しておく			

科目名	言語文学I(五)		担当教員	光石 亜由美	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	小説の読み方				
到達目標	1. テキストを精読する方法を習得する。 2. ディスカッションの技術を習得する。 3. プレゼンテーションの技術を習得する。				
授業概要	前半は文学理論をふまえた作品の基礎的な読み方を習得する。レジユメの作成の仕方など発表の基礎的な部分を学んだのち、後半は、前半で習得したことをふまえて、発表を行う。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業内での課題作成)、授業内での発表 40%(レジユメの内容、プレゼンの仕方、質疑応答を評価します)、提出物・レポート 30%(与えられた課題に対しての達成度(論理性、論述性等)で評価します)				
課題のフィードバック方法	発表については、授業内で適宜コメントする。提出物については、次回授業で、講評・評価を行い、授業に反映させる。レポートについては、添削の上、オフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。				
テキスト	プリントで配布する				
参考書	文学テキスト入門 前田愛 ちくま学芸文庫 1993年				
授業内容	<p>1. 前期ガイダンス・文学研究の方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読む・文学研究の方法をノートにまとめる</p> <p>2. ①主人公</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 指定されたテキストを読む・主人公の役割についてノートにまとめる</p> <p>3. ②心理の流れ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめ配布されたレジユメの心理描写・情景描写の部分を読む・心理描写・情景描写についてノートにまとめる</p> <p>4. ③語り・呼称</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめ配布されたレジユメの語りの部分を読む・語り手の機能についてノートにまとめる</p>				

科目名	言語文学I(五)	担当教員	光石 亜由美
授業内容	5. ④ストーリーとプロット		
	----- [予習・復習] あらかじめ配布されたストーリーとプロットの部分を読む・ストーリーとプロットの内容についてノートにまとめる		
	6. ⑤インターテクスチュアリティ		
	----- [予習・復習] あらかじめ配布されたインターテクスチュアリティの部分を読む・「羅生門」と今昔物語集を比較する		
	7. レジユメの作成の仕方		
	----- [予習・復習] レジユメの作成の仕方のプリントを読む・レジユメの試案を作成する		
	8. 発表1 作品 A		
	----- [予習・復習] 作品 A を読む・作品 B の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	9. 発表2 作品 B		
	----- [予習・復習] 作品 B を読む・作品 B の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	10. 発表3 作品 C		
	----- [予習・復習] 作品 C を読む・作品 C の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	11. 発表4 作品 D		
	----- [予習・復習] 作品 D を読む・作品 D の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	12. 発表5 作品 E		
----- [予習・復習] 作品 E を読む・作品 E の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
13. 発表6 作品 F			
----- [予習・復習] 作品 F を読む・作品 F の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
14. 発表7 作品 G			
----- [予習・復習] 作品 G を読む・作品 G の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
15. まとめ・レポートについて			
----- [予習・復習] あらかじめ配布されたレポートについての部分を読む・レポートを作成し提出する			

科目名	言語文学I(六)		担当教員	木田 隆文	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	芥川龍之介の短編小説を読む				
到達目標	(1)近現代文学研究の基本的な視点と方法を身につける。 (2)自らの意見を論理的に説明する能力を養う。 (3)高校までの〈現代国語〉と、大学の〈文学研究〉の違いを理解する。				
授業概要	この授業では、芥川龍之介の小説作品を例に、近代文学研究に必要な基本的知識と手法を学ぶとともに、レポートや発表のために必要なスキルも身につけることを目指している。具体的にはまず「羅生門」を例に、講義形式で小説作品の分析方法を学ぶ。その後、指定された芥川龍之介の短編小説について、受講生自身が研究発表を行う。				
評価方法・基準	平常点(10%)、課題(20%)、発表(30%)、期末レポート(40%)。 平常は講義態度を重視する。レポート・課題・発表は、理解度や視点の独創性、論証の実証性を中心に評価する。				
課題のフィードバック方法	発表はその場で講評する。提出物はコメントを付して返却する。また課題提出に際しては、修正とコメントのやりとりを重ねることで、文章能力を高めるように配慮する。				
履修上の注意事項等	受講クラスは事前に指定されているため、登録の際には注意すること。 欠席したりわからないことが出た場合、翌週までに木田研究室まで質問に来ること。 発表作品は受講生の数や希望に応じて変更の可能性はある。				
テキスト	羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八編 芥川龍之介 文春文庫				
参考書	芥川龍之介全作品事典 関口安義他編 勉誠出版 2000 芥川龍之介大事典 志村有弘 勉誠出版 2002 その他、随時指示する				
授業内容	1. ガイダンス 〈現代国語〉と〈文学研究〉の違い ----- [予習・復習] 「羅生門」を読んでおく 2. 「羅生門」を読む1 〈芥川龍之介／作家〉とは何者か ----- [予習・復習] 配布された資料を読み、質問することを考える。 3. 「羅生門」を読む2 小説の作られ方 ----- [予習・復習] 配布された資料を読み、質問することを考える。 4. 「羅生門」を読む3 作品の面白さはどこにある？ ----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。				

科目名	言語文学I(六)	担当教員	木田 隆文
授業内容	5. 「羅生門」を読む4 登場人物を考える① 主人公編		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	6. 「羅生門」を読む5 登場人物を考える② モブキャラ編		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	7. 「羅生門」を読む6 場面・場所を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	8. 「羅生門」を読む7 時間を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	9. 「羅生門」を読む8 因果関係を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
10. 「羅生門」を読む9 人物関係を考える			

[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。			
11. 口頭発表のために			

[予習・復習] 講義内容を振り返り、発表に必要な準備を行う。			
12. 作品分析の実践1 口頭発表1 「鼻」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。次週発表作品を読んでおく。			
13. 作品分析の実践2 口頭発表2 「杜子春」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。次週発表作品を読んでおく。			
14. 作品分析の実践3 口頭発表3 「蜘蛛の糸」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。			
15. 前期まとめ			

[予習・復習] 配布資料を確認し、後期発表作品を考えておく。			

科目名	言語文学Ⅱ(一)		担当教員	☆ 小林 理正	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	三十六歌仙の歌を読む				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平安朝文学に関する基礎知識を習得する。 ・中古文学作品の分析方法を習得する。 ・古典文学研究の基本的な手法を習得する。 				
授業概要	<p>「三十六歌仙」とは、藤原公任『三十六人撰』に選ばれた三十六人の歌人らを指す。本演習は、三十六歌仙の和歌を任意に一首選び、それらへの注釈をつうじて、用例や表現類例の検索方法および読み解くうえでの勘所をおさえ、古典文学研究の基礎的な手法を身につけることを目標としている。</p>				
評価方法・基準	<p>発表 70%(用例を適切に検索出来ているか、分析方法や根拠・論理展開は妥当か、など)、授業中の発言 30%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。授業中での発言・質疑応答を重視する。</p>				
課題のフィードバック方法	<p>発表やその後の質疑応答については、その場で講評する。また、発表内容や構想等に関しては、適宜相談に応じる。</p>				
履修上の注意事項等	<p>発表準備は早めに取りかかることを推奨する。発表者が発表当日に無断欠席した場合は、単位は認めない。</p>				
テキスト	特になし。				
参考書	和歌のルール 渡辺泰明編 笠間書院 2015				
授業内容	<p>1. ガイダンス・後期発表担当決め ----- [予習・復習] 前期の発表を振り返り、改善点を押さえておく。辞書・事典等で自分の担当歌人について調べる。発表準備を進めておく。</p> <p>2. 発表の準備方法について①—三十六歌仙の基礎知識および用例の検索方法と分析のポイント— ----- [予習・復習]講義を振り返り、担当歌人について言及する諸資料を確認しておく。</p> <p>3. 発表の準備方法について②—和歌の修辞技法と解釈上の注意点— ----- [予習・復習]自分の担当歌について、用例検索と分析を行い、発表準備を進めておく。</p> <p>4. 演習発表「紀貫之」 ----- [予習・復習] 発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。</p>				

科目名	言語文学Ⅱ(一)	担当教員	☆ 小林 理正
授業内容	5. 演習発表「伊勢」		

	[予習・復習]		
	発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	6. 演習発表「山辺赤人」		

	[予習・復習]		
	発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	7. 演習発表「僧正遍昭」		

	[予習・復習]		
	発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。		
	8. 演習発表「紀友則」		

	[予習・復習]		
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
9. 演習発表「小野小町」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
10. 演習発表「藤原朝忠」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
11. 演習発表「藤原高光」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
12. 演習発表「壬生忠岑」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
13. 演習発表「大中臣頼基」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
14. 演習発表「源重之」			

[予習・復習]			
発表者の担当歌を確認し、演習中に発言出来るようにしておく。			
15. 補足とまとめ			

[予習・復習]			
演習を通して学んだ方法や視点について、自分なりにまとめておく。			

科目名	言語文学Ⅱ(二)		担当教員	三宅 晶子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	狂言の魅力、室町・江戸期の人々の考え方、行動・表現・言葉などを知り、現代人との共通性と相違について学ぶ。				
到達目標	映像を見て、何が演じられているのか理解できる。現代人の言語表現との関係性を理解できる。能・狂言について何かが語れるようになる。能楽堂に足を運び、実際の能・狂言を鑑賞する。				
授業概要	<p>毎回テーマの異なった狂言を一曲取り上げ、そのあらすじ、見所などを解説した後、舞台映像を鑑賞する。その映像についての幾つかの問題をあらかじめ与えておき、それについての解答と、鑑賞した自由な感想、質問をリアクションペーパーにまとめ、提出する。</p> <p>次週前半で、前週とりあげた狂言に関しての詳しい解説を行う。問題の正解と解説を行う。質問に対して答える。</p>				
評価方法・基準	平常点（積極的な授業への参加を重視、毎回授業終了時に、その日の内容に関する小テストと感想・質問などの報告書を提出。授業内容の理解度を評価）50% レポート(最終レポート、狂言に関して一つのテーマを定め論じる)50%				
課題のフィードバック方法	小テストの課題を段階的に与え、それについての知見について、提出の度にコメントを付して返却し、次の授業の時に正解を説明し、質問に答える。レポートに関しては、テーマの定め方、論の進め方、参考書などを指導する。				
履修上の注意事項等	毎回新しい情報を提供し、それを踏まえて次の段階へと進んでいくので、その積み重ねが大切である。 実際の舞台映像を鑑賞して理解することに重点を置いているので、上映中にはよく観て理解すること。				
テキスト	授業時に配布				
参考書					
授業内容	<p>1. 能・狂言についての概説 入門ビデオ鑑賞 ----- [予習・復習] この授業で何を学びたいか自覚を持つ・ノートの整理</p> <p>2. 狂言についての解説 狂言に関する入門ビデオ鑑賞 ----- [予習・復習] 能と狂言の関係を理解</p> <p>3. 附子(ぶす) 和泉流・大蔵龍 狂言の表現法 ----- [予習・復習] 〈附子〉についての概要・ノートの整理</p> <p>4. 茸(くさびら) ----- [予習・復習] 〈茸〉についての概要・ノートの整理</p>				

科目名	言語文学Ⅱ(二)	担当教員	三宅 晶子
授業内容	5. 川上(かわかみ) -----		
	[予習・復習] 〈川上〉についての概要・ノートの整理		
	6. 木六駄(きろくだ) 和泉流 野村万作 -----		
	[予習・復習] 〈木六駄〉についての概要・ノートの整理		
	7. 木六駄(きろくだ) 和泉流 野村万蔵 -----		
	[予習・復習] 野村万作の演技・ノートの整理		
	8. 木六駄(きろくだ) 大蔵流 山本東次郎・茂山千作		
	[予習・復習] 和泉流の演技・流儀や演者による違いを理解		
	9. 寝音曲(ねおんぎょく) 和泉流 野村万蔵 と能〈海士〉「玉ノ段」 -----		
	[予習・復習] 〈寝音曲〉についての概要・ノートの整理		
	10. 寝音曲(ねおんぎょく) 大倉流 茂山千作 と能〈放下僧〉 -----		
	[予習・復習] 和泉流の演技・流儀や演者による違いを理解		
	11. 釣狐(つりぎつね) ドキュメンタリー鑑賞 -----		
	[予習・復習] 〈釣狐〉の概要・ノートの整理		
	12. 釣狐(つりぎつね) 和泉流 野村万作 -----		
[予習・復習] 和泉流〈釣狐〉の概要・ノートの整理			
13. 釣狐(つりぎつね) 大蔵流 山本東次郎 -----			
[予習・復習] 大倉流〈釣狐〉の概要・和泉流との違いを把握			
14. 唐相撲(とうずもう) -----			
[予習・復習] 〈唐相撲〉の概要・ノートの整理			
15. スーパー狂言〈ムツゴロウ〉 -----			
[予習・復習] 〈ムツゴロウ〉の概要・ノートの整理			

科目名	言語文学Ⅱ(三)		担当教員	中尾 和昇	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	黄表紙をよむ				
到達目標	①黄表紙に関する基礎的知識を習得する。②近世文学の基礎的な読解方法を習得する。③近世の庶民文化について理解する。				
授業概要	近世後期に流行した「黄表紙」は、荒唐無稽な世界を描きつつも、当時の江戸の世相・風俗・事件などを写實的に表現した(うがち)を生命とする娯楽絵本である。この授業では、富裕な町人の息子「艶二郎」の浮気な遊びを滑稽に描いた、山東京伝の黄表紙『江戸生艶気樺焼』(天明5年[1785]刊)を精読することで、黄表紙という文芸の本質を理解したい。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業への積極性を評価する)、口頭発表 40%(資料の完成度・基礎的な読解力を評価する)、レポート 30%(精確性・客観性・論理性を評価する)。				
課題のフィードバック方法	授業中の発表に関しては、担当教員がその場でコメントし、課題を与える。レポートに関しては、添削した後個別に指導をおこなう。				
履修上の注意事項等	質疑応答の場を設けるので、受講生は積極的に発言してほしい。また、発表する際の遅刻・欠席は、絶対に避けるようにする。このようなことが繰り返行われた場合、単位を認めない場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	山東京伝全集 第1巻 山東京伝全集編集委員会 ペリかん社 1992 山東京伝 佐藤至子 ミネルヴァ書房 2009				
授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスを読み、授業内容を理解しておく。この授業の計画について把握する。</p> <p>2. 発表資料の作成方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(語釈や現代語訳といった基礎的な読解作業・資料の作り方など)についての理解を深める。</p> <p>3. 黄表紙の世界</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(黄表紙の概要)についての理解を深める。</p> <p>4. 山東京伝と『江戸生艶気樺焼』</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(山東京伝の伝記的事項・『江戸生艶気樺焼』の概要)についての理解を深める。</p>				

科目名	言語文学Ⅱ(三)	担当教員	中尾 和昇
授業内容	5. 読解①『江戸生艶気樺焼』上巻Ⅰ		

	[予習・復習]		
	1丁表・2丁裏2丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。		
	6. 読解②『江戸生艶気樺焼』上巻Ⅱ		

	[予習・復習]		
	2丁裏3丁表・3丁裏4丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。		
	7. 読解③『江戸生艶気樺焼』上巻Ⅲ		

	[予習・復習]		
	4丁裏5丁表・5丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。		
	8. 読解④『江戸生艶気樺焼』中巻Ⅰ		

	[予習・復習]		
6丁表・6丁裏7丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
9. 読解⑤『江戸生艶気樺焼』中巻Ⅱ			

[予習・復習]			
7丁裏8丁表・8丁裏9丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
10. 読解⑥『江戸生艶気樺焼』中巻Ⅲ			

[予習・復習]			
9丁裏 10丁表・10丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
11. 読解⑦『江戸生艶気樺焼』下巻Ⅰ			

[予習・復習]			
11丁表・11丁裏 12丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
12. 読解⑧『江戸生艶気樺焼』下巻Ⅱ			

[予習・復習]			
12丁裏 13丁表・13丁裏 14丁表について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
13. 読解⑨『江戸生艶気樺焼』下巻Ⅲ			

[予習・復習]			
14丁裏 14丁表・15丁裏について、発表者は資料を作成し、他の受講生は一読しておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は各場面の理解を深める。			
14. 読解⑩『江戸生艶気樺焼』全体総括			

[予習・復習]			
発表者は『江戸生艶気樺焼』の全場面を総括した資料を作成し、他の受講生は全場面を振り返っておく。発表者は自身の課題を整理し、他の受講生は作品理解を深める。			
15. まとめー京伝黄表紙の「うがち」ー			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(京伝の黄表紙作品における「うがち」の諸相)についての理解を深める。			

科目名	言語文学Ⅱ(四)		担当教員	山田 昇平	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	現代小説を日本語学的に読む				
到達目標	(1)日本語学的な視点を持つ、(2)ことばを考えるための基礎的な方法を身に着ける、(3)辞書などの語学ツールの種類や使い方を身に着ける				
授業概要	現代の小説(2004年以降)を資料に、そこで用いられる日本語を観察し、考察を行う(文学的な作品解釈ではない)。 2~6回は、考察にあたっての準備として、教科書の講読及び、基礎的な知識に関する講義を行う。7~14回は、各自資料となる小説を選択し、発表・議論を行う。これにより、日本語学(国語学)の基本的な考え方や姿勢を身に着けたい。 資料の選択には偏りを防ぐためジャンルを指定する予定だが、相談に応じる。				
評価方法・基準	・発表とそれを踏まえた最終レポート 70%(内容の充実度・日本語に対する独自性のある問題設定・問題に対する適切な回答を総合的に判断する) ・議論 30%(生産性のある質問や意見・積極的な参加などを評価する) ・出席は加点対象としないが、欠席は減点対象とする				
課題のフィードバック方法	発表や質疑の内容については、授業毎にコメントを加え、評価する。				
履修上の注意事項等	発表は個人発表で、毎回一人ずつの発表を予定するが、人数や進行に合わせて調整する。事前連絡なしに発表者が欠席した場合、単位を認めない。				
テキスト	小説の言葉尻をとらえてみた 飯間浩明 光文社新書 2017				
参考書	日本語の大疑問 国立国語研究所編 幻冬舎新書 2021				
授業内容	1. 国語学・日本語学とは? ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容を確認しておく 2. 教科書読み合わせ—内容・疑問点の整理 ----- [予習・復習] 教科書を通読しておく 3. 調査ツールの確認 ----- [予習・復習] 紹介したツールを各自使用しておく 4. 教科書読み合わせ—独自調査 ----- [予習・復習] 教科書を通読しておく				

科目名	言語文学Ⅱ(四)	担当教員	山田 昇平
授業内容	5. 教科書読み合わせ—発表		

	[予習・復習] 発表時に不足していた点をまとめておく		
	6. 模擬発表・国語辞典について		

	[予習・復習] 発表方法を確認しておく。国語辞典についての知識を整理しておく		
	7. テーマ相談		

	[予習・復習] 発表テーマを考えておく		
	8. 発表(1)—SF 小説		

	[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく		
	9. 発表(2)—恋愛小説		

	[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく		
10. 発表(3)—ライトノベル			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
11. 発表(4)—ミステリー小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
12. 発表(5)—経済小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
13. 発表(6)—子供向け小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
14. 発表(7)—ノンフィクション小説			

[予習・復習] 発表内容について、各自が気になった点をリストし、整理しておく			
15. まとめ			

[予習・復習] これまでの授業・発表資料を見直しておく			

科目名	言語文学Ⅱ(五)		担当教員	光石 亜由美	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	小説の読み方				
到達目標	1. テキストを精読する方法を習得する。 2. ディスカッションの技術を習得する。 3. プレゼンテーションの技術を習得する。				
授業概要	前半は文学理論をふまえた作品の基礎的な読み方を習得する。レジュメの作成の仕方など発表の基礎的な部分を学んだのち、後半は、前半で習得したことをふまえて、発表を行う。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業内での課題作成)、授業内での発表 40%(レジュメの内容、プレゼンの仕方、質疑応答を評価します)、提出物・レポート 30%(与えられた課題に対しての達成度(論理性、論述性等)で評価します)				
課題のフィードバック方法	発表については、授業内で適宜コメントする。提出物については、次回授業で、講評・評価を行い、授業に反映させる。レポートについては、添削の上、オフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	発表はもちろん、討論での発言度、積極性を重視する。受講者は全員、テキストを読んで、討議に参加すること。				
テキスト	プリントで配布する				
参考書	文学テキスト入門 前田愛 ちくま学芸文庫 1993年				
授業内容	1. 前期ガイダンス・文学研究の方法 ----- [予習・復習] シラバスを読む・文学研究の方法をノートにまとめる 2. ①主人公 ----- [予習・復習] 指定されたテキストを読む・主人公の役割についてノートにまとめる 3. ②心理の流れ ----- [予習・復習] あらかじめ配布されたレジュメの心理描写・情景描写の部分を読む・心理描写・情景描写についてノートにまとめる 4. ③語り・呼称 ----- [予習・復習] あらかじめ配布されたレジュメの語りの部分を読む・語り手の機能についてノートにまとめる				

科目名	言語文学Ⅱ(五)	担当教員	光石 亜由美
授業内容	5. ④ストーリーとプロット		
	----- [予習・復習] あらかじめ配布されたストーリーとプロットの部分を読む・ストーリーとプロットの内容についてノートにまとめる		
	6. ⑤インターテクスチュアリティ		
	----- [予習・復習] あらかじめ配布されたインターテクスチュアリティの部分を読む・「羅生門」と今昔物語集を比較する		
	7. レジユメの作成の仕方		
	----- [予習・復習] レジユメの作成の仕方のプリントを読む・レジユメの試案を作成する		
	8. 発表1 作品 A		
	----- [予習・復習] 作品 A を読む・作品 B の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	9. 発表2 作品 B		
	----- [予習・復習] 作品 B を読む・作品 B の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	10. 発表3 作品 C		
	----- [予習・復習] 作品 C を読む・作品 C の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	11. 発表4 作品 D		
	----- [予習・復習] 作品 D を読む・作品 D の発表に対する質疑、コメントカードを作成する		
	12. 発表5 作品 E		
----- [予習・復習] 作品 E を読む・作品 E の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
13. 発表6 作品 F			
----- [予習・復習] 作品 F を読む・作品 F の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
14. 発表7 作品 G			
----- [予習・復習] 作品 G を読む・作品 G の発表に対する質疑、コメントカードを作成する			
15. まとめ・レポートについて			
----- [予習・復習] あらかじめ配布されたレポートについての部分を読む・レポートを作成し提出する			

科目名	言語文学Ⅱ(六)			担当教員	木田 隆文
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	芥川龍之介の短編小説を読む				
到達目標	(1)近現代文学研究の基本的な視点と方法を身につける。 (2)自らの意見を論理的に説明する能力を養う。 (3)高校までの〈現代国語〉と、大学の〈文学研究〉の違いを理解する。				
授業概要	この授業では、芥川龍之介の小説作品を例に、近代文学研究に必要な基本的知識と手法を学ぶとともに、レポートや発表のために必要なスキルも身につけることを目指している。具体的にはまず「羅生門」を例に、講義形式で小説作品の分析方法を学ぶ。その後、指定された芥川龍之介の短編小説について、受講生自身が研究発表を行う。				
評価方法・基準	平常点(10%)、課題(20%)、発表(30%)、期末レポート(40%)。 平常は講義態度を重視する。レポート・課題・発表は、理解度や視点の独創性、論証の実証性を中心に評価する。				
課題のフィードバック方法	発表はその場で講評する。提出物はコメントを付して返却する。また課題提出に際しては、修正とコメントのやりとりを重ねることで、文章能力を高めるように配慮する。				
履修上の注意事項等	受講クラスは事前に指定されているため、登録の際には注意すること。 欠席したりわからないことが出た場合、翌週までに木田研究室まで質問に来ること。 発表対象作品は、受講生の数と関心に応じて変更の可能性はある。				
テキスト	羅生門 蜘蛛の糸 杜子春 外十八編 芥川龍之介 文春文庫				
参考書	芥川龍之介全作品事典 関口安義他編 勉誠出版 2000 芥川龍之介大事典 志村有弘 勉誠出版 2002 その他、随時指示する				
授業内容	<p>1. ガイダンス 〈現代国語〉と〈文学研究〉の違い</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 「羅生門」を読んでおく</p> <p>2. 「羅生門」を読む1 〈芥川龍之介／作家〉とは何者か</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布された資料を読み、質問することを考える。</p> <p>3. 「羅生門」を読む2 小説の作られ方</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布された資料を読み、質問することを考える。</p> <p>4. 「羅生門」を読む3 作品の面白さはどこにある?</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。</p>				

科目名	言語文学Ⅱ(六)	担当教員	木田 隆文
授業内容	5. 「羅生門」を読む4 登場人物を考える① 主人公編		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	6. 「羅生門」を読む5 登場人物を考える② モブキャラ編		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	7. 「羅生門」を読む6 場面・場所を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	8. 「羅生門」を読む7 時間を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
	9. 「羅生門」を読む8 因果関係を考える		

	[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。		
10. 「羅生門」を読む9 人物関係を考える			

[予習・復習] 講義内容を振り返り、自分独自の解釈を考える。			
11. 口頭発表のために			

[予習・復習] 講義内容を振り返り、発表に必要な準備を行う。			
12. 作品分析の実践1 口頭発表1 「鼻」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。次週発表作品を読んでおく。			
13. 作品分析の実践2 口頭発表2 「杜子春」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。次週発表作品を読んでおく。			
14. 作品分析の実践3 口頭発表3 「蜘蛛の糸」			

[予習・復習] 課題作品の解釈を考えておく。			
15. 前期まとめ			

[予習・復習] 配布資料を確認し、後期発表作品を考えておく。			

科目名	国文学史Ⅰ		担当教員	鈴木 喬	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国文学史の諸問題を考え、古代前期の韻文を中心に、日本文学の伝統を俯瞰する。				
到達目標	国文学史に関する基礎的知識と、国文学を史的に俯瞰する方法について考える力を身につけることができる。また文学史的展開の諸相を把握し、自らの研究課題に沿って応用できる。				
授業概要	『万葉集』を通し、作品と作品を生み出した人間、それをとり囲む社会との関係を歴史的に俯瞰する。具体的には「文芸学」「民俗学」「文献学」など、さまざまな「学史」を通じ、上代文学がどのように捉えられてきたのかを学ぶ。				
評価方法・基準	平常点20%(コメントシートや作業等)、最終授業時に実施する学習到達度確認(筆記等による学力確認)80%。授業内容の理解度はもとより、その理解を踏まえた応用力を評価する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートおよび Googleform を適宜使い、授業内容に反映していく。また受講者全員の課題として考えていく。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う。				
履修上の注意事項等	テキストや配布プリントを読み込んで出席すること。当該科目に関係する諸事項について、つねに関心を持ち、自分なりの視点でものが考えられるように努力してほしい。				
テキスト	万葉集講義 ―最古の歌集の素顔― 上野誠 中央公論新社 2020年				
参考書	適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス／導入:「国文学史」とはなにか ----- [予習・復習]教科書「はじめに」の部分を読んでおくこと。講義内容についてノートにまとめておくこと。</p> <p>2. 都の文学 ----- [予習・復習]都と文学の関係について考えておくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。</p> <p>3. 「歴史社会学」的方法 ----- [予習・復習]文学において「歴史」を読むことについて考えておくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。</p> <p>4. 民俗学派と国文学史 ----- [予習・復習]民俗学とは何か、調べておくこと。講義内容に基づき、民俗学派と文学史の関わりについてノートにまとめておくこと。</p>				

科目名	国文学史 I	担当教員	鈴木 喬
授業内容	5. 万葉文化論について -----		
	[予習・復習]教科書 29～59 ページを読んでおくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	6. 国文学と口承文芸 -----		
	[予習・復習]口承文芸の特質について考えておくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	7. 口承から記載へ—言霊について— -----		
	[予習・復習]口承から書承への展開がなされた場合、どのような点が変わるのか、考えておくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	8. 韻文と散文の発達—日本語表記の難しさ— -----		
	[予習・復習]教科書 3～29 ページを読んでおくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	9. 比較文学—漢文学と国文学— -----		
	[予習・復習]中国の影響について考えておくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	10. 「みやび」の文学 -----		
	[予習・復習]教科書 59～85 ページを読んでおくこと。講義内容をまとめておくこと。		
	11. 「地方」の文学 -----		
	[予習・復習]教科書 85～147 ページを読んでおくこと。講義内容をノートにまとめておくこと。		
	12. 「旅」の文学 -----		
[予習・復習]教科書 85～147 ページを読んでおくこと。授業内容をノートにまとめておくこと。			
13. 「巻」「集」の志向性 -----			
[予習・復習]教科書 147～180 ページを読んでおくこと。授業内容をノートにまとめること。			
14. 巻 16 と物語文学 -----			
[予習・復習]歌物語とは何か調べておくこと。授業内容をノートにまとめておくこと。			
15. 授業総括 -----			
[予習・復習]教科書 217～237 ページを読んでおくこと。授業内容をまとめなおし、国文学史を考える現代的意義についてまとめること。			

科目名	国文学史 II		担当教員	☆ 溝端 悠朗	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	平安文学の流れ				
到達目標	平安時代の文学史について、作品とその時代背景とをあわせて理解する。それぞれの作品についての知識を深める。				
授業概要	平安時代の文学の流れを、政治や社会の状況といった時代背景とともに学ぶ。その際、暗記事項の羅列に終始するのではなく、できるだけ作品本文を読むように努める。授業は Web 形態(オンデマンド授業)を予定しており、毎回小テストを行うとともに、コメントシートの提出を求める。				
評価方法・基準	小テスト 50%(基本的に毎回行い、文学史の基本的な知識を習得しているかを評価する)+学習到達度確認テスト 30%(最終授業時に行い、文学史の用語や概念を理解しているかを評価する)+平常点 20%(コメントシートの内容により、授業に対して積極的に取り組んでいるかを評価する)				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容・質問等については、次回の授業冒頭で応答し、必要があれば補足説明を行う。小テスト・学習到達度確認の答えは添削のうえ返却する。				
履修上の注意事項等	国語便覧(高校時代に使用していたものでよい)などを一読し、文学史の基本的な知識は理解しておくことが望ましい。古語や古典文法については、すべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書(電子辞書可、携帯電話・スマートフォンは不可)や文法書を持ち込んでもかまわない。				
テキスト	使用しない				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス／平安文学史概観 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業の全体像を理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>2. 漢詩文の隆盛 ----- [予習・復習] 国語便覧などで「国風暗黒時代」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>3. 仮名の誕生 ----- [予習・復習] 国語便覧などで「仮名の誕生」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>4. 『古今和歌集』の成立 ----- [予習・復習] 国語便覧などで『古今和歌集』について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p>				

科目名	国文学史Ⅱ	担当教員	☆ 溝端 悠朗
授業内容	5. 『後撰和歌集』『拾遺和歌集』と王朝和歌		
	[予習・復習] 国語便覧などで『後撰和歌集』『拾遺和歌集』について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	6. 日記文学とその表現		
	[予習・復習] 国語便覧などで「日記文学」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	7. 『枕草子』と〈随筆〉		
	[予習・復習] 国語便覧などで『枕草子』について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	8. 作り物語と歌物語		
	[予習・復習] 国語便覧などで「平安時代の物語」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	9. 『源氏物語』の作品世界		
	[予習・復習] 国語便覧などで『源氏物語』について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	10. 『源氏物語』以降の物語		
	[予習・復習] 国語便覧などで「平安時代後期の物語」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	11. 院政期の文学① 転換期の和歌と歌謡		
	[予習・復習] 国語便覧などで「院政期」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	12. 院政期の文学② 歌論・歌学の発達		
[予習・復習] 国語便覧などで「歌論」「歌学」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
13. 院政期の文学③ 歴史物語とその叙述			
[予習・復習] 国語便覧などで「歴史物語」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
14. 院政期の文学④ 説話の登場			
[予習・復習] 国語便覧などで「説話文学」について調べ、あらましを理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
15. まとめ 学習到達度確認			
[予習・復習] これまでの授業内容を確認し、作品名や用語、概念について説明できるようにしておくこと。			

科目名	国文学史Ⅲ		担当教員	中尾 和昇	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近世小説史				
到達目標	①近世小説史における基礎知識を習得する。②作者・作品・ジャンルの特性を理解する。③近世小説の潮流をつかむ。				
授業概要	出版の時代とも言われる近世においては、多彩なジャンルの小説が生み出され、板本として広く流通した。これらは、井原西鶴・上田秋成・山東京伝などといった、いわば主導的な作者の登場とその影響というなかで発展・消化されていった。そして、彼らを軸とする小説史を語る際には、三都を中心とする歴史的・文化的背景を踏まえなければならない。この授業では、それらを視野に入れつつ、個々の作者・作品に触れながら、近世小説史の潮流をつかむことを目指す。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業への積極性を評価する)、各回の小課題 30%(作品に対する客観的な評価を評価する)、期末レポート 40%(精確性・客観性・論理性を評価する)。				
課題のフィードバック方法	小課題については、Google Classroom 等を通してコメントする。期末レポートについては、提出後にコメントを付して返却する。				
履修上の注意事項等	欠席は5回までとし、それより多く欠席した者には単位を認めない。				
テキスト	なし				
参考書	国文学概論 濱田啓介 京都大学学術出版会 2019 〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典 長島弘明 文学通信 2019				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] 事前にシラバスを読み、授業内容を理解しておく。この授業の計画について把握する。</p> <p>2. 仮名草子 ----- [予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(仮名草子の定義・分類とその特徴)についての理解を深める。</p> <p>3. 浮世草子①井原西鶴の好色物・武家物 ----- [予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(西鶴の伝記的事項・好色物と武家物の特徴)についての理解を深める。</p> <p>4. 浮世草子②井原西鶴の雑話物・町人物 ----- [予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(西鶴の雑話物と町人物の特徴)についての理解を深める。</p>				

科目名	国文学史Ⅲ	担当教員	中尾 和昇
授業内容	5. 浮世草子③八文字屋本		

	[予習・復習]		
	事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(江島其磧・西沢一風・多田南嶺といった代表的作者から見る八文字屋本の変遷と特徴)についての理解を深める。		
	6. 談義本		

	[予習・復習]		
	事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(滑稽と諷刺を旨とする談義本の変遷と特徴)についての理解を深める。		
	7. 洒落本		

	[予習・復習]		
	事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(遊里での男女の交情を会話体で写實的に描いた洒落本の変遷と特徴)についての理解を深める。		
	8. 草双紙①赤本・青本・黒本		

	[予習・復習]		
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(初期草双紙と呼ばれる赤本・黒本・青本の特徴)についての理解を深める。			
9. 草双紙②黄表紙			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(荒唐無稽な笑いと写実性を有する黄表紙の特徴)についての理解を深める。			
10. 草双紙③合巻			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(筋と脚色に重点を置いた合巻の特徴)についての理解を深める。			
11. 前期読本			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(都賀庭鐘や上田秋成といった上方の知識人の手によって作られた読本の特徴)についての理解を深める。			
12. 後期読本①文化期			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(文化期における後期読本の特徴)についての理解を深める。			
13. 後期読本②文政・天保期			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(文政・天保期における後期読本の特徴)についての理解を深める。			
14. 人情本			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(一般の男女の恋愛を会話体で写實的に描いた人情本の変遷と特徴)についての理解を深める。			
15. 滑稽本			

[予習・復習]			
事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(江戸の庶民生活にひそむ笑いを徹底的に描いた滑稽本の変遷と特徴)についての理解を深める。			

科目名	国文学史 IV			担当教員	光石 亜由美
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近現代日本文学の成立と展開				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近現代日本文学の歴史を理解する。 2. 作家や作品の知識を深める。 3. 作品が置かれた時代状況、文化状況を理解する。 				
授業概要	<p>作家、作品、文学史の流れ、メディアなど、基本的な知識を身につける一方、作家や作品が、時代状況、文化状況の中にどのように位置づけられているのかを考える。</p> <p>講義の方法(オンデマンド授業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義開始時間に、google classroom に、当日の講義プリント(PDF 形式)、と講義の動画データ、小テスト(google フォーム)をアップします。 2. 講義動画を視聴してください。 3. 講義動画の視聴が終わったら、小テスト(google フォーム)を開いてください。 				
評価方法・基準	小テスト(毎回、授業の最後に行う小テスト、コメントペーパー)40%、試験(文学史の試験・記述式問題)60%				
課題のフィードバック方法	授業内のコメント・ペーパー(質問・意見)については、次回授業内、もしくは、google classroom のストリームを通じて、返答します。				
履修上の注意事項等	講義で扱う作品については、抄録したものを配布するが、あらかじめ全集や文庫本などで読んでおくことがのぞましい。				
テキスト	プレミアムカラー国語便覧 数研出版				
参考書	日本近代小説史 安藤宏 中公選書 2015				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・明治の戯作、啓蒙主義、政治小説 ----- [予習・復習] 国語便覧の近現代文学史の部分を読んでくる・明治戯作、啓蒙主義、政治小説の特徴をノートにまとめる。 2. 写実主義の文学 ----- [予習・復習] 国語便覧の写実主義の文学の部分を読んでくる・近代文学において『浮雲』の果たした役割をノートにまとめる 3. 硯友社の文学 ----- [予習・復習] 国語便覧の硯友社の文学の部分を読んでくる・硯友社の文学の特徴についてノートにまとめる 4. 浪漫主義文学 ----- [予習・復習] 国語便覧の浪漫主義文学の部分を読む・浪漫主義文学の特徴をノートにまとめる 				

科目名	国文学史 IV	担当教員	光石 亜由美
授業内容	5. 日清戦後の文学		

	[予習・復習] 国語便覧の日清戦後の部分を読む・日清戦後の文学の特徴をノートにまとめる		
	6. 自然主義文学		

	[予習・復習] 国語便覧の自然主義文学の部分を読む・自然主義文学の特質についてノートにまとめる		
	7. 夏目漱石と森鷗外の文学		

	[予習・復習] 国語便覧の夏目漱石・森鷗外の部分を読む・夏目漱石、森鷗外の文学の特徴をノートにまとめる		
	8. 耽美派と白樺派		

	[予習・復習] 国語便覧の耽美派と白樺派の部分を読む・耽美派と白樺派の文学の特徴をノートにまとめる		
	9. 新現実主義・新思潮派		

	[予習・復習] 国語便覧の新現実主義・新思潮派の部分を読む・新現実主義・新思潮派の文学の特徴をノートにまとめる		
10. プロレタリア文学とモダニズム文学			

[予習・復習] 国語便覧のプロレタリア文学とモダニズム文学の部分を読む・プロレタリア文学とモダニズム文学の特徴をノートにまとめる			
11. 戦時下の文学			

[予習・復習] 国語便覧の戦時下の文学の部分を読む・戦時下の文学の特徴をノートにまとめる			
12. 戦後派の文学			

[予習・復習] 国語便覧の戦後派の文学の部分を読む・戦後派の文学の特徴をノートにまとめる			
13. 無頼派の文学			

[予習・復習] 国語便覧の無頼派の文学の部分を読む・無頼派の文学の特徴をノートにまとめる			
14. 第三の新人の文学			

[予習・復習] 国語便覧の第三の新人の部分を読む・第三の新人の文学の特徴をノートにまとめる			
15. まとめ			

[予習・復習] これまで配布されたレジユメのキーワード・テーマを確認する。・近現代文学史の流れを再度ノートにまとめる			

科目名	国語学概論Ⅰ		担当教員	岸江 信介	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国語学の基礎を学ぶ。				
到達目標	国語学の成果に基づいて、日本語に関する基本的な知識を理解し習得する。				
授業概要	国語学入門の授業である。ひろく音声・音韻、アクセント、文法、語彙などの視点から国語学に関連した専門用語・術語をはじめ、具体的な事例を通して国語学の知見を概説的に学ぶ。				
評価方法・基準	平常点 50 点(講義中の質問、授業に対する積極的な態度、コメントシートを重視)、学習到達度確認 50%(到達度確認テスト、レポートの内容、国語学で使用する術語・専門用語を正しく理解しているか、あるいは音声、アクセント、イントネーション・プロミネンスなどの研究方法を正しく理解できているなど)				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容・質問等については、次回の授業冒頭で紹介し、説明を行う。課題等については毎時、授業で取り上げ、コメントする。期間内にレポートを課し、期間内に公表する。学習到達度確認の答えはオフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	この授業は WEB 授業の形式で行う。音声やアクセントなどを扱うこともあるので月に一度程度、録画形式の授業を行う予定である。 国語学概論Ⅱと併せて受講することが望ましい。				
テキスト	基礎日本語学 衣畑智秀 編 ひつじ書房 2019				
参考書	日本語アクセント入門 松森晶子ほか 三省堂 2012				
授業内容	1. ガイダンス ----- [予習・復習] 国語研究のさまざまな分野、研究方法、研究の視点などについて学ぶ。 2. 国語学 ----- [予習・復習] 国語学や音声学の方法について知る。 3. 音声と音韻 ----- [予習・復習] 音声と音韻の違い、音声学と音韻論の概要を知る。 4. 音声器官 ----- [予習・復習] 音声器官と調音位置および調音方法を知る。				

科目名	国語学概論 I	担当教員	岸江 信介
授業内容	5. 音節と単音 -----		
	[予習・復習] 母音と子音の調音について知る。		
	6. 母音 -----		
	[予習・復習] 共通語の母音について学ぶ。周波数の違いについて知る。		
	7. 子音 -----		
	[予習・復習] 子音の特徴を学び、母音との違いを知る。		
	8. アクセント -----		
	[予習・復習] 現代語に至る国語音韻史の重要事項を知る。		
	9. 共通語アクセント -----		
	[予習・復習] 共通語のアクセント体系を知る。		
	10. アクセントの統語機能 -----		
	[予習・復習] アクセントは語を統語する機能があることを知る。		
	11. 複合語のアクセント -----		
	[予習・復習] 複合語アクセントの法則について学ぶ。		
	12. N型アクセント -----		
[予習・復習] 二型アクセントの例として鹿児島市アクセント、一型アクセントの例として都城市アクセントを学ぶ。			
13. イントネーションとプロミネンス -----			
[予習・復習] アクセントとイントネーション・プロミネンスの違いを音声分析ソフト Praat を通して学ぶ。			
14. 音韻の変遷 -----			
[予習・復習] 現代語に至る国語音韻史の重要事項を知る。			
15. 授業まとめ -----			
[予習・復習] 国語研究へのさまざまなアプローチの方法について知る。			

科目名	国語学概論Ⅱ		担当教員	岸江 信介	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国語学の基礎を学ぶ。				
到達目標	国語学入門の授業である。国語学概論Ⅰに続き、文法、語彙などの視点から国語学に関連した専門用語・術語をはじめ、具体的な事例を通して、現代日本語における国語学の知見を概説的に学ぶ。				
授業概要	文法をはじめ、待遇表現や言語景観など国語学に関連した術語・専門用語を具体的な事例を通して身につける。なお、当授業ではおもに現代日本語を中心に取り上げることにする。なお、リモートによる授業を実施する場合、別途、新たな教材を配布することがある。				
評価方法・基準	平常点(小課題を読んだ感想や意見をコメントシート欄に毎回記入→40%)、学習到達度確認(学期末のテスト、レポートなどを通じ、国語学の基本、国語学関連の専門用語の理解度をチェック→60%)				
課題のフィードバック方法	小課題については毎回、Google Classroom 上にて講評を行う。学期末のテストやレポートは、オフィスアワーを通じて、研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	この授業は WEB 授業の形式で行う。基本的にはテキストに関連した論文などを毎回、Google Classroom にアップするのでそれらを読んで課題にチャレンジして頂きたい。国語学概論Ⅰと併せて受講することが望ましい。				
テキスト	基礎日本語学 衣畑智秀 編 ひつじ書房 2019				
参考書					
授業内容	<p>1. 現代日本語の文法(1)形態論 ----- [予習・復習] 文法の諸領域について学び、各節として、まず形態論について知る。語構成や品詞の概念を学ぶ。</p> <p>2. 現代日本語の文法(2)統語論 ----- 語と句の違いについて学び、頭語構造と意味について知る。 [予習・復習] 多義・類義・随伴的意味・語義変化などの諸側面を知る。</p> <p>3. 現代日本語の文法(3)意味論 ----- [予習・復習] 動詞の分類について学ぶほか、ヴォイス、テンス、モダリティ、アスペクトについて学ぶ。</p> <p>4. 現代日本語の文法(4)語用論 ----- [予習・復習] まず、語用論とは何かについて学び、文を超えた意味、談話標識について学ぶ。</p>				

科目名	国語学概論 II	担当教員	岸江 信介
授業内容	<p>5. 現代日本語の文法(5)補説</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 日本語の文法について第1回～第4回までで取り上げられなかった内容について吟味し、さまざまな角度から学ぶ。</p> <p>6. 現代日本語の語彙</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 単語・語彙とは何かについて学ぶ。</p> <p>7. 日本語コーパス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 言語コーパスということばを理解し、現在、日本語コーパス研究を先導している国立国語研究所の研究の現状について学ぶ。</p> <p>8. 言語生活</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 日本人の言語生活について学ぶ。</p> <p>9. 敬語</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 敬語の概略を知る。</p> <p>10. 待遇表現</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 待遇表現とは何かについて知る。</p> <p>11. 語用論</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 語用論の研究のあらましを知る。</p> <p>12. ネーミング</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 特に商品の命名について考え、その効果について知る。</p> <p>13. 言語景観</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 日本における多言語表示の実態について知る。</p> <p>14. オノマトペ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] オノマトペの効果について知る。</p> <p>15. 授業まとめ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 国語研究へのさまざまなアプローチの方法について知る。</p>		

科目名	古典文学概論Ⅰ		担当教員	三宅 晶子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	受験勉強という特殊な目的を離れて、日本の古典文学の魅力を理解し、できるだけ多くの原典に触れて、その世界を実体験する。				
到達目標	テキストを完読する。その中で紹介されている古典文学のいくつかを、実際に読んで、その魅力を知る。				
授業概要	『もう一度読みたい日本の古典文学』に導かれながら、そこで紹介されている日本の古典文学を、実際に読む。それを積み重ねることで、代表的な古典作品に触れ、文学史の流れの中に位置づける作業を行い、様々なスタイルがあることを理解する。コロナ禍のためWeb授業の予定である。				
評価方法・基準	平常点30%(予習復習を行い、授業に積極的に参加することを即す)、ミニレポート30%(テーマを定め、簡潔に自分の考えをまとめる技術を指導する)、レポート40%(半年の学びの総合的)				
課題のフィードバック方法	授業中に積極的に意見交換できるように配慮する。ミニレポートは可能な限り速やかに評価してそれをポータルサイトで配信する。レポートについてのテーマの定め方、論の進め方など細かく指導する。				
履修上の注意事項等	テキスト、配付資料をしっかりと読むこと。 一回一回の授業を大切に、じっくり取り組むこと。				
テキスト	もう一度読みたい日本の古典文学 三宅晶子他 勉誠出版 2021				
参考書					
授業内容	<p>1. オリエンテーション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキストを準備すること</p> <p>2. 「楽しい古典文学と出会うために」内容理解、問題提起</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 「楽しい古典文学と出会うために」ミニレポート1作成・提出</p> <p>3. 『竹取物語』配付資料の読み込み</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配付資料をしっかりと読んで内容を理解する</p> <p>4. 『竹取物語』テキストの内容理解</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 『竹取物語』ミニレポート2作成・提出</p>				

科目名	古典文学概論Ⅰ	担当教員	三宅 晶子
授業内容	5. 説話 配付資料の読み込み		

	[予習・復習] 配付資料をしっかり読んで内容を理解する		
	6. 説話 「つながっている今と昔」テキストの内容理解		

	[予習・復習] 説話 ミニレポート3作成・提出		
	7. 神話 配付資料の読み込み		

	[予習・復習] 配付資料をしっかり読んで内容を理解する		
	8. 神話「稲葉の白ウサギ」テキストの内容理解		

	[予習・復習] 神話 ミニレポート4作成・提出		
	9. 軍記 配付資料の読み込み		

	[予習・復習] 配付資料をしっかり読んで内容を理解する		
10. 軍記 『平家物語』『敦盛最期』を読み直す」テキストの内容理解			

[予習・復習] 軍記 ミニレポート5作成・提出			
11. 『源氏物語』 配付資料の読み込み			

[予習・復習] 配付資料をしっかり読んで内容を理解する			
12. 『源氏物語』『紫式部と出会う』テキストの内容理解			

[予習・復習] 『源氏物語』 ミニレポート6作成・提出			
13. 安倍晴明 テキストの内容理解			

[予習・復習] 配付資料をしっかり読んで内容を理解する			
14. 「ライトノベル・少女小説・児童文学から楽しむ古典文学」 内容理解			

[予習・復習] 「現代社会で再生される古典」ミニレポート7作成・提出			
15. まとめ、レポート提出			

[予習・復習] レポート作成・提出			

科目名	古典文学概論Ⅱ		担当教員	三宅 晶子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	『百人一首』を取り上げる。日本の言語文化の真髄に触れ、日本文化に対する理解力を増加させる。				
到達目標	『百人一首』の概要を理解し、どこかで出会ったときに、『百人一首』の歌だと分かる程度には記憶にとどめる。ニュアンスに富む和歌表現、日本の言語表現の特色を理解する。				
授業概要	Web対応の授業形態で行う。 2週で20首ずつ完結の授業とする。 1週目 テキストと講義資料を精読する。学生のカルタ作品例を参照し、様々な解釈が成り立ち、自分なりに鑑賞できることを理解する。 2週目 特に興味を持った歌2首選択、A教科書・配付資料の内容をまとめる。B自分で調べたことをまとめる。C自由に分析・鑑賞する。 *レポート(1~5)として提出する。 *歌1首を選び、自由な発想でカルタを作成、観点を付して提出する。				
評価方法・基準	平常点(GoogleClassroomに掲示される毎回の授業を受講する)10% 各レポート(内容理解・参考文献調査・鑑賞を総合的に判断)50% カルタとミニレポート(調査・考察の的確さ・カルタの完成度)40%				
課題のフィードバック方法	小レポートを課し、添削して返却する。レポートに関しては、テーマの定め方、資料調査方法、構成など丁寧に指導する。				
履修上の注意事項等	毎回決まった範囲をきっちり独習し、和歌の世界を楽しんでもらいたい。その上でさらに独自の調査考察をして、自分の考えを文章にする技術を身に付けて欲しい。 後期の古典文学概論Ⅱと続けて履修することが望ましい。				
テキスト	百人一首ハンドブック:光琳カルタで読む 久保田淳 小学館 2009年				
参考書					
授業内容	1. 解説1 授業の方法 ----- [予習・復習] 受講目的の確認・ノート整理 2. 概説2 『百人一首』について基本情報を学ぶ 事前レポート提出 ----- [予習・復習] 『百人一首』について確認する・ノート整理、 3. 1~20首 講義資料1・学生のカルタ作品1配布 ----- [予習・復習] テキスト・配付資料の精読・ノート整理、 4. 1~20首 2首選び鑑賞文作成 ----- [予習・復習] 選んだ2首について独自の調査と鑑賞し、レポート1作成・提出				

科目名	古典文学概論 II	担当教員	三宅 晶子
授業内容	5. 21～40首 講義資料2・学生のカルタ作品2配布		

	[予習・復習] テキスト・配付資料の精読・ノート整理、		
	6. 21～40首 2首選び鑑賞文作成		

	[予習・復習] 選んだ2首について独自の調査と鑑賞し、レポート2作成・提出		
	7. 41～60首 講義資料3・学生のカルタ作品3配布		

	[予習・復習] テキスト・配付資料の精読・ノート整理、		
	8. 41～60首 2首選び鑑賞文作成		

	[予習・復習] 選んだ2首について独自の調査と鑑賞し、レポート3作成・提出		
	9. 61～80首 講義資料4・学生のカルタ作品4配布		

	[予習・復習] テキスト・配付資料の精読・ノート整理、		
10. 61～80首 2首選び鑑賞文作成			

[予習・復習] 選んだ2首について独自の調査と鑑賞し、レポート4作成・提出			
11. 81～100首 講義資料5・学生のカルタ作品5配布			

[予習・復習] テキスト・配付資料の精読・ノート整理、			
12. 81首～100首 2首選び鑑賞文作成			

[予習・復習] 選んだ2首について独自の調査と鑑賞し、レポート5作成・提出			
13. カルタ作成準備			

[予習・復習] 前期の内容を確認・ノート整理、作品制作			
14. カルタとその歌に関するレポート提出			

[予習・復習] かるた・レポート作成			
15. 総評			

[予習・復習] 『百人一首』全体について振り返る			

科目名	中国文学概論Ⅰ			担当教員	☆ 西尾 和子
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中国古典文学作品の精読と鑑賞を通して中国文学史を概観する。併せて日本文学への影響を考察する。				
到達目標	先秦から六朝にかけての代表的な詩歌や文章にたいする基礎的知識を身につけ、中国文学の歴史を体系的に理解し、それを説明することができる。				
授業概要	前期は、先秦から六朝における代表的な作品をテキストから選び、精読・鑑賞しながら、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深めることを目的に、中国文学史を概観する。また、日本文学における中国文学の受容という観点から作品を検討することによって、日中両国の古代文化交流について理解を深めるとともに、比較文学の研究方法を修得する。				
評価方法・基準	定期試験 60%:基礎的知識(訓読・現代語訳等)が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点 40%:平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
課題のフィードバック方法	定期試験の解答例はポータルサイト等で講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	本授業は、講義形式で進める。ただし、必要に応じて受講生に意見を求めたり、発表してもらい場合がある。詳細については、授業のはじめに説明する。 全体の1/3(5回)を超えて欠席した学生は、成績評価の対象としない。				
テキスト	『新訂 中国詩文』中国詩文研究会 東方書店 2015年				
参考書	『中国文学史』前野 直彬 東京大学出版会 1996年				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方について、中国古典文学の特質について [予習・復習]テキスト『新訂 中国詩文』に目を通しておくこと。 2. 『詩経』について、「毛詩大序」を読む [予習・復習]テキスト p.1「毛詩大序」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 3. 「毛詩大序」の解説 [予習・復習]テキスト p.1「毛詩大序」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 4. 『楚辞』について、屈原「漁夫」を読む [予習・復習]テキスト p.12「漁夫」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 				

科目名	中国文学概論Ⅰ	担当教員	☆ 西尾 和子
授業内容	<p>5. 「漁夫」の解説 [予習・復習]テキスト p.12「漁夫」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>6. 『文選』について、「古詩十九首 其一」を読む [予習・復習]テキスト p.16「古詩十九首 其一」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>7. 「古詩十九首 其一」の解説 [予習・復習]テキスト p.16「古詩十九首 其一」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>8. 魏晉南北朝期の詩について、曹操「短歌行」を読む [予習・復習]テキスト p.25～p.26「短歌行」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>9. 「短歌行」の解説 [予習・復習]テキスト p.25～p.26「短歌行」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>10. 阮籍「詠懐詩十七首 其一」を読む [予習・復習]テキスト p.42「詠懐詩十七首 其一」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>11. 「詠懐詩十七首 其一」の解説 [予習・復習]テキスト p.42「詠懐詩十七首 其一」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>12. 謝靈運「石壁精舎還湖中作」を読む [予習・復習]テキスト p.75「石壁精舎還湖中作」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>13. 「石壁精舎還湖中作」の解説 [予習・復習]テキスト p.75「石壁精舎還湖中作」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>14. 六朝志怪について、干宝「宋定伯」を読む [予習・復習]テキスト p.98「宋定伯」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>15. 干宝「宋定伯」の解説、前期の復習とまとめ [予習・復習]テキスト p.98「宋定伯」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。定期試験に備えて総復習しておくこと。</p>		

科目名	中国文学概論Ⅱ		担当教員	☆ 西尾 和子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中国古典文学作品の精読と鑑賞を通して中国文学史を概観する。併せて日本文学への影響を考察する。				
到達目標	唐代の代表的な詩歌や文章にたいする基礎的知識を身につけ、中国文学の歴史を体系的に理解し、それを説明することができる。				
授業概要	後期は、唐代の代表的な作品をテキストから選び、精読・鑑賞しながら、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深めることを目的に、中国文学史を概観する。また、日本文学における中国文学の受容という観点から作品を検討することによって、日中両国の古代文化交流について理解を深めるとともに、比較文学の研究方法を修得する。				
評価方法・基準	定期試験 60%:基礎的知識(訓読・現代語訳等)が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点 40%:平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
課題のフィードバック方法	定期試験の解答例は授業内やポータルサイト等で講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	本授業は、講義形式で進める。ただし、必要に応じて受講生に意見を求めたり、発表してもらい場合がある。詳細については、授業のはじめに説明する。 全体の1/3(5回)を超えて欠席した学生は、成績評価の対象としない。				
テキスト	『新訂 中国詩文』中国詩文研究会 東方書店 2015年				
参考書	『中国文学史』前野 直彬 東京大学出版会 1996年 『唐詩概説』小川 環樹 岩波書店 2005年 『太平広記研究』西尾 和子 汲古書院 2017年				
授業内容	1. 唐詩概説(1)／唐代の歴史と文化について [予習・復習]参考書『中国文学史』のp.92～p.102を読んでおくこと。 2. 唐詩概説(2)／唐詩について [予習・復習]近体詩の形式について予習しておくこと。 3. 駱賓王「於易水送人一絶」を読む [予習・復習]テキスト p.101「於易水送人一絶」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 4. 王維「山居秋暝」、「モウ川集并序」、「鹿柴」を読む [予習・復習]テキスト p.106～p.108「山居秋暝」、「モウ川集并序」、「鹿柴」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。				

科目名	中国文学概論 II	担当教員	☆ 西尾 和子
授業内容	<p>5. 王維「送秘書晁監還日本國」、阿倍仲麻呂「銜命還國作」を読む [予習・復習]配付資料「送秘書晁監還日本國」および「銜命還國作」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>6. 李白「哭晁卿衡」を読む [予習・復習]配布資料「哭晁卿衡」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>7. 李白「峨眉山月歌」を読む、李白詩の特徴について [予習・復習]テキスト p.113「峨眉山月歌」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>8. 李白「登金陵鳳凰臺」を読む、崔顥「黃鶴樓」を読む [予習・復習]配付資料「登金陵鳳凰臺」およびテキスト p.121「黃鶴樓」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>9. 李白「魯郡東石門送杜二甫」を読む、杜甫「春日憶李白」を読む [予習・復習]配付資料「魯郡東石門送杜二甫」および「春日憶李白」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>10. 杜甫「春望」を読む、松尾芭蕉「平泉」を読む、日本における杜甫詩の受容 [予習・復習]テキスト p.143「春望」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>11. 張繼「楓橋夜泊」を読む、白居易「長恨歌」の前半を読む [予習・復習]テキスト p.151「楓橋夜泊」および p.157～p.159 の「長恨歌」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>12. 白居易「長恨歌」の後半を読む、日本における白居易詩の受容 [予習・復習]テキスト p.160～p.163「長恨歌」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>13. 杜牧「江南春絶句」を読む、唐代伝奇について [予習・復習]テキスト p.180「江南春絶句」の訓読と現代語訳を予習しておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>14. 陳玄祐「離魂記」を読む、『太平広記』につて [予習・復習]テキスト p.199～p.200「離魂記」の訓読と現代語訳を予習し、参考書『太平広記研究』の p.3～p.23 を読んでおくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>15. 後期の復習とまとめ [予習・復習]定期試験に備えて総復習しておくこと。</p>		

科目名	日本語の歴史Ⅰ		担当教員	山田 昇平	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本語表記史・音韻史				
到達目標	1. 日本語史の基本的な知識を習得する。 2. 言語史の方法論を習得する				
授業概要	言語は絶えず変化をしている。それでは、かつての言語はどのような姿で、今に至るまでにどのように変化してきたか。また、どのような方法でそれは知られるのか。この授業では、そのような疑問の答えを考えることを目的に、日本語の歴史を扱う。具体的なテーマには表記史(2~5回)・音韻史(6~15回)を扱う。各回では、日本語史の主なトピックをひとつ取り上げつつ、「トピックの確認」・「トピックが明らかにされる過程」・「トピックの日本語史上における位置づけ」、といった点を中心に議論を行う。				
評価方法・基準	・コメントカードの質 20%(毎回、授業内容の理解を確認する。出席点ではない) ・最終試験 80%(日本語史の基本的知識の有無、日本語史の問題に対する適切な考察力を問う)				
課題のフィードバック方法	・毎回の課題での質問などへは授業中に回答する。 ・最終試験に関わる解説などは、オフィスアワーに個別に受け付ける。				
履修上の注意事項等	・補助的に GoogleClassroom を利用する。 ・クラスコードは初回授業においてポータルサイト上で公開する。 ・国語学概論Ⅰ,Ⅱ および日本語の歴史Ⅱを合わせて履修することが望ましい。				
テキスト	授業中に配布する				
参考書	日本語の歴史 全7巻+別巻 亀井孝ら 平凡社 文庫版 2006-08 基礎日本語学 衣畑智秀 ひつじ書房 2019				
授業内容	1. 日本語の歴史を考えよう—イントロダクション ----- [予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。 2. 文字のない言語はあるけれど、言語のない文字はない—言語と文字 ----- [予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。 3. 日本語、文字に出会う—漢字 ----- [予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。 4. 日本語、文字を手懐ける—仮名の成立 ----- [予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。				

科目名	日本語の歴史 I	担当教員	山田 昇平
授業内容	5. 書くということには、みんな苦勞してきた—書記史・概説		

	[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。		
	6. 発音だって変わっている—日本語音韻史のトピック		

	[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。		
	7. 八行の歴史から学ぶ—音韻史研究の方法・序説		

	[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。		
	8. 文字をどう使っているかで、発音が見えてくる(1)—四つ仮名・八行転呼		

	[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。		
	9. 文字をどう使っているかで、発音が見えてくる(2)—母音に関する変化		

	[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。		
10. 文字をどう使っているかで、発音が見えてくる(3)—上代特殊仮名遣い			

[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。			
11. 新参者は居心地が悪い—撥音・促音			

[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。			
12. 見えないものを見ようとして、小さな点を覗いてみた—アクセント			

[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。			
13. 音と形(1)—いわゆる音便			

[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。			
14. 音と形(2)—形態音韻的現象			

[予習・復習] 配布資料と授業ノートをもとに内容を整理しておくこと。			
15. まとめ			

[予習・復習] いままでの授業内容を整理しておくこと			

科目名	神話伝承論		担当教員	鈴木 喬	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代日本神話の特性や神話の伝承というものが如何になされてきたのか、『古事記』を通じて考えてゆく。				
到達目標	受講生が『古事記』の神話を通じて、日本文化、日本人について個別に考える力を身に付けることができる。				
授業概要	「神」や「神話」とはなにか、「伝承」とはなにか。そのような概念規定から、7世紀から8世紀の<神話>の歴史を考え、また現代の我々にとって「神話」とは「古事記」とは何かを考えてゆく。				
評価方法・基準	平常点20%(コメントシートや作業、等の取り組み)、最終授業時に実施する学習到達度確認(筆記等による学力確認)80%による。授業内容の理解度、その理解を踏まえた応用力を評価する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートおよび Googleform を適宜用い、授業内容に反映していく。また受講者全員の課題として考えていく。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う。				
履修上の注意事項等	テキストや配布プリントを読み込んで出席すること。当該科目に関係する諸事項について、つねに関心を持ち、自分なりの視点でものが考えられるように努力してほしい。				
テキスト	神話伝承論ノート 神話伝承論学習の会 書肆アルス 2013				
参考書	適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. この授業であつかう「神話」とは何か(「神話」「伝説」「昔話」の違い)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]神話とは何か、また昔話との違いは何か考えておくこと。授業内容を振り返り、育った地域の神話や伝説を調べること。</p> <p>2. 『古事記』成立の背景 一天武朝の史書編纂—</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]天武朝という時代について概観しておくこと。授業内容をノートにまとめておくこと。</p> <p>3. 序文を読む1 ー偽書説についてー</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]いわゆる「偽書」とは何かを調べておくこと。授業内容の「古事記偽書説」について整理すること。</p> <p>4. 序文を読む2 ー「誦習」と「撰録」ー</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]稗田阿礼と太安万侶がいかなる人物か調べておくこと。授業を通じて、フルコトを記すことの意義について考えること。</p>				

科目名	神話伝承論	担当教員	鈴木 喬
授業内容	<p>5. 序文を読む3 —筆録の苦心— ----- [予習・復習]日本語を漢字のみで記すことについて考えてみる。授業内容である古事記の書記法について整理すること。</p> <p>6. 神話の史料批判／史料の性質と深く関わる学問 ----- [予習・復習]史実としての歴史と、物語としての歴史の違いについて、考えておくこと。講義内容に基づき、津田左右吉の神話研究の方法について、ノートにまとめておくこと。</p> <p>7. 上巻「天地初発」を読む1 —「高天原」とは— ----- [予習・復習]世界を創造することについてまとめること。授業内容で扱った「あめ」についてまとめること。</p> <p>8. 上巻「天地初発」を読む2 —神が名をもつこと— ----- [予習・復習]名を持つことの意味について考えること。授業内容を通じ、神に名が与えられていることの意味を考えること。</p> <p>9. 上巻「イザナキとイザナミ」を読む1 —修理固成— ----- [予習・復習]イザナキ・イザナミについて調べておくこと。授業内容を整理し、「修理固成」の意味についてまとめること。</p> <p>10. 上巻「イザナキとイザナミ」を読む2 —神々の生成— ----- [予習・復習]身近な神社の神さまについて調べておくこと。授業内容についてまとめておくこと。</p> <p>11. 上巻「イザナキとイザナミ」を読む3 —黄泉国訪問— ----- [予習・復習]黄泉国について調べておくこと。授業内容を通じ「死と再生」についてまとめておくこと。</p> <p>12. 上巻「三貴子」を読む —イザナキの禊ぎと三貴子の分治— ----- [予習・復習]スサノヲについて調べておくこと。授業内容を通じ「はらえ」「みそぎ」についてまとめること。</p> <p>13. 上巻「うけひと神やらひ」を読む—アマテラスとスサノヲ— ----- [予習・復習]アマテラスについて調べておくこと。授業内容を通じ、神話が語る「アマテラス」「スサノヲ」についてまとめること。</p> <p>14. 上巻「天孫降臨」を読む —天皇と神話— ----- [予習・復習]古事記上巻を通読しておくこと。授業内容をまとめておくこと。</p> <p>15. まとめ —令和の時代に「神話」を考えることの意義— ----- [予習・復習]歴史と神話、神話と物語との関係性を、いかに説明できるのか考えておくこと。講義内容に基づき、本授業の応用的展開がいかにできるか、ノートにまとめておくこと。</p>		

科目名	平安文学論		担当教員	☆ 溝端 悠朗	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	平安和歌文学の表現と特質				
到達目標	古典文学、特に和歌文学を読むための基礎知識と研究方法を理解する。古典についての理解を深め、文学研究にあたっての基本的な作業を習得する。				
授業概要	前近代、特に平安時代において、文学の中心は和歌であった。その和歌について、基本的な知識を学ぶ。特に和歌表現のあり方とその調べ方について解説を行う。また、「和歌」という文学の広がりや特質を、さまざまな行為を通して理解する。これらを通じて、和歌など文学作品の表現を精読する研究方法を身につける。授業では毎回コメントシートの提出を求める。				
評価方法・基準	学習到達度確認 80%(2度の筆記試験において、和歌文学を理解するための用語や概念を理解できているかを評価する)+平常点 20%(コメントシートの内容により、授業に対して積極的に取り組んでいるかを評価する)				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容・質問等については、次回の授業冒頭で応答し、必要があれば補足説明を行う。学習到達度確認の答えは添削のうえ返却する。				
履修上の注意事項等	古語や古典文法については、すべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書(電子辞書可、携帯電話・スマートフォンは不可)や文法書を持ち込んでかまわない。				
テキスト	和歌とは何か 渡部泰明 岩波書店 2009				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス/和歌文学の基礎知識 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業の全体像を理解しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>2. 和歌とは何か ----- [予習・復習] テキストの「序章 和歌は演技している」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>3. 和歌のレトリック① 枕詞・序詞 ----- [予習・復習] テキストの「I - 第一章 枕詞」「I - 第二章 序詞」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p> <p>4. 和歌のレトリック② 掛詞・縁語 ----- [予習・復習] テキストの「I - 第三章 掛詞」「I - 第四章 縁語」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。</p>				

科目名	平安文学論	担当教員	☆ 溝端 悠朗
授業内容	5. 和歌のレトリック③ 本歌取り		
	[予習・復習] テキストの「Ⅰ-第五章 本歌取り」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	6. 和歌のレトリック④ 歌枕・物名・その他		
	[予習・復習] 辞典類で「歌枕」「物名」について調べておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	7. 小括 学習到達度確認(筆記試験)①		
	[予習・復習] テキストの「和歌的レトリックとは何か—まとめの講義」を読んでおくこと。これまでの授業内容を確認し、和歌のレトリックについて説明できるようにしておくこと。		
	8. 和歌文学研究法① データベースの利用法		
	[予習・復習] 図書館ホームページのデータベースを確認しておくこと。授業内容をふまえてデータベースを利用しておくこと。		
	9. 和歌文学研究法② 和歌の読み方		
	[予習・復習] 対象とする和歌について、データベースを用いて事前調査しておくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	10. 行為としての和歌① 贈答歌		
	[予習・復習] テキストの「Ⅱ-第一章 贈答歌」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	11. 行為としての和歌② 歌合		
	[予習・復習] テキストの「Ⅱ-第二章 歌合」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。		
	12. 行為としての和歌③ 屏風歌・障子歌		
[予習・復習] テキストの「Ⅱ-第三章 屏風歌・障子歌」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
13. 行為としての和歌④ 柿本人麻呂影供			
[予習・復習] テキストの「Ⅱ-第四章 柿本人麻呂影供」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
14. 行為としての和歌⑤ 古今伝授			
[予習・復習] テキストの「Ⅱ-第五章 古今伝授」を読んでおくこと。授業内容をノートに整理しておくこと。			
15. まとめ 学習到達度確認(筆記試験)②			
[予習・復習] これまでの授業内容を確認し、用語や概念、研究方法について説明できるようにしておくこと。			

科目名	近世文学論		担当教員	中尾 和昇	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	上田秋成『雨月物語』をよむ				
到達目標	①『雨月物語』の全体像を把握する。②上田秋成の文学観を理解する。				
授業概要	「歌道之達人」—京都の西福寺に眠る上田秋成の過去帳に記された、彼を評する言葉である。この評言からうかがえるように、秋成は和歌・和文に精通した文人であった。現代においては、怪異小説『雨月物語』の作者という認識が一般的であるが、彼自身、この作品に対して何事も語っていない。だからこそ、さまざまな解釈が生まれ、議論がなされてきたのである。この授業では、『雨月物語』の全話を通して読むことで、秋成の文学観を理解したい。				
評価方法・基準	平常点 30%(授業への積極性を評価する)、ミニレポート 30%(オリジナリティを評価する)、期末レポート 40%(精確性・客観性・論理性を評価する)。				
課題のフィードバック方法	ミニレポートについては、Google Classroom 等を通してコメントする。期末レポートについては、提出後にコメントを付して返却する。				
履修上の注意事項等	『雨月物語』全話を一通り読んだうえで授業にのぞむこと。欠席は5回までとし、それより多く欠席した者には単位を認めない。				
テキスト	雨月物語 長島弘明 岩波書店 2018				
参考書	上田秋成研究事典 秋成研究会 笠間書院 2016 三弥井古典文庫 雨月物語 田中厚二ほか 三弥井書店 2009 新編日本古典文学全集 78 中村幸彦ほか 岩波書店 1995				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] 事前にシラバスを読み、授業内容を理解しておく。この授業の計画について把握する。</p> <p>2. 上田秋成の生涯 ----- [予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(上田秋成の伝記的事項)についての理解を深める。</p> <p>3. 『雨月物語』の世界 ----- [予習・復習] 事前に配布されたプリントを読んでおく。学習した内容(『雨月物語』の概要)についての理解を深める。</p> <p>4. 「白峯」をよむ ----- [予習・復習] 「白峯」を一通り読んでおく。学習した内容(「白峯」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。</p>				

科目名	近世文学論	担当教員	中尾 和昇
授業内容	5. 「菊花の約」をよむ		
	----- [予習・復習] 「菊花の約」を一通り読んでおく。学習した内容(「菊花の約」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	6. 「浅茅が宿」をよむ		
	----- [予習・復習] 「浅茅が宿」を一通り読んでおく。学習した内容(「浅茅が宿」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	7. 「夢応の鯉魚」をよむ		
	----- [予習・復習] 「夢応の鯉魚」を一通り読んでおく。学習した内容(「夢応の鯉魚」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	8. 「仏法僧」をよむ		
	----- [予習・復習] 「仏法僧」を一通り読んでおく。学習した内容(「仏法僧」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	9. 『雨月物語』を論じる①		
	----- [予習・復習] 「白峯」「菊花の約」「浅茅が宿」「夢応の鯉魚」「仏法僧」の各話について、自身の解釈を準備しておく。議論して得た課題をまとめ、レポートに生かせるようにする。		
	10. 「吉備津の釜」をよむ		
	----- [予習・復習] 「吉備津の釜」を一通り読んでおく。学習した内容(「吉備津の釜」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	11. 「蛇性の姪」をよむ		
	----- [予習・復習] 「蛇性の姪」を一通り読んでおく。学習した内容(「蛇性の姪」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。		
	12. 「青頭巾」をよむ		
----- [予習・復習] 「青頭巾」を一通り読んでおく。学習した内容(「青頭巾」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。			
13. 「貧福論」をよむ			
----- [予習・復習] 「貧福論」を一通り読んでおく。学習した内容(「貧福論」の典拠・物語構成・主題など)についての理解を深める。			
14. 『雨月物語』を論じる②			
----- [予習・復習] 「吉備津の釜」「蛇性の姪」「青頭巾」「貧福論」の各話について、自身の解釈を準備しておく。議論して得た課題をまとめ、レポートに生かせるようにする。			
15. 授業のまとめ			
----- [予習・復習] 期末レポートを執筆しておく。『雨月物語』からうかがえる上田秋成の文学観について、自身の見解を整理しておく。			

科目名	近代詩歌論		担当教員	☆ 二木 晴美	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本の近代詩歌の流れについて				
到達目標	明治15年の『新体詩抄』成立によって日本における近代の詩の歴史は始まるが、歴史の流れの中で起こった詩歌に関する文学運動を確認することによって、日本の近代詩歌についての理解を深めることを到達目標とする。				
授業概要	三好行雄著『日本の近代文学』所収の、「Ⅱ近代詩歌の流れ」をテキストとして使用。高校教員として中等教育の現場で教育実践にあたってきた経験を踏まえ、基本的な日本の近代詩歌の流れについて、毎時間ポイントを押さえながら概説していくが、適宜それぞれの代表作を味わい授業を展開していく予定である。				
評価方法・基準	平常点(講義中の質問など積極的な態度を評価する)30%、試験に替わるレポート課題(必要な情報を適宜収集し、かつ自分なりの考えを論理的に展開できているかを評価する)70%。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し適宜紹介していく。期間内に課したレポートは講評をし添削したうえで、返却する予定。				
履修上の注意事項等					
テキスト	日本の近代文学(はなわ新書) 三好行雄 塙書房 1972年				
参考書	『ハンドブック日本近代文学研究の方法』所収「視角の多様性」日本近代文学会編・大塚常樹著 ひとじ書房 2016年 対談現代詩入門—ことば・日本語・詩(詩の森文庫) 大岡信・谷川俊太郎 思潮社 2006年				
授業内容	<p>1. ガイダンス。講義の進め方と大学における研究と研究倫理について。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。</p> <p>2. 『新体詩抄』まで」と「近代詩のあけぼの」について。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの「『新体詩抄』まで」と「近代詩のあけぼの」の部分を読んでおく。</p> <p>3. 「短詩型の近代化」と「明星」まで」について。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの「短詩型の近代化」と「明星」まで」の部分を読んでおく。</p> <p>4. 「文庫派の詩人たち」と「象徴詩の移入」について。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの「文庫派の詩人たち」と「象徴詩の移入」の部分を読んでおく。</p>				

科目名	近代詩歌論	担当教員	☆ 二木 晴美
授業内容	5. 「「明星」から「スバル」へ」について。		

	[予習・復習]テキストの「「明星」から「スバル」へ」の部分を読んでおく。		
	6. 「〈写生〉の系譜」と「スバル」の位置」について。		

	[予習・復習]テキストの「〈写生〉の系譜」と「スバル」の位置」の部分を読んでおく。		
	7. 「短歌の近代」と「口語自由詩の成立」について。		

	[予習・復習]テキストの「短歌の近代」と「口語自由詩の成立」の部分を読んでおく。		
	8. 「象徴詩の終焉」と「感情」の詩人たち」について。		

	[予習・復習]テキストの「象徴詩の終焉」と「感情」の詩人たち」の部分を読んでおく。		
	9. 「民衆詩派の位置」と「大正期の歌壇」と「〈童心〉の詩」について。		

	[予習・復習]テキストの「民衆詩派の位置」と「大正期の歌壇」と「〈童心〉の詩」の部分を読んでおく。		
10. 「文人の詩」と「ディレッタントの詩」と「近代詩と宗教」について。			

[予習・復習]テキストの「文人の詩」と「ディレッタントの詩」と「近代詩と宗教」の部分を読んでおく。			
11. 「反アララギ派の諸個性」と「現代詩への架橋」と「プロレタリア詩運動」について。			

[予習・復習]テキストの「反アララギ派の諸個性」と「現代詩への架橋」と「プロレタリア詩運動」の部分を読んでおく。			
12. 「現代詩の出発」と「主知の季節」と「四季」の創刊」について。			

[予習・復習]テキストの「現代詩の出発」と「主知の季節」と「四季」の創刊」の部分を読んでおく。			
13. 「昭和の抒情詩」と「歷程」の詩人たち」と「現代俳句の明暗」について。			

[予習・復習]テキストの「昭和の抒情詩」と「歷程」の詩人たち」と「現代俳句の明暗」の部分を読んでおく。			
14. 「戦後の詩」と「短歌における〈戦後〉」と「現代俳句の可能性」について。			

[予習・復習]テキストの「戦後の詩」と「短歌における〈戦後〉」と「現代俳句の可能性」の部分を読んでおく。			
15. 授業総括。課題レポートについての説明。			

[予習・復習]学習したテキスト全体を読み直しておく。			

科目名	中国文学講読Ⅰ		担当教員	☆ 西尾 和子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	漢文の読解能力の育成。教職課程科目を履修する学生については、中学校・高等学校における漢文の授業に必要な説明能力の育成。				
到達目標	漢文読解に必要な基礎的知識・技能を習得し、それを説明することができる。				
授業概要	中国古典文学のさまざまなジャンルの作品を精読しながら、漢文の基本的な構文や助字の用法、訓読の法則などを習得するとともに、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深める。授業では、作品の訓読および現代語訳のほか、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認する。				
評価方法・基準	定期試験 60%:漢文読解に必要な基礎的知識が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点 40%:平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
課題のフィードバック方法	平素の質疑・発表およびについては、担当教員が授業中にコメントし評価する。 定期試験の解答例は授業内やポータルサイト等で講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	本授業では、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認するため、全体の1/3(5回)を超えて欠席した学生は成績評価の対象としない。				
テキスト	プリント配布				
参考書	『精講 漢文(ちくま学芸文庫)』前野 直彬 筑摩書房 2018年 『漢詩漢文小百科』田部井 文雄 大修館書店 1990年				
授業内容	1. 授業の進め方について、漢文の訓点や基本構文について [予習・復習]配布プリントの練習問題をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 2. 再読文字、否定形・禁止形について [予習・復習]配布プリントの練習問題をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 3. 疑問形、反語形・詠嘆形について [予習・復習]配布プリントの練習問題をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 4. 受身形・使役形、仮定形・条件形について [予習・復習]配布プリントの練習問題をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。				

科目名	中国文学講読 I	担当教員	☆ 西尾 和子
授業内容	<p>5. 比較形・選択形、抑揚形・限定形・累加形について [予習・復習]配布プリントの練習問題をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>6. 『列子』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>7. 『搜神記』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>8. 『後漢書』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>9. 『晋書』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>10. 『莊子』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>11. 『風俗通義』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>12. 岑参の作品を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>13. 『史記』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>14. 『春秋左氏伝』の一文を読み、練習問題を解く [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>15. 前期の復習とまとめ [予習・復習]定期試験に備えて総復習しておくこと。</p>		

科目名	中国文学講読Ⅱ		担当教員	☆ 西尾 和子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	漢文の読解能力の育成。教職課程科目を履修する学生については、中学校・高等学校における漢文の授業に必要な説明能力の育成。				
到達目標	漢文読解に必要な基礎的知識・技能を習得し、それを説明することができる。				
授業概要	中国古典文学のさまざまなジャンルの作品を精読しながら、漢文の基本的な構文や助字の用法、訓読の法則などを習得するとともに、作品にたいする特徴や文化的背景への理解を深める。後期の授業では、少し難易度の高い練習問題にも取り組む。授業の進め方は前期と同様、作品の訓読および現代語訳のほか、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認する。				
評価方法・基準	定期試験 60%: 漢文読解に必要な基礎的知識が身についているかなど到達目標の達成度を確認し評価する。 平常点 40%: 平素の質疑・発表および課題の準備度などによって総合的に判断する。				
課題のフィードバック方法	各回授業の課題については、担当教員が授業中にコメントし評価する。 期末レポートの解答例は授業内やポータルサイト等で講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	本授業では、作品ごとに練習問題を解いて理解度を確認するため、全体の1/3(5回)を超えて欠席した学生は成績評価の対象としない。				
テキスト	プリント配布				
参考書	『精講 漢文(ちくま学芸文庫)』前野 直彬 筑摩書房 2018年 『漢詩漢文小百科』田部井 文雄 大修館書店 1990年				
授業内容	1. 『十八史略』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 2. 『十八史略』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 3. 『世説新語』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。 4. 『世説新語』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。				

科目名	中国文学講読 II	担当教員	☆ 西尾 和子
授業内容	<p>5. 『唐宋八家文』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>6. 『唐宋八家文』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>7. 『貞観政要』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>8. 『貞観政要』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>9. 『新書』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>10. 『新書』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>11. 『韓非子』の一文を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>12. 『韓非子』の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>13. 日本漢文の作品を読む [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>14. 日本漢文の作品の練習問題解説 [予習・復習]配布プリントの訓読、現代語訳をやっておくこと。講義の内容を復習しておくこと。</p> <p>15. 後期の復習とまとめ [予習・復習]定期試験に備えて総復習しておくこと。</p>		

科目名	書道Ⅰ		担当教員	☆ 森田 彦七	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	本講座は中学校国語科書写の学習内容、技能そして指導法を学んでいく。				
到達目標	教育の現場において、必要とされる技法の習得、書写指導の考え方や知識、さらに授業の展開[示範・添削・評価]等を身につけ、生徒たちに支援できる力を養う。				
授業概要	高等学校の書道の教員としての実務経験を生かして、中学校国語科書写の実技指導や授業計画等について学習していく。平成29年3月に中学校の「新学習指導要領」が告示された。そこで国語科書写の取り扱いは、『文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること』『硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の基礎を養うようにすること』となっている。とくに書写の指導にあたる観点から以下の事柄を目的として毛筆・硬				
評価方法・基準	*課題作品を50%、レポート30%、関心・意欲・態度・努力そして専門的知識度を20%として評価する。 *毎時の提出作品をABCの3段階で評価する。 【評価基準】A=意欲的に課題に取り組み、関心、意欲、専門知識及び技能、表現に大変優れているもの。B=真摯に課題に取り組み、技能、専門知識、表現の向上に努力しているもの。C=真摯に授業に参加し毎時の課題に取り組むが、技能、専門知識表現が目的に達しないもの。				
課題のフィードバック方法	*毎回、提出作品(毛筆・硬筆)は添削をして次時に返却をする。さらにもう一度添削した箇所を練習する。また、次時の予告課題も練習しておくこと。				
履修上の注意事項等	*この講座は教育免許課程に関する科目のため遅刻や途中退室は一切認めない。*毎時必ず毛筆・硬筆の実技ができるよう用具を準備すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	国語科書写の理論と実践 全国大学書写書道教育学会[編] 萱原書房 令和2年				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 書写教育とは 新学習指導要領改訂について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバス確認を再度しておくこと。用具確認をして必ず持参すること。</p> <p>2. 中学校書写の概要 新学習指導要領の改訂ポイントについて</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキスト中の中学校国語科書写の学習指導要領を読んでおくこと。</p> <p>3. 書写の用具・用材を知る 文房四宝について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]本時に返却した作品の添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題を自宅にて練習しておくこと。</p> <p>4. 姿勢・執筆法について 硬筆用具について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]姿勢・執筆法のおさらいプリントを書いて次時に提出すること。</p>				

科目名	書道 I	担当教員	☆ 森田 彦七
授業内容	5. 楷書の基本点画を学ぶ		
	----- [予習・復習]基本点画をおさらいしておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。テキストの筆順のところを読んでおくこと。		
	6. 楷書の学習 筆順について		
	----- [予習・復習]筆順の硬筆課題を自宅にて書いて次時に提出すること。許容事項についてテキストで確認しておくこと。		
	7. 楷書の学習 許容事項について		
	----- [予習・復習]許容事項についての硬筆課題を書いて次時に提出すること。行書の特徴を考えておくこと。		
	8. 行書の学習 基礎基本を学ぶ		
	----- [予習・復習]添削したところをもう一度書き直しておくこと。硬筆課題も練習しておくこと。		
	9. 行書の学習 特徴を知る1 点画の連続・省略について		
	----- [予習・復習]筆順が変わる例をいくつか考えて次時に発表できるようにしておくこと。硬筆課題も書いておくこと。		
	10. 行書の学習 特徴を知る2 筆順の変化・点画の形の変化について		
	----- [予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。仮名文字の生い立ちを調べておくこと。		
	11. 行書と仮名の調和について		
	----- [予習・復習]仮名の硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。		
	12. 生活の中の書を知る 板書の仕方を学ぶ		
----- [予習・復習]空き教室にて板書練習をすること。添削したところをもう一度練習しておくこと。次時の課題をテキストにて確認しておくこと。			
13. 書写の学習指導計画について			
----- [予習・復習]年間の書写の学習指導計画を考えておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。評価のあり方について調べておくこと。			
14. 評価と作品処理のあり方について			
----- [予習・復習]本日の評価プリントをもう一度読んでおくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。			
15. 総括 指定課題を手本なしで制作する			
----- [予習・復習]本日の課題をもう一度練習しておくこと。			

科目名	書道Ⅱ		担当教員	☆ 森田 彦七	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	本講座は中学校国語科書写の学習内容、技能そして指導法を学んでいく。				
到達目標	教育の現場において、必要とされる技法の習得、書写指導の考え方や知識、さらに授業の展開[示範・添削・評価]等を身につけ、生徒たちに支援できる力を養う。				
授業概要	高等学校の書道の教員としての実務経験を生かして、中学校国語科書写の実技指導や授業計画等について学習していく。平成29年3月に中学校の「新学習指導要領」が告示された。そこで国語科書写の取り扱いは、『文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること』『硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の基礎を養うようにすること』となっている。とくに書写の指導にあたる観点から以下の事柄を目的として毛筆・硬				
評価方法・基準	*課題作品を50%、レポート30%、関心・意欲・態度・努力そして専門的知識度を20%として評価する。 *毎時の提出作品をABCの3段階で評価する。 【評価基準】A=意欲的に課題に課題に取り組み、関心、意欲、専門知識及び技能、表現に大変優れているもの。B=真摯に課題に取り組み、技能、専門知識、表現の向上に努力しているもの。C=真摯に授業に参加し毎時の課題に取り組むが、技能、専門知識、表現が目的に達しないもの。				
課題のフィードバック方法	*毎回、提出作品(毛筆・硬筆)は添削をして次時に返却をする。さらにもう一度添削した箇所を練習すること。また、次時の予告課題も練習しておくこと。				
履修上の注意事項等	*この講座は教育免許課程に関する科目のため遅刻や途中退室は一切認めない。*毎時必ず毛筆・硬筆の実技ができるよう用具を準備すること。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	国語科書写の理論と実践 全国大学書写書道教育学会[編] 萱原書房 令和2年				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 楷書学習 基本点画と筆使い 新学習指導要領について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]楷書の硬筆課題も書いて次時に提出すること。楷書の筆使いを課題にて練習しておくこと。今後空き教室にて板書練習をすること。中学校国語科書写の学習指導要領を読んでおくこと。</p> <p>2. 楷書学習 字形と運筆について 中学校書写に関わる改訂ポイントについて</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]楷書の硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。仮名の硬筆課題も書いて次時に提出すること。」</p> <p>3. 楷書と仮名の調和1 仮名の筆使いを学ぶ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。</p> <p>4. 楷書と仮名の調和2 文字の大きさと配列について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。臨書の意味、方法を調べておくこと。</p>				

科目名	書道Ⅱ	担当教員	☆ 森田 彦七
授業内容	5. 楷書の名筆を学ぶ 欧陽詢の書を学ぶ1 臨書について		
	[予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。欧陽詢の書の特徴を調べて次時に提出すること。		
	6. 楷書の名筆を学ぶ 欧陽詢の書を学ぶ2 九成宮醴泉銘の特徴を知る		
	[予習・復習]硬筆課題も書いて次時に提出すること。初唐の三大家を調べて次時に提出すること。		
	7. 行書学習 特徴と用筆について1 楷書と行書の違いを知る		
	[予習・復習]行書の特徴をおさらいしておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。		
	8. 行書学習 特徴と用筆について2 点画の方向や形の変化について		
	[予習・復習]行書のおさらいプリントを書いて次時に提出すること。硬筆課題も書いて次時に提出すること。仮名について予習しておくこと。		
	9. 行書と仮名の調和1 行書に調和する仮名の書き方を学ぶ		
	[予習・復習]硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。古典の臨書の目的を考えておくこと。		
	10. 行書と仮名の調和2 漢字と仮名のつり合いを考える		
	[予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。王羲之について調べておくこと。		
	11. 行書の名筆に学ぶ 王羲之の書を学ぶ1 蘭亭序の特徴とは		
	[予習・復習]蘭亭序についてのプリントを必ず読んでおくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。		
	12. 行書の名筆に学ぶ 王羲之の書を学ぶ2 王羲之の筆使いを学ぶ		
[予習・復習]蘭亭序のおさらいプリントを書いて次時に提出すること。硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。			
13. 行書の名筆に学ぶ 王羲之の書を学ぶ3 半切3行にして臨書する			
[予習・復習]蘭亭序のおさらいプリントⅡを書いて次時に提出すること。硬筆課題も書いて次時に提出すること。添削したところをもう一度練習しておくこと。			
14. 実用的な書式について 学習したことを生かして書こう			
[予習・復習]添削したところをもう一度練習しておくこと。硬筆課題も書いて次時に提出すること。			
15. 総括 指定課題を手本なしで制作する			
[予習・復習]常に技術を高めるために毛筆練習をしておくこと。新学習指導要領を理解しておくこと。			

科目名	日本史概論Ⅰ		担当教員	河内 将芳	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本の古代・中世の歴史をどのように理解するか。				
到達目標	わが国の古代から中世の歴史をみるなかで、歴史とはなにか、歴史からなにをまなぶかを考える。				
授業概要	古代・中世がどのような時代であったのか、その歴史を知るためのもっとも有力な手がかりである古文書や古記録など文献史料をとおして、具体的に考える。				
評価方法・基準	授業中の課題(50%、毎回提示される史料を読解作業した小レポート)、レポート(50%)				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し、最終授業内で講評をおこなう。課題は、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	はじめて大学での歴史の授業をうける史学科1回生をおもな対象として授業展開をする。また、授業中に課題を課して、それをもとにして授業展開をする予定である。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス 日本の歴史をまなぶ方法とは ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解をする。「日本の歴史をまなぶ方法とは」について確認と整理をおこなう。</p> <p>2. 飛鳥の時代 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「飛鳥の時代」について確認と整理をおこなう。</p> <p>3. 古代国家へ ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「古代国家へ」について確認と整理をおこなう。</p> <p>4. 奈良時代の政治 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「奈良時代の政治」について確認と整理をおこなう。</p>				

科目名	日本史概論 I	担当教員	河内 将芳
授業内容	5. 平安京の社会		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「平安京の社会」について確認と整理をおこなう。		
	6. 鎌倉幕府の成立		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「鎌倉幕府の成立」について確認と整理をおこなう。		
	7. 鎌倉時代の社会		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「鎌倉時代の社会」について確認と整理をおこなう。		
	8. 南北朝の動乱		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「南北朝の動乱」について確認と整理をおこなう。		
	9. 室町幕府の成立		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「室町幕府の成立」について確認と整理をおこなう。		
	10. 室町時代の社会		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「室町時代の社会」について確認と整理をおこなう。		
	11. 室町時代の政治		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「室町時代の政治」について確認と整理をおこなう。		
	12. 戦国時代の都市		
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦国時代の都市」について確認と整理をおこなう。			
13. 戦国の合戦			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦国の合戦」について確認と整理をおこなう。			
14. 信長の時代			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「信長の時代」について確認と整理をおこなう。			
15. 秀吉の時代			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「秀吉の時代」について確認と整理をおこなう。			

科目名	日本史概論Ⅱ		担当教員	村上 紀夫	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本史の流れの基本的理解				
到達目標	日本の近世から近現代までの流れを庶民の暮らしや文化に注目して理解し、歴史研究の手法や視点を学ぶ。				
授業概要	各時代の概観と主要な事項について身近なトピックスをもうけて近世・近現代のできごとを史料を交えて紹介する。教科書的な通史ではなく、できるだけ身近なテーマを入り口とした歴史学の視点も学んでほしいので、切り口と構成は変更する可能性がある。				
評価方法・基準	レポート(100%) 評価にあたっては、①内容については、講義内容と歴史学の方法論や研究史を理解したうえで、授業からどのような“主体的な学び”につなげていくかを重視して採点する。また、②形式面で、アカデミックライティングの手法をふまえた文章が書けているかを加味したうえで、③総合的に評価する(添付ファイル参照のこと)。				
課題のフィードバック方法	授業後の講義内容に関する質問・疑問に対して個別に対応し、かつ次回以降の授業に反映し、必要に応じ適宜紹介していく。学習到達度確認答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上等で公開する。				
履修上の注意事項等	レポート執筆にあたっては、必ず添付のファイルを読んでおくこと。 また、論旨が一貫していない、日本語として意味不明のレポートなど、高等教育機関である大学のレポートの水準に達していないものも厳しく採点する。出せばいいというものではない。				
テキスト	特に使用しない				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス(受講者の関心調査と講義の進め方について)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 『岩波講座 日本歴史』第10巻(2014年)の藤井譲治「近世史への招待」を読んでおく。</p> <p>2. 日本社会と都市について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 岩波新書の吉田伸之『シリーズ日本近世史4 都市』を通読する</p> <p>3. 近世前期の社会</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 『岩波講座 日本歴史』第10巻「織田政権論」「豊臣政権論」を読んでおく</p> <p>4. 近世中期、とりわけ享保期の都市社会</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 『岩波講座 日本歴史』第10巻の伊藤毅「近世都市の成立」を読んでおく 『岩波講座 日本歴史』第11巻の岩淵令治「近世都市社会の展開」を読んでおく</p>				

科目名	日本史概論Ⅱ	担当教員	村上 紀夫
授業内容	5. 近世の宗教と寺社		

	[予習・復習]		
	『岩波講座 日本歴史』第 11 巻の朴沢直秀「近世の仏教」を読んでおく		
	『岩波講座 日本歴史』第 12 巻の梅田千尋「近世の神道・陰陽道」を読んでおく		
	6. 近世文化をめぐって		

	[予習・復習]		
	『岩波講座 日本歴史』第 13 巻の神田由築「芸能と文化」を読んでおく		
	7. 開国前後の都市社会		

	[予習・復習]		
	宮地正人『幕末維新変革史』上下(岩波現代文庫、2018 年)を通覧しておく。		
	8. 幕末の政変		

[予習・復習]			
岩波新書の井上勝生『シリーズ日本近代史1 幕末・維新』を読んでおく			
9. 慶応期の社会変動			

[予習・復習]			
『講座明治維新』第2巻「幕末政治と社会変動」(有志舎、2011 年)所収の論文から最低一本を読んでおく			
10. 明治維新のとらえ方			

[予習・復習]			
中公新書の成田龍一『近現代日本史と歴史学』(2012)を読んでおく			
その上で、遠山茂樹『明治維新』(岩波現代文庫、2000 年)を読む			
11. 文明開化と地域社会			

[予習・復習]			
岩波新書の藤田覚『シリーズ日本近世史5 幕末から維新へ』(2015)を読んでおく			
藤田 覚			
新書			
12. 近代の社会と文化			

[予習・復習]			
『講座明治維新』第 11 巻「明治維新と宗教・文化」(有志舎、2016 年)所収の論文を最低1本は読んでおく			
13. 民権運動と近代市民社会			

[予習・復習]			
岩波新書の牧原憲夫『シリーズ日本近現代史2 民権と憲法』(2006)を読んでおく			
14. 社会問題と社会運動			

[予習・復習]			
『岩波講座 日本歴史』第 16 巻の石居人也「社会問題の『発生』」を読んでおく			
15. 現代と歴史学			

[予習・復習]			
これまでの授業をふまえて自分自身の歴史への見方を振り返ってノートに整理しておく			
『岩波講座 日本歴史』第 22 巻「歴史学の現在」所収の論文をどれか 1 本でも読んでみる			

科目名	東洋史概論Ⅰ		担当教員	角谷 常子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中国古代・中世史概論				
到達目標	周の封建的支配から、春秋戦国を経て統一帝国が出現して古代帝国が確立し、さらに貴族制へと展開する、そうした歴史的動きのメカニズムを理解する。				
授業概要	古代帝国の成立とその確立、さらに皇帝権力を相対化する諸勢力の進展、さらに中世の貴族制へ、という大きな歴史的変化をさまざまな事象を通して論じる。				
評価方法・基準	定期試験(筆記)を実施する予定。授業内容が理解できているかを論述形式で問う。				
課題のフィードバック方法	定期試験後、口頭で講評を行う。				
履修上の注意事項等	高校の時に学習しなかったからわからない、という人はそれを補う努力をしてほしい。大学は与えられたことだけをやる、受け身の場ではなく、自発的に学ぶところなのだから。				
テキスト	なし。				
参考書	授業中、適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容を理解する。</p> <p>2. 殷の政治</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 中国史の基礎知識を得るため、紹介された参考書の古代・中世の部分を読んでおく。</p> <p>3. 周の政治と社会</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書の殷、周時代の部分をまとめておく。</p> <p>4. 青銅器からみた殷周時代</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 授業で説明された殷周時代の政治・文化の特徴を整理する。</p>				

科目名	東洋史概論 I	担当教員	角谷 常子
授業内容	5. 春秋時代の政治と社会		

	[予習・復習] 概説書で春秋時代の部分を読み、時代背景を理解する。		
	6. 戦国時代の政治		

	[予習・復習] 概説書で戦国時代の時代背景を理解し、授業内容をまとめる。		
	7. 戦国時代の社会		

	[予習・復習] 戦国時代の社会的特徴をまとめる。		
	8. 秦の統一(皇帝の出現)		

	[予習・復習] 皇帝の出現の意味をまとめる。		
	9. 漢の成立と郡国制		

	[予習・復習] 封建制、郡県制と郡国制の違いをまとめる。		
10. 漢代の政治と社会			

[予習・復習] 秦と漢の違いを政治・社会についてまとめる。			
11. 王莽			

[予習・復習] 王莽政権の意義をまとめる			
12. 後漢時代の政治と社会			

[予習・復習] 後漢時代の特徴を、政治・社会・文化についてまとめる。			
13. 六朝貴族制社会			

[予習・復習] 貴族制といわれる時代が生まれた背景をまとめる。			
14. 隋唐帝国へ			

[予習・復習] 秦漢帝国と隋唐帝国の違いを政治と社会についてまとめる。			
15. まとめ			

[予習・復習] 半年間の総まとめをし、理解不足の点を整理する。			

科目名	東洋史概論Ⅱ		担当教員	山崎 岳	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	隋唐時代以降の東アジア				
到達目標	東アジア通史の大まかな全体像をつかむ。				
授業概要	東アジアの歴史について、隋唐時代以後に重点をおきつつ概説する。中国史を基本軸とするが、その他の地域についても言及する。高校世界史の内容を基礎とするが、原史料および関係学説を紹介しながら、より深い理解への糸口を提供する。				
評価方法・基準	授業期間中に随時行う小試験、および学期末試験による。				
課題のフィードバック方法	試験等の結果については、開示請求があれば、授業中あるいはオフィスアワー等に適宜対応する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 導論 ----- [予習・復習]説明内容を確認すること。</p> <p>2. 東アジアの歴史地理 ----- [予習・復習]学習内容を確認すること。</p> <p>3. 隋の南北朝統一 ----- [予習・復習]学習内容を確認すること。</p> <p>4. 唐とシルクロード ----- [予習・復習]学習内容を確認すること。</p>				

科目名	東洋史概論 II	担当教員	山崎 岳
授業内容	5. 唐末・五代と契丹の勃興 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	6. 遼宋金代の社会と文化 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	7. モンゴルの世界征服 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	8. 明の建国 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	9. 北虜南倭の時代 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	10. 満洲の興起 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	11. 清朝の繁栄 -----		
	[予習・復習]学習内容を確認すること。		
	12. 東アジアの近代 -----		
[予習・復習]学習内容を確認すること。			
13. 革命と戦争 -----			
[予習・復習]学習内容を確認すること。			
14. 中華人民共和国史 -----			
[予習・復習]学習内容を確認すること。			
15. 総括 -----			
[予習・復習]			

科目名	西洋史概論 I		担当教員	山口 育人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	イギリス史を通してみる西洋世界の歴史				
到達目標	①中世末から現代にいたる西洋世界の歴史的展開の大きなながれを説明できる ②中世末から現代にいたる西洋史における諸問題を、講義内容に基づいてまとめることができる				
授業概要	中世末から現代にいたるまでのイギリス(連合王国)・ブリテン諸島およびイギリス帝国の歴史を概観する。ただし単なるイギリス史の授業ではない。西洋世界の歴史的展開における諸問題(政治、経済、社会、文化、思想、ヨーロッパ外世界との関係)を考察する材料としてイギリス帝国に着目する。				
評価方法・基準	・小レポートにおいては、指定するテキストを読み、歴史的展開を適切に整理できているかを評価する。 ・最終回授業において実施する学習到達度確認では、講義で取り上げた歴史事象を適切に説明できているかを評価する。				
課題のフィードバック方法	小レポートならびに学習到達度確認は、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	イギリス帝国の歴史 秋田茂 中央公論新社 2012 年 近現代イギリス史 木畑洋一・秋田茂 ミネルヴァ書房 2011 年 イギリスの歴史を知るための 50 章 川成洋 明石書店 2016 年				
授業内容	<p>1. 中世末のヨーロッパ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容を理解する・授業で配布する年表を完成させる</p> <p>2. 近代国家イングランドの成立と 16 世紀ヨーロッパ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 2 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する</p> <p>3. ヨーロッパ「17 世紀の危機」と海外進出、国家強化のなかでのブリテン諸島・イギリス帝国の起源</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 3 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する</p> <p>4. 大西洋経済圏の覇者、工業化への道</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 4 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する</p>				

科目名	西洋史概論 I	担当教員	山口 育人
授業内容	5. アメリカ独立革命・フランス革命とイギリス		

	[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 5 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する		
	6. ウィーン体制、イギリス帝国の再編		

	[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 6 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する		
	7. パクス・ブリタニカ		

	[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 7 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する		
	8. イギリスを追いかける 19 世紀ヨーロッパ諸国		

	[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 8 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する		
	9. 帝国主義時代		

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 9 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
10. 内と外でのナショナリズム			

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 10 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
11. 第一次世界大戦とヨーロッパ			

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 11 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
12. 2 度目の世界大戦とヨーロッパ、イギリス帝国			

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 12 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
13. 冷戦、脱植民地化			

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 13 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
14. ヨーロッパ統合、グローバリゼーション			

[予習・復習] 事前配布レジュメ(第 14 回目分)を理解する・授業中に示した設題への解答を作成する			
15. 授業総括・学習到達度の確認			

[予習・復習] 学習到達度の確認に向けて授業を振り返る・学習到達度確認の結果について振り返りを行う			

科目名	西洋史概論Ⅱ		担当教員	足立 広明	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係	『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照		
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計			授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)		
テーマ	信仰の海—地中海世界				
到達目標	地中海世界の諸宗教の歴史を、それを生み出した社会に注目しつつ理解する。				
授業概要	中東やヨーロッパの民族・宗教問題に関するニュースは、毎日のようにメディアで流されている。しかし、背景となる歴史的知識が少なく複雑に感じるという人は現在でも多いようである。この授業では、地中海世界周辺で生じた諸宗教の対立と共存の歴史について概観する。本年度はとくに中世に焦点を当てる。				
評価方法・基準	授業内の小レポート(50%)と定期試験(50%)により判断する。授業内容の理解の度合い、論理的な文章が書けているかどうかを基準とする。				
課題のフィードバック方法	授業内に適時感想を書かせ、内容の優れたものをピックアップして次週紹介する。定期試験を実施し、解答例を配布及び解説を行う。				
履修上の注意事項等	授業内容は上記の通りだが、コロナ対応でオンライン授業や対面でも複数教室に分かれることがあるので、連絡には注意すること。				
テキスト	とくに用いない				
参考書	適時指示する。				
授業内容	<p>1. ヤルムークの合戦 現代に至る宗教・民族分布を決定した古代末期の決戦</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。</p> <p>2. 背景としての古代世界 オリент世界とギリシア・ローマ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。</p> <p>3. キリスト教とローマ帝国① 公認以前 迫害と殉教</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。</p> <p>4. キリスト教とローマ帝国② 公認以降 正統信仰と公会議</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。</p>				

科目名	西洋史概論 II	担当教員	足立 広明
授業内容	5. 修道制と巡礼 砂漠の聖人と古代末期の社会変容		

	[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などでよく予復習しておくこと。		
	6. ササン朝とビザンツ帝国の激突 地中海、イラン高原千年戦争の決着		

	[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。		
	7. イスラームの興隆 地中海とイラン高原の対立を止揚した最初の中世文明		

	[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。		
	8. 東方正教世界の確立 ビザンツ帝国の存続とイコノクラスム、ロシア、東欧の改宗		

	[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。		
	9. ゲルマン民族の移動と定住 移行の時代の諸王国		

	[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。		
10. 西欧カトリック世界の誕生 ローマ教皇と神聖ローマ皇帝			

[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。			
11. 十字軍の時代 西欧、ビザンツ、イスラーム三世界の衝突			

[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。			
12. オスマン帝国という解決			

[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。			
13. 宗教改革と近世の西欧			

[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。			
14. 近現代の民族・宗教問題 バルカン半島を中心に			

[予習・復習] 関連文献を示すので、図書館などで調べて理解を深め、次回内容についても調べておくこと。			
15. まとめ			

[予習・復習] これまでの授業内容の総復習			

科目名	国際交流史基礎講義 I		担当教員	高橋 博子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	環太平洋現代史: 日米関係を中心に				
到達目標	環太平洋現代史への第二次世界大戦・冷戦の影響を理解する。				
授業概要	2020 年は第二次世界大戦終結から 75 年の年である。「冷戦」とよばれる時代が続いたが、アジアにおいては朝鮮戦争、ベトナム戦争と熱戦が起こり、日米関係も変節してきた。本講座は第二次世界大戦から冷戦期にかけての日米関係について講義を行い、戦争と平和の問題について、さらに国際交流の意義について多角的に議論する。				
評価方法・基準	中間確認テストと期末確認テストにて、基本的な知識を問うテストを行う(40%)。また、授業に関して小論文を作成する(40%)。コメントペーパーや授業への参加(20%)レポートの評価方法は以下の点を重視する。 ・課題を読んでいるか ・自分の視点で論述しているか ・論拠を示し、説得力があるか ・歴史的探究心があるか				
課題のフィードバック方法	小論文については添削して授業やオフィスアワーに返却する。テストについても授業やオフィスアワーに返却する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	いま、<平和を>を本気で語るには ノーマ・フィールド 岩波書店 2018 年				
参考書	クリオの顔 E.H.ノーマン 岩波書店 1986 年				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習]</p> <p>2. 第二次世界大戦(アジア・太平洋戦争を中心に) ----- [予習・復習] NHK戦争証言アーカイブズから、第二次世界大戦に関して一人の証言を聴いてコメントを提出。</p> <p>3. 沖縄戦 ----- [予習・復習] NHK戦争証言アーカイブズから、沖縄戦についての一人の聴いてコメントを提出。</p> <p>4. 冷戦の始まりとマッカーシズム ----- [予習・復習]</p>				

科目名	国際交流史基礎講義 I	担当教員	高橋 博子
授業内容	<p>5. マッカーシズムに関連する映像 ----- [予習・復習] 第二次世界大戦・冷戦についての復習しておく。</p> <p>6. アメリカの核開発に関する映像(『最後の原爆』) ----- [予習・復習] アメリカの核開発に関する映像(『最後の原爆』)についてのコメントを提出</p> <p>7. アメリカの核開発 ----- [予習・復習] 第二次世界大戦・冷戦についての復習しておく。</p> <p>8. 前半の授業のまとめ ----- [予習・復習] 前半の復習</p> <p>9. 中間確認テスト ----- [予習・復習]</p> <p>10. 占領期の日本(民主化・非軍事化) ----- [予習・復習] NHK戦争証言アーカイブズから、戦後史にかんする映像を見てコメントを提出。</p> <p>11. 占領期の日本(原爆情報統制) ----- [予習・復習] 占領期の日本について復習しておく。</p> <p>12. ヴェトナム戦争 ----- [予習・復習] ヴェトナム戦争について、配布した史料を読み、復習しておく。</p> <p>13. 『花はどこへ行った』 ----- [予習・復習] 『花はどこへ行った』についてのコメントを提出。</p> <p>14. 後半の授業のまとめ ----- [予習・復習]</p> <p>15. 期末確認テスト ----- [予習・復習]</p>		

科目名	国際交流史基礎講義Ⅱ		担当教員	外岡 慎一郎	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	東アジアのなかの中世日本				
到達目標	東アジアの歴史の一部として日本中世史を考える視座を獲得し、受講者個々の研究資源とすること。				
授業概要	基礎講義であるから、概説的な内容となる。 時代範囲としては、唐、新羅が滅亡して大きく日本の国際環境が変わる10世紀から、「イベリア・インパクト」以前の15世紀までとする。東アジア世界の動向と、日本の動向を同じ時間軸においてみるだけでも多くの発見があるが、逐次、交易や戦争にかかる個別テーマを設定して、さらなる関心を喚起する機会としていく。				
評価方法・基準	授業各回に課す小課題(各回授業の理解度を設問により確認)の総合点(13回分)により評価する。				
課題のフィードバック方法	小課題については正答例を開示する(E-learning)。 質疑についてはメール(E-learning)、オフィスアワーで対応する。				
履修上の注意事項等	オンライン授業の場合はE-learningを活用する。授業開始前にポータルサイトに授業方法、アクセスキーを掲示するので、必ずE-learningに登録すること。 なお、E-learningで授業動画を視聴する場合は、大学tboxアドレスからアクセスしないと共有を拒否されるので注意すること。 対面授業となった場合も課題提出はE-learningでおこなう。				
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 「東アジアのなかの中世日本」を考えるための基礎的知見 ----- [予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>2. 10世紀の東アジア(概観) ----- [予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>3. 東アジアのなかの「国風文化」 ----- [予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>4. 11世紀の東アジア(概観) ----- [予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p>				

科目名	国際交流史基礎講義 II	担当教員	外岡 慎一郎
授業内容	5. 「刀伊の入寇」を考える		

	[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	6. 日宋交易の担い手たち		

	[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	7. 12 世紀の東アジア(概観)		

	[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	8. 東アジアのなかの「王土思想」		

	[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	[予習・復習]		
	9. 13 世紀の東アジア(概観)		

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
10. 東アジアの対モンゴル戦争			

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
11. 14 世紀の東アジア			

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
12. 「倭寇的世界」を考える			

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
13. 15 世紀の東アジア(概観)			

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
14. 「勘合貿易」と「応永の外寇」			

[予習・復習](予習)テーマについての基礎情報収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
15. 東アジアのなかの中世日本(まとめの講座)			

[予習・復習](復習)課題への取り組み			

科目名	国際交流史基礎講義Ⅲ		担当教員	☆ 寺崎 保広	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本古代の対外関係				
到達目標	日本と東アジアとの外交および交流について、基礎的な知識を得て、自ら考え、参考文献を探して読めるようになることを目指す。				
授業概要	講義形式で行う。プリントを毎回配付し、それに基づきながら授業を進める。『続日本紀』その他の史料を読み進め、関連する事項を説明しながら、課題について総合的に考えてゆくこととする。				
評価方法・基準	学習到達度確認によって評価する。試験は、講義内容を正確に把握しているかを論述形式で問う。				
課題のフィードバック方法	学習到達度確認を行い、授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	配付プリントでは、漢文史料を読むことになるので、受講生は、漢文読解の勉強が必要である。テキストは使用しない。参考文献は授業の中で適宜、指示する。				
テキスト					
参考書					
授業内容	1. はじめに 授業の概要 ----- [予習・復習] 基本となる参考文献を指示するので、予習として読んでおくこと。 2. 東アジア世界と冊封体制 ----- [予習・復習] 配付プリント1～3をもとに授業内容を復習すること。 3. 卑弥呼・倭の五王と東アジア ----- [予習・復習]配付プリント4～6をもとに授業内容を復習すること。 4. 遣隋使の諸問題 ----- [予習・復習]配付プリント7～9をもとに授業内容を復習すること。				

科目名	国際交流史基礎講義 III	担当教員	☆ 寺崎 保広
授業内容	<p>5. 「任那日本府」と朝鮮半島情勢 ----- [予習・復習]配付プリント10～12をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>6. 大化改新と外交 ----- [予習・復習]配付プリント13～15をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>7. 白村江の戦い ----- [予習・復習]配付プリント16～18をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>8. 律令国家の成立 ----- [予習・復習]配付プリント19～21をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>9. 遣唐使の概要 ----- [予習・復習]配付プリント22～24をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>10. 遣唐使の諸相 ----- [予習・復習]配付プリント25～27をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>11. 8世紀の日本と新羅 ----- [予習・復習]配付プリント28～30をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>12. 渤海国の登場 ----- [予習・復習]配付プリント31～33をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>13. 藤原仲麻呂と新羅征討計画 ----- [予習・復習]配付プリント34～36をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>14. 遣唐使の停止 ----- [予習・復習]配付プリント37～39をもとに授業内容を復習すること。</p> <p>15. 授業のまとめ ----- [予習・復習]半年間の授業内容を振り返り、復習しておくこと。</p>		

科目名	国際交流史基礎講義Ⅳ		担当教員	村上 紀夫	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係	『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照		
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計			授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)		
テーマ	15～19世紀における列島の交流史				
到達目標	高校までの一国史としての「日本史」ではない、交流史の視点で歴史を考える視点を理解し、国境にしばられない歴史について自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	現状では web での講義の可能性が高いが、今度の状況により不確定要素も大きい。実施方法については E-Learning を予定しているが、ポータルサイトを確認すること。新型コロナウイルスの感染状況が終息したら対面での講義とする可能性もある。大学の掲示など注意しておくこと。 15世紀～19世紀(日本の時代区分でいえば中世後期から近代)の日本列島をとりまく文化・政治のなかで、日本の歴史・文化がどのような影響を受けてきたかを、中国・朝鮮、琉球・北方、西欧諸国との関係を重視して考える。なお、構成は変更する可能性がある。				
評価方法・基準	レポート(60%)交流史の基本についての理解度に加え、国境にしばられない視点で「歴史」を自分の言葉で説明できているかを重視する。 提出課題(40%)適宜実施する e-learning の課題。講義内容を理解して、自分の言葉で適切に論点を整理し、課題に答えられているかを重視して評価する。				
課題のフィードバック方法	提出課題などの講評を、E-Learning を使ってフィードバックをする。適宜オフィスアワーなども活用する。				
履修上の注意事項等	前期、他のオンライン講義において「講義」を受講せず、課題だけを提出する例が散見された。「課題」は講義内容の理解度をはかるものなので、講義を履修していないことが明らかな場合、課題提出があっても未提出に準じた扱いとする。また、論旨が一貫していない、日本語として意味不明のレポートなど、高等教育機関である大学のレポートの水準に達していないものも厳しく採点する。出せばいいというものではない。				
テキスト	とくに使用しない				
参考書	授業時に紹介する				
授業内容	<p>1. 1 ガイダンス～一国史としての「日本史」再考 ----- [予習・復習]高校日本史教科書の15～19世紀部分を再読し、海外についての記述がどの程度あるかをノートにまとめておく。高校日本史教科書に掲載される地図を見て、位置関係と日本列島周辺の主要な地名を覚えておく</p> <p>2. 2 戦国時代の日本と西洋社会 ----- [予習・復習]宇田川武久『真説鉄砲伝来』(平凡社新書)を読んで感想をノートにまとめておく。</p> <p>3. 3 南蛮文化と文化 ----- [予習・復習]西欧文化と日本文化を比較したフロイス『ヨーロッパ文化と日本文化』(岩波文庫)を読んで感想をノートにまとめておく</p> <p>4. 4 キリスト教と織豊政権 ----- [予習・復習]フロイス『完訳フロイス日本史』第1巻～3巻(中公文庫)のどれか1冊を読んで感想をノートにまとめておく。</p> <p>5. 5 17世紀日本の対外観 ----- [予習・復習]『和漢三才図会』(平凡社東洋文庫)の海外情報部分を読んで感想をノートにまとめておく。『和漢三才図会』に出てくる地名を地図であらかじめ確認しておく。荒野泰典「江戸幕府と東アジア」(『日本の時代史 14 江戸幕府と東アジア』吉川弘文館、2003年)を読み感想をノートにまとめておく。</p>				

科目名	国際交流史基礎講義 IV	担当教員	村上 紀夫
授業内容	6. 6儒教と徳川幕府		

	[予習・復習]		
	末木文美士ほか編『日本思想史講座 3』(ペリかん社、2012 年)の儒教関連論文を読み、感想をノートにまとめておく。		
	上記論集の出てくる儒教に関する用語をあらかじめ辞典で調べてノートにまとめておく。		
	7. 7明代の仏教と日本		

	[予習・復習]		
	西村玲「近世仏教論」(末木文美士ほか編『日本思想史講座 3』ペリかん社、2012 年)を読み感想をノートにまとめておく。		
	上記論文に出て来る仏教の専門用語でわからない言葉をあらかじめ辞書で調べてノートに整理しておく。		
	8. 8朝鮮通信使と徳川幕府		

	[予習・復習]		
	久保井規夫『入門朝鮮と日本の歴史』(明石書店)を読んで感想をノートにまとめておく 朝鮮半島と対馬について世界地図で位置関係を確認し、主要な地名をノートに整理しておく		
	9. 9琉球と徳川幕府		

[予習・復習]			
紙屋敦之「琉球・アイヌと近世国家」(『岩波講座日本通史』第 11 巻、岩波書店)を読み、わからなかったことを調べてノートにまとめておく。			
琉球列島について地図で位置関係を確認し、主要な地名をノートに整理しておく			
10. 10 長崎とオランダ			

[予習・復習]			
『岩波講座日本通史』第 12 巻(岩波書店)の加藤栄一「出島論」を読んで、わからなかったことをノートにまとめておく			
松方冬子『オランダ風説書』(中公新書)を読んで感想をノートにまとめる			
11. 11 アイヌ民族と徳川幕府			

[予習・復習]			
あらかじめ配付する「夷酋列像」など江戸時代に描かれたアイヌ民族に関する絵画を見て、当時の日本人によるアイヌ民族への意識を考えノートにまとめておく			
北海道・樺太・千島列島などについて世界地図で位置関係を確認し、主要な地名をノートに整理しておく			
12. 12 西欧諸国の 19 世紀とアジア			

[予習・復習]			
高校世界史教科書の 19 世紀部分を再読し、「日本」との関係について考えノートにまとめておく。			
13. 13 開国と幕末			

[予習・復習]			
井上勝生『日本の歴史 18 開国と幕末変革』(講談社学術文庫)か宮地正人『幕末維新変革史』上下(岩波現代文庫)を読み、感想をノートにまとめておく			
14. 14 近代日本とアジア			

[予習・復習]			
南塚信吾『シリーズ日本の中の世界史「運動」する世界史』(岩波書店、2018 年)を読み感想をノートにまとめておく。			
15. 15 まとめ			

[予習・復習]			
これまでの配付資料を読み直し、概要をノートに整理しておく。			
「一國史」と語られてきた日本史をアジア・世界の視点で学んできて、これまでとどのよう「日本史」イメージが変わってきたかを発表できるようにノートに整理しておく			

科目名	国際交流史基礎講義 V		担当教員	山崎 岳	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	倭寇				
到達目標	14 世紀から 17 世紀までの「倭寇」に関する史実および史料に関する知見を得、当該時代の東アジア史に対する理解を深める。				
授業概要	中国および朝鮮の倭寇関係史料を読み、内容を解説する。史料は基本的に日本語訳を用いる。				
評価方法・基準	平常点、および筆記試験による。				
課題のフィードバック方法	授業中あるいは時間外に適宜対応する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 導論 ----- [予習・復習]学習事項を確認すること。</p> <p>2. 中国歴代王朝の日本観 ----- [予習・復習]学習事項を確認すること。</p> <p>3. 元末の群雄と倭寇 ----- [予習・復習]学習事項を確認すること。</p> <p>4. 明初の対外関係 ----- [予習・復習]学習事項を確認すること。</p>				

科目名	国際交流史基礎講義 V	担当教員	山崎 岳
授業内容	5. 日本国王の誕生 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	6. 宋素卿と寧波事件 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	7. 海禁と密貿易 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	8. 欧人東漸 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	9. 江海の賊から蘇松の寇へ -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	10. 徐海と江南の戦場 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	11. 王直と胡宗憲 -----		
	[予習・復習]学習事項を確認すること。		
	12. 明末華南の海賊 -----		
[予習・復習]学習事項を確認すること。			
13. 壬辰丁酉の倭乱 -----			
[予習・復習]学習事項を確認すること。			
14. 鄭氏政権の興亡 -----			
[予習・復習]学習事項を確認すること。			
15. 総括 -----			
[予習・復習]学習事項を確認すること。			

科目名	国際交流史基礎講義 VI		担当教員	山口 育人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	イギリス現代史を通して理解する第二次世界大戦後世界史の諸テーマならびに研究アプローチ				
到達目標	①第二次世界大戦後の世界史に関する諸テーマについて理解する。 ②歴史学の研究アプローチ・研究手法を理解する。				
授業概要	イギリス現代史を包括的に検討しながら、政治、経済、社会、文化、アイデンティティ、国際関係など第二次世界大戦後の世界史における諸テーマを検討し、それぞれのテーマについて、歴史研究における主なアプローチ・手法を説明する。				
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備・適切さを評価する。 ・各回とも「授業のまとめ」を作成すること。「まとめ」の適切さを評価する。				
課題のフィードバック方法	・「レジュメ」については、授業のなかでコメントする。 ・「授業まとめ」は、添削のうえ、授業もしくはオフィスアワーで返却する。				
履修上の注意事項等	学習に重大な支障をきたしますので、教科書は必ず入手してください。				
テキスト	イギリス現代史 長谷川貴彦 岩波書店 2017				
参考書					
授業内容	1. ガイダンス・イントロダクション(イギリス現代史の4つのキーワード) ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容を理解する・授業で配布する年表を完成させる 2. 福祉国家の誕生(起点としての第二次世界大戦・1945年の精神) ----- [予習・復習]テキスト第2回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する 3. 福祉国家の誕生(戦後再建) ----- [予習・復習]テキスト第3回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する 4. 「豊かな社会」への変貌(コンセンサスの政治・帝国からヨーロッパへ) ----- [予習・復習]テキスト第4回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する				

科目名	国際交流史基礎講義 VI	担当教員	山口 育人
授業内容	5. 「豊かな社会」への変貌(「豊かさ」の政治経済学)		

	[予習・復習]テキスト第 5 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する		
	6. 文化革命の時代(文化革命・近代化戦略)		

	[予習・復習]テキスト第 6 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する		
	7. 文化革命の時代(「衰退」と「進歩」のあいだで)		

	[予習・復習]テキスト第 7 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する		
	8. 「英国病」の実像(英国病)		

	[予習・復習]テキスト第 8 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する		
	9. 「英国病」の実像(モラルパニック・不満の冬)		

	[予習・復習]テキスト第 9 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する		
10. サッチャリズム(サッチャーの登場・サッチャーの勝利)			

[予習・復習]テキスト第 10 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する			
11. サッチャリズム(サッチャーの退場)			

[予習・復習]テキスト第 11 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する			
12. 「第三の道」(中道政治の再編・第三の道)			

[予習・復習]テキスト第 12 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する			
13. 「第三の道」(危機の時代)			

[予習・復習]テキスト第 13 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する			
14. 岐路に立つイギリス(緊縮政策・レファレンダム)			

[予習・復習]テキスト第 14 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する			
15. 岐路に立つイギリス(Post-Brexit のイギリス)			

[予習・復習]テキスト第 15 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめのを作成する			

科目名	日本史基礎講義 I		担当教員	渡辺 晃宏	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	木簡学入門				
到達目標	平城宮・京跡出土木簡を主たる素材として、木簡という出土文字資料についての理解を深め、またそれによって明らかになる平城宮・京跡の空間的・時間的な広がりを体得し、あわせて奈良時代の歴史を学ぶ。				
授業概要	具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義します。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを、適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えます。そのため取り上げる木簡や順序に変更や偏りが生じる場合があります。				
評価方法・基準	数回課す小レポートによる予定です。				
課題のフィードバック方法	小レポートはコメントを付してフィードバックする予定です。				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは特に使用せず、必要な資料をその都度配布します。 ・木簡に関する最新の発掘調査成果を盛り込む場合があるため、講義内容・順序に変更が生じる場合があります。 ・諸般の状況変化に伴う授業方法の変更により、内容を変更する場合があります。 				
テキスト					
参考書	<p>木簡 古代からの便り 奈良文化財研究所(編) 岩波書店 2020</p> <p>〈歴史の証人〉木簡を究める 奈良文化財研究所 クバプロ 2014</p> <p>木簡から古代が見える(岩波新書新赤版 1256) 木簡学会 岩波書店 2010</p>				
授業内容	<p>1. 木簡学の基礎 1 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構について。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 授業内容に即して、木簡の史料的特質について復習しておく。</p> <p>2. 木簡学の基礎 2 木簡の素材、形状、内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 授業内容に即して、木簡の史料的特質について復習しておく。</p> <p>3. 木簡学の基礎 3 木簡の発掘・整理・解読・保存まで</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 授業内容に即して、木簡の史料的特質について復習しておく。</p> <p>4. 平城宮木簡 1 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説する。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 授業内容に即して、平城宮跡出土木簡についての知見を深める。</p>				

科目名	日本史基礎講義 I	担当教員	渡辺 晃宏
授業内容	<p>5. 平城宮木簡 2 代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説する。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、平城宮跡出土木簡についての知見を深める。</p> <p>6. 長屋王家木簡 1 長屋王という 8 世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、長屋王家木簡の特質について復習しておく。</p> <p>7. 長屋王家木簡 2 長屋王という 8 世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、長屋王家木簡の特質について復習しておく。</p> <p>8. 長屋王家木簡 3 長屋王という 8 世紀前半の貴族の家政に関わる木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、長屋王家木簡の特質について復習しておく。</p> <p>9. 二条大路木簡 1 735、6 年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、二条大路木簡の特質について復習しておく。</p> <p>10. 二条大路木簡 2 735、6 年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、二条大路木簡の特質について復習しておく。</p> <p>11. 二条大路木簡 3 735、6 年頃を中心とする光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群の特質を考える。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、二条大路木簡の特質について復習しておく。</p> <p>12. 西大寺旧境内出土木簡 平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、平城京跡出土木簡について復習しておく。</p> <p>13. 地方官衙遺跡出土の木簡 1 国府・郡家・城柵などの木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、地方官衙遺跡出土木簡についての復習しておく。</p> <p>14. 地方官衙遺跡出土の木簡 2 国府・郡家・城柵などの木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。 ----- [予習・復習] 授業内容に即して、地方官衙遺跡出土木簡についての復習しておく。</p> <p>15. 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。 ----- [予習・復習] 木簡という出土文字資料の特質について、授業全体を振り返りながら再度確認しておく。</p>		

科目名	日本史基礎講義Ⅱ		担当教員	井岡 康時	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近現代史における国民と他者－アジア主義の生成・展開・変容				
到達目標	国民としての自己認識の形成過程について理解するとともに、東アジアの国々や人びとと友好関係を形成する道筋について考察を深める。				
授業概要	韓国・中国など東アジアの隣人とのようにして友好的関係を築くか－21世紀の日本人に突きつけられた重要な課題である。この問題についてアジア主義をキーワードに、日本の近現代史をたどりながら考えてみたい。教職希望者のことも考え、歴史教育のあり方についても視野に入りたい。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問などは次回以降の授業に反映し、適宜紹介や回答をおこなう。				
履修上の注意事項等	中国、韓国などアジア諸国との関係にかかわる報道に注意し、現代的な関心をもって授業に臨んでほしい。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	授業中に適宜指示する				
授業内容	<p>1. 東アジアのなかの日本－21世紀の国際関係を考える</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]近年の日本と東アジアの国々の関係に関する史料を配付するので、これをよく読み理解を深める。</p> <p>2. 国民意識の胎動－近世思想にみる変化</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで近世の国学の思想について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、近世の知識人のアジア観の変化について復習する。</p> <p>3. 維新の指導者の危機感－アジア観の形成</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで明治維新の指導者が抱いていた危機感について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、幕末・維新の過程で生じたアジア観の変化について復習する。</p> <p>4. 国境の画定(1)－北の国境とアイヌ民族の処遇</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などでロシアとの国境画定について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、明治政府のアイヌ民族に対する処遇について復習する。</p>				

科目名	日本史基礎講義 II	担当教員	井岡 康時
授業内容	5. 国境の画定(2)－南の国境と琉球処分		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで冊封体制について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、琉球王国と明治政府との関係について復習する。		
	6. 近代啓蒙思想のアジア観－「脱亜論」を考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで福沢諭吉のアジア観について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、明治期の知識人のアジア観について復習する。		
	7. 自由民権運動指導者の対外意識－アジア主義の展開		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで自由民権運動の経過について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、運動の過程であらわれてきたアジア観について復習する。		
	8. 日清・日露戦争と他者－アジアへの覇権の道		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで日清・日露戦争の経過について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、東アジアをめぐる国際関係の変化のなかで、どのようなアジア観が形成されるか復習する。		
	9. 韓国併合の衝撃－日韓関係の原点を考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで韓国併合条約について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、日本の朝鮮半島の支配について復習する。		
	10. 国民のなかの他者－沖縄・アイヌ・被差別部落の近代		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで大正期の反差別運動について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、差別に抗したマイノリティの主張について復習する。		
	11. 「黄禍論」との向きあいかた－欧米の視線に抗して		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで欧米で生じていた「黄禍論」について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、「黄禍論」に対する日本の反応について復習する。		
	12. 総力戦体制のなかの他者－平等化の進行がもたらしたこと		
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで総力戦体制について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、戦時体制下の台湾・朝鮮の人びとの人権状況について復習する。			
13. 戦後補償の道程－責任の取りかたを考える			
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで第二次大戦後のアジア諸国への補償の状況について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、補償交渉の経緯について復習する。			
14. 「お詫びと反省」の戦後史－日韓・日中関係の再構築のために			
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで韓国・中国との関係のなかで示された日本の戦争観について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、日韓・日中関係の流れについて復習する。			
15. アジア主義とは何か－国際化の時代を生き抜くために			
[予習・復習]これまでの学びを踏まえて、アジア主義について改めて理解を深めるとともに、今後の望ましい国際関係について考察を深める。			

科目名	日本史基礎講義Ⅲ		担当教員	森川 正則	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「映画」を資料・手がかりにして学び・問う昭和史・平成史				
到達目標	「昭和史・平成史には、どのようなテーマと問い・論点があるのか」を主題とし、「映画」を利用して多様な角度から考え、日本現代史の学びと探求に活かす技能を習得する。				
授業概要	この授業は正確には「日本現代史」「昭和史・平成史」の基礎講義である。2019年に平成は幕を閉じ、昭和もさらに遠くなった。では、昭和史・平成史において「探求するに値するテーマと問い」とは何だろうか。そこで、手がかりとするのが「映画」である。優れた文学と同様、映画にも人間と社会、そして、歴史について鋭い洞察と問いかけを提示してくれる作品が数多くある。この授業では、文書・文献史料に基づく歴史の学び・探求にも豊かなヒントを与えてくれる映画を使って、テーマと問い・論点を考えていく。				
評価方法・基準	中間レポート(50%)と期末レポート(50%)の2つを総合して評価。「指定された構成と注意点に従っているか」「授業の目標・概要に照らしてふさわしい内容になっているか」を基準とする。				
課題のフィードバック方法	中間レポートについては、第15回授業で提出者各自にコメントを記して返却し、全体講評もする。期末レポートについては、担当教員の研究室でオフィスアワーなどに返却する。				
履修上の注意事項等	モノクローム(白黒)の映像を観ることへの抵抗感、「面白くなさそう」「古臭そう」といった先入観・固定観念を問い質すことである。加えて、この授業で取りあげる映画は「単なる娯楽作品ではない」ことに十分に注意されたい。				
テキスト	授業ではプリントを配布				
参考書	日本映画史 100年 四方田犬彦 集英社 2000年 昭和史 古川隆久 筑摩書房 2016年 ポスト戦後社会 吉見俊哉 岩波書店 2009年				
授業内容	<p>1. 授業のはじめに—「映画」を資料・手がかりにして学び・問う昭和史・平成史</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを熟読して授業の概要を把握する。参考書1の目次または参考書2の目次と「はじめに」を読む。</p> <p>2. 飲んだくれ医者と若いヤクザの交流—占領期の社会と都市文化①</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]参考書1の第6章または参考書2の第4章1~6を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。</p> <p>3. 新米刑事は盗まれた拳銃を追って—占領期の社会と都市文化②</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]参考書1の第6章または参考書2の第4章1~6を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。</p> <p>4. 時は1956年初めのこと—「もはや戦後ではない」×「果して戦後は終わったか」①</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]参考書1の第7章または参考書2の第4章5~10を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。</p>				

科目名	日本史基礎講義 III	担当教員	森川 正則
授業内容	5. 「何が文化国家よ！」—「もはや戦後ではない」×「果して戦後は終わったか」②		
	[予習・復習]参考書 1 の第 7 章または参考書 2 の第 4 章 5～10 を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。		
	6. 「炭鉱のまち」の苦悩と生まれ変わりの模索①—高度成長期の一断面		
	[予習・復習]中間レポートをまとめる。参考書 2 の第 5 章 1～4 を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。		
	7. 「炭鉱のまち」の苦悩と生まれ変わりの模索②—高度成長期の一断面		
	[予習・復習]中間レポートをまとめる。参考書 2 の第 5 章 1～4 を読む。第 1～7 回までの内容に即して中間レポートをまとめる。		
	8. 中学校の理科教師がおこした事件① — 1970 年代末の社会と文化		
	[予習・復習]参考書 2 の第 5 章 7～9 または参考書 3 の第 2 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。		
	9. 中学校の理科教師がおこした事件② — 1970 年代末の社会と文化		
	[予習・復習]参考書 2 の第 5 章 7～9 または参考書 3 の第 2 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。		
10. 「バブル景気」という名の宴 — 経済繁栄に酔いしれる社会の暗部			
[予習・復習]参考書 2 の第 5 章 9～13 または参考書 3 の第 4 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。			
11. 1990 年代の中学生の日常と心象風景—インターネットの出現・普及の中で			
[予習・復習]参考書 3 の第 3 章・5 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。			
12. 「バブル崩壊後」の社会と女性たちの暮らし—日常の中の苦悩、そして、転落			
[予習・復習]参考書 3 の第 3 章・5 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。			
13. 不協和音を奏でる 4 人—長期不況と経済グローバル化の中の社会と家族①			
[予習・復習]参考書 3 の第 3 章・5 章・6 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。			
14. 不協和音を奏でる 4 人—長期不況と経済グローバル化の中の社会と家族②			
[予習・復習]参考書 3 の第 3 章・5 章・6 章を読む。今回の授業をふまえて導きだしたテーマと問い・論点を配布プリントに記述する。			
15. 授業のおわりに—「映画」を資料・手がかりにして学び・問う昭和史・平成史			
[予習・復習]第 8～15 回の内容に即して期末レポートをまとめる。			

科目名	日本史基礎講義 IV		担当教員	☆ 黒瀬 にな	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本中世前期の紛争処理と訴訟制度				
到達目標	中世前期の訴訟制度について概要を理解している。 先行研究を読み解き、自分の言葉で説明し、考えを述べるができる。 前近代史に関心を持ち、本授業終了後の学修にも繋げていく意欲を有する。				
授業概要	日本中世史のうち、摂関期から鎌倉時代にかけての訴訟のあり方に注目します。 日本古代・中世の法や裁判の歴史は、長らく律令法と鎌倉幕府法が主たる研究対象でしたが、近年では両者の間を埋める平安中後期についての研究が進んでいます。また鎌倉時代についても、朝廷・貴族・寺社の法を視野に入れ、社会全体に目配りして論じることができるようになってきました。本授業では、こうした研究成果に学びつつ、10世紀-14世紀の日本社会の変化を、訴訟という制度・現象を通して観察していきます。				
評価方法・基準	平常点(授業に付随する小課題):40% 試験に替わるレポート:60%				
課題のフィードバック方法	コメントシート等の内容については、次回以降の授業に適宜反映する。				
履修上の注意事項等	・オンライン講義となります。GoogleClasroom を用いたオンデマンド配信の予定ですが、詳細は追ってポータルサイト Campusmate に掲示し、初回授業でも説明します。 ・「授業内容および学習課題」[予習・復習]欄の記載内容のほかに、予習課題や復習課題を出す場合もあります。				
テキスト	指定なし。レジュメを配付する。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. 授業の概要説明・導入</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスに目を通してくる。／配布資料を見直し、課題の提出方法などを確認する。</p> <p>2. 平安時代史概観:官僚制の変化を中心に</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。</p> <p>3. 10-11世紀の公家訴訟制度(1):太政官と検非違使庁</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。</p> <p>4. 10-11世紀の公家訴訟制度(2):主人による懲戒</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。</p>				

科目名	日本史基礎講義 IV	担当教員	☆ 黒瀬 にな
授業内容	5. 10-11世紀の公家訴訟制度(3): 朝廷とイエ		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	6. 院政の仕組みと中世的社会		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	7. 院政期における訴訟の世界		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	8. 前半の振り返り、レポート作成方法		
	----- [予習・復習]レジュメ中の不明な用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。授業での説明を参考に、レポートの準備を始める。		
	9. 鎌倉幕府の登場と公武の訴訟		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	10. 承久の乱・御成敗式目・後嵯峨院政		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	11. 鎌倉時代後期の訴訟制度		
	----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。		
	12. 事例にみる鎌倉後期の社会と政治・裁判1: 朝廷と六波羅		
----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。			
13. 事例にみる鎌倉後期の社会と政治・裁判2: 御敬神の御代			
----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。			
14. 事例にみる鎌倉後期の社会と政治・裁判3: 悪党の召し捕りと調伏			
----- [予習・復習]受講(視聴・出席)前に、レジュメ(事前配布する)に出てくる分からない用語を辞書・事典で調べてみる。／レジュメを再読し、メモやノートを整理する。			
15. 授業の総括、発展学習案内			
----- [予習・復習]これまでの授業レジュメや自分のノートを再読する。／興味を持った参考文献の所在等について調べる。			

科目名	日本史基礎講義 V		担当教員	☆ 長澤 一恵	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国際社会における民主主義の形成と近代日本				
到達目標	①日本現近代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。 ②多様で重層的な社会構造や国際関係のなかで歴史を捉える相対化の視点を養う。 ③戦後に継承される民主主義や平和の意義について理解を深める。				
授業概要	<p>明治維新後の開国により近代国家として出発した日本は、大日本帝国憲法のもとで大正民主主義期には民衆の社会要求や権利意識の高まりを背景として多彩な言論や社会運動を展開し、政党政治の成立へと結実するとともに、一方では差別や植民地支配、戦争、移民問題など複雑で多面的な課題を抱える社会であった。講義では、こうした内外の問題を広く捉えながら、近代日本ではどのような「社会」の実現が目差されたのかを明治憲法体制および日本をとりまく国際社会との関わりから多角的に考察する。</p> <p>戦争・植民地統治・ナショナリズムといった20世紀が抱えていた諸問題の解決を模索するなかで社会が追求してきた民主主義や平和の価値を見つめ直すことによって、これからの国際社会のあり方を考える手がかりにしたいと考える。</p>				
評価方法・基準	学習到達度確認 20%(授業まとめ課題を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する)、授業中に提出するレポート 70%(図書館・資料館・博物館などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成すること。Web情報の引用は採点対象外とする)、平常点 10%(講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること)、を総合して評価する。				
課題のフィードバック方法	期間内に学習到達度確認を行い、最終授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	授業は幅広い歴史事象を勉強するための入り口に過ぎません。興味を持った事柄や問題は、歴史辞典や参考文献、博物館などを活用して自分自身でどんどん学習を進めてください。また、世界史年表や地図を用意してこまめに確認することをおすすめします(出版社等の指定はとくにありません)。本授業は、教室での対面授業を予定していますが、コロナ状況によっては WEB授業での実施に変更する場合があります。				
テキスト	教科書は使用しません。				
参考書	シリーズ日本近現代史 1～10巻 岩波新書(新赤版・1042～1051) 2006～2010、日本近代の歴史 1～6巻 吉川弘文館 2016～2017、日本の歴史 20～25巻 講談社 2000～2003				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業概要を把握する。クリアファイル(A4サイズ)、ノートまたはルーズリーフ(様式自由)を持参する。/図書館で、本講義のシラバスやガイダンス用紙に記載された辞典や参考文献の配架場所を確認し、以後の講義で活用できるように準備する。</p> <p>2. 自由民権運動のたかまり ----- [予習・復習]「五箇条誓文」、明治政府の近代化諸政策、「自由民権運動」、「国会開設運動」、「私擬憲法」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/明治維新および自由民権運動の歴史経緯と意義について整理と確認をする。</p> <p>3. 大日本帝国憲法の発布 ----- [予習・復習]「明治十四年の政変」、「国会開設の勅諭」、「大日本帝国憲法」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/大日本帝国憲法の発布と特徴について整理と確認をする。</p> <p>4. 明治憲法体制の成立 ----- [予習・復習]「明治憲法体制」、「帝国議会」、「衆議院議員選挙法」、「枢密院」、「元老」、「軍部大臣現役武官制」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/「明治憲法体制」における戦前期の政治構造について整理と確認をする。</p>				

科目名	日本史基礎講義 V	担当教員	☆ 長澤 一恵
授業内容	5. 日清・日露戦争と近代東アジア		
	[予習・復習]「日清戦争」、「下関条約」、「日露戦争」、「ポーツマス条約」、「韓国併合」、「辛亥革命」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／日清・日露戦争をめぐる国際情勢および近代東アジアにおける植民地支配、日中関係について整理と確認をする。		
	6. 第一次護憲運動と大正政変		
	[予習・復習]「憲政擁護運動」、「大正政変」、「米騒動」、「原敬内閣」、「政党政治」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／大正デモクラシーおよび政党政治の形成の歴史経緯と意義について整理と確認をする。		
	7. 大正デモクラシーと憲法論争		
	[予習・復習]美濃部達吉「天皇機関説」および吉野作造「民本主義」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／「天皇機関説」や「民本主義」に代表される大正デモクラシーの政治思想の内容と意義について整理と確認をする。		
	8. 政党政治の展開		
	[予習・復習]「普選運動」、「友愛会」、「青鞥社」、「全国水平社」、「三・一独立運動」、「霧社事件」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／大正デモクラシー期の民衆の社会要求の高まり、および植民地における「独立」や「自治」要求の内容と意義について整理と確認をする。		
	9. 球処分と「沖縄県」設置		
	[予習・復習]「琉球(琉球王国)」、「琉球処分」、「琉球帰属問題」、尚泰(琉球王)等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／14世紀以降の「琉球王国」の歴史を理解すると共に、近代東アジア国際関係の変化のなかで「琉球帰属問題」を経て日本の「沖縄県」へ編入された歴史経緯と問題点について整理と確認をする。		
	10. 「旧慣温存政策」と同化政策		
	[予習・復習]「旧慣温存政策」、「方言札」、「同化政策」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／明治政府が沖縄やアイヌに対して行った「旧慣温存政策」、および国語(標準語)教育による沖縄語・アイヌ語の排除など同化政策の歴史経緯と問題点について整理と確認をする。		
	11. 「ソテツ地獄」と伊波普猷		
	[予習・復習]伊波普猷『古琉球』、「沖縄方言論争」、柳田国男、柳宗悦、「民芸運動」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／伊波普猷が著書『古琉球』の中で主張した沖縄アイデンティティの回復とその意味について整理と確認をする。		
	12. アジア・太平洋戦争と「沖縄戦」		
[予習・復習]「太平洋戦争(アジア・太平洋戦争)」、「沖縄戦(沖縄の戦)」、「ひめゆり部隊」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／昭和前期のアジア・太平洋戦争の最後段階で行われた 10・10 空襲に始まる「沖縄戦」の経緯、および「鉄の暴風」「集団自決」といった甚大な住民被害について、さらに東京・大阪大空襲や広島・長崎への原爆投下、アジア・太平洋地域の戦争被害、アウシュビッツ強制収容所、など世界規模で起こった近代戦争の問題点や被害とも関連させ			
13. 米軍統治と「琉球政府」			
[予習・復習]「サンフランシスコ講和条約」、「沖縄問題」、「琉球政府」、「冷戦(冷たい戦争)」、「嘉手納基地」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／アジア・太平洋戦争の終結のために日本と連合国間で締結された「サンフランシスコ講和条約」に伴う沖縄のアメリカ統治の開始、および東西冷戦下のアメリカによるベトナム戦争遂行と沖縄における巨大基地の建設の歴史経緯と問題点について整理と確認をする。			
14. 沖縄「復帰運動」と基地問題			
[予習・復習]「祖国復帰協議会」、「沖縄返還協定」、「日米安全保障条約」、「日米地位協定」、「基地問題」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／東西冷戦下のアメリカによるベトナム戦争遂行と沖縄における巨大基地の建設、および沖縄住民の被害と「復帰運動」の高まり、日米政府間での「沖縄返還協定」と「安全保障条約」「地位協定」により基地を保持したままの返還となった歴史経緯と課題について、現代日本社会における沖縄問題とも関連させながら整理と確認をする。			
15. 授業まとめ			
[予習・復習]学習到達度確認にあたって、授業プリント・配布資料・自筆ノート、および辞典・参考文献も参考にしながら、全体の歴史経緯や意義を整理して確認・理解するとともに、現代社会への提言となるように自分の意見をまとめること。			

科目名	東洋史基礎講義Ⅱ		担当教員	川本 正知	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	イスラムの誕生とアラブの大征服				
到達目標	イスラム教とはどのような宗教であるかを知る。唯一神への信仰を基礎として形成された預言者ムハンマドの原初イスラム教団とアラブの大征服後に成立したイスラム法共同体との相違を実感することが特に重要である。前者は「信仰」がキーワードであるとすれば後者は「法制度」である。また、イスラム化とはイスラムの法制度がある地域に定着していくことであり、西アジア・中央アジアにおいては8世紀の中頃から10世紀にかけて徐々に進展していった現象であることを理解する。				
授業概要	イスラム教は現在のアラビア半島西部のメッカという町に生まれた一神教である。イスラム教徒たちによれば、「預言者ムハンマド」が610年頃に「唯一の神」から受けるようになった「啓示」の内容はすべて聖典コーランに記録されており、その教えをもとに創造された宗教がイスラム教であるという。唯一の神とは、預言者とは、啓示とはなんだろうか。それらの宗教的概念を説明しながら、メッカおよび622年のヒジュラ(聖遷)後にムハンマドが居住したメディナ・オアシスの住民とがムハンマドの周りに一つの教団を形成していく過程を追っていく。				
評価方法・基準	平常点50%(授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視) 学期末のレポートにより学習到達度確認50%(イスラム教の世界史において果たした役割を理解しているかどうかを評価する)				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し最終授業に講評を行う。				
履修上の注意事項等	講義の内容を主体的に考える用意のない人は受講しないこと。講義は単に勉強の入り口にすぎないことを自覚すること。				
テキスト					
参考書	イスラーム生誕 井筒俊彦 中央公論社 1990 ムハンマド時代のアラブ社会 後藤明 山川出版社 2012 中央アジアのイスラーム 濱田正美 山川出版社 2008				
授業内容	1. 本講義の視座と問題意識 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。 2. イスラーム生誕(1)原初イスラムと原理主義イスラム ----- [予習・復習] 前回指示した参考文献をできるだけ読んでくる 3. イスラーム生誕(2)ムハンマドの啓示体験 ----- [予習・復習] 参考文献の井筒俊彦『イスラーム生誕』を読んでくる 4. イスラーム生誕(3)ムハンマドの啓示体験の社会学的意味(1) ----- [予習・復習] 参考文献の井筒俊彦『イスラーム生誕』を読んでくる				

科目名	東洋史基礎講義 II	担当教員	川本 正知
授業内容	5. イスラム生誕(4)ムハンマドの啓示体験の社会学的意味(2)		

	[予習・復習] 参考文献の井筒俊彦『イスラーム生誕』を読んでもくる		
	6. イスラム生誕(5)メッカにおけるイスラム教団		

	[予習・復習] 参考文献の後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』を読んでもくる		
	7. イスラム生誕(6)メッカにおけるイスラム教団の危機		

	[予習・復習] 参考文献の後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』を読んでもくる		
	8. イスラム生誕(7)ヒジュラ(聖遷)		

	[予習・復習] 参考文献の後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』を読んでもくる		
	9. イスラム生誕(8)メディナにおけるイスラム教団の成立(1)		

	[予習・復習] 参考文献の後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』を読んでもくる		
10. イスラム生誕(9)メディナにおけるイスラム教団の成立(2)			

[予習・復習] 参考文献の後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』を読んでもくる			
11. アラブの大征服(1)ムハンマドの死と征服戦の始まり			

[予習・復習] 前回の授業に配布した史料を読んでもくる			
12. アラブの大征服(2)大征服の過程			

[予習・復習] 前回の授業に配布した史料を読んでもくる			
13. アラブの大征服(3)中央アジアへの侵入			

[予習・復習]参考文献の濱田正美『中央アジアのイスラーム』を読んでもくる			
14. アラブの大征服(4)8世紀におけるクタイバの侵入			

[予習・復習]参考文献の濱田正美『中央アジアのイスラーム』を読んでもくる			
15. アラブの大征服(5)征服後の中央アジアの社会			

[予習・復習]参考文献の濱田正美『中央アジアのイスラーム』を読んでもくる			

科目名	東洋史基礎講義Ⅲ		担当教員	☆ 安田 純也	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	韓国(朝鮮)の歴史と文化				
到達目標	①朝鮮半島の歴史の概要を習得する。②歴史を多角的にとらえる見方を身につける。				
授業概要	前近代の朝鮮半島の歴史と文化を学ぶ。朝鮮半島では、中国大陸からの直接的な影響のもと、国家を形成し、展開してきた。日本とは同じ東アジア文化圏に属し、隣接する関係にある朝鮮半島の歴史を学ぶことは、日本の歴史をより深く理解することにもつながる。授業では、具体的な文献や文物を取り上げつつ、朝鮮半島の歴史について論じる。				
評価方法・基準	小テスト40%2回行う。授業内容の理解度と説明能力を審査する レポート課題20%1回課す 上記以外40%受講姿勢、課題、宿題など				
課題のフィードバック方法	翌週のレジюмеに総評を掲載する。				
履修上の注意事項等	必ず初回から出席すること。板書が多いので、ノートを持参。 漢文史料(日本語訳付き)を多用する。内容について解説するので、ノートをとり、テストに備える。				
テキスト					
参考書	朝鮮の歴史 田中俊明 昭和堂				
授業内容	1. 履修方法、時期区分 ----- [予習・復習]授業中にたびたび復習を行うので、ノートの整理を行う。 2. 基本史料 ----- [予習・復習]同上 3. 古朝鮮と朝鮮四郡 ----- [予習・復習]同上 4. 高句麗 ----- [予習・復習]同上				

科目名	東洋史基礎講義 III	担当教員	☆ 安田 純也
授業内容	5. 百済		

	[予習・復習]同上		
	6. 加耶		

	[予習・復習]同上		
	7. 三国新羅		

	[予習・復習]同上		
	8. 統一新羅		

	[予習・復習]同上		
	9. 渤海		

	[予習・復習]同上		
10. 後三国			

[予習・復習]同上			
11. 高麗前期			

[予習・復習]同上			
12. 高麗後期			

[予習・復習]同上			
13. 朝鮮前期			

[予習・復習]同上			
14. 朝鮮後期			

[予習・復習]同上			
15. まとめ			

[予習・復習]同上			

科目名	東洋史基礎講義 IV		担当教員	☆ 杉山 雅樹	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	西アジアとイスラームの歴史の概説				
到達目標	学生は、(1)古代から現代にいたるまで西アジアの歴史に関する基本的知識を得ることができる。 (2)西アジアの歴史においてイスラームが果たした役割について自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	本講義は、古代から現代にいたるまでの西アジアの歴史を概観する。また、この地域の政治史を時代順に確認する中で、イスラームが有する宗教的特徴について、またイスラームがこの地域の社会に与えた様々な影響についても解説する。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト 60%(最終授業で実施する。持ち込み不可。講義内容の理解度を確認する。西アジアの古代から現代に至る歴史的な流れを理解できているか、イスラームや西アジアの歴史に関する設問に対して自分の言葉で説明できるかを問う)、授業課題 40%(毎授業の終盤にその授業の内容に関する課題を出す。授業内容を理解出来ているか、自分なりの言葉で適切に説明できているかを問う)。				
課題のフィードバック方法	・授業課題のポイントについて、次の授業の冒頭で解説する。 ・学習到達度確認テスト終了後、記号問題の解答を行う。				
履修上の注意事項等	授業の進め方や注意点等、詳細については第一回授業で解説する。受講を考えている人は、できるだけ受講すること。また、高校で世界史をとっておらず、これまでもイスラーム関連の授業を受けたことはないが、本講義の履修を希望する人は、以下の参考書の欄に挙げているイスラーム史の概説書を読んだ上で授業に臨むことが望ましい。				
テキスト	レジュメを配布する。				
参考書	イスラームの創始と展開 佐藤次高(編) 山川出版社 2010 年 イスラーム—知の営み— 佐藤次高 山川出版社 2009 年				
授業内容	<p>1. イントロダクション: 受講に際しての注意点、西アジアやイスラームに関する基本的情報 ----- [予習・復習]事前にイスラームや西アジアに対する自分なりのイメージをまとめ、一言で発表できるようにしておくこと。授業後は、イスラームや西アジアに関する基本的情報について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>2. 文明の始まり: 古代オリエント ----- [予習・復習]古代オリエントの大まかな歴史の流れやアケメネス朝の統治体制について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>3. サーサーン朝とその社会 ----- [予習・復習]イスラーム誕生前夜の西アジア、特にサーサーン朝の社会の特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>4. イスラームの誕生と基本的教義 ----- [予習・復習]イスラーム誕生の経緯と、イスラームの基本的教義について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p>				

科目名	東洋史基礎講義 IV	担当教員	☆ 杉山 雅樹
授業内容	<p>5. 正統カリフ時代と第一次内乱 ----- [予習・復習]正統カリフ時代の特徴やアラブ軍による大征服の経緯、第一次内乱が起こった理由について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>6. ウマイヤ朝の成立とシーア派の形成 ----- [予習・復習]ウマイヤ朝成立の経緯と、第二次内乱を経てシーア派が形成される過程について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>7. アッバース朝の成立と繁栄 ----- [予習・復習]アッバース朝が成立するまでの経緯と、その後の繁栄の要因について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>8. アッバース朝の解体と軍事政権の台頭 ----- [予習・復習]アッバース朝が解体に向かい、軍事政権が台頭してくる背景について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>9. トルコ系王朝の成立とスンナ派の形成 ----- [予習・復習]トルコ系の人々による王朝が成立した過程と、この頃にスンナ派が形成された理由について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>10. モンゴルの侵攻とその支配 ----- [予習・復習]モンゴルによる西アジア遠征の背景とその後の影響について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>11. ポスト・モンゴル時代 ----- [予習・復習]モンゴル帝国が崩壊した理由と、その後を継いだ諸王朝の特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>12. 三つの大帝国の時代 ----- [予習・復習]三つの大帝国それぞれの特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>13. オスマン朝の繁栄と衰退 ----- [予習・復習]オスマン朝が繁栄し、やがて衰退に向かっていった理由について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>14. 現代の西アジアへ ----- [予習・復習]オスマン朝が滅亡した経緯とその理由、アラブ諸国の独立について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>15. 授業のまとめ ----- [予習・復習]第 15 回目までにこれまでの授業内容の復習をして、学習到達度確認テストに備えること。</p>		

科目名	東洋史基礎講義 V			担当教員	☆ 杉山 雅樹
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	イスラームの教義と文化に関する基礎知識				
到達目標	学生は、(1)イスラームの教義と文化に関する基本的情報を得ることができる。(2)イスラームが有する多様性と現代の中東諸国が抱える諸問題について自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	連日テレビや新聞で西アジア諸国の国際問題に関する報道を目にする機会が増えているが、それらの問題の宗教的・文化的背景については十分に伝えられているとは言い難い。本講義は、イスラームの教義や文化に関して毎回異なるテーマを採り上げ、イスラームが有する多様性について、また現代のイスラーム諸国が抱える諸問題の要因について解説する。授業の進め方としては、第 2~5 回で中東の通史を説明し、それを踏まえた上で第 6 回以降は授業毎にイスラームに関わるテーマを採り上げて説明する。				
評価方法・基準	学習到達度確認テスト 60%(最終授業で実施する。持ち込み不可。講義内容の理解度を確認する。西アジアの古代から現代に至る歴史的な流れを理解できているか、イスラームの教義や西アジアの社会に関わる設問に対して自分の言葉で説明できるかを問う)、授業課題 40%(毎授業の終盤にその授業の内容に関する課題を出す。授業内容を理解出来ているか、自分なりの言葉で適切に説明できているかを問う)。				
課題のフィードバック方法	・授業課題のポイントについて、次の授業の冒頭で解説する。 ・学習到達度確認テスト終了後、記号問題の解答を行う。				
履修上の注意事項等	授業の進め方や注意点等、詳細については第一回授業で解説する。受講を考えている人は、できるだけ受講すること。また、高校で世界史をとっておらず、これまでもイスラーム関連の授業を受けたことはないが、本講義の履修を希望する人は、以下の参考書の欄に挙げているイスラーム史の概説書を読んだ上で授業に臨むことが望ましい。				
テキスト	レジュメを配布する。				
参考書	イスラームの創始と展開 佐藤次高(編) 山川出版社 2010 年 イスラーム—知の営み— 佐藤次高 山川出版社 2009 年				
授業内容	<p>1. イントロダクション: 受講に際しての注意点、現代中東のイスラーム諸国についての概観 ----- [予習・復習]事前に現代中東で起きている様々な問題について、自分なりに情報を集めておくこと。授業後は、中東諸国の基本的情報について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>2. 通史①: 古代~イスラーム誕生前夜 ----- [予習・復習]古代の中東において多くの文明が誕生した背景やその代表的な王朝について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>3. 通史②: イスラームの拡大と諸王朝の成立 ----- [予習・復習]イスラーム誕生から 10 世紀頃までの中東の歴史的変遷について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p> <p>4. 通史③: トルコ系王朝の成立、モンゴル時代とその後 ----- [予習・復習]11 世紀から 16 世紀までの中東の歴史的変遷について、レジュメやノートを見直しておくこと。</p>				

科目名	東洋史基礎講義 V	担当教員	☆ 杉山 雅樹
授業内容	5. 通史④:オスマン朝の繁栄と衰退、近代の中東		
	[予習・復習]16世紀から20世紀に至る中東の歴史の変遷について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	6. 古代の宗教:多神教と一神教		
	[予習・復習]古代の中東で盛んだった宗教や、一神教の特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	7. イスラームの誕生:イスラーム以前のアラビア半島の社会とムハンマドの生涯		
	[予習・復習]イスラームが誕生した社会的背景およびムハンマドの生涯について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	8. イスラームの基本的教義:六信五行		
	[予習・復習]六信五行の具体的な内容と、そこから見えてくるイスラームの特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	9. 学問の発展とイスラーム法学		
	[予習・復習]中東で発展した学問の種類、イスラーム法とイスラーム法学の特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	10. シーア派の成立①:宗教的情熱の高まり		
	[予習・復習]シーア派とスンナ派の違い、およびシーア派成立までの歴史的経緯について、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	11. シーア派の成立②:独自の教義		
	[予習・復習]シーア派独自の教義やスンナ派との違いについて、レジュメやノートを見直しておくこと。		
	12. イスラームの芸術:写本絵画の世界		
[予習・復習]写本絵画が特にイスラーム世界東部で発展した背景とその特徴について、レジュメやノートを見直しておくこと。			
13. スーフィズム			
[予習・復習]スーフィズムの特徴とその形成過程について、レジュメやノートを見直しておくこと。			
14. 聖者崇拜			
[予習・復習]イスラームにおける聖者の特徴と、聖者崇拜が一般の人々に広まった背景について、レジュメやノートを見直しておくこと。			
15. 授業のまとめ			
[予習・復習]第15回目までにこれまでの授業内容の復習をして、学習到達度確認テストに備えること。			

科目名	西洋史基礎講義 I		担当教員	足立 広明	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	女性聖人の時代: 古代末期				
到達目標	キリスト教成立期の女性の果たした役割について理解する。				
授業概要	古代末期の地中海世界では「異」教とキリスト教を問わず、地上の人間世界の再生産よりも、天上での個別の救済を尊ぶ禁欲的な思潮が高まりを見せた。このなかで女性は地上の肉体的な誘惑や罪の源として忌避される傾向が強まったが、逆に宗教的修行に身を投じることで、地上の父権制的な家族関係を離れ、社会的行動の自由を拡大して、聖なる存在として尊敬を集めた女性もいたように思われる。本講義は、こうした女性を中心に、西洋史上の大きな文化変容の時代である古代末期に女性が果たした役割について考察する。				
評価方法・基準	小レポート、授業態度などによる平常点50%、定期テスト50%。小レポート、テストは授業内容の理解度、論理的な構成でわかりやすく書けているかが基準となる。				
課題のフィードバック方法	授業内の感想・小レポートに関して翌週コメントする。テストについては実施後、担当者の模範解答を配布する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. アダムとエヴァ: 創世記神話の女性観 ----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。</p> <p>2. 新約聖書の女性たち ----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。</p> <p>3. パウロ書簡の女性観 ----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。</p> <p>4. 『聖書外典パウロとテクラの行伝』 ----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。</p>				

科目名	西洋史基礎講義 I	担当教員	足立 広明
授業内容	5. 『聖書外典パウロとテクラの行伝』		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	6. 『聖書外典パウロとテクラの行伝』		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	7. 古代末期のテクラ信仰		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	8. 古代末期のテクラ信仰		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	9. エゲリアの巡礼		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	10. 古代末期の女性と修道運動、巡礼		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	11. 古代末期の女性と修道運動、巡礼		
	----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。		
	12. ヒュパティア		
----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。			
13. ヒュパティア			
----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。			
14. エウドキアとプルケリア			
----- [予習・復習] 授業で問題提起された内容について、授業プリントを読み返し、関連書籍やインターネットの検索などを通じて理解を深めておくこと。			
15. 古代末期のキリスト教と女性			
----- [予習・復習] これまでの授業の総復習			

科目名	西洋史基礎講義Ⅱ		担当教員	☆ 久保 利永子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近世イギリスにおける共同体と経済				
到達目標	18世紀のイングランドにおける民衆の生活世界に注目し、社会的事件の背景にある秩序とそれを支える経済の仕組み、価値観、社会通念を理解する。				
授業概要	18世紀のイングランドでは食糧暴動が頻発していた。穀物業者等に宛てた様々な脅迫状や民衆による市場の占拠や穀物輸送船の拿捕、穀物の略奪といった具体的な面から考えると、こうした騒擾は飢えた民衆による「暴動」と呼べそうだ。しかし、それは本当に飢餓で自暴自棄に陥った人々による無秩序な暴力の爆発だったのだろうか。本講義では工業化以前の民衆の生活世界を理解しながら、彼らの「集団行動」とその根底にある慣習的価値観やルールを考察し、人々の生活と市場(経済構造)の関係に対する理解を深める。				
評価方法・基準	平常点 40%(講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視する)、期末レポート 60%(課題に対して必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する)。				
課題のフィードバック方法	毎回コメントカードを回収する。次週にその内容をまとめたプリントを配布し、適宜コメントする。レポートの講評は、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	・講義時に配布される各種プリントを積極的に活用し、予習・復習を行うこと。 ・授業形式によって(対面式かWEB形式か)内容が多少変更になる可能性があります				
テキスト	毎回プリントを適宜配布する				
参考書	講義時に適宜紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス (履修に関するルール等について)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、講義内容を理解する。ワークシートの設問に答える。</p> <p>2. ヒューディブラス、スキミントンに出くわす</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考資料を読む。絵画資料を読み解くポイントについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>3. 制裁行為としての「シャリヴァリ」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布資料を読む。共同体内における秩序維持の仕組みについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>4. 行列は誰のため? 制裁・承認・教育</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布された参考資料を読む。農村共同体における慣習の役割について、講義内容を確認し、理解を深める。</p>				

科目名	西洋史基礎講義 II	担当教員	☆ 久保 利永子
授業内容	5. 規範を求める仕組み: 開放耕地制		
	[予習・復習] 配布された参考資料を読む。三圃制の長所と短所について、講義内容を 確認し、理解を深める。		
	6. 共同体と共同権: 貧しさと生存の平等分配		
	[予習・復習] 配布された参考資料を読む。困い込み以前の農村共同体の生活について、講義内容を 確認し、理解を深める。		
	7. 保護と恭順: 近世イギリス農村における伝統的支配の構造		
	[予習・復習] 配布された参考資料を読む。近世イギリスにおける社会の仕組みとその役割について、講義内容を 確認し、理解を深める。		
	8. 民衆による脅迫状(1): 彼らは何を憤っていたのか		
	[予習・復習] 配布されたワークシートの設問に答える。講義時に使用した一次史料の内容を確認し、その役割を考察する。		
	9. 民衆による脅迫状(2): 彼らは何を求めていたのか		
	[予習・復習] 配布されたワークシートの設問に答える。講義時に使用した一次史料の内容を確認し、その役割を考察する。		
	10. 「正当性は我にあり」: 民衆の示威行動(食糧暴動)とその論理		
	[予習・復習] 配布されたワークシートの設問に答える。第七、八回の講義内容を参照しながら講義内容を 確認し、18 世紀の民衆の行動について理解を深める。		
11. 穀物価格と食糧暴動: 「ブッシュェルあたり5シリング」の意味			
[予習・復習] 「公正で理にかなった穀物価格」という民衆の要求の基盤となる慣習的権利について講義の要点を整理し、理解を深める。			
12. 食糧暴動の地理的分布: 「暴動」と生活圈			
[予習・復習] 配布されたワークシートの設問に答える。地図と文字資料を組み合わせ、18 世紀の食糧暴動の発生状況とその背景にある社会全体の変化について理解を深める。			
13. 生存を確保するしくみ: 市場のパターナリスト・モデル			
[予習・復習] 配布された参考資料を読む。近世イギリス社会における市場の役割を確認し、脅迫状との関係について理解を深める。			
14. ポリティカル・エコノミーの形成			
[予習・復習] 配布された参考資料を読む。アダム・スミスが提唱した経済の自由主義の本質について要点を整理し、講義内容を確認する。			
15. 「生きていける社会」とはどのような社会か - 後期講義のまとめ			
[予習・復習] 後期講義全体を振り返り、課題レポートを作成する。			

科目名	西洋史基礎講義Ⅲ		担当教員	☆ 佐藤 専次	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中世都市の形成と中世後期の都市住民				
到達目標	中世都市の形成、中世後期ドイツの都市社会の構造ならびに都市民の日常生活を理解する。				
授業概要	11,12世紀から16世紀にかけてのヨーロッパ、とくにドイツ都市を対象に、都市共同体の形成、都市同盟、都市指導層、ツunftと手工業者、都市民の生活、乞食・娼婦などの周縁集団、都市における犯罪について論じる。目下、授業形態は対面式の予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大によって授業形態が変更するかもしれません。そのさいはこのポータルサイトに資料を添付する形でこの形態になります。そのときは連絡します。				
評価方法・基準	学習到達度確認 80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。 平常点 20% 毎回、講義内容について、感想・質問を書いてもらう。それによって講義をいかに理解できているかを判断する。				
課題のフィードバック方法	毎回、講義の感想・質問を書いてもらい、次回の講義の初めにそのコメントをおこなう。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う予定。				
履修上の注意事項等	高等学校の世界史Bの知識が前提となる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	1. ガイダンス ----- [予習・復習] 講義の進め方と講義全体の内容の概要 2. 中世都市の形成 ----- [予習・復習] 成長都市の形成を確認し理解を深める 3. 商人ギルド ----- [予習・復習] 商人の特殊な法的地位と商人ギルドについて理解する 4. 都市建設の展開 ----- [予習・復習] リューベックなどの都市建設について確認し理解を深める				

科目名	西洋史基礎講義 III	担当教員	☆ 佐藤 専次
授業内容	5. 都市の「自由」と自治		
	----- [予習・復習] 都市の自由の実態, 自治のあり方, 自治機関について理解する		
	6. 都市同盟と都市連合体		
	----- [予習・復習] ライン都市同盟とハンザ同盟について理解する		
	7. 都市上層と門閥支配		
	----- [予習・復習] 都市上層による門閥支配の実態について理解を深める		
	8. ツンフトの成立と活動		
	----- [予習・復習] ツンフトの成立とその活動について確認する		
	9. ツンフト闘争, 徒弟制度の確立		
	----- [予習・復習] ツンフト闘争, 女親方, 徒弟身分について確認し理解を深める		
	10. 職人身分の形成		
	----- [予習・復習] 徒弟制度と職人身分の誕生について確認し理解を深める		
	11. 職人組合の活動		
	----- [予習・復習] 「青い月曜日」の誕生について確認する		
	12. 賃労働者・乞食・娼婦		
----- [予習・復習] 都市の周縁集団について確認し理解を深める			
13. 都市の犯罪			
----- [予習・復習] 犯罪とそれに対する処罰のあり方について確認する			
14. 機械時計の導入			
----- [予習・復習] 機械時計の導入とそれによる都市社会の変化を確認し理解する			
15. 授業まとめ・学習到達度確認			
----- [予習・復習] これまでの授業内容を復習する。			

科目名	西洋史基礎講義 IV		担当教員	☆ 山内 暁子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代ギリシアにおける英雄神話				
到達目標	古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること				
授業概要	本講義では、古代ギリシアにおける英雄の神話について、様々な史料に基づいて考察を試みる。英雄たちの神話伝承が、どのように成立したかを検討することで、古代ギリシア社会の様相やその変化について理解する。歴史書や叙事詩といった文献史料に始まり、遺物に基づく考古学的分析、さらに研究手法の進展についても目を向けながら、様々な解釈の可能性を検証する。				
評価方法・基準	授業中に出される課題2回(25点×2)と、最終課題(30点)を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroom で質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと考えています。「質問・感想」も評価の対象(20点)ですから、書き込みをよろしくお願いします。				
課題のフィードバック方法	Google Classroom で課題を提示し、質問を受け付けます。記述問題が中心のため、模範回答を示すことは難しいです。Classroom に参加し、質問によって自分で回答を再考するように努めて下さい。				
履修上の注意事項等	テキストは指定しませんが、参考文献は適宜紹介します。また、画像や動画のような関連資料も見ること、学習内容を定着させるようにして下さい。				
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. はじめに: 講義内容の解説とアンケート ----- [予習・復習] シラバスを読んで、授業内容について理解し、紹介された参考文献を読む。</p> <p>2. ギリシア人の宗教: 神と人 ----- [予習・復習] 古代ギリシア宗教の特徴である多神教のシステムを理解する。具体的には神々の名前や属性、また信仰のための儀式を確認する。</p> <p>3. ギリシア人の社会: ポリスの市民 ----- [予習・復習] 代表的なポリスであるアテナイとスパルタの事例から、社会の構造や市民について理解する。講義資料で紹介した内容や文献を確認すること。</p> <p>4. ギリシア人の社会: アテナイの民主政 ----- [予習・復習] アテナイが王政から民主政へと発展した過程を理解する。講義資料で紹介した内容や文献を確認すること。</p>				

科目名	西洋史基礎講義 IV	担当教員	☆ 山内 暁子
授業内容	5. 「半神」ヘラクレスの神話①		
	----- [予習・復習] ヘラクレスの神話伝承を理解する。分からない用語や事例があれば、参考文献などでチェックしておくこと。		
	6. 「半神」ヘラクレスの神話②		
	----- [予習・復習] ヘラクレスの神話伝承を理解する。分からない用語や事例があれば、参考文献などでチェックしておくこと。		
	7. テセウス「王」の神話		
	----- [予習・復習] テセウスの神話伝承を理解する。分からない用語や事例があれば、参考文献などでチェックしておくこと。		
	8. 「半神」テセウスの活躍		
	----- [予習・復習] テセウスの神話伝承を理解する。分からない用語や事例があれば、参考文献などでチェックしておくこと。		
	9. 理想の英雄テセウス①		
	----- [予習・復習] 古典期アテナイに見られる独自の「テセウス」像について理解する。背景となる社会の様子や戦争について、参考文献などで考察を深めること。		
	10. 理想の英雄テセウス②		
	----- [予習・復習] 古典期アテナイに見られる独自の「テセウス」像について理解する。背景となる社会の様子や戦争について、参考文献などで考察を深めること。		
	11. オデュッセウスの世界①		
	----- [予習・復習] オデュッセウスの登場するトロイアの神話について理解する。分からない事例や用語があれば、チェックしておくこと。		
	12. オデュッセウスの世界②		
----- [予習・復習] オデュッセウスの登場する放浪伝承について理解する。分からない事例や用語があれば、チェックしておくこと。考古学的な資料について理解する。			
13. オデュッセウスの「帰還」			
----- [予習・復習] オデュッセウスの物語が何を意味するのか、その構造から理解する。背景となる社会の様子について、参考文献などで考察を深めること。			
14. ギリシアの神話にみる「怪物」①			
----- [予習・復習] 「怪物」のパターンや定義について検討する。神話伝承について参考文献などで、考察を深めること。			
15. ギリシアの神話にみる「怪物」②			
----- [予習・復習] 「怪物」の歴史の変遷や、考古学的遺物からの検討について紹介する。分からない用語や神話伝承については参考文献などで、考察を深めること。			

科目名	西洋史基礎講義 V		担当教員	☆ 石田 信義	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	南欧とラテンアメリカの史的関連の理解、および社会経済の歩みに関する総合史的分析				
到達目標	社会経済の歩みを理解する上で、対象地域の現在面に関する知識に留まらず、広く日本との比較の視座に立って物事の「源流」を総合的に辿る歴史的視野をもつ。				
授業概要	歴史の見方と地域の社会文化的関連性についての総合的理解を目的とし、南欧とラテンアメリカ地域との史的関連および世界的展開をみていく。講義は、歴史の方法、イベリア文化圏の特徴、ラテンアメリカの概要、ケーススタディとしてのブラジル、の順に進め、ブラジルへの日本人移民を含む人びとの移動過程および今日的課題について講ずる。				
評価方法・基準	学習到達度確認および受講態度に基づいて成績を総合判断する。ただし、出席日数が全回数の3分の2に満たない場合は、原則として学習到達確認は受けられない。				
課題のフィードバック方法	最終授業時に学習到達度確認を実施し、模範解答例を配布して解説を行う。				
履修上の注意事項等	講義内容のノートの整理とファイリングを常に心がけること。各講義段階において紹介する主な参考文献を可能な限り読み込んで、各自の研究の参考にすること。				
テキスト	プリント配布				
参考書	ラテンアメリカ社会科学ハンドブック ラテンアメリカ政経学会編 新評論 2014 現代ブラジル事典 ブラジル・日本商工会議所編 新評論 2016 ブラジルの歴史 シッコ・アレンカール 明石書店 2007				
授業内容	<p>1. 歴史の方法と比較文化の視点 ----- [予習・復習]シラバスを読み授業内容を理解する。世界地図帳をみて、対象とするヨーロッパからラテンアメリカに至る地理的位置を把握する。紹介する E.H.カー「歴史とは何か」等を手にして読みこむ。講義に関する自己のノートを整理する。</p> <p>2. イベリア半島の位置づけと文化的枠組み ----- [予習・復習]前回配布のイベリア半島およびラテンアメリカの資料に目を通してファイリングする。受講後、スペイン語系地域とポルトガル語系地域の区分を確認する。</p> <p>3. 大航海時代の人びとの移動 ----- [予習・復習]高校世界史の教科書、歴史事典等で大航海時代における人びとの移動経路の概要を把握しておく。世界史における「レコンキスタ」の意味合いを文献等で復習・確認しておく。</p> <p>4. ラテンアメリカの共通性と多様性 ----- [予習・復習]世界地図帳、文献資料等でラテンアメリカ地域の地形、国別分布を把握しておく。紹介するヨーロッパ史、ラテンアメリカ史の文献を読み進める。</p>				

科目名	西洋史基礎講義 V	担当教員	☆ 石田 信義
授業内容	5. 植民地の拡大ースペイン語系文化圏		
	[予習・復習]事前に「植民地」の概念を歴史事典等で整理し理解しておくこと。ラテンアメリカの古代文明(インカ・アステカ等)に関する基礎知識を事前に整理しておくこと。		
	6. 植民地の拡大ーポルトガル語系文化圏		
	[予習・復習]イベリア半島ーアメリカ大陸ーアフリカ大陸、の地理的広がりとその間の人びとの移動を文献等で跡付ける。		
	7. 大西洋三角貿易		
	[予習・復習]世界の「砂糖革命」、ラテンアメリカにおける奴隷制、ならびに人種の混交の史実をラテンアメリカ史等の文献で確認・理解しておく。		
	8. ケーススタディーブラジルの地理的枠組みと文化的枠組み		
	[予習・復習]ブラジルの地形、水系、山系等自然環境の特徴を地図帳、資料、文献等で事前に認識しておく。日常ふれるブラジルの芸術・スポーツ等の様々な情報を整理して全体的イメージを作り上げておく。		
	9. ブラジルの地域的发展過程と特徴		
	[予習・復習]ブラジルの地域的特徴を文献によって理解する。		
	10. ブラジルの地域的发展過程ー16世紀～18世紀		
	[予習・復習]地域別の経済サイクルをノートに整理して、各地域の特徴を理解しておく。		
	11. ブラジルの地域的发展過程ー19世紀～21世紀		
	[予習・復習]社会の構造について、特にブラジルへの移民の動向を文献で読み込んでおく。その中で、日本人移民の動向を位置づける。		
	12. ラテンアメリカへの日本人の移住と展開		
[予習・復習]明治時代以降の日本人の移民の歴史の概要を把握しておく。			
13. ブラジルにおける日系人社会			
[予習・復習]ブラジル社会の中での日系人の歩みを「現代ブラジ事典」等を読んで整理し、ブラジルにおける日系人の歩みを理解する。			
14. 日系人の労働移動と今日的課題			
[予習・復習]指示する文献・論文等を読み込んで、今日的な課題である国境を越えた労働力移動と社会・文化的課題をこれまでの受講内容を振り返って整理する。			
15. 学習到達度確認			
[予習・復習]配布された資料類は順を追ってファイリングし、各自の今後の研究に資するよう整理する。			

科目名	国際交流史特殊講義 I		担当教員	高橋 博子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	核時代を検証する: 日米関係を中心に				
到達目標	核時代における日米関係を歴史的に理解し、史料の検証方法について学ぶことができる。				
授業概要	本講義では広島・長崎の原爆投下や冷戦下で実施された米核実験について、米公文書(マンハッタン計画文書・米原子力委員会文書・米国務省文書など)と、被ばくした人々による証言に注目して検証する。また 2017 年 7 月に国連で採択され、2021 年 1 月に発効した核兵器禁止条約など、核廃絶に向けての具体的な動向について取り上げる。さらに米国における原爆・核関連資料の状況について取り上げ、核の時代における日米関係を理解する。				
評価方法・基準	「核の戦後史」についてのレポート(40%)。「核時代を考える」についてのレポート(40%) そのほかコメント(20%) レポートの評価方法は以下の点を重視する。 ・課題を読んでいるか ・自分の視点で論述しているか ・論拠を示し、説得力があるか ・歴史的探究心があるか				
課題のフィードバック方法	課題のフィードバック方法 レポートはコメントをつけて返却する。また質問について回答する。				
履修上の注意事項等	E-learning システムに登録しておくこと。またネット環境を整えておくこと。				
テキスト	核の戦後史 木村朗・高橋博子 創元社 2016 年 核に縛られる日本 田井中 雅人 角川書店 2017 年				
参考書					
授業内容	1. ガイダンス (E-learning システムに登録案内)。 ----- [予習・復習] 配布したレジュメ・資料を読み、予習する。また質問・コメントを用意する。 2. 核兵器の現状についての学習動画から学びましょう。 ----- [予習・復習] 配布したレジュメ・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。 3. テキスト『核の戦後史』第一部 講義編前半 木村朗鹿兒島大学名誉教授の講義です。 ----- [予習・復習] 配布したレジュメ・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。 4. テキスト『核の戦後史』第一部 講義編後半 ----- [予習・復習] 配布したレジュメ・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。				

科目名	国際交流史特殊講義 I	担当教員	高橋 博子
授業内容	5. テキスト『核の戦後史』第一部 Q&A 編		

	[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。		
	6. 『核の戦後史』第一部を踏まえたレポートを提出してください。		

	[予習・復習] 前半の授業の復習をする。		
	7. テキスト『核の戦後史』第二部 講義編		
	第二部は、私高橋博子が担当しました。		
	前半の授業の確認テスト		

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。			
8. テキスト『核の戦後史』第二部 Q&A 編			

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。			
9. 核の戦後史 第二部 を踏まえた報告レポートを提出してください。			
第二部に関する質問も提出してください。			

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。			
10. テキスト 田井中 雅人『核に縛られる日本』			

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。			
11. テキスト川崎哲『核兵器 はなくせる』			

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、予習・復習する。また質問・コメントを用意する。			
12.			
ドキュメンタリー『核兵器の終わりの始まり』			

[予習・復習] ドキュメンタリー『核兵器の終わりの始まり』を視聴した感想を書いて提出する。			
13. ビキニ水爆被災問題			

[予習・復習] 配布したレジюме・資料を読み、復習する。また質問・コメントを用意する。			
14.			
後半の授業のまとめ			

[予習・復習] 後半の授業の復習をする。			
15. 「核時代を考える」をテーマにレポートを作成してください。「核の戦後史」についてのレポートの内容を、コメントを踏まえて反映して大丈夫です。			

[予習・復習] 講義全体の復習をする。			

科目名	国際交流史特殊講義Ⅱ		担当教員	川本 正知	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中央アジアの歴史ー中央アジアにおける国民国家の成立ー				
到達目標	中央アジア諸国は、1991年にソヴィエト連邦から「独立」して以来、世界のグローバル化のなか、様々な世界規模の経済的、政治的問題と直接向かい合っていかなければならなくなった。ロシアの植民地時代とソヴィエト連邦時代を経て、中央アジアの国々はロシア語およびそれによるロシア文化を吸収することによって文明開化してきた。しかし、今も中央アジア諸国の大部分の人びとはイスラム教徒であり、依然としてトルコ、イラン、アフガニスタンなどの西アジア諸国やインドと深いつながりをもつ。 この講義では、中央アジアの民族、イスラム教				
授業概要	中央アジアとは歴史的にいかなる地域であるかをさまざまな角度から概説する。特に乾燥地帯としての生活の特徴、オアシスおよびオアシス都市のあり方、山間部および砂漠に住む遊牧民の生活、多くの宗教共同体の存在など、今日の中央アジアとその歴史を考える上において基礎的な知識をまず確認する。次に、それらの基礎的な地理的概念の上に、1991年に独立した5つの「国民国家」について国家、国民、民族、文化、伝統などの内容を明らかにしていく。次にこれらの基礎的な知識を前提として、中国に属する新疆ウイグル自治区のウイグル人問題、フェ				
評価方法・基準	平常点 50%(授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視) 学期末のレポートによる学習到達度確認 50%(中央アジアとはどういった地域であるかを理解しているかどうかを評価する)				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し最終授業に講評				
履修上の注意事項等	講義の内容を主体的に考える用意のない人は受講しないこと。講義は単に自らの勉強の入り口にすぎないことを自覚すること。				
テキスト	なし				
参考書	現代中央アジア オリヴィエ・ロワ著(齊藤かぐみ訳) 白水社 中央アジアを知るための60章 宇山智彦(編) 明石書店 中央アジアのイスラーム 濱田正美 山川出版				
授業内容	1. 本講義の視座と問題意識 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。 2. 中央アジアの地理的環境(1)オアシスとオアシス都市 ----- [予習・復習] 前回指示した参考文献をよんできて、その内容について小レポートを提出する。 3. 中央アジアの地理的環境(2)遊牧民の世界 ----- [予習・復習] 前回指示した参考文献をよんできて、その内容について小レポートを提出する。 4. 中央アジアの社会(1)民族とはなにか A.D. スミス『諸国民の民族的起源』より ----- [予習・復習] 前回配付した資料を読んでおき、アイデンティティについて講義内容を確認し、理解を深める。				

科目名	国際交流史特殊講義 II	担当教員	川本 正知
授業内容	5. 中央アジアの社会 (2) 中央アジアにおける民族集団 西徳次郎『中亜細亜紀事』(1886)を読む		
	[予習・復習] 前回配付した資料を読んでおき、西徳次郎の『中亜細亜紀事』(1886)について講義内容を確認し、理解を深める。		
	6. 中央アジアの社会(3)ロシア革命と民族共和国の成立		
	[予習・復習] 前回配付した資料を読んでおき、中央アジアの国民国家の領域、地理的特徴、民族的特徴の理解を深める。		
	7. 中央アジアの社会 (4) 中央アジアにおける国民国家の独立(1991 年)		
	[予習・復習] 前回配付した資料を読んでおく。講義を聴いてロシア革命後に成立したいわゆる民族共和国について確認しておく。		
	8. 中央アジアのイスラム教(1)正統イスラム信仰		
	[予習・復習] 前回指示したイスラム教についての概説書を読んでおく。講義を聴いて中央アジアのイスラム教について確認し、理解を深める。		
	9. 中央アジアのイスラム教(2)スーフィズムとスーフィー教団		
	[予習・復習] 前回指示したイスラム教についての概説書を読んでおく。講義を聴いて中央アジアのスーフィズムとスーフィー教団について確認し、理解を深める。		
	10. 中央アジアのイスラム教(3)聖者信仰		
	[予習・復習] 前回指示した著者(川本)による中央アジアの聖者信仰の論文を読んでおく。講義を聴いて中央アジアの聖者信仰について確認し、理解を深める。		
	11. 共和国独立後の中央アジア(1)独立とはなんだったのか		
	[予習・復習] 前回指示した概説書を読んでおく。講義を聴いて現在の中央アジアをめぐるさまざまな問題を考える。		
	12. 共和国独立後の中央アジア(2)独立後の諸問題		
[予習・復習] 前回指示した概説書を読んでおく。講義を聴いて現在の中央アジアをめぐるさまざまな問題を考える。			
13. 共和国独立後の中央アジア(3)独立後の諸問題			
[予習・復習] 前回指示した概説書を読んでおく。講義を聴いて現在の中央アジアをめぐるさまざまな問題を考える。			
14. 新疆ウイグル自治区(中国に含まれる中央アジア)の問題			
[予習・復習] 前回指示したウイグル人とウイグル自治区についての概説書を読んでおく。講義を聴いて現在の新疆ウイグル自治区の成立過程を理解する。			
15. まとめ			
[予習・復習] いままでの講義全体をふりかえり、中央アジアの近代を考えるための材料としてまとめる。			

科目名	国際交流史特殊講義 III		担当教員	山口 育人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「帝国世界」としての 20 世紀世界史				
到達目標	①20 世紀世界史における諸テーマについて理解し、説明できるようになる。 ②歴史学の研究アプローチ・研究手法を理解する。				
授業概要	近現代の世界史は、ヨーロッパの膨張とそれに対する非ヨーロッパ世界のリアクションがひとつの基調をなしています。そして 20 世紀世界とは、①西洋(日本を含め)の対外膨張が行きついた「帝国(支配)世界」が階層性を帯びながら暴力的に世界を覆い、②第一次世界大戦前後から「帝国世界」が動揺し、③第二次世界大戦は「帝国世界」が紆余曲折を伴いつつ解体した、そんな世紀としても理解できるのです。本授業では、こうした視角で書かれたテキストを読み込みながら、20 世紀世界史を考えてゆきます。				
評価方法・基準	・各回ともテキストをまとめた「レジュメ」を作成して授業に臨むこと。「レジュメ」の準備度合いと適切さを評価する。 ・各回授業後、「授業まとめ」を作成すること。「授業まとめ」の適切さを評価する。				
課題のフィードバック方法	・「レジュメ」については、授業のなかでコメントする。 ・「授業のまとめ」は、添削のうえ、オフィスアワーにおいて返却する。				
履修上の注意事項等	学習に重大な支障となるので、教科書は必ず入手してください。				
テキスト	二〇世紀の歴史 木畑洋一 岩波書店 2014				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容を理解する・授業で配布する年表を完成させる</p> <p>2. 「定点観測」にあるアイルランドの 20 世紀史</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキスト第 2 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する</p> <p>3. 第 1 章「支配－被支配の広がり」(その 1)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキスト第 3 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する</p> <p>4. 第 1 章「支配－被支配の広がり」(その 2)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキスト第 4 回授業分のレジュメを作成する・授業まとめを作成する</p>				

科目名	国際交流史特殊講義 III	担当教員	山口 育人
授業内容	5. 第 2 章「帝国世界動揺の開始」(その1)		

	[予習・復習]テキスト第 5 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する		
	6. 第 2 章「帝国世界動揺の開始」(その2)		

	[予習・復習]テキスト第 6 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する		
	7. 第 2 章「帝国世界動揺の開始」(その3)		

	[予習・復習]テキスト第 7 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する		
	8. 第 3 章「帝国世界再編をめぐる攻防」(その1)		

	[予習・復習]テキスト第 8 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する		
	9. 第 3 章「帝国世界再編をめぐる攻防」(その2)		

	[予習・復習]テキスト第 9 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する		
10. 第 4 章「帝国世界の解体」(その1)			

[予習・復習]テキスト第 10 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する			
11. 第 4 章「帝国世界の解体」(その2)			

[予習・復習]テキスト第 11 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する			
12. 第 4 章「帝国世界の解体」(その3)			

[予習・復習]テキスト第 12 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する			
13. 終章「長い 20 世紀」を後に」			

[予習・復習]テキスト第 13 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する			
14. 現代世界と 20 世紀の遺産			

[予習・復習]テキスト第 14 回授業分のレジюмеを作成する・授業まとめを作成する			
15. 帝国の歴史と「帝国世界としての 20 世紀」			

[予習・復習]配布テキスト「帝国論」を読む・小レポート「帝国世界としての 20 世紀」をまとめる			

科目名	国際交流史特殊講義Ⅳ		担当教員	☆ 久保 利永子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	植物を通してみる人とモノの交流史				
到達目標	植物というモノの移動を通して、そこに関わる人的交流、物質的交流を当時の社会状況との関係に照らして考察し、理解を深める				
授業概要	啓蒙の時代(18世紀)のヨーロッパでは科学的関心によって国境を越えて結ばれた人的ネットワークが存在した。スウェーデンのカール・リンネは精力的に植物分類体系の構築に取り組み、彼の弟子たちは植物標本採集のために世界各地へ旅立った。植物園は最先端の科学研究の舞台となり、19世紀になると園芸業者やプラントハンター(植物採集者)が世界を舞台に活躍するようになる。本講義ではヨーロッパ、アジアなど異なる地域の人々が植物を通してつながり、モノやコトの交流が行われる様子を社会史的に考察する。				
評価方法・基準	平常点 40%(講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視する)、期末レポート 60%(課題に対して必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する)				
課題のフィードバック方法	毎回講義に関するコメントカードを回収し、次週にその内容をまとめたプリントを配布する。内容については適宜コメントを加えることもある。レポートの講評は、e-learning/ポータルサイト経由で公開する。				
履修上の注意事項等	講義時に配布される教材(プリント)を活用して積極的に予習・復習を行うこと。 * 授業形式によって(対面式か WEB 方式か)、内容に多少の変更が生じる可能性があります(その場合はポータルサイトで掲示します)。				
テキスト	毎回、教材(プリント)を配布する				
参考書	講義中に適宜紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] シラバスを読み、講義内容を理解する。講義時に配布される参考資料を読む。</p> <p>2. 何と呼んでも「バラ」は「バラ」? ----- [予習・復習] 配布された参考資料を読む。「名づけ」という行為や「名前」をめぐる様々な問題について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>3. 広がる世界、新たな出会い ----- [予習・復習] 近世におけるヨーロッパの海外進出について、地理的・政治的条件などに留意しながら講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>4. 啓蒙の時代と博物学人気の高まり ----- [予習・復習] 配布された参考資料を読む。18世紀の啓蒙の時代における植物と人の関りの概略について、講義内容を確認し、理解を深める。</p>				

科目名	国際交流史特殊講義Ⅳ	担当教員	☆ 久保 利永子
授業内容	5. 植物学の興隆と新しい分類・命名法—カール・リンネの登場		
	[予習・復習] 配布された参考資料を読む。18世紀ヨーロッパにおける植物の分類体系の確立にむけた取り組みについて、講義内容を確認し、理解を深める。		
	6. 世界の構造を明らかに: 近世における宗教と科学の関係		
	[予習・復習] 配布された教材を読む。近世ヨーロッパにおける「科学」の在り方について、とくに宗教との関係において理解する。		
	7. リンネの使徒たちの活躍		
	[予習・復習] 配布された資料を読む。リンネの弟子たちによる植物標本採集の旅について、講義内容を確認し、理解を深める。		
	8. 閉じられた扉: 江戸期の日本へのアプローチ		
	[予習・復習] 鎖国中に日本を訪れた外国人のうち、出島の三学者と呼ばれた人々の活動について講義内容を確認し、理解を深める。		
	9. “Flora Japonica”: ツウンベリーと日本の蘭学者たち		
	[予習・復習] 配布された参考資料を読む。鎖国中の日本における外国人学者と蘭学者の交流について、講義内容を確認し、理解を深める。		
10. 窓辺を飾る赤い花: F・マッソンの南アフリカ産植物調査			
[予習・復習] 配布された資料を読む。世界各地に赴き、新たな植物採集に携わったプラント・ハンターと呼ばれる人々の活動について、講義内容を確認し、理解を深める。			
11. ウィリアム・カーティスと二つの植物図譜			
[予習・復習] 配布された資料を読む。植物学の専門家だけでなく園芸愛好者をもターゲットとした「植物ジャーナリズム」の興隆とその社会的影響力について講義内容を確認し、理解を深める。			
12. バンクスの時代: 植物帝国主義とキュー植物園			
[予習・復習] 配布された資料を読む。植物と人との関係について、特に天然資源としての活用と鑑賞対象としての利用という側面について、講義内容を確認し、理解を深める。			
13. 魅惑の外来植物: 風景式庭園、外来植物、種苗商の活躍			
[予習・復習] イギリスにおける庭園デザインに対する海外産植物がもたらした影響について講義内容を確認し、理解を深める。			
14. 工業化と市民の庭			
[予習・復習] 工業化により台頭してきたミドルクラスの生活空間を通して、工業化とガーデニング人気の関わりについて講義内容を確認し、理解を深める。			
15. ユリの物語・前期講義の総括			
前期の講義内容を振り返る。講義を通して学んだことを確認し、 Semester末レポートを作成し、提出する。			

科目名	国際交流史特殊講義 V		担当教員	☆ 長澤 一恵	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「人の移動」よりみる近代日本				
到達目標	①日本現近代史の基礎的な知識や流れを学ぶ。 ②多様で重層的な社会構造や国際関係のなかで歴史を捉える相対化の視点を養う。 ③現代社会の課題について、近代日本社会の形成とのつながりから理解する。				
授業概要	明治維新後の開国による日本の国際社会への参加は、常に「人の移動」をともなうものであった。とくに日本「帝国」の形成の過程では、欧米、東アジア、太平洋地域の諸社会との間で多くの人口が相互に移動し、移民、租界・租借地、植民地支配といったかたちでの様々な社会接触を経験することとなる。講義では、日本と深い関わりをもつ地域のうち、《中国大陸》を取り上げて、日本帝国の内外に移動する人々を通して戦前期のアジア・太平洋の国際関係について検討するとともに、「人の移動」とそれにともなう国籍、土地所有権、教育権など諸権利の獲得や社会参加への取り組み、そして国際問題の解決について具体的に考察する。 2つの祖国、複数の社会の間で揺れ動く人々の法的権利やアイデンティティを探ることで、近代「国民国家」観念を相対化する視点をも養うことが出来るのではないかと考える。				
評価方法・基準	学習到達度確認 40%(試験を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する)、授業中に提出する課題レポート 30%(図書館・資料館・博物館および Web アーカイブ調査などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成する)、平常点 30%(講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること)、を総合して評価する。				
課題のフィードバック方法	期間内に学習到達度確認を行い、最終授業内で講評を行う。課題レポートは、添削のうえ講義時間中に教室にて返却する。				
履修上の注意事項等	授業は幅広い歴史事象を勉強するための入り口に過ぎません。興味を持った事柄や問題は、歴史辞典や参考文献、博物館などを活用して自分自身でどんどん学習を進めてください。また、世界史年表や地図を用意してこまめに確認することをおすすめします(出版社等の指定はとくにありません)。本授業は、教室での対面授業を予定していますが、コロナ状況によっては WEB授業での実施に変更する場合があります。				
テキスト	教科書は使用せず、授業プリントを配布します。				
参考書	シリーズ日本近現代史 1~10巻 岩波新書<新赤版・1042~1051> 2006~2010、日本近代の歴史 1~6巻 吉川弘文館 2016~2017、日本の歴史 20~25巻 講談社 2000~2003				
授業内容	1. ガイダンス ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業概要を把握する。クリアファイル(A4サイズ)、ノートまたはルーズリーフ(様式自由)を持参する。/図書館で、本講義のシラバスやガイダンス用紙に記載された辞典や参考文献の配架場所を確認し、以後の講義で活用できるように準備する。 2. 日清・日露戦争と「治外法権」 ----- [予習・復習]「日清通商航海条約」、「治外法権」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/近代東アジア国際関係の変化の中で締結された「日清通商航海条約」に領事裁判権・協定関税の「治外法権」および最恵国待遇を規定する不平等条約が取り結ばれた問題点について確認と整理をする。 3. 租界・租借地の形成 ----- [予習・復習]「アヘン戦争」、「アロー号戦争」、「日清戦争」、「租界・租借地」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/西欧列強の中国分割競争による租界・租借地の形成について確認と整理をする。 4. 在華権益の拡張 ----- [予習・復習]「上海租界」、「領事裁判権」、「混合裁判所 (Mix Court)」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。/租界行政の実際運営において「治外法権」が拡大解釈されて運用された実態と問題点について確認と整理をする。				

科目名	国際交流史特殊講義 V	担当教員	☆ 長澤 一恵
授業内容	5. 南満洲鉄道株式会社と大陸経営		
	[予習・復習]「日露戦争・ポーツマス条約」、「関東州租借地」、「南満洲鉄道株式会社」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／日露戦争後のポーツマス条約によって日本が遼東半島の旅順・大連の租借権、および長春以南の東清鉄道支線に付属する権利と特権をロシアから継承獲得して「南満洲鉄道株式会社」を設立した歴史経緯について確認と整理をする。		
	6. 鉄道付属地行政		
	[予習・復習]「南満洲鉄道株式会社」、「鉄道付属地」、「大和ホテル」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／南満洲鉄道沿線に建設された鉄道付属地での都市開発や行政運営の実態について確認と整理をする。		
	7. 第一次世界大戦と「二十一箇条要求」		
	[予習・復習]「第一次世界大戦」、「辛亥革命」、「二十一箇条要求」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／第一次世界大戦に参戦後の日本が中華民国の袁世凱政府に対して突き付けた「二十一箇条要求」と大陸進出の問題点について確認と整理をする。		
	8. 山東問題		
	[予習・復習]「パリ講和会議」、「ワシントン会議」、「山東問題」、「ヴェルサイユ＝ワシントン体制」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／第一次世界大戦後の新秩序転換期でのパリ講和会議やワシントン会議において提起された日本が第一次世界大戦中に占領した旧ドイツ膠州湾租借地(山東半島・青島)の中国返還および「二十一箇条要求」撤廃をめぐる国際議論について確認と整理をする。		
	9. 「五・四運動」と治外法権撤廃要求		
	[予習・復習]「五・四運動」、「利権回収要求」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／パリ講和会議でのヴェルサイユ条約で締結された日本の山東権益獲得の処分に対し、日本の中国侵略に抗議する「五・四運動」の波及と治外法権撤廃要求の意義について確認と整理をする。		
	10. 満洲事変と「満洲国」		
	[予習・復習]「満洲国」、「日満議定書」、「五族協和」、「皇民化教育」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／満洲事変後に日本の傀儡国家として建国された「満洲国」の政治機構と首都「新京」建設について確認と整理をする。		
	11. 満蒙開拓移民		
	[予習・復習]「満蒙開拓団」、「拓務省」、「在郷軍人会」、「20年間100万戸満洲移民計画」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／1930年代に国策移民として計画された満蒙開拓移民と送出システムについて確認と整理をする。		
	12. 「満洲」での開拓生活		
[予習・復習]「分村移民・分郷移民」、「満洲国」治外法権撤廃問題、「反満抗日運動」、「屯墾病」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／満蒙開拓移民の生活実態や、国籍やアイデンティティー問題、現地での中国人農民や朝鮮人農民との関係などについてオーラル・ヒストリー(聞き取り)による体験もふまえて確認と整理をする。			
13. 満蒙開拓青少年義勇軍			
[予習・復習]「日中戦争」、「満蒙開拓青少年義勇軍」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／日中戦争の進展下で武装移民として送出された「満蒙開拓青少年義勇軍」の歴史経緯や問題点についてオーラル・ヒストリー(聞き取り)による体験もふまえて確認と整理をする。			
14. 戦後の「引揚げ」と中国残留孤児			
[予習・復習]戦後「引揚げ」、「中国残留孤児」、「日中共同宣言」、「再移民」等について辞典・参考文献・年表を活用して予習する。／近代日本の中国大陸への進出と満蒙開拓移民および戦後「引揚げ」問題の全体的な歴史経緯や問題点について整理と確認をする。			
15. 授業まとめ			
[予習・復習]学習到達度確認にあたって、授業プリント・配布資料・自筆ノート、および辞典・参考文献も参考にしながら、全体の歴史経緯や意義を整理して確認・理解するとともに、現代社会への提言となるように自分の意見をまとめること。			

科目名	日本史特殊講義 I		担当教員	井岡 康時	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	自治と自律の地域史－人びとのつながりの変容－				
到達目標	私たちが律している秩序意識の歴史の変容を理解するとともに、分断を克服した寛容な社会形成の可能性について考える力をつける。				
授業概要	私たちは処罰されることを恐れて法を守っているのか。違う！ 守るべき規範があると理解しているから、私たちは自発的に秩序に従うのだ。その意識はどこから来るのか。近代を中心に日本社会が維持してきた自治・自律の様相について歴史的に考察するとともに、その行く末について考えてみたい。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問などは次回以降の授業に反映し、適宜紹介や回答をおこなう。				
履修上の注意事項等	テーマの関係から社会学、民俗学などの研究にも触れることとなります。幅広く文献を読んで授業に臨んでください。後期の日本史特殊講義Ⅳ「差別と排除の地域史」と関連することが多いので、できればあわせて履修してください。				
テキスト	担当者から資料を配付する				
参考書	授業中に適宜指示する				
授業内容	<p>1. 現代の地域社会における自治と自律－自治会活動や年中行事から考える</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]自らの成長してきた地域を振り返り、現代の住民がどのようなつながりを形成しているかまとめてみる。</p> <p>2. 近世の地域社会の秩序－村請制から自治と自律を考える</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで村請制の歴史的意義について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、近世の村社会の基盤について復習する。</p> <p>3. 近世の地域社会の罪と罰－村の治安維持システムから考える</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで非人番の機能や組織などについて予習しておく。授業で示した史料を読み込み、近世の地域社会における犯罪とその取り締まりについて復習する。</p> <p>4. 幕末の地域社会が直面した課題－村を来訪した人びと</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで幕末の浪人などの動向について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、地域の秩序防衛システムについて復習する。</p>				

科目名	日本史特殊講義 I	担当教員	井岡 康時
授業内容	5. 維新変革と地域社会の秩序－維新変革が地域にもたらした変化から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで庄屋制度の廃止や戸籍制度の形成などについて予習しておく。授業で示した史料を読み込み、維新が地域社会にもたらした影響について復習する。		
	6. 明治前期の地域社会における自治と自律－地方制度の模索から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで大区・小区制や連合戸長役場などについて予習しておく。授業で示した史料を読み込み、地方制度の改革が地域社会にもたらした影響について復習する。		
	7. 明治の大合併と地域社会－市制町村制実施の歴史的意義から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで市制町村制の内容について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、市制町村制によって生じた地域社会の変化について復習する。		
	8. 町村合併における差別と排除－合併にかかわる地域の主張から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで明治の大合併に対する社会の反応について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、各地の連合戸長などが作成した意見書などの内容について復習する。		
	9. 地域振興の課題と自治・自律－資本主義発達の地域の経済振興から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで明治後期の産業革命の進行状況について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、各地で取り組まれた地域経済の振興について復習する。		
	10. 地方改良運動期の地域社会－日露戦後の地域社会の変容から考える		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで地方改良運動の歴史的意義について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、各地の青年層の活動状況について復習する。		
	11. 第一次大戦期の地域社会とその変化－現代への転形がどのように始まったか		
	[予習・復習]あらかじめ示した文献などで第一次大戦期の社会変化について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、大正期の生活文化の変化について復習する。		
	12. 昭和戦前期の地域社会とその変化－総力戦体制下の自治と自律		
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで総力戦体制について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、戦時下の地域社会の様相について復習する。			
13. 戦後変革と地域社会－戦前・戦後の断絶と連続を考える			
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで第二次大戦前後の断絶と連続について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、戦後改革が地域社会にもたらした影響について復習する。			
14. 高度経済成長と地域社会－生活様式の変化と自治・自律の意識			
[予習・復習]あらかじめ示した文献などで高度経済成長について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、高度成長期の地域経済の変化や人口移動などについて復習する。			
15. 自治と自律はどこに向かうか－共同体の行く末を考える			
[予習・復習]これまでの学びを踏まえ、自治と自律の将来を考えるとともに、あるべき地域社会の姿について考察を深める。			

科目名	日本史特殊講義Ⅱ		担当教員	外岡 慎一郎	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係	『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照		
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計			授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)		
テーマ	鎌倉幕府文書13の謎				
到達目標	鎌倉幕府文書の様式論、機能論から鎌倉幕府論を展開できる可能性を認識すること。				
授業概要	具体的に鎌倉幕府文書のいくつかの事例を紹介しながら、鎌倉幕府の基本的性格にかかる諸情報を得ていく。				
評価方法・基準	授業各回に課す小課題(各回授業の理解度を設問により確認)の総合点(13回分)により評価する。				
課題のフィードバック方法	小課題の正答例を適時に開示する。 質疑はメール、オフィスアワーで対応する。				
履修上の注意事項等	オンライン授業は大学E-learningシステムを利用する。授業開始前にポータルサイトに授業方法、E-learningへのアクセスキーを掲示するので、必ず参照しE-learningに登録すること。 オンライン授業では動画配信(E-learning)となるが、動画へのアクセスは大学tboxアドレスからおこなわないと、共有拒否されるので注意すること。 また、対面授業となった場合も、課題提出はE-learningでおこなう。				
テキスト	なし				
参考書	新版古文書学入門 佐藤進一 法政大学出版社 2003				
授業内容	<p>1. 鎌倉幕府文書論の基礎の基礎 ----- [予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>2. 源頼朝文書はなぜ偽文書がこんなに多いのか ----- [予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>3. 失われた源頼朝文書、源実朝文書を発掘する ----- [予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p> <p>4. 初期の「執権文書」～北条時政、義時の「専権」 ----- [予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web情報で可)(復習)課題への取り組み</p>				

科目名	日本史特殊講義 II	担当教員	外岡 慎一郎
授業内容	5. 「執権文書」の成立～將軍家政所下文の変貌		

	[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	6. 「執権文書」と「得宗専制」～幕府権力の主体		

	[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	7. 六波羅探題文書にはなぜ「(鎌倉殿・將軍家)仰せに依り」がないのか		

	[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	8. 「(鎌倉殿・將軍家)仰せに依り」がある鎮西下知状、ない鎮西御教書		

	[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
	9. 鎌倉幕府の判決はどれほど効力があつたのか～ 「使節遵行論」①		

	[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み		
10. 「事実ならば大変遺憾」という無責任～ 「使節遵行論」②			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
11. 「任務が遂行できませんでした」という復命書～「使節遵行論」③			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
12. 命令と異なる紛争解決～「使節遵行論」④			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
13. 公武交渉文書の世界①～東国と西国、鎮西			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
14. 公武交渉文書の世界②～勅裁と施行 権門体制？			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			
15. 鎌倉幕府文書論から構築する鎌倉幕府論			

[予習・復習](予習)テーマにかかる基本情報の収集・理解(Web 情報で可)(復習)課題への取り組み			

科目名	日本史特殊講義 III		担当教員	木下 光生	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近世日本の貧困から現代社会を考える				
到達目標	貧困の問題を歴史的にとらえる視角と発想、実証方法を考えながら、現代社会に対する見方を鍛えあげる				
授業概要	21 世紀の日本は、世界に冠たる「自己責任大好き」社会であり、貧困の公的救済に対して非常に冷たい社会となっている。その歴史的背景に何があるのかを、17 世紀以来の長期的かつ比較史的な目線で検討し、貧困救済をめぐる現代日本社会の歴史的 position を考察していきたい。				
評価方法・基準	期末レポート				
課題のフィードバック方法	レポートの講評を、オフィスアワーに研究室でおこなう。				
履修上の注意事項等					
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	授業中に紹介				
授業内容	<p>1. 講義の進め方 ----- [予習・復習]貧困史に関する学術書を勉強。授業中に紹介された文献をチェック。</p> <p>2. 貧困の定義と現代日本の貧困現状 ----- [予習・復習]貧困史に関する学術書を勉強。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>3. 従来の日本史研究、および中高歴史教科書における貧困のとらえ方とその問題点 ----- [予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>4. 貧困と生活水準の歴史をめぐる世界的な研究動向:近世イングランドを中心に ----- [予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p>				

科目名	日本史特殊講義 III	担当教員	木下 光生
授業内容	5. 「村の貧困史」の前提①: 百姓の経営体と生業のあり方 -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	6. 「村の貧困史」の前提②: 百姓経営の収支実態 -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	7. 「村の貧困史」の前提③: 衣食住の生活水準のとらえ方 -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	8. 「普通」の百姓と「貧しい」百姓の線引きの難しさ -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	9. 貧困の象徴: 物乞いと家出、破産の実態 -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	10. 貧困救済の責任は誰にあったのか①: 公権力の立ち位置 -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	11. 貧困救済の責任は誰にあったのか②: 村の公的責任と自己責任のせめぎ合い -----		
	[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	12. ターゲティズム(Targetism)の歴史的登場 -----		
[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
13. 近世の伝統は、どこまで近代の救貧を規定しているか -----			
[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
14. 近世日本の貧困から、現代日本の貧困を見つめ直す -----			
[予習・復習]前回プリントの再チェック。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
15. 講義のまとめ -----			
[予習・復習]半年間の論点を整理。配布プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			

科目名	日本史特殊講義 IV		担当教員	井岡 康時	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	差別と排除の地域史ー共同幻想の軌跡をたどるー				
到達目標	人間関係のなかにしばしばあらわれる差別、排除などの現象について、その背景や歴史などを深く理解するとともに、豊かな人権感覚を身につける。				
授業概要	容易に克服できない差別や排除の意識の歴史をたどる。近現代の部落問題に多くの時間をあてることになるが、その理解を深めるために、前近代の社会史や世界の多様な差別にも視野を広げ、多角的に解明していく。こうした学びを踏まえて差別を克服する道筋について考えを深めていきたい。				
評価方法・基準	質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問などは次回以降の授業に反映し、適宜紹介や回答をおこなう。				
履修上の注意事項等	現代的な課題に直結する問題を扱うので、差別や排除に関する報道などには日頃から留意して読んでおいてほしい。前期の日本史特殊講義 I「自治と自律の地域史」と関連するところが多いので、できれば合わせて履修してください。				
テキスト	担当者より資料を配付する				
参考書	授業中に適宜示す。				
授業内容	<p>1. 現代の社会関係にあらわれる差別ーまず現実を直視しよう</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]現代社会における差別や排除に関する資料・統計などを読み、問題点を整理する</p> <p>2. 前近代日本社会の差別(1)ー多様な被差別民衆の登場</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで刑吏や芸能や葬送などをになった人びとについて予習しておく。授業で示した史料を読み込み、前近代の多様な被差別民衆の歴史像について復習する。</p> <p>3. 前近代日本社会の差別(2)ー被差別民衆をめぐる社会関係</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで近世の被差別民衆に対する周辺住民の見方について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、差別意識がどのように深化していくか復習する。</p> <p>4. 前近代日本社会の差別(3)ー身分社会のタテマエと実態</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで近世の身分社会に最新の研究成果について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、身分社会の実態について復習する。</p>				

科目名	日本史特殊講義 IV	担当教員	井岡 康時
授業内容	<p>5. 世界の差別と排除(1)－世界各地の社会史から考える</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで諸外国の事例について予習する。授業で示した史料を読み込み、世界各地の差別の様相について復習する。</p> <p>6. 世界の差別と排除(2)－世界各地の被差別民衆をめぐる社会関係</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで諸外国の差別意識の状況について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、世界各地の被差別民衆と周辺住民との関係について復習する。</p> <p>7. 近代社会の開始(1)－四民平等政策は何をめざしたか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで解放令をはじめ平等の実現をめざした法令類について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、四民平等政策が社会にもたらした影響について復習する。</p> <p>8. 近代社会の開始(2)－国民創造の道程。言葉と風俗の国民化</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで「国語」の形成や風俗の変化について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、言葉や風俗の変化が人びとにもたらした影響について復習する。</p> <p>9. 近代社会の開始(3)－戸籍と家族の近代化</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで戸籍と近代家族について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、戸籍制度が社会にもたらした影響について復習する。</p> <p>10. 近代社会の開始(4)－国境の誕生と対外意識</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などでアイヌ民族や沖縄の歴史について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、国境が形成されていくことが社会にもたらした影響について復習する。</p> <p>11. 近代社会の展開(1)－植民地の獲得と国民統合の歩み</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで台湾や朝鮮半島の支配の歩みについて予習しておく。授業で示した史料を読み込み、近代日本の植民地政策について復習する。</p> <p>12. 近代社会の展開(2)－被差別民衆の主張</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで部落解放運動や女性解放運動などの開始について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、大正期の社会運動が社会にもたらした影響について復習する。</p> <p>13. 近代社会の展開(3)－戦争と差別問題</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで総力戦体制について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、戦時体制が深化するなかでとられた諸政策が社会にもたらした影響について復習する。</p> <p>14. 現代社会における差別と排除(1)－課題の克服に向けた努力</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]あらかじめ示した文献などで第二次大戦後の高度経済成長期における社会変化について予習しておく。授業で示した史料を読み込み、高度成長が人びとの社会意識にもたらした影響について復習する。</p> <p>15. 現代社会における差別と排除(2)－人権尊重の地域社会を創造するために</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]これまでの学びを踏まえて、人権尊重の地域社会創造にどのように参画することができるか、考察を深める。</p>		

科目名	日本史特殊講義 V		担当教員	☆ 安田 真紀子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近世奈良町の共同体と住民生活				
到達目標	近世奈良における町共同体の実態を理解するとともに、現代にも通じる都市空間の問題について考察する力を身につける。				
授業概要	伝統的な町並みが残り、観光地としても脚光を浴びるようになった「奈良町」に焦点をあて、奈良の町の歴史的な展開と、江戸時代の奈良町に暮らす人々の生活や自治的な町運営について、史料から具体的に考察する。				
評価方法・基準	定期試験期間(16週目)に実施する定期試験70%(講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う)、授業中随時行う課題30%(基本的な語句の理解、史料内容の理解など講義内容の理解度を確認する)によって評価する。				
課題のフィードバック方法	随時行う課題については添削し、次回以降の授業で返却の上、講評・解説をおこなう。定期試験の答案の講評および解説を、ポータルサイトの講義連絡上で提示する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	プリントを配布する				
参考書	授業中に紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス 授業概要・授業方針の説明 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解しておく。今回の授業で記したノートを整理する。</p> <p>2. 奈良町の成立と展開1 郷の成立 ----- [予習・復習] 前回の授業で紹介した文献や事典等で、奈良町について調べておく。今回の授業で記したノートを整理する。</p> <p>3. 奈良町の成立と展開2 小五月郷の展開 ----- [予習・復習] 授業中に課された課題について確認し、調べる。今回の授業で記したノートを整理する。</p> <p>4. 奈良町の成立と展開3 近世都市奈良の成立 ----- [予習・復習] 配布プリントを読み、史料中の用語について調べておく。今回の授業で記したノートを整理する。</p>				

科目名	日本史特殊講義 V	担当教員	☆ 安田 真紀子
授業内容	5. 奈良町の成立と展開4 産業の発展		
	[予習・復習] 配布プリントの史料を読み、史料中の用語について調べる。授業中に出された課題について調べ、ノートを整理する。		
	6. 奈良町の成立と展開5 観光都市奈良の成立		
	[予習・復習] これまでの授業で配布されたプリント、ノートを確認し、近世都市奈良の成り立ちについてまとめておく。今回の授業で記したノートを整理する。		
	7. 近世奈良町の実態1 町政と町自治		
	[予習・復習] 前回の授業で出された課題を確認し、プリントの史料を読む。今回の授業で記したノートを整理する。		
	8. 近世奈良町の実態2 町規則と町入用		
	[予習・復習] 配布プリントの史料を読み、史料中の用語について調べる。今回の授業で記したノートを整理する。		
	9. 近世奈良町の実態3 町共同体と会所		
	[予習・復習] 配布プリントの史料を読み、史料中の用語について調べる。今回の授業で記したノートを整理する。		
	10. 近世奈良町の実態4 借屋問題		
	[予習・復習] 配布史料を読み、調べる。今回の授業で記したノートを整理する。		
	11. 近世奈良町の実態5 年中行事と信仰		
	[予習・復習] 配布プリントを読み、史料中の用語について調べる。今回の授業で記したノートを整理し、授業中の課題について調べる。		
	12. 近世奈良町の実態6 鹿と町民生活		
[予習・復習] 前回の授業で出された課題を確認する。今回の授業内容についてノートを整理する。			
13. 近世奈良町の実態7 災害と事件			
[予習・復習] 配布プリントの史料を読み、史料中の用語について調べる。今回の授業で記したノートを整理する。			
14. 近世奈良町の実態8 観光と住民生活			
[予習・復習] 配布プリントの史料を読み、史料中の用語について調べる。これまで配布されたプリント、ノートを確認、整理しておく。			
15. 授業まとめ			
[予習・復習] これまでの学習内容を確認し、疑問点などがあれば、質問できるように準備しておく。これまでの学習内容をプリントやノートで確認する。			

科目名	日本史特殊講義 VI		担当教員	☆ 山上 豊	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近代奈良成立期の文化史論ー古都奈良の観光と文化財を中心にー				
到達目標	近代奈良成立期の文化史的諸問題、とくに廃仏毀釈以降の「古社寺の復興」「古都奈良の復興」という大きな課題に対して観光と文化財行政という側面から考察するが、奈良県の場合、一時、堺県・大阪府に合併されていたことが「古都奈良の復興」を大きく遅らせることになった。このこともふまえて考察し、現代奈良を考える一つの手がかりとする。				
授業概要	近代奈良成立期の諸問題を概観し、このうち廃仏毀釈以後の「古社寺の復興」「古都奈良の復興」という大きな課題に対して観光と文化財行政という側面から考察するが、その場合、奈良県が堺県・大阪府に合併されていたという「府県制」の問題もふまえて考察する。講義では、(1)奈良県の成立と「奈良県再設置運動」、(2)廃仏毀釈と古社寺の復興、(3)天皇行幸と「旧慣」保存という当該期奈良の諸問題を概観し、ついで観光と文化財行政をとりあげる。観光では奈良博覧会、奈良公園などについてふれ、これとの関連で文化財では明治初期から1880年代以降の政府の文化財行政と奈良県の動向に言及する。				
評価方法・基準	評価方法・基準としては、まず平常点は授業に対する積極性を重視する(関連施設の校外学習も含める)。つぎに小試験は授業中の基本的な語句に対する理解度を重視する。本試験は小試験と関連させ、①授業中の基本的な概念・知識を確認。②授業中の基本的な語句の理解度を確認。③史料に対する理解度を確認。以上の3点を重視し、総合的に評価する。とくに学部生については①②を重視する。基準点は、平常点は20%、小試験10%、本試験70%とする。				
課題のフィードバック方法	配布したレジュメをもとに講義をし、次回の講義の最初におさらいをする。小試験は1~2回実施し、つぎの講義の最初に講評をしている。また本試験の問題は、小テストのなかから一部出題し、本試験終了後、解答を含めた講評を加える。				
履修上の注意事項等	講義の出欠については厳密におこなう。正当な理由で欠席される場合は書面を提出すること。出席回数不足の受講生は本試験を受けられないものとする。				
テキスト	なし				
参考書	奈良県の百年(県民100年史 29) 鈴木 良 ほか 山川出版社 1985年 奈良県の歴史 和田 萃 ほか 山川出版社 2003年 近代天皇制の文化史的研究 高木 博志 校倉書房 1997年				
授業内容	<p>1. ガイダンス (講義のテーマ設定・趣旨・内容などについてのべた後、近代奈良のイメージ、研究動向、文献紹介、史料所蔵機関などにふれる)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、講義全体を理解しておく。とくに明治以後の奈良県のイメージ(奈良観)について、奈良県の通史を一読しておく。また配布するレジュメと添付資料・年表をもとに確認・整理をする。</p> <p>2. 近代奈良成立期の諸問題(1)奈良県の成立と県内の村々</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、幕末維新期の和歌山や廃藩置県以後の奈良県の動きがわかる文献を事前に一読しておく。とくに地方行政制度については留意すること。また配布するレジュメを中心に整理をする。</p> <p>3. 近代奈良成立期の諸問題(2)「奈良県再設置運動」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、明治以後の奈良県の変遷とその要因、そのなかで起こった奈良県再設置(復興)運動について関係文献を一読しておく。とくに近代の奈良県にとって、この「府県制」の問題はたいへん重要であり、配布するレジュメや添付年表・関係文献を一読しておく。</p> <p>4. 近代奈良成立期の諸問題(3)廃仏毀釈と古社寺の復興</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、興福寺の廃仏毀釈の実態、興福寺の廃寺・再興の動きを、興福寺関係文献で一読しておく。また配布するレジュメや添付年表をもとに整理をする。</p>				

科目名	日本史特殊講義 VI	担当教員	☆ 山上 豊
授業内容	5. 近代奈良成立期の諸問題(4)天皇行幸と「旧慣」保存		
	[予習・復習] シラバスを読み、明治 10 年の天皇行幸のもつ意味、その後の「旧慣」保存の展開について関係文献で一読しておく。また配布するレジュメや添付年表をもとにこれらの動きを整理する。		
	6. 近代奈良の観光(1)奈良博覧会①背景・要因・概要(殖産興業的側面と文化財保護的側面、奈良博覧会社)		
	[予習・復習] シラバスを読み、奈良博覧会の背景ともなった万国博覧会・地方博覧会・正倉院にふれ、奈良博覧会社の組織・運営などにも言及する。関係の文献を一読しておく。配布するレジュメを確認する。		
	7. 近代奈良の観光(2)奈良博覧会②概要(「奈良博覧会物品目録」・歴史的意義など)		
	[予習・復習] 第6回で配布したレジュメを読み、奈良博覧会関係の文献を一読しておく。またレジュメをもとに確認・整理をする。		
	8. 近代奈良の観光(3)奈良博覧会③まとめ		
	[予習・復習] 第6回で配布したレジュメを読み、奈良博覧会や奈良町関係の文献を一読しておく。またレジュメをもとに確認・整理をする。		
	9. 近代奈良の観光(4)奈良公園の開設と整備①(公園指定など)		
	[予習・復習]シラバスを読み、公園の設立関係の文献を一読しておく。また配布するレジュメをもとに、確認・整理する。		
	10. 近代奈良の観光(5)奈良公園の開設と整備②(観光案内人と金澤昇平、地誌類)		
	[予習・復習] シラバスを読み、奈良公園の設立や金澤昇平等関わった人々について理解しておく。また配布するレジュメの年表をもとに、確認・整理をする。		
	11. 近代奈良の観光(6)奈良観光の発展(鉄道の開通、修学旅行など)		
	[予習・復習] シラバスを読み、奈良周辺の鉄道網の形成と観光について関係文献を一読しておく。また配布するレジュメをもとに整理をする。		
	12. 近代奈良の文化財(1)明治初期の文化財行政(町田久成・蜷川式胤)		
[予習・復習] シラバスを読み、明治初期の文化財行政を担った町田久成や蜷川式胤について、『博物館の誕生』(岩波新書)や正倉院関係の文献を一読しておく。また配布するレジュメをもとに整理をする。			
13. 近代奈良の文化財(2)1880 年代以降の文化財行政①(岡倉天心・フェノロサ、九鬼隆一と臨時全国宝物取調局の設置、帝国奈良博物館の成立)			
[予習・復習] シラバスを読み、1880 年代以降の文化財行政を担ったフェノロサ・岡倉天心・九鬼隆一と、理念的に大きな影響を与えた伊藤博文・福沢諭吉について調べておく。併せて高木博志『近代天皇制の文化史的研究』など高木氏の一連の著書を一読しておく。また配布するレジュメをもとに整理をする。			
14. 近代奈良の文化財(3)1880 年代以降の文化財行政②「国宝」の誕生と「史蹟名勝天然紀念物保存法」			
[予習・復習]シラバスを読み、1880 年代以降の文化財行政のうち、「古社寺保存法」(1897 年)やその後の「史蹟天然紀念物保存法」(1919 年)について、とくに国宝や名勝旧跡の成立について調べておく。配布するレジュメや関係文献一読する。			
15. 近代奈良の文化財(4)まとめ			
[予習・復習] 配布したレジュメ(第 1 回～14 回)をもとに、確認・整理をする。			

科目名	日本史特殊講義 VII		担当教員	☆ 吉江 崇	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本古代の国家と政治—摂関政治への転成—				
到達目標	日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。				
授業概要	日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。摂政・関白による政治体制へと転成していく10世紀前葉から後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。				
評価方法・基準	毎回の講義内容を問う小テストの受験状況およびその成績40%、講義内容の理解及びそれに関する自身の考えの獲得を論述形式で問う学習到達度確認60%				
課題のフィードバック方法	・小テストは毎回、実施し、期間内に評価・講評を行う。 ・期間内に学習到達度確認を実施し、期間内に講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	講義形式で授業を行う。対面での授業を予定しているが、Web 授業になった場合は、授業の方法や内容を変更する可能性がある。				
テキスト					
参考書	摂関政治 古瀬奈津子 岩波新書 2011				
授業内容	<p>1. イントロダクション—平安時代の時期区分と摂関政治— ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。これからの授業の進行を想定し、準備を行う。</p> <p>2. 摂関政治の確立過程(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]摂関政治について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p> <p>3. 摂関政治の確立過程(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>4. 内裏の焼亡にみる宮廷社会の変容(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]平安京の構造について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p>				

科目名	日本史特殊講義 VII	担当教員	☆ 吉江 崇
授業内容	<p>5. 内裏の焼亡にみる宮廷社会の変容(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>6. 財政制度の再編と社会(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]日本古代の財政について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p> <p>7. 財政制度の再編と社会(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>8. 古代銭貨の途絶(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]日本古代の銭貨について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p> <p>9. 古代銭貨の途絶(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>10. 安和の変の歴史的位罫(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]安和の変について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p> <p>11. 安和の変の歴史的位罫(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>12. 政変としての花山天皇の出家(1) —概要の把握と先行学説の整理— ----- [予習・復習]花山天皇の出家について基礎的知識を取得する。小テストに解答する。</p> <p>13. 政変としての花山天皇の出家(2) —先行学説の検証— ----- [予習・復習]前回の授業内容について確認する。小テストに解答する。</p> <p>14. 藤原道長の栄花 ----- [予習・復習]これまでの授業内容について確認する。撰閔政治の展開について自分の考えを整理する。</p> <p>15. 授業総括 ----- [予習・復習]平安時代中期の政治史について自分の理解を確認する。シラバスに記された到達目標に達したかを検証する。</p>		

科目名	日本史特殊講義 VIII		担当教員	☆ 山本 祥隆	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	木簡と発掘調査から読み解く奈良時代史				
到達目標	日本史の中における奈良時代史の位置付けを考える。また、木簡と発掘調査成果を中心に据えた考察から生きた歴史像を構築し、理解することを目指す。				
授業概要	日本史の中において古代、特に奈良時代史はユニークかつ重要な位置を占め、研究対象として好適である。また、奈良時代史を考究することは他の時代や地域の歴史に対する理解の相対化や深化にも資する。本講義では、平城宮・京跡出土木簡や講師が実際に携わった発掘調査の成果に基づき、より生き生きとした歴史像の構築を目指すことにより、奈良時代史に対する理解を深めることを目標とする。また、歴史の舞台となった奈良で学べる利点を活かすため、学外実習も積極的に行うことを計画している。				
評価方法・基準	期末に、古代史に関するレポートの提出を課す。自ら課題を設定し必要な情報を収集できているか、自分の考えを展開できているかなど、オリジナリティを評価する。				
課題のフィードバック方法	講義中および講義前後において、質問等は随時受け付ける。 最終授業内で、講義全体の内容を振り返りつつ、質疑応答等を行う。				
履修上の注意事項等	テキストは使用せず、必要に応じて資料を講義の際に配布する。 参考書等は下記以外にも適宜紹介するので、予習・復習等に活用すること。 学外実習を3回程度予定しているが、必ずしも上記の回に行うわけではない。				
テキスト	なし				
参考書	平城京一三〇〇年「全検証」奈良の都を木簡からよみ解く 渡辺晃宏 柏書房 2010 〈歴史の証人〉木簡を究める 奈良文化財研究所編 株式会社クバプロ 2014 木簡 古代からの便り 奈良文化財研究所編 岩波書店 2020				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習]奈良時代史および木簡や発掘調査について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>2. 古代史概論 ----- [予習・復習]日本古代史の特性や日本史の中における位置づけについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>3. 奈良時代史概論 ----- [予習・復習]奈良時代史の特徴や特質、他の時代との相違点などについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>4. 平城京の借金事情 —古代史研究の一事例として ----- [予習・復習]奈良時代における借錢の意義や正倉院文書を用いた古代史研究などについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p>				

科目名	日本史特殊講義 VIII	担当教員	☆ 山本 祥隆
授業内容	<p>5. 学外実習</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]奈良時代の遺跡等について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>6. 木簡概論 —木簡とは何か？ 古代木簡の特徴とは？</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]木簡の定義や古代木簡の特徴等について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>7. 長屋王家木簡と長屋王邸</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]長屋王の人物像や長屋王家木簡の意義などについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>8. 二条大路木簡を読む —長屋王邸のその後</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]二条大路木簡から明らかになった歴史像などについて、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>9. 木簡と年輪年代学 —木簡研究所新たな可能性</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]年輪年代学の基礎的理解や、新たな手法を用いた木簡研究等について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>10. 学外実習</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]実物木簡の展示や木簡出土遺跡等の実見を通して、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>11. 平城京左京三条一坊一・二坪の発掘調査</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]平城京左京三条一坊一・二坪の発掘調査成果や、平城京内における土地利用の具体相について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>12. 興福寺の発掘調査 —伽藍の復元とその生成過程</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]興福寺境内の発掘調査成果や、伽藍の復元やその生成過程の検討について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>13. 東大寺東塔院跡の発掘調査 —古代から中世へ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]東大寺東塔院跡の発掘調査成果や、古代・中世それぞれの東塔(七重塔)の意義について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>14. 学外実習</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]奈良時代の遺跡等について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>15. 授業まとめ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]これまでの講義内容全般の確認と整理を行う。</p>		

科目名	日本史特殊講義 IX			担当教員	☆ 酒匂 由紀子
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本中世後期研究の諸問題				
到達目標	中世後期に関する様々な分野の研究を史学史的に捉えて研究史の構造を理解すること。さらに、近年の研究に対して、新たな問題を提起できるようになることを目標とする。				
授業概要	近年、日本中世後期の研究は目覚ましい進展を遂げている。今そのような状況になっていることについて、この授業では、そうした研究がどのようにして先行研究を乗り越えているのかということを検証する。また、研究における問題提起の意味を理解する。				
評価方法・基準	評価は期末レポートにて行う。 レポートの評価基準は以下の通り ・講義の内容を理解しているかどうか ・課題文献を正確に読解できているかどうか ・必要な情報を文献から収集し、自らの意見を表現できているかどうか ◎毎回授業後にコミュニケーションペーパーの提出を課すが、そこで研究史上の大きな問題に繋がる問題提起や考察を論じた者には、期末レポートの点数に加点を行う。				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し、期間内に講評を行う				
履修上の注意事項等	6回以上欠席した者には単位を出さない。 新型コロナウイルス流行の関係で対面授業ができなくなった際には、Zoomで授業を行う。 スマホ・タブレット等で授業を受講する際は、あらかじめ音声聞こえるように調整しておくこと。				
テキスト	無し				
参考書	戦国期足利将軍研究の最前線 日本史史料研究会監修 山川出版社 2020年 南朝研究の最前線 日本史史料研究会監修 朝日新聞出版 2020年 「室町殿」の時代: 安定期室町幕府研究の最前線 日本史史料研究会監修 山川出版社 2021年				
授業内容	1. (導入) 明治～終戦までの中世史研究と戦後の中世史研究 [予習・復習] 予習: 大学入試程度の中世史の流れ 復習: 配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む 2. 近年の院政期研究 [予習・復習] 大学入試程度の院政期の流れ 復習: 配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む 3. 近年の鎌倉期研究 [予習・復習] 大学入試程度の鎌倉時代の流れ 復習: 配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む 4. 近年の南北朝期研究(南朝) [予習・復習] 大学入試程度の鎌倉時代の流れ 復習: 配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む				

科目名	日本史特殊講義 IX	担当教員	☆ 酒匂 由紀子
授業内容	<p>5. 近年の南北朝期研究(尊氏、義詮) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>6. 近年の室町時代研究(義満) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>7. 近年の室町時代研究(義満) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>8. 近年の室町時代研究(義政) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>9. 近年の室町時代研究(政治史以外) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>10. 近年の室町時代研究(京都) [予習・復習] 大学入試程度の室町幕府の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>11. 近年の戦国期室町幕府の研究(細川政権～織田政権) [予習・復習] 大学入試程度の戦国時代の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>12. 近年の豊臣政権期の研究 [予習・復習] 大学入試程度の豊臣政権時代の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>13. 近年の文化史研究(絵画資料など) [予習・復習] 大学入試程度の文化史の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>14. 近年の経済史研究(荘園など) [予習・復習] 大学入試程度の文化史の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p> <p>15. 近年の経済史研究(荘園・流通など) [予習・復習] 大学入試程度の文化史の流れ 復習:配布プリントの内容を理解する。参考文献を読む</p>		

科目名	東洋史特殊講義 I			担当教員	☆ 安田 純也
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	韓国(朝鮮)中世史の諸問題				
到達目標	①韓国(朝鮮)史の研究動向と手法を習得する。②歴史を多角的にとらえる見方を身につける。				
授業概要	この授業では、朝鮮文化の形成、展開を歴史的に振り返るが、今年度は高麗時代を取り上げる。高麗は約 500 年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、朝鮮の伝統文化と中国から伝来した文化が調和をなした時代である。また、高麗の文化財の多くは日本列島各地に伝存しており、高麗は日本と関わりの深い王朝である。 授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、高麗王朝の歴史について論じる。				
評価方法・基準	小テスト 40%2 回行う。理解度と説明能力を審査する レポート 20%1 回課す。指定の文献を踏まえ、まとめる能力などを審査する 上記以外 40%受講姿勢、課題、宿題など				
課題のフィードバック方法	翌週のレジュメに総評を掲載する。				
履修上の注意事項等	必ず初回から出席すること。板書が多いので、ノートを持参。 漢文史料(日本語訳付き)を多用する。内容について解説するので、ノートをとり、テストに備える。				
テキスト					
参考書	朝鮮の歴史 田中俊明 昭和堂 世界史史料 4 歴史学研究会 岩波書店				
授業内容	1. 履修方法、前史 ----- [予習・復習]授業中にたびたび復習を行うので、ノートの整理を行う。 2. 高麗の史料(1) ----- [予習・復習]同上 3. 高麗の史料(2) ----- [予習・復習]同上 4. 後三国の争乱と高麗建国 ----- [予習・復習]同上				

科目名	東洋史特殊講義 I	担当教員	☆ 安田 純也
授業内容	5. 王都開城の諸相		

	[予習・復習]同上		
	6. 儒教と科挙		

	[予習・復習]同上		
	7. 統治組織の整備		

	[予習・復習]同上		
	8. 郡県制の展開		

	[予習・復習]同上		
	9. 仏教教団の展開		

	[予習・復習]同上		
10. 高麗大藏經の彫造			

[予習・復習]同上			
11. 高麗仏画の発見			

[予習・復習]同上			
12. 武臣政権の成立			

[予習・復習]同上			
13. モンゴルへの服属			

[予習・復習]同上			
14. 高麗の滅亡			

[予習・復習]同上			
15. まとめ			

[予習・復習]同上			

科目名	東洋史特殊講義Ⅱ		担当教員	☆ 飯田 祥子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中国古代の王朝交替期における政治と社会				
到達目標	中国古代における、王朝交替期の政治と社会の変動について、史料と研究史に基づいた理解をする。王朝や政権の交替・変動期における政治や社会の動きを、先行研究に基づいて整理できるようになる。				
授業概要	日本の歴史に親しんできたものにとって、中国の歴史とは、王朝が興亡することが一つの特徴であるように思える。なぜ中国では王朝が成立しては、滅亡するのだろうか？またこのような政治や社会の混乱期について考察する上で、どのような問題に注意すべきなのだろうか？この授業では、古代の王朝交替期である、前漢末期から後漢成立期(前1世紀後半～後1世紀前半)、および後漢後期・末期(後2世紀後半～3世紀初)を中心に、『漢書』『後漢書』『三国志』等の歴史書に基づいて、王朝・政権の興亡を担った人の動きに注目して、政治と社会の状況を考				
評価方法・基準	平常点(授業時提出物)30%…語句クイズ(前回授業の理解度)、コメント(問題意識・意欲) 小テスト(第15回実施予定)20%(基本的な語句の理解度) レポート50%(到達目標の達成度)				
課題のフィードバック方法	授業時提出物:その回または次回の授業時に、解答例を示す、または適宜紹介する 小テスト:受講者全員の提出後に解答例を示す レポート:希望者には講評を加えて返却する				
履修上の注意事項等	初回ガイダンスで、受講における注意事項や、成績評価方法などについて説明する。欠席すると不利益になる可能性がある。板書の撮影は禁止する。				
テキスト	なし				
参考書	秦漢帝国 西嶋定生 講談社 1997 王莽—儒家の理想に憑かれた男 東晋次 白帝社 2003				
授業内容	1. ガイダンス/史料の力 シラバスを理解し、各自手持ちの教科書(中学・高校)・辞書等によって、対象となる時代の記述を確認しておく/ノート・配布資料の整理を行う。 2. 中国の王朝交替と歴史書 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、政権交替と記録について考察する。 3. 漢代史概観 ノート・配布資料の整理を行う。 4. 王莽政権①—新王朝の成立 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、政権の成立状況について考察する。				

科目名	東洋史特殊講義 II	担当教員	☆ 飯田 祥子
授業内容	<p>5. 王莽政権②—学校制度改革 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、教育に対する姿勢について考察する。</p> <p>6. 王莽政権③—軍事政策 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、軍事に対する姿勢について考察する。</p> <p>7. 更始政権①—反乱軍から皇帝へ ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、反乱がどのように扱われるのか考察する。</p> <p>8. 更始政権②—皇帝と官僚たち ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、政権を支えるスタッフについて考察する。</p> <p>9. 劉秀政権①—漢の復興 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、ある政権と前政権との関係について考察する。</p> <p>10. 劉秀政権②—豪族と地方官 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、中央と地方の関係について考察する。</p> <p>11. 劉秀政権③—前政権の後始末 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、伝統的権威に対する姿勢について考察する。</p> <p>12. 統一王朝漢から三国分立へ ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、統一政権の確立期と不確立期について考察する。</p> <p>13. 韓遂の乱①—西北辺境地域 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、辺境地域に対する姿勢について考察する。</p> <p>14. 韓遂の乱②—異民族統御官 ノート・配布資料の整理を行う。自身の関心対象の地域・時代に関して、マイノリティに対する姿勢について考察する。</p> <p>15. おわりに 15回の講義内容を振り返る。自身の関心対象の地域・時代に関して、政権交替期の特色を考察する。</p>		

科目名	東洋史特殊講義 III		担当教員	☆ 阿久根 晋	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	マカオから極東アジアの国々へ -16・17 世紀におけるイエズス会士の旅と宣教-				
到達目標	アジア各地の政治・社会・交易状況を踏まえつつ、イエズス会のカトリック布教史を俯瞰的かつ多面的に捉える。テキストおよびヴィジュアル史料の成立背景、特色、アジア史研究への活用法を知る。				
授業概要	いわゆる大航海時代、ポルトガルとスペインがアフリカ・「新世界」(アメリカ)・アジアの各地で勢力拡大を図るなか、カトリックの諸修道会も海外ミッションの推進に努めた。なかでも新興のイエズス会は、活動領域の広がり、先駆的な布教戦略と通信システム、残した記録の豊かさなどの点でユニークな存在であった。本講義では、マカオを起点に周辺諸国に赴いたイエズス会士の足跡を軸に、16・17 世紀の極東カトリック布教史と、それにとまう異文化交流の様相を見ていく。				
評価方法・基準	* 平常点 40%…コメントシートの記入、授業への積極的参加(発問への応答など) * 期末レポート 60%…課題解決に向けた調べ方(文献の調査・参照)、書き方(文献の適切な引用、論理的で明確な文章)の観点から評価				
課題のフィードバック方法	* コメントシートの内容を授業中に適宜紹介し、補足説明をおこなう。 * ポータルサイトを通じて期末レポートの講評を公開する。				
履修上の注意事項等	* 近世中国・日本・東南アジア史、とくにヨーロッパ勢力との関係史について、既習事項を確認しておくこと。 * 各回の授業で紹介する参考文献から授業内容の理解を補いつつ、レポート作成の準備を進めること。 * 4 回以上の欠席は成績評価の対象外となる。				
テキスト	配布資料とプレゼンテーションスライドを使用				
参考書	通辞ロドリゲス—南蛮の冒険者と大航海時代の日本・中国 マイケル・クーパー 原書房 1991 年 イエズス会と中国知識人(世界史リブレット 109) 岡本さえ 山川出版社 2008 年 洋学史研究事典 洋学史学会(監修) 思文閣出版 2021 年				
授業内容	1. 本講義の導入 [予習・復習] 講義テーマの確認のため、シラバスに目を通す。 2. ポルトガルとイエズス会のアジア進出 [予習・復習] 大航海時代の既習事項を見直し、フランシスコ・ザビエルの事績を調査・確認する。 3. アレッサンドロ・ヴァリニャーノのアジア巡察 [予習・復習] ヴァリニャーノの事績、日本・中国布教の展望について調査・確認する。 4. マカオの港・都市・教会 [予習・復習] ポルトガル人のアジア交易、聖パウロ教会の成立について調査・確認する。				

科目名	東洋史特殊講義 III	担当教員	☆ 阿久根 晋
授業内容	<p>5. マテオ・リッチと草創期の中国布教 [予習・復習] リッチの事績、中国社会・文化への「適応」について調査・確認する。</p> <p>6. リッチ『坤輿万国全図』の成立と流布 [予習・復習] 京都大学と林原美術館の Web 公開画像を閲覧し、世界図の特徴を見出す。</p> <p>7. ジョアン・ロドリゲスと「キリシタンの世紀」 [予習・復習] ロドリゲスの事績、織豊-初期徳川政権下のキリスト教布教について調査・確認する。</p> <p>8. 北京をめざすロドリゲス [予習・復習] 明末期の政治状況、マカオから明朝への軍事支援について調査・確認する。</p> <p>9. 中間フォローアップ、講義後半への扉 [予習・復習] 関連の文学・映像作品を参考材料として、講義テーマとその時代背景を振り返る。</p> <p>10. 日本の「鎖国」と会士たち [予習・復習] 徳川家光による禁教・「鎖国」政策、日本布教の殉教者について調査・確認する。</p> <p>11. 「新たな日本」としてのベトナム布教 [予習・復習] 17 世紀前半期ベトナムの政治状況と対外関係について調査・確認する。</p> <p>12. アダム・シャルと皇帝たち [予習・復習] シャールの事績、とくに明清交替期の北京での活動について調査・確認する。</p> <p>13. ミカエル・ボイムの使命 [予習・復習] ボイムの事績、南明政権とローマ教皇庁との関わりを調査・確認する。</p> <p>14. 朝鮮進出と日本再布教の夢 [予習・復習] 朝鮮進出計画、日本再布教運動の展開について調査・確認する。</p> <p>15. 本講義の総括 [予習・復習] 各講義の要点をまとめ、イエズス会による極東ミッションの多面性を振り返る。</p>		

科目名	東洋史特殊講義 IV		担当教員	☆ 谷口 淳一	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	13-14 世紀の西アジア				
到達目標	政治・軍事、国家体制、社会の諸相に目を配りながら、13-14 世紀のエジプトとシリアを中心に西アジア史の基本的な流れを把握し、この時代の歴史的な位置づけを理解する。				
授業概要	西アジアでは、10 世紀にアッバース朝国家が解体した後、新たな国家や社会のしくみが形成されていった。マムルーク朝時代の前半にあたる 13 世紀後半から 14 世紀は、その新たな国家体制と社会のしくみが一通り完成をみた時期にあたる。本講義では、この時期におけるエジプトとシリアの歴史を、政治、軍事、国家体制、社会など複数の側面から論じる。ただし、それ以前の時代との関係の理解を深めるために、最初の 3 回は、イスラームが創始された 7 世紀から 13 世紀に至る西アジア史の概略を説明する。				
評価方法・基準	毎回の授業に関する論述 100%。授業内容を正しく理解しているか、論題に沿った内容となっているか、自分の考えを示しているか、適切な表現を用い達意の文章となっているか等を評価する。				
課題のフィードバック方法	毎回の授業に関する論述については、その次の授業において講評をおこなう。				
履修上の注意事項等	高等学校の「世界史B」で学ぶ程度の内容については、説明を省略または簡略化することがある。				
テキスト	毎回、授業内容の梗概(レジュメ)を配布する。				
参考書	岩波イスラーム辞典 大塚和夫ほか 岩波書店 2002 新イスラーム事典 日本イスラーム協会ほか 平凡社 2002				
授業内容	1. イスラーム国家の成立と拡大 ----- [予習・復習]古典的/初期イスラーム国家体制の特徴を理解しておく。 2. カリフからスルターンへ ----- [予習・復習]カリフ位の形骸化と軍人の台頭について理解しておく。 3. 十字軍勢力とムスリム諸国 ----- [予習・復習]十字軍勢力とムスリム勢力の関係を理解しておく。 4. モンゴルの進出とマムルーク朝の成立 ----- [予習・復習]モンゴルの進出とマムルーク朝の成立の関係について理解しておく。				

科目名	東洋史特殊講義 IV	担当教員	☆ 谷口 淳一
授業内容	5. マムルーク朝概観 -----		
	[予習・復習]マムルーク朝の国家体制について理解しておく。		
	6. イクター制 -----		
	[予習・復習]イクター制のしくみについて理解しておく。		
	7. 奴隷出身のエリート -----		
	[予習・復習]イスラームにおける奴隷のあり方について理解しておく。		
	8. 法行政関係諸職 -----		
	[予習・復習]イスラーム法(シャリーア)の成り立ちと法行政関係諸職の特徴を理解しておく。		
	9. 宗教・教育関係諸職 -----		
	[予習・復習]モスクとマドラサの特徴について理解しておく。		
	10. スーフィズム -----		
	[予習・復習]スーフィズムの思想と歴史を理解しておく。		
	11. 聖者崇拜と墓廟参詣 -----		
	[予習・復習]イスラーム における聖者および墓に関する論点について理解しておく。		
	12. シーア派とスンナ派 -----		
[予習・復習]シーア派とスンナ派の特徴について理解しておく。			
13. 異教徒と改宗者 -----			
[予習・復習]イスラーム における異教徒に関する規定について理解しておく。			
14. 都市の繁栄とワクフ -----			
[予習・復習]ワクフのしくみを理解しておく。			
15. マムルーク朝の動揺と衰亡 -----			
[予習・復習]マムルーク朝体制が動揺した種々の原因を理解しておく。			

科目名	西洋史特殊講義 I		担当教員	☆ 坂元 正樹	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	西洋における娯楽の発達 ~大衆化と商業化~				
到達目標	19 世紀前後における娯楽の発達と多様化についての知識をひろめながら、多様な娯楽が氾濫する現代に生きる人間として、娯楽についての見識を深める。				
授業概要	本講義では、西洋で 18 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて発達していった各種の娯楽について、それらを成り立たせた社会的背景、技術(テクノロジー)の発達、興行や芸術活動の発展、などのテーマと関連づけつつ、紹介していく。 また、講義全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。過去の娯楽について考えることを通して、現代における娯楽について考えを深める力を養う。				
評価方法・基準	レポート: 50%(授業内容を踏まえた上で、自分なりの問題意識からテーマを設定して、調査・論述してもらう。) 平常点: 50%(毎回、授業内容に沿った簡単な課題を提示する。)				
課題のフィードバック方法	毎回の課題とあわせて授業への質問や感想を記入する欄をもうける。 寄せられた質問や感想等について、課題への回答とともに次回の授業内で紹介しコメントを付す。 レポートについても、授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	特になし				
テキスト	毎回プリントを配布する。				
参考書	適宜授業中に提示する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス 娯楽について考える、ということの意味 ~遊び、レジャー、娯楽</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 各自がこれまでに接してきた娯楽や遊びについて、その体験などを思い返しつつ、社会や文化といった個人を超えた文脈で捉え直して考えてみる。</p> <p>2. 社交と収集 ~人との交わりの楽しみ、コレクションの楽しみ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 各自がこれまでに接してきた社交や収集行為について、その体験などを思い返しつつ、社会や文化といった個人を超えた文脈で捉え直して考えてみる。</p> <p>3. 子供の遊びと大人の遊び ~娯楽、遊びの世代間継承と発展</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 各自が子供のころにしていた遊びと、現代の子供、過去の子供がしていた遊びとの、共通点や相違点について考えてみる。</p> <p>4. 18 世紀イギリスの「スポーツ」 ~クリケット、競馬</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] インターネットの動画サイトなどで、クリケットの試合動画を視聴する。</p>				

科目名	西洋史特殊講義 I	担当教員	☆ 坂元 正樹
授業内容	5. 競馬の歴史と発展 ～社交と賭博、ルールの整備、世界各国の競馬		
	[予習・復習] インターネットの動画サイトなどで、外国の競馬の動画を視聴する。(障害競走や繋駕速度競争が望ましい。)		
	6. 動物と娯楽① ～アニマルスポーツ、ブラッドスポーツ		
	[予習・復習] 現代社会における動物の扱いについてインターネットなどで調査し、考察する。		
	7. 動物と娯楽② ～動物愛護運動の進展と動物園の起源		
	[予習・復習] 動物愛護運動の歴史と現状について、インターネットなどを利用して調べる。		
	8. サーカスの起源と発展 ～芸を見せる、興行としての発展		
	[予習・復習] サーカスの歴史と現状について調べてみる。		
	9. 見世物興行、人間動物園 ～西洋と日本、社会進化論と優生学		
	[予習・復習] レジユメで紹介する参考文献やインターネットなどを利用して、簡単にでよいので進化論について知識を得る。		
	10. 奇術・手品、予言・占い		
	[予習・復習] 占いについて、西洋と東洋と日本、過去と現代などの違いについて調べたり、考えたりしてみる。		
	11. 西洋のからくり見世物の発展、音楽自動演奏装置		
	[予習・復習] インターネットなどで、19 世紀前後の西洋で作られた、からくり人形や音楽自動演奏装置の動画を見る。		
	12. パノラマとジオラマ、公園と遊園地		
[予習・復習] 19 世紀以前の庭園、公園、遊園地について、簡単にでよいので調べてみる。			
13. 遊戯用の道具や機械の発達 ～観覧車、回転木馬、ポーリング、ピンボール			
[予習・復習] インターネットなどで、1930～70 年代に製作されたピンボール・マシンの動画を見る。			
14. 写真、幻燈、映画			
[予習・復習] インターネットなどで、1920 年代以前に撮られた映画や動画を見る。			
15. まとめ			
[予習・復習] 期末レポートを作成し、提出する。			

科目名	西洋史特殊講義Ⅱ		担当教員	☆ 佐藤 専次	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中世ヨーロッパにおける誓約団体の展開				
到達目標	誓約団体の展開を通してヨーロッパ中世社会の特質を理解する。				
授業概要	ヨーロッパ中世に現れる多様な社会集団は、しばしば誓約を媒介して成立した。その初期においてはフランク王国のギルド、中世盛期以降になると都市・農村のコミュニティ、教師・学生の共同体である大学も誓約団体であり、さらにスイスという国家そのものも誓約団体から始まっている。ヨーロッパ中世では、このような誓約団体(コンユラティオ)の広範囲な展開からギルド、都市共同体、大学、国家など独特な制度が生まれた。講義では、中世における誓約団体の展開について論じ、誓約とはヨーロッパ中世の人々にとって、どのような意味を持っていたのか				
評価方法・基準	学習到達度確認 80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。 平常点 20% 毎回、講義内容について感想・質問を書いてもらう。これによって、講義をいかに理解したかを判断する。				
課題のフィードバック方法	毎回、講義に関する質問・感想を書いてもらう。それに関するコメントを次回の講義におこなう。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う予定。				
履修上の注意事項等	高等学校の世界史Bの知識が前提になる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	1. ガイダンス ----- [予習・復習] これからの講義の進め方と講義全体について確認する 2. フランク王国の国制と社会 ----- [予習・復習] カール大帝時代のフランク王国について確認して理解を深める 3. 在地ギルドの起源と成立 ----- [予習・復習] ゲルマン古来の祭儀について確認する 4. カロリング期の農村社会と在地ギルドの展開 ----- [予習・復習] 当時の農村住民の生活を確認し理解を深める				

科目名	西洋史特殊講義 II	担当教員	☆ 佐藤 専次
授業内容	5. 神の平和運動		

	[予習・復習] 当時のカペー朝期のフランス, 教会が指導する平和運動を理解する		
	6. 神聖ローマ帝国とラントフリーデ		

	[予習・復習] 当時の神聖ローマ帝国, 皇帝が指導する平和運動を理解する		
	7. 都市のコミュニーの始まり		

	[予習・復習] 平和運動と都市コミュニーの関係を確認し理解する		
	8. 都市コミュニーの展開		

	[予習・復習] 都市領主に対するコミュニー闘争について理解を深める		
	9. 大学の誕生		

	[予習・復習] パリ大学とボローニャ大学の誕生, 大学の逃亡について確認する		
10. 村落共同体の形成と農村コミュニー			

[予習・復習] 村落共同体の形成, 村落連合の結成, 王権との関係を理解する			
11. スイスの誕生前史			

[予習・復習] スイスが誕生する背景を理解する			
12. スイスの独立国家としての歩み			

[予習・復習] スイスという国家が農村住民の誓約団体から始まったことを確認する			
13. 誓約の機能・意味			

[予習・復習] 儀礼としての誓約について確認する			
14. 誓約の本質			

[予習・復習] 誓約の本質である呪術的要素を確認し理解を深める			
15. 授業まとめ・学習到達度確認			

[予習・復習] これまでの授業内容を復習する。			

科目名	西洋史特殊講義 III		担当教員	☆ 久保 利永子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	19 世紀イギリスにおける女子教育				
到達目標	19 世紀イギリスにおける女性と教育という一つのサンプルを手がかりに、教育が人の人生において持つ意味や社会全体の価値観と教育カリキュラムの関係などを考察し、理解を深める。				
授業概要	18 世紀末に始まった工業化により経済的繁栄をとげたイギリスは、三階級構造の社会を形成し、「家庭の天使」という理想の女性像を創出した。こうした社会階級や女性像は、女子教育とどのような影響関係にあったのか。その教育カリキュラムはどのようなビジョンに基づき構想されたのか。19 世紀末に高等教育への門戸が女性に開かれた経緯はどのようなものだったのか。こうした問いを念頭に、ミドルクラスの女性と教育の関係を手掛かりに女性にとっての教育の意味や社会が求める「女子教育」の在り方などを考察する。				
評価方法・基準	平常点 40%(講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視する)、期末レポート 60%(課題に対して必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する)				
課題のフィードバック方法	毎回講義に関するコメントカードを回収し、次週にその内容をまとめたプリントを配布する。内容については適宜コメントを加えることもある。レポートの講評は、e-learning システム経由で公開する。				
履修上の注意事項等	講義時に配布されるプリントを活用して積極的に予習・復習を行うこと。 * 授業形式によって(対面式か WEB 方式か)、内容に多少の変更が生じる可能性があります(その場合はポータルサイトで掲示します)。				
テキスト	毎回教材(プリント)を配布する				
参考書	講義中に適宜紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] シラバスを読み、講義内容を理解する。講義時に配布される参考資料を読む。</p> <p>2. 意外と身近な 19 世紀: 19 世紀のイギリス社会概観(1) ----- [予習・復習] 配布された資料を読む。工業化によって形成された近代社会の特徴を、とくに情報と価値観、世論の関係について講義内容を整理し、理解を深める。</p> <p>3. 社会構造と経済の変化: 19 世紀のイギリス社会概観(2) ----- [予習・復習] 配布された参考資料を読む。19 世紀イギリスの政治と経済の特徴について、講義内容を確認し、理解を深める。</p> <p>4. 階級と価値観: 19 世紀のイギリス社会概観(3) ----- [予習・復習] [予習・復習] 配布された参考資料を読む。19 世紀イギリスの階級制度について、講義内容を確認し、理解を深める。</p>				

科目名	西洋史特殊講義 III	担当教員	☆ 久保 利永子
授業内容	5. リスペクタビリティとジェントルマン:新しいジェントルマン像の登場		
	----- [予習・復習] 配布された参考資料を読む。19 世紀に形成されたジェントルマン像の特徴について、講義内容を確認し、理解を深める。		
	6. 描かれた女性たち:階級と性役割の結びつき		
	----- [予習・復習] 配布された絵画資料を読み解く。19 世紀のイギリスで社会的に支持された女性像について、講義内容を確認し、理解を深める。		
	7. 「家庭の天使」という規範:性差と家庭重視イデオロギー		
	----- [予習・復習] 第 6 回の内容をふまえ、19 世紀のイギリスにおける近代化とジェンダー・バイアスの強化の関係について、講義内容を確認し、理解を深める。		
	8. 「なぜ女性が余るのか」:ミドルクラスの女性と「自立」		
	----- [予習・復習] 配布された資料を読みワークシートの設問に答える。19 世紀半ばの「余った女性」問題をめぐる議論について、講義内容を整理し、理解を深める。		
	9. 「立派なレディ」となるために:ミドルクラスの女性と教育(1)		
	----- [予習・復習] ミドルクラスの女性たちが受けた「教育」の内容がどのようなものであったのか、講義内容を整理し、理解を深める。		
10. 礼儀作法か学業か:ミドルクラスの女性と教育(2)			
----- [予習・復習] ミドルクラスの女性女子教育のありかたをめぐる議論を通じて、教育カリキュラムと社会の関係について考察し、理解を深める。			
11. 学業重視型教育の導入:ミドルクラスの女性と教育(3)			
----- [予習・復習] 新しく登場した女子中等教育機関を手掛かりに、教育の目的と社会的要請の関係について考察し、理解を深める。			
12. わたしたちも「大学」へ:女性と高等教育			
----- [予習・復習] 高等教育分野への女性の進出のプロセスや卒業後の進路などを通して、新しいロール・モデルの形成とその影響について、理解を深める。			
13. 「善良な女」となるために:労働者階級の女性と教育(1)			
----- [予習・復習] 労働者階級の女性に対し求められた理想の女性像と受けられる教育内容の関係を考察する。			
14. 3R's と裁縫と:労働者階級の女性と教育(2)			
----- [予習・復習] 受ける教育の内容が人生の選択に与える影響について、労働者階級の女性たちと教育の関係を通して考察し、理解を深める。			
15. 私たちはなぜ学ぶのか:後期講義をふりかえる			
----- [予習・復習] 後期講義全体を振り返り、課題レポートを作成する。			

科目名	西洋史特殊講義 IV		担当教員	☆ 山内 暁子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代ギリシアにおける都市と神話				
到達目標	古代ギリシア社会を学ぶことで自らを客観視する視座を獲得し、史料に基づいた歴史像を持つようになること				
授業概要	本講義では、古代ギリシア文明における様々な都市について、歴史学だけでなく、考古学的資料に基づいて考察を試みる。遺跡発掘や文字の解読、あるいは神話伝承と歴史の関連について、史料から読み取れること、未だ明らかになっていないことを検討する。歴史書や叙事詩といった文献史料に始まり、遺跡や遺物に基づく考古学的分析、さらに研究手法の進展についても目を向けながら、様々な解釈の可能性を検証する。				
評価方法・基準	授業中に出される課題2回(25点×2)と、最終課題(30点)を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroom で質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと考えています。「質問・感想」も評価の対象(20点)ですから、書き込みをよろしくお願いします。				
課題のフィードバック方法	Google Classroom で課題を提示し、質問を受け付けます。記述問題が中心のため、模範回答を示すことは難しいです。Classroom に参加し、質問によって自分で回答を再考するように努めて下さい。				
履修上の注意事項等	テキストは指定しませんが、参考文献は適宜紹介します。また、画像や動画のような関連資料も見ること、学習内容を定着させるようにして下さい。				
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. はじめに:講義内容の解説とアンケート</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読んで、授業内容について理解し、紹介された参考文献を読む。</p> <p>2. ギリシア人の宗教:オリュポスの神々</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 古代ギリシア宗教の特徴である多神教のシステムを理解する。具体的には神々の名前と属性を各自習得すること。</p> <p>3. 先史エーゲ文明:ミノア文明と考古学</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] エーゲ海に現れた都市文明の時代や地理的關係を理解する。講義資料で紹介した内容や文献を確認すること。</p> <p>4. 先史エーゲ文明:ミノアからミュケナイへ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] エーゲ海に現れた都市文明の時代や地理的關係を理解する。講義資料で紹介した内容や文献を確認すること。</p>				

科目名	西洋史特殊講義 IV	担当教員	☆ 山内 暁子
授業内容	5. 文字と社会:線文字 B の解読① ----- [予習・復習] 線文字 B の基礎的知識と用語について理解する。		
	6. 文字と社会:線文字 B の解読② ----- [予習・復習] 線文字 B の解読過程において、重要であった解読者たちの功績を理解する。解読を大きく進めたものは何か、講義資料から読み取ってみる。		
	7. 文字と社会:粘土板から分かること ----- [予習・復習] 粘土板文書から社会の様子を考察する。史料としての文書について、どのような可能性があるのか検討する。		
	8. トロイア戦争:神話伝承 ----- [予習・復習] トロイア戦争の神話について理解する。参考文献などで、講義資料で取り上げたエピソードをさらに深く読み進めてみる。		
	9. トロイア戦争:歴史か神話か ----- [予習・復習] 「トロイア」について、様々な仮説が立てられていることを理解する。仮説の根拠となる事例について、自分でも調べてみる。		
	10. シュリーマン:伝記と評価 ----- [予習・復習] シュリーマンについて、その生涯と功績を検討する。参考文献などで、講義資料で取り上げたエピソードをさらに深く検討する。		
	11. シュリーマン:発掘と考古学の誕生 ----- [予習・復習] 考古学という学問の誕生と、その時代背景を理解する。		
	12. 遺跡と神話①:考古学的遺物から仮説を立てる ----- [予習・復習] 考古学的な資料について理解する。		
	13. 遺跡と神話②:現代の研究分析による展開・批判 ----- [予習・復習] トロイア遺跡についての仮説を、最新の研究状況から検討する。		
	14. トロイア戦争とは①:多様な史料からの検討 ----- [予習・復習] 文献史料の可能性を検討する。講義資料で取り上げた文書を、その背景や成立過程について理解を深める。		
	15. トロイア戦争とは②:トロイアの歴史像を考える ----- [予習・復習] 現段階で立てられた仮説を検討し、歴史像を考える。分かっていること、これから考察されるべきことについて整理し、理解を深める。		

科目名	人文地理学Ⅰ			担当教員	稲垣 稜
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地域は多様な姿を見せているが、そうした様々な地域事象についての人文地理学的な見方を提示する				
到達目標	私たちが生活している「地域」とは、一見、何の規則もなく存在しているように見えるが、その成り立ちにはさまざまな背景がある。そうした点を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとする、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。間口が広いといわれる地理学は、どこから入っていけばよいかにとまどう場合もあるが、この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。具体的には、この授業では、人口、小売業、サービス業、国土政策・地域政策、地域調査、地形図などをテーマに人文地理学的な考察を行う。				
評価方法・基準	「授業内での課題(小テスト)」をもとに総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	小テストは、授業中に実施し、あわせて講評を行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	現代社会の人文地理学 稲垣稜 古今書院 2014				
参考書					
授業内容	<p>1. 地域概念 ----- [予習・復習] シラバスを読んで理解する。テキストを読んで復習をする</p> <p>2. 系統地理と地誌、地域スケール ----- [予習・復習] テキスト11章を読んでおく。テキスト・ノートを見直す</p> <p>3. 人口の分布と増減 ----- [予習・復習] テキスト1章を読んでおく。テキスト・ノートを見直す</p> <p>4. 人口移動と地域 ----- [予習・復習] テキスト1章を読んでおく。テキスト・ノートを見直す</p>				

科目名	人文地理学I	担当教員	稲垣 稜
授業内容	5. 商業地域の変化		

	[予習・復習] テキスト4章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す		
	6. 商業と流通		

	[予習・復習] テキスト4章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す		
	7. 商業立地の変化		

	[予習・復習] テキスト4章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す		
	8. サービス経済化と地域		

	[予習・復習] テキスト5章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す		
	9. 国土政策		

	[予習・復習] テキスト9章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す		
10. 地域開発			

[予習・復習] テキスト9章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す			
11. 都市計画と都市地域			

[予習・復習] テキスト9章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す			
12. 地形図			

[予習・復習] テキスト12章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す			
13. 地形図からみた人々の生活			

[予習・復習] テキスト12章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す			
14. 地形図からみた村落地域と環境の変化			

[予習・復習] テキスト12章を読んでおく. テキスト・ノートを見直す			
15. 授業まとめ(地域研究のすすめ)			

[予習・復習] これまでの内容を振り返る. テキスト・ノートを見直す			

科目名	人文地理学Ⅱ			担当教員	稲垣 稜
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地域は多様な姿を見せているが、そうした様々な地域事象についての人文地理学的な見方を提示する				
到達目標	私たちが生活している「地域」とは、一見、何の規則もなく存在しているように見えるが、その成り立ちにはさまざまな背景がある。そうした点を理解し、授業で得た知識や技能を柔軟に再構成して活用することができるようにする。				
授業概要	現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとすると、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。間口が広いといわれる地理学は、どこから入っていけばよいかにとまどう場合もあるが、この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。具体的には、都市、郊外、観光、交通、工業、資源・エネルギー、地域調査などをテーマに人文地理学的な考察を行う。				
評価方法・基準	「授業内での課題(小テスト)」をもとに総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	「授業内での課題(小テスト)」の講評を授業中に行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	現代社会の人文地理学 稲垣稜 古今書院 2014				
参考書					
授業内容	<p>1. 日本の地域構造 ----- [予習・復習] シラバスを読む。ノートをもとに復習をする</p> <p>2. 都市とは ----- [予習・復習] 都市全般についてテキストを読んでおく。ノートを見直す</p> <p>3. 都市の人口変化 ----- [予習・復習] 都市の人口変化についてテキストを読んでおく。ノートを見直す</p> <p>4. 郊外の成長 ----- [予習・復習] 郊外の成長についてテキストを読んでおく。ノートを見直す</p>				

科目名	人文地理学 II	担当教員	稲垣 稜
授業内容	5. 郊外の生活と文化		

	[予習・復習] 郊外の生活と文化についてテキストを読んでおく. ノートを見直す		
	6. 地域の観光資源		

	[予習・復習] 地域の観光資源についてテキストを読んでおく. ノートを見直す		
	7. 観光行動の変化		

	[予習・復習] 観光行動の変化についてテキストを読んでおく. ノートを見直す		
	8. 交通と地域		

	[予習・復習] 交通と地域についてテキストを読んでおく. ノートを見直す		
	9. 交通発展と土地利用の変化		

	[予習・復習] 交通発展と土地利用の変化についてテキストを読んでおく. ノートを見直す		
10. 工業と産業立地			

[予習・復習] 工業と産業立地についてテキストを読んでおく. ノートを見直す			
11. 工業活動のグローバル化と現代世界			

[予習・復習] 工業活動のグローバル化についてテキストを読んでおく. ノートを見直す			
12. 資源と産業			

[予習・復習] 資源と産業についてテキストを読んでおく. ノートを見直す			
13. エネルギーと環境			

[予習・復習] エネルギーと環境についてテキストを読んでおく. ノートを見直す			
14. 経済の発展と地域変化			

[予習・復習] 経済の発展と地域変化についてテキストを読んでおく. ノートを見直す			
15. 授業まとめ(地域研究のすすめ)			

[予習・復習] これまでの内容を振り返る. ノートを見直す			

科目名	自然地理学 I		担当教員	羽佐田 紘大	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	自然地理学の基礎の習得				
到達目標	1. 地球表層環境の特徴を理解できる。 2. 自然と人間とのかかわりを考えることができる。				
授業概要	本講義は、地形、気候、水文、植生、土壌など、自然地理学の基本的事項を概説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点(講義中の姿勢・態度やコメントシートの記載内容を重視)、講義中に行う小テスト(基本的な内容を理解しているかを確認)、学習到達度確認(講義内容を正確に把握できているかを確認)を基に総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの提出を求めた際は次回の講義で記載内容を紹介し、次回以降の講義に反映していく。小テストを実施した際は次回の講義で解説する。第 15 回に学習到達度確認を実施し、終了直後に解説を行う。				
履修上の注意事項等	毎回教材を e-learning でも配布する。				
テキスト	毎回プリントを配布(e-learning でも提供)				
参考書	適宜紹介				
授業内容	<p>1. ガイダンス／地球のかたち ----- [予習]地球の大きさを調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>2. 地球内部のしくみとプレートテクトニクス ----- [予習]地球の内部構造について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>3. 火山 ----- [予習]世界の火山分布について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>4. 地震と断層 ----- [予習]世界の地震分布について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p>				

科目名	自然地理学I	担当教員	羽佐田 紘大
授業内容	<p>5. 風化・侵食・マスマーブメントと地形 ----- [予習]風化と侵食について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>6. 運搬・堆積と地形 ----- [予習]運搬と堆積について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>7. 土地条件と土地利用 ----- [予習]土地条件図について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>8. 大気の循環 ----- [予習]大気の組成について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>9. 海洋の循環 ----- [予習]海流について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>10. 気候の要素・因子 ----- [予習]気候と気象について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>11. 気候区分と植生・土壌 ----- [予習]気候区分について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>12. 水文:水循環と水資源 ----- [予習]水文学について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>13. 第四紀における自然環境の変化 ----- [予習]第四紀について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>14. さまざまな自然災害 ----- [予習]近年発生した自然災害について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>15. まとめ(学習到達度確認の実施) ----- [予習]これまでの講義内容の要点をノートにまとめるなどして整理し、学習到達度確認に備える。[復習]自然地理学に関連する文献を調べ、理解を深める。</p>		

科目名	自然地理学Ⅱ		担当教員	羽佐田 紘大	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	第四紀における自然環境の理解				
到達目標	1. さまざまな地域の自然環境の成り立ちや特徴を把握し、人々との関係を理解できる。 2. 身近な自然環境について調べ、考察することができる。				
授業概要	本講義は、第四紀における自然環境の変化や成り立ち、人々の暮らしとの関係について紹介していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。				
評価方法・基準	平常点(講義中の姿勢・態度やコメントシートの記載内容を重視)、講義中に行う小テスト(基本的な内容を理解しているかを確認)、レポート(文章表現がきちんとしているか、独創的であるか、正確に情報収集できているか、論理的に述べているかを重視)を基に総合的に評価する。レポートはe-learningを通じて第14回までに提出する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの提出を求めた際は次回の講義で記載内容を紹介し、次回以降の講義に反映していく。小テストを実施した際は次回の講義で解説する。第15回にレポートの講評を行う。				
履修上の注意事項等	毎回教材をe-learningでも配布する。				
テキスト	毎回プリントを配布(e-learningでも提供)				
参考書	適宜紹介				
授業内容	<p>1. ガイダンス/日本の自然環境 ----- [予習]日本列島の地形について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>2. 奈良の自然史 ----- [予習]大学周辺の自然環境について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>3. 第四紀における気候変動 ----- [予習]気候変動について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>4. 古気候・古環境の復原 ----- [予習]古気候学・古環境学について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p>				

科目名	自然地理学 II	担当教員	羽佐田 紘大
授業内容	5. 第四紀末期の海水準変動		

	[予習]海水準変動について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。		
	6. 気候変動・海水準変動と地形の成り立ち		

	[予習]第四紀末期の気候変動・海水準変動を理解する。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。		
	7. 沖積低地の地形と成り立ち		

	[予習]沖積低地について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。		
	8. 沖積低地における土地利用と自然災害		

	[予習]近年の水害について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。		
	9. 台地の成り立ちと土地利用		

	[予習]台地について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。		
10. 丘陵の地形と人とのかかわり			

[予習]丘陵について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。			
11. 地形図からみる自然環境の変化			

[予習]地形図の読み方を理解する。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。			
12. 流域・沿岸域における開発と保全			

[予習]開発に伴う自然環境の変化の事例を調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。			
13. 流域・沿岸域における環境問題			

[予習]ローカルな環境問題について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。			
14. 沿岸域における生態系と生物多様性			

[予習]さまざまな生態系について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。			
15. まとめ(レポートの講評)			

[予習]これまでの講義内容をノートにまとめるなどして整理する。[復習]自然地理学に関連する文献を調べ、理解を深める。			

科目名	日本地誌概論		担当教員	三木 理史	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	大学の所在する場所、そして近畿地方の理解からはじめて、日本全体の地域を概観する				
到達目標	受講生は、日本の各地方の特色を知り、その地理的意義を自然、人文の双方の知識を理解するとともにその活用として地域調査の基礎知識を習得する。さらに演習関係授業での地域的倫理観や規範性を基礎にした知識の定着を目標とする。また自立的で意欲的な態度を身につける。				
授業概要	授業は課題提示型WEB授業で、課題プリントを仕上げるかたちで授業を進める。日本全体をテキストを用いながら万遍なく講義し、演習系授業での自己テーマの決定の前提となる知識を習得することを目標にしている。そのため各章の第2節は原則自習とするが、許容時間によって対象とする場合もある。				
評価方法・基準	授業試験(50点前後)と平常点を合計して100点で評価する。3分の2以上の課題提出を条件とする。				
課題のフィードバック方法	授業内試験答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上等で公開する。毎時間の課題で必要と思われる場合にはコメントする。但し受講生が返信を望む場合はmikim@daibutsu.nara-u.ac.jpへ、授業科目名、学籍番号、氏名を書いて送信すること。				
履修上の注意事項等	日本の地誌を総覧できるテキストを用いた授業の内容であり、旧カリキュラム時代は通年で行っていた内容を半期にまとめたので、それなりにタイトな予定になることが予想される。なお、地誌の授業には地図が不可欠で、高校程度の地図帳の持参、あるいはスマートホンなどで電子地図を参照すること。				
テキスト	日本の地誌 立正大学地理学教室編 古今書院 2007年				
参考書					
授業内容	1. 授業計画と大学とその周辺—奈良大学の立地— ----- [予習・復習] 大学周辺を自主巡検 2. 大学とその周辺—平城村物語— ----- [予習・復習] 大学周辺を自主巡検 3. 近畿地方 ----- [予習・復習] 教科書7章の一読・当該章の内容整理 4. 地誌総論 ----- [予習・復習] 教科書1章の一読・当該章の内容整理				

科目名	日本地誌概論	担当教員	三木 理史
授業内容	5. 南西諸島		

	[予習・復習] 教科書 2 章の一読・当該章の内容整理		
	6. 九州地方		

	[予習・復習] 教科書 3・4 章の一読・内容整理		
	7. 中・四国地方		

	[予習・復習] 教科書 5・6 章の一読・当該章の内容整理		
	8. 西南日本総論		

	[予習・復習] 教科書 2～6 章の一読・当該章の内容確認		
	9. 東海・甲信越地方		

	[予習・復習] 教科書 8・9 章の一読・当該章の内容整理		
10. 北陸・北関東地方			

[予習・復習] 教科書 10・13 章の一読・当該章の内容整理			
11. 東京・南関東地方			

[予習・復習] 教科書 11・12 章の一読・当該章の内容整理			
12. 東北地方			

[予習・復習] 教科書 14・15 章の一読・当該章の内容整理			
13. 北海道地方			

[予習・復習] 教科書 16 章の一読・当該章の内容整理			
14. 東北日本総論			

[予習・復習] 教科書 8～16 章の一読・当該章の内容整理			
15. まとめと授業内平常試験			

[予習・復習] 教科書の再読・試験範囲の内容整理			

科目名	世界地誌概論 I		担当教員	岡橋 秀典	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界地誌について、アジアを中心に講義する。グローバル化の下での変貌に注目し、特に世界の大国インドの発展を地誌的に考察する。				
到達目標	急速に変貌するアジアおよびインドを対象に、その特徴を総合的に学習し、グローバル化時代にふさわしい地域理解に到達する。				
授業概要	グローバル化の下で急速に変貌するアジアおよびインドを対象に自然、文化、社会などの側面をあわせて、その地域性を総合的に学習する。				
評価方法・基準	平常の小テストと課題 50%(基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確認する)、期末に提出のレポート 50%(必要な情報を収集し自分の考えを論理的に展開できるか、オリジナリティがあるかを基準に評価する)による。				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-ラーニングでフィードバックする。				
履修上の注意事項等	テキストを用いる。授業の資料を e-ラーニングで毎回配布する。				
テキスト	地理B 高校教科書 東京書籍 2022				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] シラバスをみておく。地誌について講義内容を確認する。</p> <p>2. 世界の中のアジア ----- [予習・復習] アジアについて知っていることを整理しておく。アジアの特徴について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>3. 東アジアの地誌 ----- [予習・復習]東アジアの国々について知っていることを整理しておく。東アジアの特徴について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>4. 東南アジアの地誌 ----- [予習・復習]東南アジアの国々について知っていることを整理しておく。東南アジアの特徴について講義内容を確認し理解を深める。</p>				

科目名	世界地誌概論 I	担当教員	岡橋 秀典
授業内容	5. 南アジアの地誌		
	----- [予習・復習] 南アジアの国々について知っていることを整理しておく。南アジアの特徴について講義内容を確認し理解を深める。		
	6. 多様なインドを学ぶー自然(地形と気候)と文化		

	[予習・復習] インドの自然と文化について知っていることを整理しておく。インドの多様性について講義内容を確認し理解を深める。		
	7. 変わるインド1ー経済自由化とグローバル化		

	[予習・復習] インド経済について知っていることを整理しておく。経済自由化の影響について講義内容を確認し理解を深める。		
	8. 変わるインド2ー国土構造の特徴と変化		

	[予習・復習] インド国内の地域性について知っていることを整理しておく。インドの空間構造について講義内容を確認し理解を深める。		
	9. インドの産業開発1ーIT 産業の発展		

	[予習・復習] インドの ICT 産業について知っていることを整理しておく。ICT 産業が発展した要因について講義内容を確認し理解を深める。		
	10. インドの産業開発2ー自動車産業の発展		

[予習・復習] 自動車産業について日本の事例を学習しておく。インドの自動車産業集積地域について講義内容を確認し理解を深める。			
11. インドの産業開発3ー工業化と雇用問題			

[予習・復習] 人口の年齢構成について整理しておく。雇用の不安定化について講義内容を確認し理解を深める。			
12. インドの産業開発4ー農業の変化			

[予習・復習] インドの農作物について知っていることを整理しておく。インド農業の発展について講義内容を確認し理解を深める。			
13. インドの大都市地域の発展			

[予習・復習] インドにおける大都市の分布を見ておく。大都市の拡大をもたらしている要因を確認する。			
14. インド農村の変貌			

[予習・復習] 農村の貧困について知っていることを整理しておく。インド農村の発展について講義内容を確認し理解を深める。			
15. 授業の総括			

[予習・復習] これまでの講義内容を確認しよく理解しておく。よく理解出来ていなかった点を確認し、再学習する。			

科目名	世界地誌概論Ⅱ		担当教員	武田 一郎	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地中海沿岸から西アジアにかけての自然と人間社会と歴史と文化				
到達目標	自然と人文の相互関係を総合的に把握する視点を養い、特定地域の地域性を探求していく能力を身につける。				
授業概要	地中海沿岸は日本と比べると降水量が少なく、西アジアやアフリカ北岸部にはほとんど雨の降らない砂漠地域も広がる。したがって、この地域の大部分は農業用水に恵まれない地域となっている。しかし、当該地域は世界で最も早く農耕が始まり、その生産性を背景として古代文明が開いた地域の一つでもある。本授業ではこの地域における自然環境と人間活動(農業・歴史・文化)との関係に触れたいくつかの説を紹介する。				
評価方法・基準	評価方法:平常点(小テスト等など:50点)と定期試験(50点)で評価する。 評価基準:小テストおよび定期試験で授業内容を正しく理解しているかチェックする。				
課題のフィードバック方法	小テストに対するコメントを翌週の授業で提示し、定期試験の答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	毎回、必ず地図帳(テキスト=詳解現代地図)を持参すること。				
テキスト	詳解現代地図 最新版 二宮書店編集部 二宮書店 2022				
参考書	森林の思考・砂漠の思考 鈴木秀夫 NHK ブックス 1978 気候文明史 田家 康 日経ビジネス文庫 2019 銃・病原菌・鉄(上) ジャレド・ダイヤモンド 草思社 2012				
授業内容	<p>1. はじめに(ガイダンス)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]シラバスをよく読んでおく。[復習]地中海沿岸における国々の名称や首都などを調べる</p> <p>2. 地中海沿岸の概要:自然環境、農業、石油、宗教</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]世界における新期造山帯を調べておく。[復習]地図帳を用いて当該地域の自然環境をまとめる。</p> <p>3. 和辻哲郎の『風土』</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]和辻哲郎の『風土』について調べておく。[復習]和辻の主張をまとめる。</p> <p>4. Huntington, E.の『候と文明』</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]気候と文明の関係について考えておく。[復習]Huntington の研究が否定された理由をまとめる。</p>				

科目名	世界地誌概論 II	担当教員	武田 一郎
授業内容	5. 約1万年前の農耕の始まり(肥沃な三日月地帯における農耕の開始)		
	----- [予習・復習] [予習]約1万年前の自然環境、および肥沃な三日月地帯について調べておく。 [復習]自然環境の変化が人間に工夫を強要することについて、他の事例も調べる。		
	6. 地中海沿岸での農耕の拡大(湿潤化による農耕の伝播)		
	----- [予習・復習] [予習]ヒプシ・サーマルについて調べておく。 [復習]世界で最も早く農耕が始まったとされる他の地域についても調べる。		
	7. 古代文明の始まり(すべての大河のほとりに古代文明が栄えたわけではない)		
	----- [予習・復習] [予習]古代文明(いわゆる四大文明)について調べておく。 [復習]古代文明がすべて乾燥地域で興っていることの原因をまとめる。		
	8. 地中海文明の盛衰(古代のエーゲ海ではぐくまれた海洋文明)		
	----- [予習・復習] [予習]ミノア文明について調べておく。 [復習]ミノア文明の崩壊と火山噴火および津波の関係についてまとめる。		
	9. 古代文明の崩壊(約 3500 年前、古代文明はほとんど同じ時期に滅んだ理由)		
	----- [予習・復習] [予習]ゲルマン民族の大移動(時代・内容・移動方向)を調べておく。 [復習]古代文明の崩壊と気候変動との関係をまとめる。		
	10. 自然環境の変化と宗教の成立		
	----- [予習・復習] [予習]第5回の「約1万年前の農耕の始まり(肥沃な三日月地帯における農耕の開始)」を復習しておく。 [復習]約1万年前の自然環境の変化について再度まとめる。		
	11. イスラエルの自然とユダヤ教		
	----- [予習・復習] [予習]エジプトとイスラエルの気候の違いを調べておく。 [復習]砂漠地帯の画像・映像を見て、その自然環境と「神」との関係を考える。		
	12. キリスト教の成立と伝播(最初は地中海沿岸にのみ限定されていた)		
----- [予習・復習] [予習]初期のキリスト教(キリスト生誕～4世紀頃)について調べておく。 [復習]キリスト教がアルプス以北にも伝播した理由をまとめる。			
13. イスラム教の成立と拡大(典型的な乾燥地域の宗教であるイスラム教)			
----- [予習・復習] [予習]イスラム教の概略について調べておく。 [復習]イスラム教が、当初は、乾燥地域にのみ拡大した理由をまとめる。			
14. エチオピアとイスラム圏			
----- [予習・復習] [予習]アフリカ大地溝帯について調べておく。 [復習]]エチオピアの自然と社会の関係をまとめる。			
15. おわりに(日本の自然と社会)			
----- [予習・復習] [予習]あらかじめ配布するプリントを読んでおく。 [復習]ノートと地図帳と配布プリントで授業を振り返る。			

科目名	環境地理学概論		担当教員	岡橋 秀典	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	農村を対象として、その環境の特徴および変化について多面的に考察する。				
到達目標	現代農村の環境を取り上げ、その実態と変化の要因、今後の課題について学習し、理解を深める。				
授業概要	現代農村の環境について、地理学的な視点からその特徴を論ずる。土地利用の変化を農地と森林を軸に捉え、また住民の生活に関わる環境を集落システムや中心地などの問題から検討する。日本で近年取り組まれてきた景観づくりについても考察する。日本の農山村で、環境をめぐって何が起きているのか、しっかり理解できるようにしたい。				
評価方法・基準	小テスト・課題 40%(基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確認する)、定期試験 60%(地誌学を理解するための基本的概念を正しく理解している、もしくは、基本的概念を用いて適切に論じることができるかどうかを評価する)				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-learning を通じて実施し、あわせて評価・講評を行う。定期試験の答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	授業の資料を毎回配布する。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] シラバスをよく見ておく。授業方針をよく理解する。</p> <p>2. 環境への地理学的アプローチ ----- [予習・復習] 農村環境の特徴を考えておく。地理学のアプローチの特徴を整理する。</p> <p>3. 農村の環境問題 ----- [予習・復習] 農村の資源について整理しておく。土地問題について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>4. 過疎化と山村の環境問題 ----- [予習・復習] 山村の環境の特徴について整理しておく。環境問題について講義内容を確認し理解を深める。</p>				

科目名	環境地理学概論	担当教員	岡橋 秀典
授業内容	5. 農村の生活環境—集落システムの変化と生活環境問題		
	[予習・復習] 農村と都市との関係について知っていることを整理しておく。生活環境について講義内容を確認し理解を深める。		
	6. 農村の環境整備		
	[予習・復習] 農村が行ってきた環境整備にはどのようなものがあるか考えておく。今日の農村環境の整備について整理しておく。		
	7. 森林と環境2 日本の森林分布と植生		
	[予習・復習] 気候と植生について知っていることを整理しておく。日本の主な森林植生について講義内容を確認し理解を深める。		
	8. 日本の森林史		
	[予習・復習] 日本の歴史と森林との関係について知っていることを整理しておく。森づくりの歴史について講義内容を確認し理解を深める。		
	9. 日本の森林・林業問題		
	[予習・復習] 何が問題なのか考えてみよう。森林・林業問題の構造を整理してみよう。		
	10. 戦後日本の森林政策		
	[予習・復習] 身の回りの森林について考えておく。これまでの森林政策の事例について講義内容を確認し整理しておく。		
	11. 新たな森林政策		
	[予習・復習] 日本の森林政策について知っていることを整理しておく。森林政策について講義内容を確認し理解を深める。		
	12. 農村環境とエコミュージアム		
[予習・復習] 美しい農村景観で知られているところを整理しておく。エコミュージアムについて講義内容を確認し理解を深める。			
13. 景観政策の展開			
[予習・復習] 景観政策で知られているところを整理しておく。日本の景観政策について講義内容を確認し理解を深める。			
14. 海外農村と景観政策—チロルの景観保全			
[予習・復習] チロルについて知っていることを整理しておく。チロルの景観保全について講義内容を確認し理解を深める。			
15. 授業の総括			
[予習・復習] これまでの講義内容を確認しよく理解しておく。よく理解出来ていなかった点を確認し、再学習する。			

科目名	都市地理学		担当教員	☆ 根田 克彦	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	都市地理学の立場から、都市システムと大都市圏の空間構造の解明の仕方を理解する。				
到達目標	都市地理学の立場から、都市システムと大都市圏の空間構造の解明の仕方を理解し、分析方法を理解する。				
授業概要	この授業では、都市システムと大都市圏の空間構造を理解するために講義を行い、都市の分析手法を理解する。				
評価方法・基準	試験を行わない。授業で数回あるレポートにより評価する。				
課題のフィードバック方法	最終授業でレポートと研究案を講評する。				
履修上の注意事項等	授業では次の授業で用いる論文等を指示するので、それらを読むこと。				
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 地理学的な考え方 ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。</p> <p>2. 近代地理学の成立 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p> <p>3. 都市地理学の理論 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p> <p>4. 中心地理論:基礎編 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p>				

科目名	都市地理学	担当教員	☆ 根田 克彦
授業内容	5. 中心地理論: 応用編		

	[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。		
	6. アイスクリーム屋台の立地論		

	[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。		
	7. 都市とは		

	[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。		
	8. 都市システム		

	[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。		
	9. 古代の都市		

	[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。		
10. 中世の都市			

[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。			
11. 近代の都市			

[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。			
12. 現代の都市			

[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。			
13. コンパクトシティ			

[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。			
14. インナーシティ問題と都市再生			

[予習・復習] 今回の授業で示した論文を読む。			
15. 総括			

[予習・復習] 今までの授業でわからないことを整理しておく。			

科目名	村落地理学		担当教員	岡橋 秀典	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本における農村の変貌と現代農村の特徴を把握し、村落地域のこれからの方向について考える。				
到達目標	現在に至る日本農村の変貌と現代農村の特徴と課題について学習し、理解を深める。				
授業概要	日本の農村について、地理学的な視点からその特徴を論ずる。農村地理学の方法と研究史を概説した後、農村の特徴を経済、社会、文化など、多面的に考察する。特に、アグリビジネス、農産物輸入、観光、景観政策、中山間地域問題など、現代農村を象徴する事柄に焦点をあてる。奈良や京都などの農村で、何が起きているのか、しっかり理解できるようにしたい。				
評価方法・基準	平常の小テストと課題 50%(基本的な語句の理解等講義内容の理解度を確認する)、期末に提出のレポート 50%(必要な情報を収集し自分の考えを論理的に展開できるか、オリジナリティがあるかを基準に評価する)による。				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-ラーニングでフィードバックする。				
履修上の注意事項等	テキストを用いる。授業の資料を e-ラーニングで毎回配布する。				
テキスト	現代農村の地理学 岡橋秀典 古今書院 2020				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。あなたと農村との接点にはどのようなことがあるか、考えてみる。</p> <p>2. 現代の農村—都市と農村(村落)</p> <p>-----</p> <p>予習:復習]知っている農村の特徴を整理しておく。現代の農村の特徴を確認する。</p> <p>3. 農村概念の展開</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]農村を表す言葉を整理しておく。農村の概念について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>4. 農村(村落)地域研究と地理学</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]散村について調べておく。地理学の農村研究の特徴を整理する。</p>				

科目名	村落地理学	担当教員	岡橋 秀典
授業内容	5. 人口変動と農村空間の再編 -----		
	[予習・復習]過疎について知っていることを整理しておく。戦後の農村人口の変化について講義内容を確認し理解を深める。		
	6. 日本の地域システム・国土開発と農村の変貌 -----		
	[予習・復習]国土開発政策について知っていることを整理しておく。日本の地域システムの変化について講義内容を確認し理解を深める。		
	7. グローバル化の中の農村―貿易、産業立地、地球環境 -----		
	[予習・復習]グローバル化について知っていることを整理しておく。グローバル化の農業・農村への影響について講義内容を確認し理解を深める。		
	8. 戦後日本農村の特質―戦後の出発点 -----		
	[予習・復習]戦後改革について知っていることを整理しておく。戦後の日本農村の特質について講義内容を確認し理解を深める。		
	9. 日本農業の再編成と地域構造 -----		
	[予習・復習]日本農業の戦後の変化について知っていることを整理しておく。日本農業の地域性について講義内容を確認し理解を深める。		
	10. 農業の産業化―フードシステムとアグリビジネス -----		
	[予習・復習]食料がどのように供給されるか知っていることを整理しておく。産業としての農業について講義内容を確認し理解を深める。		
	11. 農産物貿易の拡大と農業地域の変化 -----		
	[予習・復習]農産物の輸出入について知っていることを整理しておく。貿易自由化が与える影響について講義内容を確認し理解を深める。		
	12. 農村と環境 -----		
[予習・復習]農村の環境の特徴について整理しておく。農村環境が抱えるについて講義内容を確認し理解を深める。			
13. 農村の風土、文化と景観保全 -----			
[予習・復習]好きな農村景観について整理しておく。農村の景観保全について講義内容を確認し理解を深める。			
14. 日本の中山間地域―問題の構造と課題 -----			
[予習・復習]日本の中山間地域について知っていることを整理しておく。中山間地域問題について講義内容を確認し理解を深める。			
15. 授業総括 -----			
[予習・復習]これまでの講義内容を確認しよく理解しておく。よく理解出来ていなかった点を確認し、再学習する。			

科目名	歴史地理学		担当教員	☆ 古関 大樹	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	歴史地理学の考え方と方法論				
到達目標	歴史地理学の考え方と方法論を学習し、研究の方向性を模索する。				
授業概要	地域・空間・環境・景観などのキーワードを重要視する地理学は、様々な学問領域と結びつきながら研究を深めます。このうち、歴史地理学は、過去の地表の現象、その変化や現代との結びつきを考える学問です。本講義では、都市や村落などを対象としながら歴史地理学の主な方法論を紹介し、理解を深めることを学習目標とします。				
評価方法・基準	動画の受講後に100字程度のコメントを報告してもらいます。また、不定期に課題を課す場合もあり、これらの平常点が40%です。また、期末に学習到達度を確認するためのレポートを課します(60%)				
課題のフィードバック方法	質問についてはポータル等で適宜返信します。				
履修上の注意事項等	新型コロナの対応でオンデマンド型授業となります。約60分の動画を配信しますが、動画の中でミニ演習を取り入れることがあるので、蛍光ペンや色鉛筆などを用意して受講してください。				
テキスト	プリントを配付する。				
参考書	適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス(歴史地理学とは何か)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読んで、第2回以降の授業内容について理解しておく。</p> <p>2. 地域と環境①(大阪平野と大和川の付け替え)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 本やインターネットで大和川の付け替えについて調べておく。授業の要点を確認し整理する。</p> <p>3. 地域と環境②(大阪の水害と治水)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 本やインターネットで大阪の歴史的な水害について調べておく。授業の要点を確認し整理する。</p> <p>4. 条里景観の仕組み</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 本やインターネットで条里の景観の特徴について調べておく。授業の要点を確認し整理する。</p>				

科目名	歴史地理学	担当教員	☆ 古関 大樹
授業内容	5. 景観の復原と分析①(荘園絵図を読む)		

	[予習・復習] 本やインターネットで荘園絵図について調べておく。授業の要点を確認し整理する。		
	6. 景観の復原と分析②(明治の地籍図)		

	[予習・復習] 本やインターネットで明治の地籍について調べておく。授業の要点を確認し整理する。		
	7. 景観の復原と分析③(地名を考える)		

	[予習・復習] 本やインターネットで地名について調べておく。授業の要点を確認し整理する。		
	8. 集落の立地と形態		

	[予習・復習] 本やインターネットで集落立地について調べておく。授業の要点を確認し整理する。		
	9. 村落の構造と結びつき		

	[予習・復習] 本やインターネットで村落の構造について調べておく。授業の要点を確認し整理する。		
10. 都市の形態			

[予習・復習] 本やインターネットで都市の形態について調べておく。授業の要点を確認し整理する。			
11. 城下町の構造と変化①(巨椋池と太閤堤)			

[予習・復習] 本やインターネットで巨椋池について調べておく。授業の要点を確認し整理する。			
12. 城下町の構造と変化②(伏見城下町の変貌)			

[予習・復習] 本やインターネットで伏見城下町について調べておく。授業の要点を確認し整理する。			
13. まちなみ保存			

[予習・復習] 本やインターネットで伝統的建造物群保存地区について調べておく。授業の要点を確認し整理する。			
14. 文化的景観			

[予習・復習] 本やインターネットで文化的景観について調べておく。授業の要点を確認し整理する。			
15. 授業のまとめ			

[予習・復習] これまでの講義の内容を整理し、ポイントを再確認する。			

科目名	経済地理学		担当教員	☆ 土屋 純	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	経済地理学の諸理論とさまざまな研究について包括的に紹介し、経済地理学を体系的に理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済地理学の諸理論、立地論や集積論などを理解する。 2. 現代社会で生じている経済現象についてその仕組みを理解する。 3. 地域格差など現代社会の諸問題について理解する。 				
授業概要	本講義は、経済地理学の理論を展開するとともに、現代社会で生じている様々な経済現象を理解することを目的としている。まずは、立地論など経済地理学の諸理論を理解する。そして、地域に展開する諸産業(工業、流通業、IT産業、コンテンツ産業、観光業など)の仕組みを理解するとともに、現代社会の諸問題(東京一極集中や地域格差の拡大、など)について学習していく。教科書『経済地理学への招待』を活用して授業を進めていく。				
評価方法・基準	2回の授業が終了した段階で、理解度を問う小レポートを課す(70%) 講義内容に対して自分なりの注目点と自分なりの分析・考察を展開するレポートを課す(30%)				
課題のフィードバック方法	小レポートに対してコメントを付し、学生一人ひとりの理解を深められるようにする。				
履修上の注意事項等	本授業はWEB授業で実施する。その方法についてはE-Learningシステムで連絡する(後期開始の1週間前程度に)。 教科書の第7章、第12章、第14章、第19章は授業WEBで解説しないので、各自読んで理解を深めておくこと。				
テキスト	経済地理学への招待 伊藤達也・小田宏信・加藤幸治 ミネルヴァ書房 2020				
参考書					
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、経済立地の理論 ----- [予習・復習]教科書の第1章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする 2. 地域経済の発展のメカニズム ----- [予習・復習]教科書の第2章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする 3. サービス経済化と広がる地域間格差 ----- [予習・復習]教科書の第3章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする 4. 人々のキャリアと経済空間 ----- [予習・復習]教科書の第4章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする 				

科目名	経済地理学	担当教員	☆ 土屋 純
授業内容	5. 経済のグローバル化と産業立地・地域経済		

	[予習・復習]教科書の第5章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする		
	6. サプライチェーンと南北格差		

	[予習・復習]教科書の第6章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする		
	7. 都市の発展が生むインナーシティ問題		

	[予習・復習]教科書の第8章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする		
	8. グローバル化時代の都市と都市ネットワーク		

[予習・復習]教科書の第9章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
9. 地域の中でのものづくり			

[予習・復習]教科書の第10章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
10. 工業化で変わる新興国			

[予習・復習]教科書の第11章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
11. 都市に集まる創造産業			

[予習・復習]教科書の第13章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
12. ショッピングセンターの功罪			

[予習・復習]教科書の第15章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
13. 中心商店街のゆくえ			

[予習・復習]教科書の第16章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
14. 農山村の活性化			

[予習・復習]教科書の第17章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			
15. 観光・ツーリズムがもたらす地域の変化			

[予習・復習]教科書の第18章を読んで内容を把握するとともに、キーワードについて下調べをする			

科目名	人口地理学		担当教員	酒井 高正	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人口地理学のあらましと世界の人口問題				
到達目標	人口地理学の基本的な諸概念と人口分析の基礎的な技法を理解するとともに、日本を含む世界の人口問題に関する知識を習得する。				
授業概要	まず、人口現象を地理学的な立場から扱う人口地理学の概要を紹介する。続いて、人口に関する諸情報の入手や分析方法について、GIS の利用法も含めて学ぶ。さらに、地球の環境問題の根底にあるといわれる世界の人口爆発の問題や日本をはじめとする諸地域の人口問題についても、人口地理学の立場から学ぶ。				
評価方法・基準	平常点 100%(受講態度の適切性、提出課題類の内容の適切性と充実度、復習問題(小テスト)の解答内容などで評価する。)				
課題のフィードバック方法	課題や復習問題(小テスト)はeラーニングシステムを通じて提出してもらったうえで、解答例や講評を示す。				
履修上の注意事項等	eラーニングシステムを使用するので、操作法を確認しておくこと。(必要に応じて情報処理センターのサポートを利用すること。)				
テキスト	ハ必要に応じて e-Learning のデジタル教材または紙のノドアウトを配布する。				
参考書	授業時に案内する。				
授業内容	<p>1. オリエンテーション ----- [予習・復習]予めシラバスを読み、eラーニング上に受講者プロフィールを提出する。</p> <p>2. 人口とは ----- [予習・復習]各自の考える人口の定義をeラーニング上に記入しておく。</p> <p>3. 人口研究と地理学、人口地理学 ----- [予習・復習]人口を扱う諸学問に関するeラーニング上の資料を読んでおく。</p> <p>4. 人口を知るための統計資料と関係機関(日本の場合) ----- [予習・復習]eラーニングで指示する統計局 WEB サイトの人口データコーナーを閲覧しておく。</p>				

科目名	人口地理学	担当教員	酒井 高正
授業内容	5. 人口を知るための統計資料と関係機関(海外の場合)		

	[予習・復習]eラーニングで指示する国連等の WEB サイトの人口データコーナーを閲覧しておく。		
	6. 人口データの入手方法		

	[予習・復習]eラーニングの指示に従って、e-Stat から実際に人口データをダウンロードしておく。		
	7. 人口データの簡単な統計分析		

	[予習・復習]eラーニング上に掲載する人口データを扱う計算問題を解答しておく。		
	8. 人口データの簡単な GIS 処理		

	[予習・復習]eラーニング上に掲載する人口データに関する資料を読んでおく。		
	9. GIS を用いた人口統計地図の作成		

	[予習・復習]eラーニングの指示に従って人口統計地図を作成して提出する。		
10. 世界人口の爆発と SDGs			

[予習・復習]eラーニングで指示する世界人口増加に関する資料を読んでおく。			
11. 世界人口増加のメカニズム			

[予習・復習]eラーニングで指示する人口増加メカニズムに関する資料を読んでおく。			
12. 日本人口の少子高齢化			

[予習・復習]eラーニングで指示する日本人口の少子高齢化に関する資料を読んでおく。			
13. 過密と過疎			

[予習・復習]eラーニングで指示する過密と過疎に関する資料を読んでおく。			
14. 各国の人口事情と移民			

[予習・復習]eラーニングで指示する各国の人口事情と移民に関する資料を読んでおく。			
15. まとめと復習			

[予習・復習]eラーニング上の指示に従って復習課題を提出する。			

科目名	観光・交通地理学		担当教員	三木 理史	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	観光地理学に関わる内容をできるだけ幅広く紹介する。				
到達目標	受講生は、地理学において観光がどのように取り上げられてきたのかを、観光学との関係も視野に入れつつ多様な学際的思考を身につけるようにする。				
授業概要	課題提示型 WEB 授業となり、毎週 E-LEARNING を通じて配信される課題を仕上げ提出することで授業を進める。内容については系統地理学の一分野に位置づけられる観光地理学の基礎的事項をできるだけ幅広く講義して理解してもらう。				
評価方法・基準	授業内試験または学期末レポート(50点前後)と平常点を合計して100点で評価する。3分2以上の課題提出が必須である。				
課題のフィードバック方法	授業内試験または学期末レポートの講評をおよび毎週の課題のうち、必要と思われる点についてコメントする。但し受講生が返信を望む場合は mikim@daibutsu.nara-uac.jp へ、科目名、学籍番号、氏名明記で送信。				
履修上の注意事項等	本授業は「地理学特殊講義(六)」と対を成し、観光分野を取り上げるもので、2023年度は本授業の内容を「地理学特殊講義(六)」として開講する予定である(つまり2023年度の「観光・交通地理学」の内容は交通分野となる見込みである)。				
テキスト	観光学—基本と実践(改訂新版) 溝尾良隆 古今書院 2015				
参考書	観光の空間:視点とアプローチ 神田孝治編著 ナカニシヤ出版 2009 現代観光学 - ツーリズムから「いま」がみえる ワードマップ 遠藤英樹・橋本和也・神田孝治編著 新曜社 2019 観光地理学 - 観光地域の形成と課題(第2版) 山村 順次編著 同文館出版 2012				
授業内容	<p>1. 講義の内容と準備について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 特になし・テキスト「はじめに」を一読し、また授業で紹介した観光に関わる著作を探してみる(もちろん読めばなお結構)</p> <p>2. 第1章 「観光」の基本・I</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第1章を素読・プリントや自分のメモを復習</p> <p>3. 第1章 「観光」の基本・II</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習</p> <p>4. 第2章 観光産業の特性・I</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第2章を素読・プリントや自分のメモを復習</p>				

科目名	観光・交通地理学	担当教員	三木 理史
授業内容	5. 第2章 観光産業の特性・II		
	----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習		
	6. 第3章 国内観光の課題・I		
	----- [予習・復習] テキスト第3章を素読・プリントや自分のメモを復習		
	7. 第3章 国内観光の課題・II		
	----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習		
	8. 第4章 観光地の課題解決・I		
	----- [予習・復習] テキスト第4章を素読・プリントや自分のメモを復習		
	9. 第4章 観光地の課題解決・II		
	----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習		
	10. 第4章 観光地の課題解決・III		
	----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習		
	11. 第5章 長期休暇と観光地の整備・I		
	----- [予習・復習] テキスト第5章を素読・プリントや自分のメモを復習		
	12. 第5章 長期休暇と観光地の整備・II		
----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習			
13. 第6章 観光政策と観光研究・I			
----- [予習・復習] テキスト第6章を素読・プリントや自分のメモを復習			
14. 第6章 観光政策と観光研究・II			
----- [予習・復習] 参考書から本章に関わる内容を探してみる・プリントや自分のメモを復習			
15. まとめ			
----- [予習・復習] 配布プリントの再読・授業内試験または学期末レポート			

科目名	地理学特殊講義(一)		担当教員	☆ 高田 将志	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人類が経験し、乗り越えてきた氷期・間氷期スケールの自然環境変動に関して概観する。				
到達目標	人類紀(第四紀)の自然環境変動、とくに古環境変動に関わる基礎的な知識を学び、空間的かつ歴史的な視点から人類史と自然環境との関わりについて理解する。				
授業概要	この授業では、深海底コア、氷床コア、湖沼・湿原堆積物コアなどから得られる古環境 proxy(代替データ)に関する基礎的事項について取り上げる。また、人類紀(第四紀)におけるグローバルな自然環境変動の中で、日本列島などのローカル・リージョナルな古環境にそれがどう表れているかについても触れたい。特に、歴史・先史時代の自然環境とその変動に関して幅広い興味を有する人、この分野の先端研究に触れたい、という意欲を持つ学生の受講を歓迎します。				
評価方法・基準	毎回授業のコメントシートの内容(授業内容の要約と質問)を平常点70%、期末レポートを30%(文献・資料等の適切な引用を重視)として評価する。				
課題のフィードバック方法	・コメントシートの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介する。 ・期末レポートの公表は、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	地図帳(一般向け地図帳、高校地図帳など;種類は問わない)を毎回持参すること。				
テキスト	担当者よりプリントを配布				
参考書	第四紀学 町田洋ほか 朝倉書店 2003 日本列島 100 万年史(講談社ブルーバックス) 山崎晴雄・久保純子 講談社 2017 時を刻む湖——7 万枚の地層に挑んだ科学者たち(岩波科学ライブラリー) 中川 毅 岩波書店 2015				
授業内容	<p>1. 人類紀としての第四紀</p> <p>-----</p> <p>予習: シラバスを熟読して授業計画の概要を掴む 復習: 配布資料中にわからない用語があればチェックしておく。各自のノートを整理し、補足修正する。</p> <p>2. 第四紀の環境変化(概要)</p> <p>-----</p> <p>予習: 前回配布資料の不明箇所について質問を準備しておく。 復習: 地質時代編年表を熟読し、地質年代区分用語を覚える。各自のノートを整理し、補足修正する。</p> <p>3. 氷河と氷河地形</p> <p>-----</p> <p>予習: 参考書や授業中に紹介する書籍などから、氷河に関連する章・節を読む。 復習: 氷河地形に関する用語をノートに整理し、理解不足の箇所を調べ補足修正する。</p> <p>4. 現存氷河を見る</p> <p>-----</p> <p>予習: 関連書籍の氷河と関連する章・節を読む。 復習: Google earth で現存氷河を探し、気づいたことをノートにメモしておく。</p>				

科目名	地理学特殊講義(一)	担当教員	☆ 高田 将志
授業内容	5. 現存氷河の分布と氷河時代の氷河 -----		
	予習: 氷河と氷床に関する用語について、自ら調べておく。 復習: 山岳氷河と大陸氷床の特徴についてノートに整理しておく。		
	6. 過去の”時”をどのように決めるか?: 第四紀の年代測定 -----		
	予習: 関連書籍の年代測定に関する章・節を各自で読んでみる。 復習: インターネットで年代測定について調べ、ノートにメモしておく。		
	7. 炭素 14 年代測定法と年縞堆積物、古地磁気編年 -----		
	予習: インターネットで炭素 14 年代測定法について調べてみる。 復習: 炭素 14 年代測定法の原理と古地磁気編年について、ノートを整理し、補足修正しておく。		
	8. 深海底コアの酸素同位体比曲線 -----		
	予習: 関連書籍などで、深海底コアの酸素同位体比曲線と関連する章・節を読む。 復習: 深海底コアの酸素同位体比曲線の原理について、ノートを整理しておく。		
	9. 第四紀の気候変動と氷期・間氷期サイクル -----		
	予習: 関連書籍で、氷期・間氷期サイクルと関連する章・節を読む。 復習: ミランコビッチ理論に関して各自のノートを整理し、補足修正しておく。		
	10. 気候変動の原因(1); 温室効果ガス、太陽活動、ENSO、火山活動 -----		
	予習: 関連書籍の気候変動に関連する章・節を読む。 復習: 気候変動の原因に関して、各自のノートを整理し、補足修正しておく。		
11. 気候変動の原因(2); ミランコヴィッチサイクル、深層水の循環 -----			
予習: 関連書籍のミランコヴィッチサイクルと関連する章・節を読む。 復習: ミランコヴィッチサイクルに関してノートを整理し、補足修正しておく。			
12. 氷期・間氷期・後氷期の環境像 -----			
予習: 関連書籍で、氷期・間氷期・後氷期の環境と関連する章・節を読む。 復習: 氷期・間氷期・後氷期の環境像に関してインターネット等で調べ、ノートを整理しておく。			
13. 海水準変動と海岸段丘の形成過程 -----			
予習: 関連書籍の海岸段丘と関連する章・節を読む。 復習: 海水準変動に関してノートを整理し、補足修正しておく。			
14. 氷期・間氷期サイクルと河岸段丘・沖積低地の形成過程 -----			
予習: 関連書籍の河岸段丘や沖積低地と関連する章・節を読む。 復習: 氷期・間氷期サイクルと河岸段丘・沖積低地の形成過程について、ノートを整理しておく。			
15. 縄文・弥生・古墳時代と歴史時代の気候変動 -----			
予習: 関連書籍の気候変動と歴史に関連する章・節を読む。 復習: 有史～先史時代の気候変動と社会的な事象に関して各自のノートを整理する。			

科目名	地理学特殊講義(二)		担当教員	木村 圭司	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	気候解析と気象シミュレーションに関する理論と研究例について理解する				
到達目標	気候のメカニズムを解析していく上で、必要となる手法とその裏付けを学び、進級論文および卒業論文作成時に問題なく使えるようにする。				
授業概要	気候学的な研究を行う上で、解析方法やシミュレーション方法など、必要な技術は多いが、ゼミで教える時間は限られていた。この講義では、WRF(ワーフ)を用いた気候解析・予測方法について、参考論文を挙げながら解説していく。講義では高校理系の数学Ⅲ(微積分)・物理・化学の十分な知識が必須である。毎回小テストを行う(第1回目は授業後半、第2回目以降は授業の初め)。この講義は積み上げ式で進むため、3回連続で小テストが0点だった受講生は成績を不可とする。				
評価方法・基準	講義の際に毎回行う小テスト(50点)と、期末レポート(50点)を合わせて評価する。なお、この授業は積み上げ式の授業であるため、3回連続で小テストが0点だった場合、不合格とする。				
課題のフィードバック方法	毎回行う小テストは、同じ時間内に解説をする。				
履修上の注意事項等	この講義ではパソコンによる実習的部分を含む。授業では、統計、三角関数、指数関数、対数、偏微分、積分、3次元ベクトル、行列式、角運動量などの内容を含む。高校で習っていない分野については講義時に指定する方法で補完すること。				
テキスト	指定しない				
参考書	講義中に指示する				
授業内容	<p>1. ガイダンスおよび本講義の注意事項、気象シミュレーションの基礎 ----- [予習]気候学・水文学の講義内容を復習しておく。 [復習]講義時に指定された方法で、数学の復習を行う。</p> <p>2. 気象シミュレーションで用いられる変数 ----- [予習]気象シミュレーションについて、調べておく。 [復習]講義内容で難しかった点を確認する。</p> <p>3. 高層天気図 ----- [予習]高層天気図について、本やインターネットなどで調べておく。 [復習]講義内容で難しかった点を確認する。</p> <p>4. 大気の立体構造とエマグラム ----- [予習]鉛直断面図について、本やインターネットなどで調べておく。 [復習]講義内容で難しかった点を確認する。</p>				

科目名	地理学特殊講義(二)	担当教員	木村 圭司
授業内容	5. ホフメラーダイヤグラム		

	[予習]ホフメラーダイヤグラムを本やインターネットなどで調べておく。		
	[復習]講義内容で難しかった点を確認する。		
	6. 静力学モデルと非静力学モデル		

	[予習]静力学平衡について、本やインターネットなどで調べ、理解しておく。		
	[復習]講義内容で難しかった点を確認する。		
	7. 大気境界層の物理		

	[予習]大気境界層について、本やインターネットなどで調べておく。		
	[復習]講義内容で難しかった点を確認する。		
	8. 境界値データの入力とシミュレーションエリアの設定		

	[予習]ECMWF-ERA5 と NCEP-FNL データについて、インターネットなどで調べておく。		
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
9. データ同化方法			

[予習]データ同化、ナッジング、ネスティングについて、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
10. 気象シミュレーション WRF の積雲対流システムと雲物理			

[予習]物理スキームについて、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
11. 気象シミュレーション WRF の放射スキーム			

[予習]放射スキームについて、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
12. 気象シミュレーション WRF の地表面課程			

[予習]地表面家庭について、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
13. 標高と地表面被覆のパラメータ			

[予習]地表面被覆の熱特性について、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
14. アンサンブルモデル			

[予習]アンサンブルモデルについて、本やインターネットなどで調べておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			
15. タイムステップと CFL 条件			

[予習]これまでの授業について、復習しておく。			
[復習]講義内容で難しかった点を確認する。			

科目名	地理学特殊講義(三)		担当教員	☆ 根田 克彦	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	イギリスと日本を比較して、世界におけるイギリスと日本の地域性明らかにし、地誌学的方法を提示する。				
到達目標	地誌学の基礎知識を知り、その研究方法を理解して、地誌学の見方・考え方に基づいて、自ら研究する能力を習得する。				
授業概要	本授業では、イギリスを事例として、地誌学とはどういうものか、学校教育ではどのように地誌を教えるべきかを、そのことを理解していただくことが目的である。なお、世界を説明するためには、説明のための理論の知識も必要である。本授業では、基礎的知識も教授する。				
評価方法・基準	試験を行わない。授業で数回あるレポートにより評価する。				
課題のフィードバック方法	最終授業でレポートと研究案を講評する。				
履修上の注意事項等	授業では次の授業で持ちいる論文等を指示するので、それらを読むこと。				
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 地誌学の考え方 ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。</p> <p>2. 近代地誌学の歴史 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p> <p>3. イギリスとヨーロッパ、日本と大陸 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p> <p>4. イギリスの歴史 ----- [予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。</p>				

科目名	地理学特殊講義(三)	担当教員	☆ 根田 克彦
授業内容	5. 世界とイギリスの気候 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	6. 日本の気候 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	7. 世界とイギリスの地形 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	8. 日本の地形と自然災害 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	9. イギリスと日本の自然保護 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	10. イギリスの都市と農村 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	11. ロンドンの構造 -----		
	[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。		
	12. ロンドンのインナーシティ問題とドックランズの再開発 -----		
[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。			
13. オリンピックと都市再生 -----			
[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。			
14. イギリスの人種・民族問題 -----			
[予習・復習]今回の授業で示した論文を読む。			
15. 総括 -----			
[予習・復習]今までの授業でわからないことを整理しておく。			

科目名	地理学特殊講義(四)		担当教員	岡橋 秀典	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係	『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照		
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計			授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)		
テーマ	農業地理学:グローバル化にともない現代農業は大きく変化している。この授業ではその変化の実態、メカニズム、地域構造を把握する。				
到達目標	グローバル化時代における農業がもつ特徴と課題について、日本を中心に学習し、経済地理学的な観点から理解を深める。				
授業概要	日本の農業について、地理学的な視点からその特徴を論ずる。農業を捉える方法と枠組みについて説明した後、日本の農業の特徴を戦後の出発点、農業の再編成、農業の地域構造、主産地形成、農産物流通、フードシステムなどから多面的に考察する。日本の農業で、現在何が起こり問題となっているのか、しっかり理解できるようにしたい。				
評価方法・基準	平常点および、授業中に実施する学習到達度確認(筆記等による学力確認)により総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、添削の上、次回以降の授業で返却する。期間内に学習到達度確認を実施し、期間内に講評・解説を行う。				
履修上の注意事項等	授業内容に関連したプリントを配布する。				
テキスト	なし				
参考書	現代農村の地理学 岡橋秀典 古今書院 2020				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] シラバスに目を通す。農業がどのように日々の生活に関わっているのか考える。</p> <p>2. 農業とは ----- [予習・復習] 農業について具体的に知っていることを整理しておく。現代の農業の特徴について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>3. 農業の成立と伝播?多様な世界の農業 ----- [予習・復習] 世界の農業について知っていることを整理しておく。農業の伝播について講義内容を確認し理解を深める。</p> <p>4. 農業の発展と産業化 ----- [予習・復習] 近世の日本の農業について知っていることを整理しておく。歴史的な農業の変化について講義内容を確認し理解を深める。</p>				

科目名	地理学特殊講義(四)	担当教員	岡橋 秀典
授業内容	5. 農業の立地と形態 -----		
	[予習・復習] 都市近郊の農業について知っていることを整理しておく。農業立地論について講義内容を確認し理解を深める。		
	6. グローバル化と農業地域の変容 -----		
	[予習・復習] グローバル化と産業の関係について知っていることを整理しておく。グローバル化が農業に与える影響について講義内容を確認し理解を深める。		
	7. 日本農業の特徴―戦後の出発点 -----		
	[予習・復習] 農地改革について知っていることを整理しておく。日本の農業の特徴について講義内容を確認し理解を深める。		
	8. 戦後日本農業の再編成と農業政策 -----		
	[予習・復習] 農業政策で知っているものを整理しておく。戦後日本の農業の変化と農業政策の関係について講義内容を確認し理解を深める。		
	9. 日本農業の地域構造 -----		
	[予習・復習] 地域的に特徴のある農産物を整理しておく。日本農業の地域性とその要因について講義内容を確認し理解を深める。		
	10. 主産地の形成と構造 -----		
	[予習・復習] 知っている産地の例を整理しておく。主産地がどのように形成されるかについて講義内容を確認し理解を深める。		
	11. フードシステムとアグリビジネス -----		
	[予習・復習] 農産物がどのように我々の食卓まで来るのか、を整理しておく。企業がどのように農業の生産流通に関わっているのかを講義内容を確認し理解を深める。		
	12. 農産物貿易の拡大と農業地域の変化 -----		
[予習・復習] 主な輸入農産物について知っていることを整理しておく。日本における農産物の輸入と輸出の特徴について講義内容を確認し理解を深める。			
13. 6次産業の展開 -----			
[予習・復習] 農産物の加工食品の例について知っていることを整理しておく。6次産業がなぜ重要なのか、講義内容を確認し理解を深める。			
14. 日本農業の将来像 -----			
[予習・復習] 人工知能が発達すれば日本の農業はどうか考えてみる。農業の将来像に関する講義内容を確認し、自分の見解を考える。			
15. 授業の総括 -----			
[予習・復習] これまでの講義内容を確認しよく理解しておく。よく理解出来ていなかった点を確認し、再学習する。			

科目名	地理学特殊講義(五)		担当教員	土平 博	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近世城下町と陣屋町				
到達目標	近世城下町と陣屋町を対比しつつ、その類似点や相違点について理解する。				
授業概要	江戸期の城下町は全国各地に建設された代表的な近世都市といえる。まずは、城下町の成立、形態と構造に関する先行研究の成果を紹介していく。その一方で城下町に類似した陣屋町について紹介していく。その後、城・城下町ならびに陣屋・陣屋町を比較しながら、その相違を明らかにしていく。その際、とくに陣屋・陣屋町の特徴を見いだすことを目標とする。また、「陣屋町」の概念規定に取り組んできた先行研究をふまえて問題点を整理し、今後の研究課題についても検討する。さらに、町並み保存の対象になっている陣屋町についても紹介していく。以下の				
評価方法・基準	学習到達度確認(講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う)60%と平常授業時の課題(授業に対する積極性ならびに基本的な語句の理解度等講義内容の理解度を確認する)40%によって評価する。オンラインで実施する内容を含む。				
課題のフィードバック方法	提出された課題はコメントをつけて返却する。授業の前後で受講者全体に対して講評する。期間内に学習到達度確認を実施し、最終授業内で講評を行う(オンラインで実施する場合がある)。				
履修上の注意事項等	前期の「歴史地理学」とあわせて履修することをおすすめする。				
テキスト	使用しない。				
参考書	適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. 導入 近世城下町の研究史 ----- [予習・復習] シラバスの内容にしたがって授業の進め方をよく理解しておく。受講後は、城下町研究の経緯を時系列に整理しておく。</p> <p>2. 領域における城・城下町 ----- [予習・復習] 配付資料<城・城下町の基礎知識>を読んでおく。受講後は、全国各地の近世城下町の位置を確認しておく。</p> <p>3. 城絵図と城下絵図 ----- [予習・復習]配付資料<城下絵図を知る>を読んでおく。受講後は、城下絵図に関する課題に取り組む。</p> <p>4. 近世城下町の形態と構造(1)ー城下町プランの類型からー ----- [予習・復習]城下絵図の描写についてまとめておく。受講後は、城下町の形態について再度整理しておく。</p>				

科目名	地理学特殊講義(五)	担当教員	土平 博
授業内容	5. 近世城下町の形態と構造(2)－城下町プランの問題点と再構築の必要性－ -----		
	[予習・復習]城下町の形態分類について事前に配付する資料を読んでおく。受講後は、城下町の形態分類方法の問題点を再度整理しておく。		
	6. 近世城下町の町割と屋敷地割(1)－街区と町－ -----		
	[予習・復習]さまざまな城下絵図をみながら城下町の特徴を見つけておく。受講後は、絵図と地図を見比べて街区と町の関係について発展的に理解しておく。		
	7. 近世城下町の町割と屋敷地割(2)－街区と屋敷地－ -----		
	[予習・復習]さまざまな城下絵図をみながら城下町の特徴を見つけておく。受講後は、絵図と地図を見比べて街区と屋敷地の関係について発展的に理解しておく。		
	8. 城と陣屋 -----		
	[予習・復習]配付資料<城と陣屋>に基づいて、両者の相違点について事前に把握しておく。受講後、現存する陣屋の事例について視覚的に整理しておく。		
	9. 陣屋の分布と地域性 -----		
	[予習・復習]配付資料<陣屋の分類と分布>に基づいて、日本全体を見渡しておく。受講後は、陣屋の分布的特徴とその地域性を整理しておく。		
	10. 陣屋と領域(1) -----		
	[予習・復習]配付資料<領主と領域(1)>を読んで基本的事項を整理しておく。受講後は、陣屋と領域の関係について再度確認しておく。		
	11. 陣屋と領域(2) -----		
	[予習・復習]配付資料<領主と領域(2)>を読んで基本的事項を整理しておく。受講後は、陣屋と領域の関係について再度確認しておく。		
	12. 陣屋の移転をめぐる -----		
[予習・復習]配付資料<領域と陣屋移転>を読んで事例を整理しておく。受講後は、史料を読んで再度理解を深めておく。			
13. 「陣屋」と「陣屋町」 -----			
[予習・復習]配付資料<「陣屋町」>を読んで先行研究の論点を整理しておく。受講後は、「陣屋町」の概念に関する事項を整理しておく。			
14. 城下町と「陣屋町」 -----			
[予習・復習]配付資料<城下町と「陣屋町」>を読んで先行研究の論点を整理しておく。受講後は、城下町と「陣屋町」の概念に関する事項を整理しておく。			
15. 授業総括 -----			
[予習・復習]これまでの授業内容を整理しておく。受講後は、歴史地理学における「陣屋」・「陣屋町」研究を通じて、過去の地理的事象から地域問題を理解する。			

科目名	地理学特殊講義(六)		担当教員	三木 理史	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	交通地理学の位置づけや諸説をできるだけ幅広く、紹介し、地理学の交通研究を概説する。				
到達目標	受講生は、地理学での交通の取り上げや研究対象を活用して知識・技能を修得用する。特に他の系統地理学分野や他学との関係を視野に入れつつ多様な学際的思考が身につくようにする。				
授業概要	系統地理学の一分野に位置づけられる交通地理学の基礎的事項をできるだけ幅広く講義して理解してもらう。講義では、まず青木栄一「交通地理学を考える(一)」を講読することで、その学的成立を概観したうえで、これまでの研究内容をできるだけ幅広く概説する。				
評価方法・基準	授業内試験または学期末レポート(50点前後)と平常点を合計して100点で評価する。3分2以上の出席を受験条件とする。また、平常点加算のために平常レポートを課すこともある。				
課題のフィードバック方法	授業内試験または学期末レポートの講評や毎時間の質問のうち必要と思われるものについてコメントする。但し受講生が返信を望む場合は mikim@daibutsi.nara-u.ac.jp へ科目名、学籍番号、氏名を書いて送信。				
履修上の注意事項等	プリントの再配布は行わないのでe-learning上で取得すること。本授業は「観光・交通地理学」と対を成し、2023年度は本授業の内容を「観光・交通地理学」として開講予定(2023年度の「地理学特殊講義(六)」の内容は観光分野となる)。				
テキスト	なし				
参考書	基礎からの交通地理 木村辰男 古今書院 1991年 交通地理学の方法と展開 青木栄一 古今書院 2008年				
授業内容	<p>1. 講義の内容と準備について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 特になし・青木栄一「交通地理学を考える(一)」を一読</p> <p>2. 交通地理学の位置づけ・Ⅰ—学際性との関係—</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 青木「交通地理学を考える(一)」を素読・青木「交通地理学を考える(一)」を復習</p> <p>3. 交通地理学の位置づけ・Ⅱ—学史の展開—</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 青木「交通地理学を考える(一)」を素読・青木「交通地理学を考える(一)」を復習</p> <p>4. 交通地理学の位置づけ・Ⅲ—地理学の展開—</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 青木「交通地理学を考える(一)」を素読・青木「交通地理学を考える(一)」を復習</p>				

科目名	地理学特殊講義(六)	担当教員	三木 理史
授業内容	5. 交通路と結節点について・Ⅰ—塩の道—		

	[予習・復習] 富岡儀八『塩の道』を図書館などで一読		
	6. 交通路と結節点について・Ⅱ—鉄道町—		

	[予習・復習] 富岡儀八『塩の道』を図書館などで一読		
	7. 交通圏について・Ⅰ—駅勢圏—		

	[予習・復習] 有末武夫『交通圏の発見』を図書館などで一読		
	8. 交通圏について・Ⅱ—都市圏との関係—		

	[予習・復習] 有末武夫『交通圏の発見』を図書館などで一読		
	9. 交通流動について		

	[予習・復習] 奥井正俊『自動車交通の地域分析』を図書館などで一読		
10. 交通機関について・Ⅰ—陸上交通—			

[予習・復習] 青木栄一『交通地理学の方法と展開』を図書館などで一読			
11. 交通機関について・Ⅱ—水上交通—			

[予習・復習] 青木栄一『交通地理学の方法と展開』を図書館などで一読			
12. 交通体系について・Ⅰ—研究史の展開—			

[予習・復習] 三木理史『近代日本の地域交通体系』を図書館などで一読			
13. 交通体系について・Ⅱ—交通路網—			

[予習・復習] 三木理史『近代日本の地域交通体系』を図書館などで一読			
14. 交通体系について・Ⅲ—地域交通体系—			

[予習・復習] 三木理史『近代日本の地域交通体系』を図書館などで一読			
15. まとめ			

[予習・復習] 配布プリントの再読・授業内試験または学期末レポート			

科目名	地理学特殊講義(九)		担当教員	☆ 元田 茂充	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人間活動と生物圏を中心とした環境との多様な関係性の解明。				
到達目標	生物と人間活動の歴史的な関係、生物と関わる人間の多様な文化を理解できるようにする。				
授業概要	人間は様々な生物を狩猟・採集の対象、家畜化・栽培化の対象、有害駆除の対象、保護の対象、信仰の対象などとして認識してきた。そして、それぞれの局面において人間は多様な文化を育ててきた。 本講義では、①生物多様性はどのような人間活動のもとに維持されてきたか、②人間は生物資源との関わりの中でどのような文化を生み出してきたのか、③現代社会の中で、人間と生物の関係はどのように形成されているのか、などの観点から人間活動と生物との関係の諸相を検討していく。				
評価方法・基準	評価方法:論述形式の筆記試験の成績と平常成績により総合的に評価する。 評価の基準:定期試験の成績を50%、平常成績のうち課題の提出状況を40%、授業中の小レポートを10%とする。				
課題のフィードバック方法	①課題については、要点の説明と解説を授業時に行う。 ②小レポートについては、講評を授業時に行う。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②授業中に紹介する参考文献を読むと、より理解が深まる。 ③環境・生物と人間活動との関係性に注目してテレビを見たり、新聞を読む。 ④内容は順番が前後したり、受講生の興味・関心に応じて他の内容と差し替える場合がある。				
テキスト	使用しない。プリントを配布する。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
授業内容	<p>1. 導入:生物と人間の間を把握する視点</p> <p>-----</p> <p>予習:生物と人間の間に関係する情報を各種メディアで調べる。 復習:講義内容の要点や因果関係を整理し、論理展開を図示するなど、自分なりの講義ノートを作成する。</p> <p>2. アホウドリの保護と再導入</p> <p>-----</p> <p>予習:アホウドリの保護活動に関係する情報を各種メディアで調べる。 復習:講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。</p> <p>3. 日本アルプスにおけるライチョウの保護</p> <p>-----</p> <p>予習:ライチョウの保護活動に関係する情報を各種メディアで調べる。 復習:講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。</p> <p>4. 沖縄本島におけるヤンバルクイナの保護</p> <p>-----</p> <p>予習:ヤンバルクイナの保護活動に関係する情報を各種メディアで調べる。 復習:講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。</p>				

科目名	地理学特殊講義(九)	担当教員	☆ 元田 茂充
授業内容	5. 南西諸島におけるハブ咬傷と対策 -----		
	予習: 南西諸島におけるハブ咬傷に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	6. 甲府盆地におけるミヤイリガイの駆除 -----		
	予習: 甲府盆地における日本住血吸虫症に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	7. 琵琶湖におけるカワウの増加と被害 -----		
	予習: カワウによる被害に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	8. 都市におけるカラスの被害と対策 -----		
	予習: 都市におけるカラス被害に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	9. 日本在来馬の減少と保護 -----		
	予習: 日本在来馬の保護に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	10. 北海道における競走馬の生産 -----		
	予習: 競走馬の生産に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	11. 和牛の生産 -----		
	予習: 和牛の生産に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。		
	12. オーストラリアの野生化家畜 -----		
予習: 野生化家畜に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。			
13. 家畜化された昆虫 -----			
予習: 養蚕・養蜂に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。			
14. 長野県における昆虫食文化 -----			
予習: 昆虫食・ザザムシに関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。			
15. 動物信仰の諸相 -----			
予習: 神使・動物供養・稲荷・恵比寿に関連する情報を各種メディアで調べる。 復習: 講義内容の要点を整理し、自分なりの講義ノートを作成する。			

科目名	地理学特殊講義(十)		担当教員	武田 一郎	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界の陸地と日本列島の歴史、およびホモ・サピエンスと原始日本人の歴史				
到達目標	自然環境とその変化が人類の誕生・進化、および日本人の形成や文化圏に関係することを理解する。				
授業概要	2億年ほど前からの地球の有様および日本列島の形成プロセスを概説する。また、これらの自然環境の変化に対応して人類が誕生し、進化したことを説明する。さらに第四紀という最も新しい地質時代にアフリカでホモサピエンスが現れ、進化し、アフリカを出て人種が形成され、その一部が日本に到達して日本人の祖先となったことを紹介する。最後に、東北日本と西南日本の文化圏の形成・維持を自然環境の観点から述べる。				
評価方法・基準	評価方法:平常点(小テスト等など:50点)と定期試験(50点)で評価する。 評価基準:小テストおよび定期試験で授業内容を正しく理解しているかチェックする。				
課題のフィードバック方法	小テストに対するコメントを翌週の授業で提示し、定期試験の答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	毎回、必ず地図帳(テキスト=詳解現代地図)を持参すること。				
テキスト	詳解現代地図 最新版 二宮書店編集部 二宮書店 2022				
参考書	地学のススメ 鎌田浩毅 講談社 BLUE BACKS 2017 ホモ・サピエンスの誕生と拡散 篠田謙一 洋泉社 2017 アフリカで誕生した人類が日本人になるまで 溝口優司 SB新書 2014				
授業内容	<p>1. はじめに(ガイダンス)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]シラバスをよく読んでおく。[復習]「自然史」の定義について理解を深める。</p> <p>2. 大陸移動説(アルフレッド・ウェーゲナーの業績)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]地図帳で南米東岸とアフリカ西岸の海岸線の形状を調べておく。 [復習]「アイスタシー」の理解を深める。</p> <p>3. 海洋底拡大説とプレート・テクトニクス</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]マントル対流について調べておく。 [復習]地図帳で世界の海嶺・海溝の分布を確認する。</p> <p>4. 日本列島の土台の形成と火山</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]日本列島の表層地質の特徴を理解しておく。 [復習]付加体について理解を深める。</p>				

科目名	地理学特殊講義(十)	担当教員	武田 一郎
授業内容	5. 第四紀と古環境の推定方法 -----		
	[予習・復習] [予習] 第四紀について調べておく。[復習] 古環境の推定方法(年代測定も含む)をまとめる。		
	6. 第四紀における自然環境の変化 -----		
	[予習・復習] [予習] 第三紀と第四紀の自然環境の特色を理解しておく。[復習] ミランコビッチ・サイクルについてまとめる。		
	7. 人類の出現 -----		
	[予習・復習] [予習] 「人類」の定義を調べておく。[復習] 第四紀の自然環境の変化と人類の誕生との関係をまとめる。		
	8. 第四紀における人類の進化とホモ・サピエンスの誕生 -----		
	[予習・復習] [予習] 猿人・原人・旧人・新人の出現時期等を調べておく。[復習] 人類の進化と区分には諸説あることを確認する。人類が出現したと考えられているアフリカ東岸部の地形の特徴をまとめる。		
	9. 新人の拡散と人種の形成 -----		
	[予習・復習] [予習] 約2万年前の自然環境を調べておく。[復習] 氷期の自然環境についてまとめる。		
	10. 新人の日本列島への渡来 -----		
	[予習・復習] [予習] 世界地図で浅い海域がどこにあるかを調べておく。[復習] 陸地に氷が蓄積すると面が低下する理由を十分に理解する。		
	11. 旧石器時代の文化圏 -----		
	[予習・復習] [予習] 日本列島の形成について復習しておく。[復習] 植生圏と文化圏が一致する理由をまとめる。		
	12. 縄文時代の文化圏 -----		
[予習・復習] [予習] 縄文時代の特徴を調べておく。[復習] 縄文時代の自然環境と人間社会の関係をまとめる。。			
13. 平野の形成 -----			
[予習・復習] [予習] 地図帳で平野の種類を調べておく。[復習] 第四紀の自然環境の変化および造山運動と平野の関係をまとめる。			
14. 弥生時代の文化圏 -----			
[予習・復習] [予習] 弥生時代の特徴を調べておく。[復習] 弥生時代の自然環境と人間社会の関係をまとめる。			
15. おわりに(まとめ): 現在の日本の文化圏 -----			
[予習・復習] [予習] 日本の文化圏の地域性を調べておく。[復習] 授業内容をノートと配布プリントと地図帳で確認する。			

科目名	地理学特殊講義(十一)		担当教員	☆ 角 克明	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界の文化圏をテーマとして、自然と人間の関係、あるいは地域のとらえ方を学ぶ。				
到達目標	世界の文化圏をテーマとする地理学的な視点や考え方を習得して、そこから地理学各分野への応用をめざす。				
授業概要	この講義では、文化圏をテーマに地理学的な視点や考え方を学ぶ。授業計画は以下のとおり。世界の文化圏を理解するため、人文環境のほか、自然環境にもふれ、自然と人間の関係を考えてみたい。なお、個々の「文化」そのものを論じるわけではないので注意されたい。最終的には基礎的な知識の習得だけではなく、各自の専門分野や関心のある領域への応用をめざしたい。				
評価方法・基準	最終回に実施する学修到達度確認(筆記による講義内容の理解度:テーマや到達目標にあげたことからの理解とそれらを説明・表現できる力の有無)で評価する。ただし、授業進行にあわせて、それまでの学修内容を確認するための「授業後の質問」を実施予定(例えば、第3回授業後に第2回・第3回授業の内容が理解できているかどうかを確認するもの)。これらの蓄積が最終回の学修到達度確認へむすびつく。評価は上記の総合評価で行う。※詳細は第1回目の講義時に説明する予定であるため、必ず出席してきくこと。				
課題のフィードバック方法	最終回に実施する学習到達度確認の終了後、内容に関する講評を行う予定である。また、「授業後の質問」が実施された場合、つぎの講義で講評などを行う。				
履修上の注意事項等	講義には単に出席しているだけではなく、講義内容の理解が求められる。また、常に各自の専門分野や関心のある領域への応用的な展開を模索してほしい。なお、配付プリントはやむを得ず欠席する場合、友人に依頼して確保してもらるか、コピーさせてもらうなど、必ず入手すること。また、講義時の長時間退出や無断早退、大幅な遅刻、あらゆる不正行為には厳正に対処する。また、シラバスをよく読み、担当教員からの連絡事項などはききもらすことのないように十分注意し、不利益が生じないようにすること。				
テキスト	必要に応じてプリントを配付。※【注意】プリントは基本的に次回以降の講義で再配付しないが、余分がある場合に限って提供する。状況によってはオンライン配信を行うこともある(この場合は別に指示する)。				
参考書	参考書等は必要に応じて講義時に紹介・指示する。※『地図帳』を持参することが好ましい。				
授業内容	<p>1. オリエンテーション【必ず出席すること！】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)シラバスを読み、授業内容を理解する。 (復習)オリエンテーションの内容について確認する。</p> <p>2. 地理学における「自然と人間の関係」概観① 地理学の歴史からのアプローチ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)近代の地理学の歴史を調べてみよう。 (復習)近代の地理学史からみた自然と人間の関係について確認する。</p> <p>3. 地理学における「自然と人間の関係」概観② 文化と風土</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)事前に配布する資料を読んで、内容を理解する。 (復習)「風土」について確認する。</p> <p>4. 風土と気候環境① 地球規模の視点から</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)地球規模でみる気候はどのようにして発生し、地域的な差異を生み出すのかを調べてみよう。 (復習)「気候」と「気象」のちがいを明確にし、気候をめぐる諸事象・要因について確認する。</p>				

科目名	地理学特殊講義(十一)	担当教員	☆ 角 克明
授業内容	<p>5. 風土と気候環境② ケッペンの気候区分</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)世界の気候区分を行ったW・ケッペンについて調べてみよう。 (復習)ケッペンが行った気候区分の特色と気候記号について確認する。</p> <p>6. 世界の文化圏とその地理的背景</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)第1回～第5回までの授業内容を振り返って再確認する。 (復習)第7回以降の授業内容に対する基本的な視点や考え方(仮説・分析方法など)について十分に確認する。</p> <p>7. 地中海文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)地中海地方でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)地中海文化圏が成立する地理的背景について確認する。</p> <p>8. 西ヨーロッパ文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)西ヨーロッパ地方でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)西ヨーロッパ文化圏が成立する地理的背景について確認する。</p> <p>9. 東ヨーロッパ文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)東ヨーロッパ地方でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)東ヨーロッパ文化圏が成立する地理的背景について確認する。</p> <p>10. ヨーロッパの文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)第7回～第9回までの授業内容を振り返って再確認する。 (復習)3つの地域に区分してみたヨーロッパの文化圏をまとめてみた場合の共通項は何かを確認する。</p> <p>11. イスラム文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)イスラム文化圏(西アジア・北アフリカ地方)でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)イスラム文化圏が成立する地理的背景について確認する。</p> <p>12. 東アジア文化圏① 照葉樹林文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)東アジア文化圏でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)照葉樹林文化圏でみられる農耕文化の発展過程について確認する。</p> <p>13. 東アジア文化圏② 稲作文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)稲作を中心とした生活文化をもつ地域はどこに広がっているのかを調べてみよう。 (復習)照葉樹林文化圏と稲作文化圏の関連性について確認する。</p> <p>14. 日本国内の文化圏</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)日本の文化圏でみられる人々の生活文化について、関心のあることがらを調べてみよう。 (復習)東北日本と西南日本で異なる文化圏が成立する地理的背景について確認する。</p> <p>15. 授業総括</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] (予習)第1回～第14回までの授業内容を確認する。 (復習)全授業内容を整理する。</p>		

科目名	地理学特殊講義(十二)		担当教員	武田 一郎	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本農業の地域性				
到達目標	日本農業の変遷と地域的差異を理解する。また、日本農業の地域的性格の学習を通して、自然・人文環境と人間活動の関係を理解する。				
授業概要	農業の地域的差異は、各地の自然環境および、人口密度や歴史的背景、あるいは消費地との位置関係や交通システムなどの人文環境の違いから生じている。日本各地からさまざまな農業地帯を選定し、それぞれの農業の成り立ちを概説していく。				
評価方法・基準	評価方法:平常点(小テスト等など:50点)と定期試験(50点)で評価する。 評価基準:小テストおよび定期試験で授業内容を正しく理解しているかチェックする。				
課題のフィードバック方法	小テストに対するコメントを翌週の授業で提示し、定期試験の答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	毎回、必ず地図帳(テキスト=詳解現代地図)を持参すること。				
テキスト	詳解現代地図 最新版 二宮書店編集部 二宮書店 2022				
参考書	日本の地域像 岩本政教ほか 森北出版 日本の風土と文化 市川健夫 古今書院				
授業内容	<p>1. はじめに(ガイダンス)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]シラバスをよく読んでおく。[復習]。何を学ぶか確認しておく。</p> <p>2. 日本農業(その特色と近世以降の歴史:「米と繭」の時代から、「食糧輸入大国」までの変遷)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]日本の農業の歴史を把握する。</p> <p>3. 十勝平野の畑作と酪農(いくらがんばっても米はとれないし、消費地から遠い。どうしよう?)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]十勝平野の農牧業の特色、およびそれをもたらした要因についてまとめる。</p> <p>4. 石狩川流域の稲作(北海道の米の生産量は全国二位で、一位になったことも何度かある)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]石狩川流域の稲作の歴史についてまとめる。</p>				

科目名	地理学特殊講義(十二)	担当教員	武田 一郎
授業内容	5. 寒冷地の稲作(不思議なことに日本では亜熱帯性作物である稲の主産地が積雪地帯である)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]わが国では積雪地帯が稲作核心地域になっていること理由をまとめる。		
	6. 関東平野の農業(関東平野は意外にも農業の核心地帯。東京の台所)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]関東平野の農牧業の特色、およびそれをもたらした要因について整理する。		
	7. 長野県と山梨県の農業(長野といえばリンゴ。山梨といえばブドウ。両県ともに内陸県)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]長野県と山梨県で果樹栽培が盛んである理由をまとめる。		
	8. 静岡県農業(静岡県といえばお茶のみかん:その理由は?)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]静岡県でお茶とミカンの栽培が盛んである理由をまとめる。		
	9. 愛知県の農業(工業県のイメージがあるが、農業も盛んな地域=ミニ関東)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]愛知県で近郊農業が盛んになった理由を整理する。		
	10. 近畿の農業(古くは日本農業の先進地域。今は全国最低レベルの農業地域)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]近畿地方の農業が衰退している理由をまとめる。		
	11. 山陰の砂丘農業(砂丘は水さえあれば農業にむいている。)		
	----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]砂丘農業の特色についてまとめる。		
	12. 高知平野の暖地農業(米の二期作から輸送園芸へ)		
----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]大消費地から離れた暖地農業の特色を整理する。			
13. 南九州の農業(熊本の馬刺、鹿児島黒豚、宮崎は地鶏。芋焼酎も旨い)			
----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]南九州の農牧業の特色、およびそれをもたらした要因についてまとめる。			
14. 南西諸島の農業(日本では最も温暖であるにもかかわらず、稲作は不振。なぜだ?)			
----- [予習・復習] [予習]配布プリントを読んでおく。 [復習]南西諸島の農牧業の特色、およびそれをもたらした要因についてまとめる。			
15. まとめ			
----- [予習・復習] [予習]ノートを見直しておく。 [復習]授業を振り返る。			

科目名	地形学			担当教員	羽佐田 紘大
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地形に関する基本的な知識の習得				
到達目標	1. 地形の種類とその形成過程についての知識を習得する。 2. さまざまな地形と自然災害、土地利用との関係を把握する。				
授業概要	本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて解説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。さらに、地形図などを用いながら、対象地域の地形の特徴と人々の暮らしとの関係を理解していく。 なお、本講義は、対面ではなく【Web(教材提示による授業)】での実施を予定している。				
評価方法・基準	講義中に行う小テスト(基本的な内容を理解しているかを確認)、学習到達度確認(講義内容を正確に把握しているかを確認)を基に総合的に評価する。小テスト、学習到達度確認ともに e-learning を通じて実施する。				
課題のフィードバック方法	小テストは e-learning で実施し、次回の講義で解説する。学習到達度確認の実施・解説についても e-learning を通じて行う。				
履修上の注意事項等	毎回教材を e-learning で配布する。				
テキスト	教材を e-learning で配布				
参考書	適宜紹介				
授業内容	<p>1. ガイダンス／地形とは ----- [予習]シラバスを読み、各回の講義内容を把握する。[復習]地形図の読み方を確認する。</p> <p>2. 地形の規模と地形形成要因 ----- [予習]さまざまな大きさの地形の事例を調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>3. 地球の構造とプレートテクトニクス ----- [予習]地球の内部構造について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p> <p>4. 変動地形 ----- [予習]過去の地震災害について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。</p>				

科目名	地形学	担当教員	羽佐田 紘大
授業内容	5. 火山地形 -----	[予習]火山活動の事例について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	6. 風化とマスマーブメント -----	[予習]風化と土砂災害の事例について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	7. 河川地形(1):河谷と台地・段丘 -----	[予習]河川の作用について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	8. 河川地形(2):沖積低地 -----	[予習]近年の水害について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	9. 海岸地形(1):岩石海岸と砂浜海岸 -----	[予習]海岸侵食について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	10. 海岸地形(2):サンゴ礁とマングローブ -----	[予習]サンゴ礁の分布について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	11. 風による地形と乾燥・半乾燥地域の地形 -----	[予習]砂丘の事例について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	12. 氷河・周氷河地形 -----	[予習]過去および現在の氷河の分布について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	13. 組織地形 -----	[予習]カルスト地形について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	14. 地形の人工改変 -----	[予習]地形改変の事例について調べる。[復習]講義内容をノートにまとめるなどして整理する。	
	15. まとめ(学習到達度確認の実施) -----	[予習]これまでの講義内容の要点をノートにまとめるなどして整理し、学習到達度確認に備える。[復習]地形学に関連する文献を調べ、理解を深める。	

科目名	気候学			担当教員	木村 圭司
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	気候学の基礎的事項を概観する				
到達目標	気候学の基礎概念を理解する。また、さまざまな時空間スケールにわたる気候と、それに関係する人間との関係を理解する。				
授業概要	気候学は、地球上の大気に関わる諸現象を理解しようとする地理学の一分野である。気候は、地球規模から地域・身の回りまで、さまざまな空間スケールで存在し、人間に多大な影響を与えている。また、気候は時を追って、周期的・非周期的な変化を示す。こうした気候のさまざまな側面を整理し、考察していく。				
評価方法・基準	毎回講義中に行う確認テスト(50%)と、15回目に行う学習到達度調査(50%)を総合して評価する。毎回の小テストの提出をもって出席扱いとする。毎回の小テストは、指示通り提出すること。				
課題のフィードバック方法	毎回行う小テストは、答え合わせを行う。学習到達度調査は、終了後の時間で解説を行う。				
履修上の注意事項等	出席が10回未満の受講生は「出席不足により不可」とする。学習到達度調査は、対面で行う予定である。				
テキスト	特になし				
参考書	やさしい気候学(第3版) 仁科淳司 古今書院 2014				
授業内容	<p>1. 気候とは(ガイダンス)</p> <p>-----</p> <p>[予習]Google Classroom上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>2. 異常気象と気候変化</p> <p>-----</p> <p>[予習]Google Classroom上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>3. 地球温暖化</p> <p>-----</p> <p>[予習]Google Classroom上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>4. 大気の大循環とモンスーン</p> <p>-----</p> <p>[予習]Google Classroom上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p>				

科目名	気候学	担当教員	木村 圭司
授業内容	<p>5. 世界の気候区分 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>6. 日本付近の総観気候と動気候 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>7. 都市気候(ヒートアイランドとクールアイランド) ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>8. 生気候 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>9. 気象による災害 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>10. テレコネクション(エルニーニョ現象など) ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>11. 乾燥地の気候 ----- [[予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>12. 寒冷地の気候 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>13. 小気候 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>14. 気候の観測 ----- [予習]Google Classroom 上の資料を見ておく。 [復習]授業を振り返り、小テストが完全に解けるようにする。</p> <p>15. 学習到達度調査(対面を予定) ----- [予習]これまでの復習をしておく。 [授業]学習到達度調査を対面で行い、終了後に解説を行う。 [復習]学習到達度調査の内容を復習する。</p>		

科目名	水文学			担当教員	木村 圭司
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	高校(理系)の数学・物理・化学に関する理解を基礎として、地理学および工学における「水文学(すいもんがく)」を概説する				
到達目標	水文学の基礎概念を理解する。また、さまざまな時空間スケールにわたる水文現象と、人間との関係を理解する。				
授業概要	地球は「水の惑星」とよばれている。水文学は、地球上の水に関わる諸現象を理解しようとする地理学の一分野であり、陸水学や雪氷学とも深い関係がある。水は人間にとって身近な存在であり、なくてはならないものであるが、一方で水による災害も多い。こうした水のさまざまな側面を整理し、考察していく。理系向けの専門科目講義のため、高校(理系)の数学・物理・化学の十分な知識をもって、講義に臨んでほしい。				
評価方法・基準	毎回講義中に行う確認テスト(50%)と、学習到達度調査(50%)を総合して評価する。毎回の小テストの提出をもって出席扱いとする。小テストの提出方法は授業中に指示する。				
課題のフィードバック方法	毎回行う小テストは、答え合わせを行う。学習到達度試験は、終了後の時間で解説を行う。				
履修上の注意事項等	毎回行う小テストで出席をとる。出席が10回未満の受講生は「出席不足により不可」とする。学習到達度調査は、対面で試験を行う予定である。この授業は、高校の理系物理・化学・数Ⅲについては復習を行わない、理系向けの授業である。				
テキスト	使用しない。				
参考書	Fundamentals of Hydrology 2nd edition Tim Davie Routledge 2008 水文学 風間 聡 コロナ社 2011 自然地理学 松山 洋 ほかに ミネルヴァ書房 2014				
授業内容	<p>1. 水文学とは(ガイダンス)「ミネラルウォーターと温泉」 [予習]高校の化学(イオンなど)を復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>2. 水の分布、水循環と水収支 [予習]統計処理について復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>3. 水の性質(物理的性質と化学的性質)と水質 [予習]高校の物理(運動方程式など)、化学(イオンなど)を復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>4. 降水現象(大気中の水蒸気、降水メカニズム、雨雪判別) [予習]高校の化学(状態方程式など)を復習しておく。 [復習]しておく。講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p>				

科目名	水文学	担当教員	木村 圭司
授業内容	<p>5. 降水レーダーと解析雨量 [予習]高校の物理(波の性質など)を復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>6. 蒸発散(蒸発と蒸散、観測と推定)と地域特性 [予習]中学校レベルの生物(とくに光合成)について復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>7. 貯留(浸透、土壌水分、地下水流動、積雪、水源涵養) [予習]高校の物理(運動方程式など)と数学(数Ⅲレベルの積分)について復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>8. 地表流(さまざまな流出、流量の表記、水位と流量) [予習]高校の物理(運動方程式など)と数学(数Ⅲレベルの積分)について復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>9. 流出解析と再現期間、土地利用の変化と流出変化 [予習]微分積分、物理(連続の式)などを復習しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>10. 河川と湖沼 [予習]シラバスを見て、参考文献に目を通しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>11. 水問題(水資源と水の利用)、水資源の利用 [予習]シラバスを見て、参考文献に目を通しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>12. 水害、水がもたらす土砂災害と砂防 [予習]シラバスを見て、参考文献に目を通しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>13. 氷河と氷床 [予習]シラバスを見て、参考文献に目を通しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>14. 海洋・海流と陸水 [予習]シラバスを見て、参考文献に目を通しておく。 [復習]講義で習った内容について、インターネット情報などを基に確認し、講義中に疑問に思った点を解決する。</p> <p>15. 学習到達度調査 ----- [予習]これまでの復習をしておく。 [授業]対面で学習到達度調査を行い、終了後に解説を行う。 [復習]試験の内容を復習する。</p>		

科目名	災害地理学(一)		担当教員	☆ 高田 将志	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人類が経験し、乗り越えてきた自然災害について概観する。				
到達目標	自然災害に関わる基本的知識を理解し、関連する情報・知識を論理的に分析・表現するとともに、授業履修後も自律・自立して学習できるバックグラウンドを身に着ける。				
授業概要	主に自然地理学の視点から、自然災害と関わる基礎的内容について講義する。授業では、中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の教員を目指す学生にとって必須の内容を中心に据えながら、歴史的な視点も含めつつ、自然災害の発生要因・発生メカニズムと防災対策などについて紹介する。				
評価方法・基準	毎回授業のコメントシートの内容(授業内容の要約と質問)を平常点70%、期末レポートを30%(文献・資料等の適切な引用を重視)として評価する。				
課題のフィードバック方法	・コメントシートの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介する。 ・期末レポートの公表は、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	地図帳(一般向け地図帳, 高校地図帳など; 種類は問わない)を毎回持参すること。				
テキスト	担当者よりプリントを配布				
参考書	写真と図でみる地形学 増補新装版 貝塚爽平ほか 東京大学出版会 2019 建設技術者のための地形図読図入門 (第1巻)読図の基礎 鈴木隆介 古今書院 1997 日本歴史災害事典 北原糸子ほか編 吉川弘文館 2012				
授業内容	<p>1. ガイダンス/地球表層の変動と自然災害</p> <p>-----</p> <p>予習: シラバスを熟読して授業計画の概要を掴む 復習: 各自のノートを整理し、理解不足の箇所について自ら調べ、補足修正する。</p> <p>2. 地震発生のメカニズム(1): 地球の内部構造とプレート</p> <p>-----</p> <p>予習: 高校地理の教科書で、プレートテクトニクス関連の事項を読んでおく。 復習: プレートテクトニクスに関して各自のノートを整理し、補足修正しておく。</p> <p>3. 地震発生のメカニズム(2): プレートテクトニクスと大陸移動</p> <p>-----</p> <p>予習: 書籍等のプレートテクトニクスに関連する章・節を読む。 復習: プレートテクトニクスに関して各自のノートにまとめておく。</p> <p>4. 地震と活断層(1): 活断層の長期評価</p> <p>-----</p> <p>予習: 活断層の用語について調べ、ノートにメモしておく。 復習: 具体的な活断層を例に、長期評価などについてHPなどで調べてみる。</p>				

科目名	災害地理学(一)	担当教員	☆ 高田 将志
授業内容	5. 地震と活断層(2):身近な活断層について考える		

	予習:自分たちの身の回りに存在する活断層について調べてみる。		
	復習:授業で取り上げた活断層について、HP等で、さらに詳しく調べてみる。		
	6. 地震と津波災害		

	予習:書籍などで、津波災害と関連する章・節を各自で読む。		
	復習:津波に関して、各自のノートを整理し、理解不足の箇所について自ら調べ、補足修正する。		
	7. 火山と火山災害/イントロダクション		

	予習:日本にどのような火山があるか地図帳で調べてみる。		
	復習:授業で取り上げた火山について、HP等で、さらに詳しく調べてみる。		
	8. 火成岩とマグマ		

	予習:世界の火山にどのようなものがあるか地図帳で調べてみる。		
復習:授業で取り上げた火山について、HP等で、さらに詳しく調べてみる。			
9. 火山噴火の諸相(1):噴火様式と火山噴出物の諸相			

予習:Google Earthで日本の火山を空から眺めてみる。			
復習:授業で取り上げた火山について、Google Earthで確認しておく。			
10. 火山噴火の諸相(2):噴火の映像を見る			

予習:Google Earthで世界の火山を空から眺めてみる。			
復習:授業で取り上げた火山について、Google Earthで確認しておく。			
11. 歴史時代の火山災害			

予習:日本における歴史時代の火山災害についてどのようなものがあるか調べてみる。			
復習:授業で取り上げた火山噴火について、HP等で、さらに詳しく調べてみる。			
12. 河川と水害(1):低地の地形と水害			

予習:近年、日本で発生した水害について調べてみる。			
復習:授業で取り上げた水害について、HP等で、さらに詳しく調べてみる。			
13. 河川と水害(2):日本の河川の特徴			

予習:日本列島の河川の特徴について、関連書籍の関連章節を読んでみる。			
復習:河川流量について、ノートに整理しておく。			
14. 河川と水害(3):外水氾濫と内水氾濫			

予習:河川の治水に関する国の方針などについて、国土交通省のHPなどで調べてみる。			
復習:水害に関して、自分のノートを十分に整理しておく。			
15. 土砂災害の諸相:地すべり・崩壊・土石流			

予習:土砂災害対策に関する国の方針などについて、国土交通省のHPなどで調べてみる。			
復習:土砂災害に関して、自分のノートを十分に整理しておく。			

科目名	災害地理学(二)			担当教員	武田 一郎
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	自然災害のメカニズムと地域性および人間社会との関係				
到達目標	自然現象(災害)のメカニズムおよび自分が住む場所・居る場所で起こりうる自然災害を知る。また、自然災害が人間社会に及ぼした影響と、自然災害には人間側にも問題があることを認識する。				
授業概要	自然災害はこれまで何度となく繰り返されてきた自然の営みの結果であり、残念ながらこれからも頻繁に発生する。この授業では、「自然災害が自然現象の結果である」との立場から、自然災害のメカニズムと地域性を概説する。また、自然災害に対する人間の対応とその結果としての人間社会の変化の例を取り上げる。さらに、自然災害や環境問題は受け手である人間側の問題でもあることや、「自然の恵み」の側面もあることを説明する。				
評価方法・基準	評価方法:平常点(小テスト等など:50点)と定期試験(50点)で評価する。 評価基準:小テストおよび定期試験で授業内容を正しく理解しているかチェックする。				
課題のフィードバック方法	小テストに対するコメントを翌週の授業で提示し、定期試験の答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	毎回、必ず地図帳(テキスト=詳解現代地図)を持参すること。				
テキスト	詳解現代地図 最新版 二宮書店編集部 二宮書店 2022				
参考書	自然環境の生い立ち 田淵 洋 朝倉書店 2012 科学の目で見る日本列島の地震・津波・噴火の歴史 山賀 進 ベレ出版 2016 「地球温暖化」神話 終わりの始まり 渡辺 正 丸善出版 2012				
授業内容	<p>1. はじめに(ガイダンス;自然災害の性格=自然の営み、人が居なければ単なる自然現象)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]シラバスをよく読んでおく。 [復習]自然災害の性格について復習する。</p> <p>2. 日本に自然災害が多い理由</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]環太平洋造山帯、大陸東岸部の気候について調べておく。 [復習]日本が自然災害のデパートである理由をまとめる。</p> <p>3. 地震と活断層</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]世界と日本における地震の分布を調べておく。 [復習]世界の新期造山帯の自然災害について調べる。</p> <p>4. 津波</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] [予習]津波の発生にのメカニズムを調べておく。 [復習]津波は「高さ」以外にも、脅威が数多いことを理解する。</p>				

科目名	災害地理学(二)	担当教員	武田 一郎
授業内容	5. 火山 -----		
	[予習・復習] [予習]世界と日本の火山の分布を調べておく。[復習]火山噴火から身を守る方法を理解する。		
	6. 水害 -----		
	[予習・復習] [予習]沖積地の地形と内水氾濫について調べておく。[復習]自宅が含まれる地域のハザードマップを入手し授業内容との関連を調べる。		
	7. 土砂災害 -----		
	[予習・復習] [予習]がけ崩れ、土石流、地すべりの発生メカニズムについて調べておく。[復習]どのようなときに土砂災害が起こりやすいかをまとめる。		
	8. コリオリの力と潜熱 -----		
	[予習・復習] [予習]貿易風と偏西風について調べておく。[復習]水蒸気が大きなエネルギーを有することを理解する。		
	9. 積乱雲発生時の災害 -----		
	[予習・復習] [予習]潜熱との関連で対流性降水のメカニズムを理解しておく。[復習]積乱雲が発達すると、集中豪雨のみならず、強風・落雷・雹や霰・竜巻などの災害も発生することを理解する。		
	10. 台風と災害 -----		
	[予習・復習] [予習]熱帯低気圧が発生しやすい場所の特徴を調べておく。[復習]台風の進路を決める要素と被害を受けやすい位置・状況についてまとめる。		
	11. エル・ニーニョ現象 -----		
	[予習・復習] [予習]惑星風と海流の関係を調べておく。[復習]エル・ニーニョとラ・ニーニャの関係をまとめる。		
	12. 気象災害と人間社会(1): 中世の温暖期以降の寒冷化(13世紀~15世紀) -----		
[予習・復習] [予習]寒冷化が起こった時(=食料不足に陥った時)の人間社会の対応を考えておく。[復習]シュペングラーの主張をまとめる。			
13. 気象災害と人間社会(2): 小氷期(17世紀~19世紀) -----			
[予習・復習] [予習]太陽の黒点数とダルトン極小期について調べておく。[復習]気象災害と社会の変化との関係を整理する。			
14. 炭酸ガスと地球温暖化 -----			
[予習・復習] [予習]温室効果のメカニズムについて調べておく。[復習]炭酸ガスと温暖化の関係についての相反する意見をまとめる。			
15. おわりに(自然の「恵み」とまとめ) -----			
[予習・復習] [予習]自筆ノート、配布プリント、地図帳で授業を振り返っておく。[復習]地象災害にも気象災害にもプラスの側面もあることを考える。			

科目名	文化財学研究法 I		担当教員	相原 嘉之.魚島 純一.千田 嘉博.共同	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	文化財の種類・研究分野、文化財の基本的な調査・研究方法を学ぶ				
到達目標	文化財研究の入門編である。(1)文化財の種類と研究分野、文化財保護の仕組みと活用。(2)文化財研究における保存科学的な研究方法。(3)文化財調査法、文化財情報の調べ方、の基本的な3テーマを学習し理解する。				
授業概要	文化財は過去の人々の営みを伝える貴重な財産(資料)である。ここでは、3つのテーマをクラス分けに従って受講し、文化財の基礎知識を学ぶ。(1)元文化財行政職の経験を生かして、遺跡や古墳、土器や石器、お寺や仏像等々の文化財の種類とその特徴、文化財保護の仕組みや社会的意義、活用などの文化財全般について解説する【相原】。(2)元徳島県立博物館学芸員の実務経験を生かして、自然科学的手法を用いた保存科学的調査・研究を紹介し、分析や保存処理も体験する【魚島】。(3)どのように文化財研究を進めるのか、文化財情報の調べ方を身				
評価方法・基準	期末における学習到達度確認において評価する。3つテーマの基本的な内容を把握しているかを論述形式で問う。				
課題のフィードバック方法	期間内に学習到達度確認を実施し、最終授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	ガイダンスでクラス分けと日程の説明を行う。指定されたクラスと日程に従ってローテーションを行い、3テーマ(教員)の授業と合同授業のすべてを受けること。随時資料を配付する。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. ガイダンス:「文化財学研究のすすめ」、「授業の目的」を紹介し、クラス分け等の説明を行う【合同】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを熟読して臨むことが重要。説明内容を十分整理して理解すること。</p> <p>2. 文化財学の基礎1:文化財とは何か?【相原】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] ガイダンスに従って受講し、文化財の基本的な理解を行う。</p> <p>3. 文化財学の基礎2:文化財の保護と法制度のあゆみ【相原】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回までの授業内容を理解し、文化財保護について考える。</p> <p>4. 文化財学の基礎3:文化財保護の組織と専門職員【相原】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 文化財保護の内容を整理し臨み、その組織と専門職員について理解する。</p>				

科目名	文化財学研究法 I	担当教員	相原 嘉之.魚島 純一.千田 嘉博.共同
授業内容	<p>5. 文化財学の基礎4:文化財の保存・活用と地域づくり【相原】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 2~4回の授業内容を整理し、文化財の保存や活用について考える。</p> <p>6. 保存科学研究法1:文化財研究と保存科学【魚島】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] ガイダンスに従って受講し、文化財を科学の目でみるということを学ぶ。</p> <p>7. 保存科学研究法2:文化財の保存科学的処理【魚島】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回の講義を整理し、文化財を科学の力で保存する方法を理解知る。</p> <p>8. 保存科学研究法3:文化財の保存科学調査【魚島】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 科学の目で見えた文化財の実例について整理し、その重要性を理解する。</p> <p>9. 保存科学研究法4:文化財の保存環境【魚島】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 6~8回の講義内容を整理し、文化財の保存環境について考える。</p> <p>10. 文化財の調査方法1:文化財研究の第一歩は図書館制覇にあり【千田】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 大学図書館を訪ねて親しむ。</p> <p>11. 文化財の調査方法2:文化財専門書籍の探索と発見【千田】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 大学図書館で書籍を探す自主トレーニングを行う。</p> <p>12. 文化財の調査方法3:文化財専門論文の探索と発見【千田】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 大学図書館の雑誌書庫を自主的に探検して興味がある分野の書棚に親しむ。</p> <p>13. 文化財の調査方法4:文化財の書籍と専門論文探索の実践練習【千田】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 大学図書館で文献を自在に探し出して関心のある分野の知見を深める。</p> <p>14. 文化財の現地調査:石のカラト古墳見学【合同】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配付した資料で学習し、現地見学を行って観察方法や記録方法を整理する。</p> <p>15. 授業のまとめ:文化財の基本的理解と研究方法の整理【合同】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] これまでの全授業を整理して、文化財の基本を復習する。</p>		

科目名	文化財学研究法Ⅱ		担当教員	大河内 智之・豊島 直博・吉川 敏子・共同	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	(豊島)考古資料の調査研究入門 (大河内)美術作品の調査研究入門 (吉川)文献史料の調査と研究				
到達目標	(豊島)考古資料の調査研究法を学ぶ (大河内)美術作品の調査研究方法を学ぶ (吉川)文献史料を読む方法を学ぶ				
授業概要	(豊島)考古学はどのような学問か。その歴史、研究方法、発掘調査について、元文化庁の埋蔵文化財担当調査官としての実績を生かした講義を行い、具体例をもとに学ぶ。 (大河内)美術史学は絵画や彫刻、工芸など造形芸術の歴史を明らかにする学問である。元学芸員の経験を元に地域に伝来する美術資料の調査研究法について学習する。 (吉川)史料学は、文字資料を正しく読解することから始まる。文献史料を研究するための基礎知識や、関係する辞書類と特徴、漢文の基礎などを学ぶ。				
評価方法・基準	(豊島)講義の内容に関するレポート。A4、1枚程度。 (大河内)講義内の課題 (吉川)課題提出と小テストで評価する。配点は1:4				
課題のフィードバック方法	レポートにコメントを付記して返却する。				
履修上の注意事項等	受講者は3クラスに分かれ、(一)の受講者は豊島担当分から、(二)の受講者は大河内担当分から、(三)の受講者は吉川担当分から受講します。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. (豊島) 考古学の課題と現状、歴史 ----- [予習・復習]シラバスを読んで内容を理解する。授業で取り上げた概説書を読む。</p> <p>2. 考古学資料の分類と編年 ----- [予習・復習]自分の好きな考古資料を考えておく。授業の方法を実践する。</p> <p>3. 考古資料の解釈 ----- [予習・復習]考古学の概説書を読んでおく。授業で取り上げた文献を読む。</p> <p>4. 発掘調査の方法 ----- [予習・復習]考古学の概説書を読んでおく。授業で取り上げた文献を読む。</p>				

科目名	文化財学研究法 II	担当教員	大河内 智之・豊島 直博・吉川 敏子・共同
授業内容	<p>5. 特別講義 ----- [予習・復習]講義内容を事前に確認する。講義で取り上げた文献を調べる。</p> <p>6. (大河内)地域に伝わる美術資料のさまざま ----- [予習・復習]ガイダンスに従って受講し、美術資料の基本的な理解を行う。</p> <p>7. (大河内)美術作品の調査研究－彫刻－ ----- [予習・復習]前回講義の内容を理解する。彫刻資料の調査のあり方を理解する。</p> <p>8. (大河内)美術作品の調査研究－絵画－ ----- [予習・復習]前回講義の内容を理解する。絵画資料の調査のあり方を理解する。</p> <p>9. (大河内)文化財をとりまく環境－仏像盗難－ ----- [予習・復習]前回講義の内容を理解する。地域の文化財の課題を把握する。</p> <p>10. 正倉院展の見学(学外授業) ----- [予習・復習]正倉院の歴史について調べておく。図録を読み直す。</p> <p>11. (吉川)日本史の基礎知識 ----- [予習・復習]日本古代の五畿七道について高校日本史B教科書などでおさらいしておくこと。試験範囲の暗記。</p> <p>12. 史料学を学ぶための辞典類の紹介 ----- [予習・復習]文語の活用形のおさらい。試験範囲の暗記。</p> <p>13. 漢文の基礎1 ----- [予習・復習]高校教科書程度の漢文をおさらいしておくこと。試験範囲の暗記。</p> <p>14. 漢文の基礎2 ----- [予習・復習]高校教科書程度の漢文をおさらいしておくこと。試験範囲の暗記。</p> <p>15. 小テストとまとめ ----- [予習・復習]授業のノートを見直しておくこと。できなかった部分を調べること。</p>		

科目名	考古学概論 I		担当教員	相原 嘉之	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	考古学はどのような学問か				
到達目標	考古学の目的と基本的な方法の理解				
授業概要	日本では埋蔵文化財保護の一環で遺跡の発掘調査が行われており、考古学は歴史研究において大きな役割を果たしている。この講義では、奈良文化財研究所・滋賀県・明日香村の各機関で埋蔵文化財調査や文化財保護行政に携わった実績を生かし、考古学本来の目的やその基本的な研究法、さらには現代社会における考古学の役割について学ぶ。				
評価方法・基準	複数回実施するレポート作成において、講義の内容を正確に理解しているかについて問う。				
課題のフィードバック方法	学習到達度確認のレポートをの講評を行う。				
履修上の注意事項等	授業はポータルサイトによる資料提示と課題提示よって実施。 学外授業は史料学概論と合同で実施。日程の詳細は、授業で発表する。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	日本の考古学(上・下) 奈良文化財研究所編 学生社 2007 はじめて学ぶ考古学 佐々木憲一ほか 有斐閣 2011 日本考古学・最前線 日本考古学協会編 雄山閣 2018				
授業内容	<p>1. はじめに考古学とは(ガイダンス)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスの予習。講義の進め方と概説書の確認。</p> <p>2. 考古学の特質</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。考古学の特質の理解。</p> <p>3. 日本考古学史</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。学史の理解。</p> <p>4. 1～3回目内容について確認し、レポート作成</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。特質と歴史の理解。</p>				

科目名	考古学概論 I	担当教員	相原 嘉之
授業内容	5. 学外授業(西大寺周辺) ----- [予習・復習] 見学地の予習。見学場所の理解。		
	6. 発掘調査の意義と方法 ----- [予習・復習] 概説書による予習。発掘の基本を理解。		
	7. 整理調査の意義と方法 ----- [予習・復習] 概説書による予習。整理の基本を理解。		
	8. 史料学・民俗学と考古学 ----- [予習・復習] 概説書による予習。関連分野の基本を理解。		
	9. 6～8回目の内容について確認し、レポート作成 ----- [予習・復習] 概説書による予習。発掘調査の理解。		
	10. 学外授業(平城宮) ----- [予習・復習] 見学地の予習。見学場所の理解。		
	11. 考古資料における絶対年代と相対年代 ----- [予習・復習] 概説書による予習。年代決定の基本を理解。		
	12. 土器編年・瓦編年とその意義 ----- [予習・復習] 概説書による予習。土器・瓦編年を理解。		
	13. 理科学的年代決定法 ----- [予習・復習] 概説書による予習。科学的な年代論の理解。		
	14. 11～13 回目の内容について確認し、レポート作成 ----- [予習・復習] 概説書による予習。年代れってい法の理解。		
	15. まとめ レポート作成(学習到達度確認) ----- [予習・復習] 講義全体のポイントを予習。自分の理解の度合いを確認。		

科目名	考古学概論Ⅱ		担当教員	相原 嘉之	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	考古学による日本列島史				
到達目標	考古学によって明らかにされた日本史を学び、時代ごとの特徴と現代につながる人びとの歴史について理解する。				
授業概要	前期の考古学概論Ⅰに続いて、奈良文化財研究所・滋賀県・明日香村の調査機関・文化財保護行政での実績を生かして、遺跡の発掘調査により明らかにされた旧石器時代から中近世までの具体的な通史を学ぶ。現代の地域社会は過去の歴史の蓄積のもとに成立しているものであり、時代ごとの考古資料のあり方を理解することが重要である。				
評価方法・基準	複数回実施するレポート作成において、講義の内容を正確に理解しているかを問う。				
課題のフィードバック方法	学習到達度確認のレポートの講評を行う。				
履修上の注意事項等	授業はポータルサイトによる資料提示と課題提示によって実施。 学外授業は、史料学概論と合同で実施。日程の詳細は授業で発表。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	日本の考古学(上・下) 奈良文化財研究所編 学生社 2007 はじめて学ぶ考古学 佐々木憲一ほか 有斐閣 2011 日本考古学・最前線 日本考古学協会編 雄山閣 2018				
授業内容	<p>1. はじめに</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスの予習。全体の流れを理解</p> <p>2. 旧石器時代</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。旧石器時代の特徴を理解</p> <p>3. 縄文時代</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。縄文文化の特徴を理解</p> <p>4. 1～3の内容について確認し、レポートを作成</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概説書による予習。旧石器・縄文文化を理解</p>				

科目名	考古学概論 II	担当教員	相原 嘉之
授業内容	5. 学外授業(奈良公園)		
	[予習・復習] 見学場所の予習。見学場所のポイントを理解		
	6. 弥生時代(1)水田・土器・祭祀		
	[予習・復習] 概説書による予習。弥生文化の特徴を理解		
	7. 弥生時代(2)集落・墳墓		
	[予習・復習] 概説書による予習。弥生文化の特徴を理解		
	8. 6～7の内容について確認し、レポートを作成		
	[予習・復習] 概説書による予習。弥生文化を理解		
	9. 古墳時代(1)古墳		
	[予習・復習] 概説書による予習。古墳文化の特徴を理解		
	10. 学外授業(平城宮北方)		
	[予習・復習] 見学場所の予習 見学場所のポイントを理解		
	11. 古墳時代(2)集落・祭祀		
	[予習・復習] 概説書による予習。古墳文化の特徴を理解		
	12. 9～11の内容について確認し、レポートを作成		
[予習・復習] 概説書による予習。古墳文化の理解			
13. 飛鳥時代			
[予習・復習] 概説書による予習。飛鳥文化を理解			
14. 奈良時代			
[予習・復習] 概説書による予習。奈良文化を理解			
15. 13～14の内容について確認し、レポートを作成			
[予習・復習] 講義全体の予習。飛鳥・奈良文化を理解			

科目名	美術史概論Ⅰ		担当教員	原口 志津子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	美術史学の基本を学ぶ。担当者の専門分野が日本絵画史なので日本絵画史寄りの講義となる。				
到達目標	1. 作品をよく観察し、客観的に記述できるようになる。 2. 作品をよく理解するために様式論、図像学に関する基礎的な知識を得る。				
授業概要	美術史学の基本的な知識を得るために、講義における解説、配付プリントの穴埋めによる復習を繰り返す。 同時に、美術史学とは美術に関するトリビアな知識を学んだり、感想文を書くものではなく、綿密な観察と客観的な記述が必要であることを添削指導を通じて学ぶ。 講義内容は見学すべき展覧会の会期によって前後する場合がある。				
評価方法・基準	講義中の課題 60%。論述課題の場合の評価基準は講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」に従う。 学習到達度確認 40%。講義で学んだ基礎知識を選択肢問題で数値化して評価する。				
課題のフィードバック方法	論述課題の場合は添削して返却する。そのほかの課題は講義中に答え合わせをし、解説を行う。				
履修上の注意事項等	授業で取り上げた作品は、可能な限りe 国宝で見るほか、実見できるように努力すること。				
テキスト	日本美術史ハンドブック 辻惟雄・泉武夫編 新書館 2009				
参考書	日本美術史 JAPANESE ART HISTORY 山下裕二・高岸輝 監修 美術出版社 2014 仏像のみみつ 山本勉 朝日出版社 2006				
授業内容	<p>1. 講義の進め方、評価の方法などを説明する。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの履修上の注意事項、講義の進め方をよく読んでおく。 ・図書館にゆく。 <p>2. 美術史学にとって基本となる概念と作品記述について解説する。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストのp180~181を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。 <p>3. 指定した画像を観察し、作品記述を実践する。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配付プリントの「作品記述」の部分を読む。 ・指定したURL(ホームページ)を閲覧する。 <p>4. 返却された提出物を「チェックリスト」を利用して修正する。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の講義中に配付された「日本語表現チェックリスト」を読む。 ・添削された部分を直す。 				

科目名	美術史概論 I	担当教員	原口 志津子
授業内容	5. 「様式史」について解説する。 -----		
	[予習・復習] ・テキストのp174～175 を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	6. 「図像学」についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・配付プリントの「図像学」を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	7. 飛鳥時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	8. 奈良時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	9. 平安時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	10. 鎌倉時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	11. 室町時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
	[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。		
	12. 桃山時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----		
[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。			
13. 江戸時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----			
[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。			
14. 明治時代の美術についての基礎的な知識を得る。 -----			
[予習・復習] ・講義中に指定されたテキストの項目を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理しプリントを仕上げる。			
15. 重要作品の基礎的知識について学習到達度を確認する。 -----			
[予習・復習] ・授業でとり上げた重要な作品について、配布資料、ノートを整理しまとめておく。			

科目名	美術史概論Ⅱ		担当教員	大河内 智之	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本宗教美術史				
到達目標	古代・中世における日本文化の核となる宗教美術についての基礎的な知識を獲得し、美術史の基本的な専門用語を理解するとともに、自らの文化的背景について考える教養を身につける。				
授業概要	日本の古代から中世に至る美術の歴史の展開を、宗教美術の観点から、注目される作品・事象を取り上げ考察する。学芸員として多様な美術工芸資料に接してきた立場から、彫刻資料(仏像・神像)を中心としつつ、適宜絵画・工芸資料も取り上げて講義を進め、造形資料が持つ豊かな情報を読み取る方法や視点を学ぶ。				
評価方法・基準	講義時に実施する学習到達度確認 50%、レポート 50%				
課題のフィードバック方法	課題評価や疑問については、次回講義や e-learning でコメントする。				
履修上の注意事項等					
テキスト	日本美術史ハンドブック 辻惟雄・泉武夫編 新書館 2009 適宜プリントを配布する				
参考書	適宜指示する				
授業内容	<p>1. ガイダンス。講義の進め方、評価の方法などの説明。美術史とはどのような学問か。</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスをよく読んでおく。これまで美術館や社寺などで接した作品でとくに印象に残っている作品(2~3点)をノートに書き出しておく。 <p>2. 飛鳥・白鳳時代の美術① (7世紀前半)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの「概説1 飛鳥・奈良美術」のところを読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。 <p>3. 飛鳥・白鳳時代の美術② (7世紀後半)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの「概説2 飛鳥・奈良美術」のところを読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。 <p>4. 奈良時代の美術① (8世紀前半)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの「飛鳥・奈良美術 コラム1」を読んでおく。 ・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。 				

科目名	美術史概論 II	担当教員	大河内 智之
授業内容	5. 奈良時代の美術② (8世紀後半)		

	[予習・復習]		
	・テキストの「飛鳥・奈良美術 コラム 2」を読んでおく。		
	・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。		
	6. 平安時代の美術① (9世紀-1)		

	[予習・復習]		
	・テキストの「概説 1 平安美術」のところを読んでおく。		
	・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。		
	7. 平安時代の美術② (9世紀-2)		

	[予習・復習]		
	・テキストの「概説 2 平安美術」のところを読んでおく。		
	・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。		
8. 平安時代の美術③ (10~11世紀)			

[予習・復習]			
・テキストの「平安美術 コラム 1」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
9. 平安時代の美術④ (11世紀)			

[予習・復習]			
・テキストの「平安美術 コラム 2」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
10. 平安時代の美術⑤ (12世紀)			

[予習・復習]			
・テキストの「平安美術 コラム 3」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
11. 鎌倉時代の美術① (12~13世紀-1)			

[予習・復習]			
・テキストの「鎌倉・南北朝美術 概説 1」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
12. 鎌倉時代の美術② (12~13世紀-2)			

[予習・復習]			
・テキストの「鎌倉・南北朝美術 コラム 1」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
13. 鎌倉時代の美術③ (13~14世紀)			

[予習・復習]			
・テキストの「鎌倉・南北朝美術 コラム 2」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
14. 南北朝~室町時代の美術 (14~16世紀)			

[予習・復習]			
・テキストの「鎌倉・南北朝美術 概説 1」のところを読んでおく。			
・講義で取り上げた内容を整理し、重要事項をノートにまとめておく。			
15. 学習到達度の確認。重要作品について指摘した基礎的事項、技法等についての確認を行う。			

[予習・復習]			
・これまでの授業の内容、取り上げた重要な作品について、配布資料、ノートを整りまとめておく。			

科目名	史料学概論Ⅰ			担当教員	吉川 敏子
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本古代の編纂物と古文書				
到達目標	編纂物・古文書の概念と史料性格を学び、文化財学における史料学の意義を理解する。				
授業概要	歴史を書くための材料である史料には、さまざまな種類があるが、なかでも重要なのは、情報量に優る文献史料である。この講義では、日本古代の文献史料の中から、編纂物と古文書とを取り上げて、そこから読み取れる情報や問題点を解説し、史料学とは何かということを考える。				
評価方法・基準	授業中に3回行う小テストの成績を総合して評価する。配点は1回目が2回目が30点、3回目が40点。私語をするなど、授業の妨害となる行為が見られる場合は、減点対象とする。				
課題のフィードバック方法	小テスト実施のたびに解答を解説し、学習のポイントを確認するとともに、学習姿勢の自己評価を促す。				
履修上の注意事項等	この講義は単独で受講できるが、史料学分野で卒業論文に取り組む場合は史料学概論Ⅱと併せて受講することが望ましい。診断書を大学に提出している要配慮のケースを除いて、授業中にスマートフォンを卓上に置くことは認めない。学外授業に変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介				
授業内容	<p>1. ガイダンス 『漢書』『後漢書』が描く倭国 ----- [予習・復習] 1～2世紀の日本史を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>2. 『魏志』が描く倭国 ----- [予習・復習] 3世紀の日本史を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>3. 『日本書紀』が描く3世紀の日本 ----- [予習・復習] 3世紀の日本史を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>4. 『日本書紀』が描く4世紀の日本 ----- [予習・復習] 4世紀の日本史を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p>				

科目名	史料学概論 I	担当教員	吉川 敏子	
授業内容	5. 3～4世紀の日本列島			
	[予習・復習] 3～4世紀の日本列島について考えてくる。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	6. 編纂物の虚実			
	[予習・復習] 8世紀までの日本史を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	7. 編纂物と一次史料①日本書紀と木簡			
	[予習・復習] 大化改新について学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	8. 編纂物と一次史料②続日本紀と木簡			
	[予習・復習] 律令の行政区画を学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	9. 編纂物と一次史料③戸籍			
	[予習・復習] 律令の戸籍制度について学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	10. 正倉院文書①成立と伝来			
	[予習・復習] 天武天皇～孝謙天皇までの皇室の系図を確認しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	11. 正倉院文書②整理と公開			
	[予習・復習] 事典などで正倉院文書について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
	12. 正倉院文書③文書と文物			
[予習・復習] 大学図書館で正倉院展の図録を閲覧する。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。				
13. 正倉院文書④公式様文書				
[予習・復習] 律令制の官司機構について学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。				
14. 正倉院文書⑤下級官人の暮らし				
[予習・復習] 事典などで「月借錢」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。				
15. まとめ				
[予習・復習] 前回までの学習内容を再確認しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。				

科目名	史料学概論Ⅱ			担当教員	吉川 敏子
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	物品に記された日本古代の文字				
到達目標	木簡・金石文・絵図の史料的性格を理解する。				
授業概要	歴史を書くための材料である史料には、さまざまな種類があるが、なかでも重要なのは、情報量に優る文献史料である。この講義では、日本古代の文献史料の中から、金石文・絵図・木簡を例にとりながら、その具体的価値や問題点を解説し、史料学とは何かを考える。				
評価方法・基準	授業中に3回行う小テストの成績を総合して評価する。配点は1回目と2回目が30点、3回目が40点。遅刻が多かったり、私語をするなど、授業の妨害となる行為が見られる場合は、減点対象とする。				
課題のフィードバック方法	小テストのたびに解答を説明し、出題のポイントを確認するとともに、学習姿勢への自己評価を促す。				
履修上の注意事項等	この講義は単独で受講できるが、史料学分野で卒業論文に取り組む場合は史料学概論Ⅰと併せて受講することが望ましい。診断書を大学に提出している要配慮のケースを除いて、授業中にスマートフォンを卓上に置くことは認めない。学外授業に変更する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介				
授業内容	<p>1. ガイドンス 出土金属器の銘文1 ----- [予習・復習] 歴史事典などで「稲荷山古墳出土鉄剣」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>2. 出土金属器の銘文2 ----- [予習・復習] 歴史事典などで「(江田)船山古墳出土大刀」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>3. 伝世品の銘文 ----- [予習・復習] 歴史事典などで石上神宮所蔵「七支刀」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p> <p>4. 石碑1 ----- [予習・復習] 歴史事典などで「宇治橋断碑」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。</p>				

科目名	史料学概論 II	担当教員	吉川 敏子
授業内容	5. 石碑2 -----		
	[予習・復習] 歴史事典などで「上野三碑」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	6. 石碑3 -----		
	[予習・復習] 歴史事典などで「上野三碑」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	7. 古代の土地制度と絵図 -----		
	[予習・復習] 条里制について学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	8. 西大寺の創建 -----		
	[予習・復習] 歴史事典などで「西大寺」「秋篠寺」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	9. 西大寺荘園絵図群①京北班田図 -----		
	[予習・復習] 地図で秋篠周辺の地形を大まかに見ておく。歴史事典などで「上野三碑」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	10. 西大寺荘園絵図群②相論絵図 -----		
	[予習・復習] 平城京の条坊制について学習しておく(高校日本史B程度)。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	11. 木簡の史料的性格 -----		
	[予習・復習] 歴史事典などで「木簡」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。		
	12. 木簡研究の方法 -----		
[予習・復習] 参考文献などで「木簡」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
13. 木簡の実例 1 -----			
[予習・復習] 「木簡」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
14. 木簡の実例 2 -----			
[予習・復習] 「木簡」について予習しておく。授業後はおさらいし、わからなかった言葉を歴史事典などで調べて確認する。			
15. まとめ -----			
[予習・復習] 前回までの学習内容を再確認しておく。授業後は関心を持った事柄について読書し、知識を広げる。			

科目名	保存科学概論Ⅰ		担当教員	魚島 純一	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	保存科学研究の歴史				
到達目標	日本の保存科学研究の形成とその理念を学ぶ				
授業概要	法隆寺金堂壁画の保存方法の研究にはじまった保存科学研究の歴史をたどり、現状と新たに提起される課題、そして保存科学のこれからについて考える。保存科学担当学芸員として博物館に勤務した経験に基づき、文化財の現場での保存科学についても講義する。				
評価方法・基準	日常の授業態度(授業に対する積極性、講義中の質問などを重視)および授業中に実施する学習到達度確認(講義の内容を正確に把握できているか)等により総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	出席表の裏に書かれた質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。最終授業時に学習到達度を確認し、解答例の解説をおこなう。				
履修上の注意事項等	講義内容については各テーマごとに完結するが、保存科学の発展と歴史の理解には前後のテーマとの関連を理解することが不可欠であるため欠席しないように。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、県立博物館の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	授業中に紹介する				
授業内容	1. 保存科学研究とは何か ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 2. 保存科学のあけぼの ―法隆寺金堂壁画の保存研究― ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 3. 保存科学のあけぼの ―法隆寺金堂壁画の焼損、科学的保存処理― ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 4. 高松塚古墳壁画の発見と科学分析 ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること				

科目名	保存科学概論 I	担当教員	魚島 純一
授業内容	5. 高松塚古墳壁画の損傷と保存修復 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	6. 平城宮跡出土木簡の発見と科学的保存処理 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	7. 元興寺中世庶民資料の発見と科学的保存処理 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	8. 稻荷山古墳出土鉄剣の発掘と銘文の発見 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	9. 稻荷山古墳出土鉄剣の科学分析と科学的保存処理 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	10. 正倉院宝物の保存と校倉 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	11. 正倉院宝物の保存科学的研究 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	12. 臼杵磨崖仏・大野寺石仏の保存 -----		
[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること			
13. 保存科学の教育機関と研究機関 -----			
[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること			
14. 保存科学研究の国内学会・国際学会 -----			
[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること			
15. まとめ -----			
[予習・復習] 学習到達度確認に備える			

科目名	保存科学概論Ⅱ			担当教員	魚島 純一
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	保存科学研究の成果と現状を学び、課題を考える。				
到達目標	文化財保存科学の基礎を知るとともに、文化財研究に多様な役割を果たす保存科学研究を理解する。				
授業概要	文化財を後世に伝えるためには、保存技術や材料のみならず、文化財の材質、構造、製作技法、年代、製作地、劣化のメカニズムを調べるとともに、適切な保存環境を整える必要がある。また、文化財のもつ価値を知り、確固とした理念のもとに保存しなければならない。徳島県立博物館で保存科学担当学芸員として従事した経験などをもとに、保存科学の諸分野の研究成果を紹介し、研究の基本と応用、課題などについて最新の話題を交えながら講義する。				
評価方法・基準	日常の授業態度(授業に対する積極性、講義中の質問などを重視)および授業中に実施する学習到達度確認(講義の内容を正確に把握できているか)等により総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	出席表の裏に書かれた質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。最終授業時に学習到達度を確認し、解答例の解説をおこなう。				
履修上の注意事項等	この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、県立博物館の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト					
参考書	授業中に紹介する				
授業内容	1. 保存科学とは ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 2. 科学的保存処理(1) 金属製文化財 ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 3. 科学的保存処理(2) 木製文化財 ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること 4. 科学的保存処理(3) 石・紙・繊維製文化財 ----- [予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること				

科目名	保存科学概論 II	担当教員	魚島 純一
授業内容	5. 材質・技法 —文化財の材質・製作技法を知る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	6. 構造・技法 —文化財の構造を知る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	7. 産地推定 —文化財の材料産地・製作地を知る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	8. 年代測定 —文化財のつくられた年代を知る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	9. 古環境 —人々の生きた環境を知る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	10. 遺跡探査 —発掘せずに遺跡を探る— -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	11. 文化財の保存環境(1) 温度・湿度・光 -----		
	[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること		
	12. 文化財の保存環境(2) 大気汚染など -----		
[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること			
13. 文化財の活用と保存の理念 -----			
[予習・復習] 内容を予習し、ポイントを復習すること			
14. 保存科学のこれから -----			
[予習・復習] ポイントを復習すること			
15. まとめ -----			
[予習・復習] 学習到達度確認に備える			

科目名	考古学特殊講義(一)		担当教員	豊島 直博	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	弥生・古墳時代鉄製武器の研究				
到達目標	鉄製武器を通じて弥生・古墳時代の政治、社会を理解する				
授業概要	弥生時代と古墳時代の遺跡から出土した鉄製武器を手がかりに、当時の政治と社会を考える				
評価方法・基準	授業の内容に関するレポート(A41枚程度)、授業中の質疑応答によって評価する。				
課題のフィードバック方法	レポートにコメントを付して返却する。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 授業の概要 ----- [予習・復習]シラバスを読む。授業内容の確認。</p> <p>2. 縄文時代の武器 ----- [予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。</p> <p>3. 弥生時代前期の武器 ----- [予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。</p> <p>4. 弥生時代中期の武器 ----- [予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。</p>				

科目名	考古学特殊講義(一)	担当教員	豊島 直博
授業内容	5. 弥生時代後期の武器 -----		
	[予習・復習]報告書を読む。博物館で実物を確認する。		
	6. 弥生時代終末期の武器 -----		
	[予習・復習]報告書を読む。博物館で実物を確認する。		
	7. 古墳時代前期の武器 -----		
	[予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。		
	8. 古墳時代中期の武器 -----		
	[予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。		
	9. 古墳時代後期の武器 -----		
	[予習・復習]報告書を読む。博物館で実物を確認する。		
	10. 古墳時代終末期の武器 -----		
	[予習・復習]報告書を読む。博物館で実物を確認する。		
	11. 飛鳥時代の武器 -----		
	[予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。		
	12. 奈良時代の武器 -----		
[予習・復習]概説書を読む。講義で取り上げた文献を読む。			
13. 武器の生産と流通 -----			
[予習・復習]専門書を読む。講義で取り上げた文献を読む。			
14. 武器と国家形成 -----			
[予習・復習]専門書を読む。博物館で実物を確認する。			
15. 授業のまとめ -----			
[予習・復習]専門書を読む。ノートと資料を見直す。			

科目名	考古学特殊講義(二)		担当教員	小林 青樹	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	倭人の祭祀考古学				
到達目標	縄文・弥生時代を中心とした時代における祭祀考古学の基本的な方法について考える。また自らの修士論文などの研究を進める上で、先史時代の祭祀に関する知識の向上を目指す。				
授業概要	縄文時代と弥生時代における人々の祭祀・儀礼・宗教・信仰といった精神世界、心の世界を研究する認知考古学や祭祀考古学の基本的な方法について解説する。そして、古墳時代にいたる日本の先史時代の祭祀・儀礼の意味を考える。 なお、講義はweb授業で行う。実施方式は、レジュメ資料を毎回PDFで配布し、動画視聴による解説(オンデマンド)でいつでも視聴できるようにします。毎回、講義連絡に事前に講義に関する情報をアップします。				
評価方法・基準	小レポート30%(毎回の講義内容を把握しているか)、レポート70%(学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。				
課題のフィードバック方法	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	毎回、事前に講義連絡を確認すること。また、授業内容は変更する場合がある。なお、人数によってweb授業で実施する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				
授業内容	<p>1. 授業全体の概要と方針</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスをよく読み、授業内容について理解する。講義後は、資料をよく読み、理解を深めノートにまとめる。</p> <p>2. 縄文時代の祭祀</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の祭祀に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p> <p>3. 縄文時代の終焉と祭祀・儀礼</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の祭祀に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p> <p>4. 縄文時代の再葬墓</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の終焉と祭祀・儀礼に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p>				

科目名	考古学特殊講義(二)	担当教員	小林 青樹
授業内容	5. 象徴としての身体 -----		
	[予習・復習] 事前に配布した象徴としての身体に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	6. 青銅器の祭祀 -----		
	[予習・復習] 事前に配布したに関する青銅器の祭祀資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	7. 青銅器祭祀の起源 -----		
	[予習・復習] 事前に配布した青銅器祭祀の起源に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	8. 戈の祭祀 -----		
	[予習・復習] 事前に配布したに関する戈の祭祀資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	9. 弥生絵画 -----		
	[予習・復習] 事前に配布したに関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	10. 弥生人の心象風景 -----		
	[予習・復習] 事前に配布した弥生絵画に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	11. 龍の祭祀 -----		
	[予習・復習] 事前に配布した龍の祭祀に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	12. 纏向仮面の系譜 -----		
[予習・復習] 事前に配布したに関する纏向仮面の系譜資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
13. 埴輪の衣と文様 -----			
[予習・復習] 事前に配布した埴輪の衣と文様に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
14. 相撲の力士 -----			
[予習・復習] 事前に配布した相撲の力士に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、講義内容と資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
15. まとめ -----			
[予習・復習] 講義で配布したに関する資料をすべて読み、自分の興味関心のあるテーマを決める。講義後は、自分で考えたテーマについて調べ、レポートをまとめる。			

科目名	考古学特殊講義(三)		担当教員	小林 青樹	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	縄文文化と弥生文化				
到達目標	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から当時の人々生活や社会を復元する基本的な方法について考える。また自らの修士論文などの研究を進める上で、先史時代の祭祀に関する知識の向上を目指す。				
授業概要	縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から、どのように縄文人の生活や社会の復元ができるのか。土器の見方、縄文施文法、植物考古学、動物考古学など、縄文文化と弥生文化に関する基本的な方法について取り上げる。				
評価方法・基準	小レポート 30%(毎回の講義内容を把握しているか)、レポート 70%(学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。				
課題のフィードバック方法	レポートは、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却する。				
履修上の注意事項等	博物館や実習室などで作業を行う場合がある。また、授業内容は変更する場合がある。なお、人数によってweb授業で実施する場合がある。				
テキスト	なし				
参考書	授業時に指示する				
授業内容	<p>1. 授業全体の概要と方針</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスをよく読み、授業内容について理解する。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p> <p>2. 土器の型式・様式・年代</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した土器の型式・様式・年代に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p> <p>3. 縄文原体入門:縄文原体の概説とLR・RL</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した縄文原体に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p> <p>4. 動物考古学入門:貝塚の研究方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に配布した貝塚に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。</p>				

科目名	考古学特殊講義(三)	担当教員	小林 青樹
授業内容	5. 縄文時代の住居と集落		
	[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の住居と集落に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	6. 植物考古学:縄文時代の穀物栽培と稲作問題		
	[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の穀物栽培と稲作問題に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	7. 住居と集落・環状盛土		
	[予習・復習] 事前に配布した住居と集落・環状盛土に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	8. 縄文のファッション 衣装とアクセサリ		
	[予習・復習] 事前に配布した縄文時代の祭祀に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	9. 縄文人と弥生人の遭遇:人類学的考古学		
	[予習・復習] 事前に配布した縄文のファッションに関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	10. 稲作の起源と水田		
	[予習・復習] 事前に配布した稲作の起源と水田に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	11. 弥生時代の食生活		
	[予習・復習] 事前に配布した弥生時代の食生活に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。		
	12. 弥生時代の住居と集落		
[予習・復習] 事前に配布した弥生時代の住居と集落に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
13. 弥生時代の鉄器ほか工具			
[予習・復習] 事前に配布した弥生時代の鉄器ほか工具に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
14. 弥生時代の戦争			
[予習・復習] 事前に配布した弥生時代の戦争に関する資料を読み、用語などを調べておく。講義後は、資料を復習し理解を深めノートにまとめる。			
15. まとめ			
[予習・復習] 講義で配布したに関する資料をすべて読み、自分の興味関心のあるテーマを決める。講義後は、自分で考えたテーマについて調べ、レポートをまとめる。			

科目名	考古学特殊講義(四)		担当教員	☆ 寺沢 薫	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	ヤマト王権成立史の諸問題				
到達目標	いわゆる「ヤマト王権」の成立過程や実像に焦点を当ててその理解を深める。考古学資料と文献史料の双方から歴史を組み立てる実践的方法を学びとる。				
授業概要	日本列島の王権形成の時期やプロセスについては諸説がある。講義では三世紀初めの奈良県桜井市纏向遺跡の出現がヤマト王権の誕生であるとの立場から、その形成過程や権力系譜、東アジア世界との関わりについて考究する。また、ヤマト王権の成立は古代史上の重大な期でもあるから、講義では「魏志倭人伝」全文を配布して、考古学で読み解く。邪馬台国論や都市、国家形成の問題についても取り上げる。 講義はテキストに沿って進めるので、講義予定の部分の事前の熟読は必須である。また、必要に応じて資料を配布する。				
評価方法・基準	講義内容は一般の概説書の内容とは異なる部分が多いので、必ず事前に目を通し、授業に集中することが大切である。従って、学習到達度確認やレポートも講義内容にそくした理解が求められる。「魏志倭人伝」は順番に指名して講読しながら進め、小レポートやアンケートなども当然評価の対象となる。				
課題のフィードバック方法	毎回、前回の講義の根幹を再度確認しながら進める。授業中の小レポートやアンケートで理解度を確認し、次回に集計結果や理解度等について講評する。				
履修上の注意事項等	毎回の講義での集中が第一である。よりスキルを高めたい人は講義で出てきた参考書や紹介した研究者などを図書館で適宜チェック、検索することも薦める。また、先史考古学「弥生時代はどのような時代か」は本講義の前提となる内容であるので、併せて履修することが望ましい。				
テキスト	王権誕生 寺沢 薫 講談社(学術文庫) 2008				
参考書	王権と都市の形成史論 寺沢薫 吉川弘文館 2011 弥生時代国家形成史論 寺沢薫 吉川弘文館 2018				
授業内容	<p>1. プロローグ—王権とは何か・ヤマト王権論の現在— ----- [予習・復習] テキストの第7章のp250~253に目を通しておく。アンケートを採る。授業のノートや配付資料で授業の内容を再確認する。</p> <p>2. 「纏向遺跡」以前(1) 国家をどう捉えるか—2世紀以前の北部九州と近畿、そして「倭国」— ----- [予習・復習] テキストの第4~5章(p126~230)に目を通しておく。ヤマト王権成立前の国家や「倭国」について、北部九州と近畿の違いなどについて簡単に説明する。授業のノートや配付資料で授業の内容を再確認する。</p> <p>3. 「纏向遺跡」以前(2)—「倭国乱」と2世紀末の日本列島— ----- [予習・復習] テキストの第6章(p231~249)に目を通しておく。ノートや配付資料で授業の内容を再確認する。</p> <p>4. 纏向遺跡論(1): 纏向遺跡はどのような遺跡か(1)—纏向大王都論— ----- [予習・復習] テキストの第7章-1を通読し、とくに p250~260を熟読しておく。ノートと配付資料で授業の内容を再確認する。</p>				

科目名	考古学特殊講義(四)	担当教員	☆ 寺沢 薫
授業内容	5. 纏向遺跡論(2): 纏向遺跡はどのような遺跡か(2)-前方後円墳論-		
	[予習・復習] テキストの第7章-1を通読し、とくにp260～266を熟読しておく。ノートと配付資料で授業の内容を再確認する。		
	6. 纏向遺跡論(3): 纏向遺跡はどのような遺跡か(3)-古墳時代開始論-		
	[予習・復習] テキストの第7章-3(p293～303)を熟読する。ノートと配付資料で授業の内容を再確認する。		
	7. 前方後円墳の本質と王権の祭祀		
	[予習・復習] テキストの第6章p243～249、第8章p320～326を熟読しておく。ノートと配付資料で授業の内容を再確認する。		
	8. ヤマト王権の権力系譜		
	[予習・復習] テキストの第7章のp266～274を熟読するノートと配付資料で授業の内容を再確認する。		
	9. 纏向遺跡と邪馬台国論-卑弥呼共立の背景-		
	[予習・復習] テキストの第7章-2(p275～303)を熟読する。ノートと配付資料で授業の内容を再確認する。		
	10. 考古学で読む「魏志倭人伝」(1): 邪馬台国所在地論		
	[予習・復習] 資料は事前に配付するので、配付資料の魏志倭人伝の第1パラグラフに目を通し読んでおく。配付資料や授業の内容を再確認する。		
	11. 考古学で読む「魏志倭人伝」(2): 倭国の政治構造と習俗		
	[予習・復習] 配付資料の魏志倭人伝の第2パラグラフに目を通し読んでおく。配付資料や授業の内容を再確認する。		
	12. 考古学で読む「魏志倭人伝」(3): 倭国乱と卑弥呼共立		
[予習・復習] 配付資料の魏志倭人伝の第2-付記パラグラフに目を通し読んでおく。配付資料や授業の内容を再確認する。			
13. 考古学で読む「魏志倭人伝」(4): 卑弥呼の外交・卑弥呼その後			
[予習・復習] 配付資料の魏志倭人伝の第3パラグラフに目を通し読んでおく。配付資料や授業の内容を再確認する。			
14. エピローグ: 日本列島における国家形成のパースペクティブーヤマト王権の国家史的 위치づけー/講義補足。			
[予習・復習] 講義の全体を配付資料をもとに再度復習しておく。レポートの内容やアンケートの内容は前回から授業中に公表するので、他の書籍などにも目を通して、次回に意見や質問ができるように準備を行う。			
15. 授業総括・学習到達度確認、アンケート			
[予習・復習] アンケートで書いた自身の内容を再確認する。レポートは本講義全体の復習のまとめと思って文章をまとめる。			

科目名	考古学特殊講義(五)		担当教員	☆ 植野 浩三	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本における須恵器生産の開始と展開				
到達目標	日本における須恵器生産の開始と展開について、古墳時代の手工業生産史の視点から理解を深める。				
授業概要	日本の窯業生産、特に須恵器生産の始まりや展開について、4~6世紀を中心に紹介する。須恵器研究に関連する編年や年代論、製作技術、手工業生産についての研究史を紐解いて解説し、地方窯の成立と展開(拡散)にいたるまでの研究成果を論じる。また、須恵器の源流である韓国の窯業生産や陶質土器についても講義し、海外との関係についても紹介する。				
評価方法・基準	100%学習到達度確認による評価。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適時紹介していく。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布及び解説を行う。				
履修上の注意事項等	適時、資料を配付する。現地見学も行う予定である。常時専門用語がでてくるので、考古学の知識が必要である。				
テキスト	なし				
参考書	須恵器大成 田辺昭三 角川書店 1981年				
授業内容	<p>1. ガイダンス 須恵器の概説、授業スケジュール ----- [予習・復習] シラバスの内容を読んで臨む。授業内容を整理する。</p> <p>2. 土器・須恵器・窯業の概説 ----- [予習・復習] 一般的な土器について整理する。講義内容を整理する。</p> <p>3. 須恵器研究のあゆみ(戦前から1960年代まで) ----- [予習・復習] 指定した書籍に目を通してくる。初期の研究の歩みを整理する。</p> <p>4. 須恵器研究のあゆみ(1960年代以降) ----- [予習・復習] 指定した書籍を読む。研究の歩み(後半期~今日)を理解する。</p>				

科目名	考古学特殊講義(五)	担当教員	☆ 植野 浩三
授業内容	5. 陶邑古窯跡群とその調査		
	[予習・復習] 前回までの講義内容を理解して臨む。陶邑古窯跡群とその調査について、講義内容を理解する。		
	6. 須恵器の型式編年		
	[予習・復習] 前回の講義を整理する。須恵器の型式編年について整理する。		
	7. 須恵器の製作技術		
	[予習・復習] 予習は不要。須恵器の製作技術を理解する。		
	8. 窯の基本的構造と焼成方法		
	[予習・復習] 予習は特に不要。講義内容を理解する。		
	9. 須恵器生産の開始		
	[予習・復習] 指定した書籍に目を通してくるのがのぞましい。生産の開始を考える。		
	10. 須恵器生産の展開と地方窯の成立		
	[予習・復習] 前回講義の生産開始を整理する。展開と地方窯の成立を幅広く解釈する。		
	11. 手工業生産として生産遺跡研究		
	[予習・復習] これまでの講義を整理しておく。手工業生産史の理解を深める。		
	12. 政治的秩序の形成と手工業生産との関係		
[予習・復習] 11回までの講義内容や資料を整理する。手工業生産と政治の関係について理解する。			
13. 渡来系文化と須恵器生産			
[予習・復習] 予習の必要なし。古墳時代の渡来文化を理解し、須恵器生産との関係について考える。			
14. 須恵器の系譜、韓国の窯跡調査			
[予習・復習] 予習の必要なし。韓国の窯業生産について知識を広める。			
15. 授業のまとめー須恵器生産の開始と展開の再整理			
[予習・復習] これまでの講義の総てを再整理をする。日本と韓国の窯業生産史、手工業生産史を総括する。			

科目名	考古学特殊講義(六)		担当教員	相原 嘉之	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係	『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照		
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計			授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)		
テーマ	考古学と文化財保護行政				
到達目標	総合的な文化財保護行政の基礎と文化財専門職員の役割を理解する。				
授業概要	文化財調査機関や文化財保護行政に携わってきた実績を活かして、都道府県・市町村の専門職員の人材として期待されている考古学・文化財学を学ぶ学生を対象として、文化財保護行政の現状や、文化財を活かした街づくりなどについて学ぶ。				
評価方法・基準	不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。				
課題のフィードバック方法	授業中のレポートの成果と課題についてコメントする。				
履修上の注意事項等	本講座は、文化財の専門職を目指す学生のみを対象とする。 学外授業も重要であり、必ず参加すること。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	入門 埋蔵文化財と考古学 水之江和同 同成社 2020 遺跡保護の制度と行政 和田勝彦 同成社 2015 文化遺産の世界 33 坂井秀弥ほか 文化遺産 2018				
授業内容	<p>1. 文化財とは (文化財の定義と種類)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。</p> <p>2. 文化財保護の歴史</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。</p> <p>3. 文化財保護の組織と専門職員</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。</p> <p>4. 埋蔵文化財保護行政の職務</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。</p>				

科目名	考古学特殊講義(六)	担当教員	相原 嘉之
授業内容	5. 文化財保護行政における保存と活用		

	[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。		
	6. 学外授業① 飛鳥地域の文化財		

	[予習・復習] 見学場所を調べておく。見学場所を確認する。		
	7. 学外授業② 飛鳥地域の文化財		

	[予習・復習] 見学場所を調べておく。見学場所を確認する。		
	8. 埋蔵文化財調査の標準		

	[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。		
	9. 出土品の取り扱いについて		

	[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。		
10. 史跡等の整備			

[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。			
11. 世界文化遺産			

[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。			
12. 埋蔵文化財の保存と活用			

[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。			
13. 文化財活用の新たな施策			

[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。			
14. 伝統的建造物群と文化的景観			

[予習・復習] 参考書等で予習しておく。授業のポイントを確認する。			
15. 文化財保護行政のまとめ			

[予習・復習] これまでの講義を振り返り、講義のポイントを再確認。			

科目名	考古学特殊講義(八)		担当教員	千田 嘉博	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	天下人の城				
到達目標	城郭考古学から天下統一の時代を考える。				
授業概要	城郭考古学は、現在もっとも求められている考古学の分野といえます。しかし発掘調査だけでなく、遺構の地表面観察資料、絵図・地図資料、文字史料など多様な資料群を適切に取り扱い、研究を進めることが必要になります。この講義では、天下人の城を取り上げて、最新の研究成果を総覧します。				
評価方法・基準	講義内に行う小テスト(講義内に提出)と最終の講義時間内に学習到達度確認を行い、戦国期から近世初頭にかけての歴史を城郭考古学からどう理解できたかにもとづいて評価を行います。				
課題のフィードバック方法	学習到達度を確認するための課題について、講義内で詳細な解説をして、ていねいなフィードバックを行います。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	戦国の城を歩く 千田嘉博 ちくま学芸文庫 2009 信長の城 千田嘉博 岩波新書 2013				
授業内容	1. 受講ガイダンス ----- [予習・復習] あらかじめシラバスを読み、講義内容を理解しておく。 2. 勝幡城・清須城―信長の城の原風景 ----- [予習・復習] 『信長公記』を読んでおく。講義の内容をまとめる。 3. 小牧山城―信長がめざしたもの ----- [予習・復習] 小牧山城の発掘成果を確認しておく。講義で紹介した基礎史料を調べてまとめる。 4. 安土城―大手道と重臣屋敷 ----- [予習・復習] 安土城天主の学史を調べておく。講義を踏まえて関連文献を読む。				

科目名	考古学特殊講義(八)	担当教員	千田 嘉博
授業内容	5. 安土城—中心部の発掘成果		
	----- [予習・復習] 安土城の発掘調査報告書を閲覧する。講義内容をまとめる。		
	6. 安土城—天主を読み解く		
	----- [予習・復習] 関連論文を閲覧しておく。安土城を訪ねて自分自身で考える。		
	7. 豊臣大坂城—徳川大坂城と豊臣大坂城		
	----- [予習・復習] 大阪の歴史を把握しておく。講義の内容をまとめる。		
	8. 豊臣大坂城—「大坂冬の陣図」を読み解く		
	----- [予習・復習] 「大坂冬の陣図」を刊本で閲覧しておく。講義内容をまとめる。		
	9. 豊臣大坂城—真田丸の復元		
	----- [予習・復習] 大坂冬の陣について把握しておく。関連文献を読む。		
	10. 伏見城		
	----- [予習・復習] 伏見の歴史を理解しておく。講義の内容をまとめる。		
	11. 肥前名護屋城		
	----- [予習・復習] 文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱)を理解しておく。講義の内容をまとめる。		
	12. 秀長の和歌山山城		
----- [予習・復習] 郡山城を訪ねておく。講義内容をもとに再訪する。			
13. 江戸城—家康の江戸城			
----- [予習・復習] 江戸の成立について把握しておく。講義内容をまとめる。			
14. 天下人の城と近世城郭			
----- [予習・復習] 各地の城絵図を絵図集で閲覧しておく。講義内容をまとめる。			
15. まとめ・学習到達度の確認			
----- [予習・復習] 講義内容をふり返し、城跡から歴史を考える意義をまとめる。			

科目名	美術史特殊講義(一)		担当教員	原口 志津子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	絵巻物の研究				
到達目標	伝記や説話を絵画化した作品の調査研究方法を体得し、その作品についての理解を深める。				
授業概要	絵巻物の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。順番は入れ替わる可能性がある。e-learningにより資料配付、参考サイトの掲示も行う。e-learningの登録コードは講義開始前にポータルで掲示する。				
評価方法・基準	平常 e-learning 課題 60% レポート 40%(レポートの評価基準は、講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」の基準に従う)。				
課題のフィードバック方法	課題評価は、e-learning でコメントする。質問は対面のほか e-learning のメッセージも利用できる。				
履修上の注意事項等	参考書の1つは2年次配当選択科目「日本絵画史」の教科書であるが、履修していない場合には購入する必要はない。				
テキスト	なし				
参考書	日本美術史ハンドブック 辻維雄・泉武夫編 新書館 2009 源氏絵の系譜 稲本万里子 森話社 2018 かわいい絵巻 上野友愛・岡本麻美 東京美術 2015				
授業内容	<p>1. ガイダンス・絵巻物の基礎知識</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考書やインターネット検索によって代表的作品を把握する。 ・講義内容の e-learning 課題をする。 <p>2. 大画面説話画と絵巻物</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的作品の画像確認 ・講義内容の e-learning 課題をする。 <p>3. 「絵因果経」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵因果経」の画像を確認する。 ・講義内容の e-learning 課題をする。 <p>4. 女絵―「源氏物語絵」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国宝本「源氏物語絵」の画像を確認する。 ・講義内容の e-learning 課題をする。 				

科目名	美術史特殊講義(一)	担当教員	原口 志津子
授業内容	5. 国宝本「源氏物語絵」と「紫式部日記絵詞」		

	[予習・復習]		
	・「紫式部日記絵詞」の画像を確認する。		
	・講義内容の e-learning 課題をする。		
	6. 男絵―「信貴山縁起絵」と「伴大納言絵」		

	[予習・復習]		
	・「信貴山縁起絵」と「伴大納言絵」の画像を確認する。		
	・講義内容の e-learning 課題をする。		
	7. 後白河法皇と宝蔵絵		

[予習・復習]			
・「地獄草紙」「餓鬼草紙」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
8. 「吉備大臣入唐絵」			

[予習・復習]			
・「吉備大臣入唐絵」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
9. 「長谷雄草紙」と怪異			

[予習・復習]			
・「長谷雄草紙」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
10. 「一遍聖絵」			

[予習・復習]			
・「一遍聖絵」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
11. 「当麻曼荼羅縁起絵」			

[予習・復習]			
・「当麻曼荼羅縁起絵」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
12. 高階隆兼様式の絵巻物1			

[予習・復習]			
・「春日権現験記絵」と「玄奘三蔵絵」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
13. 高階隆兼様式の絵巻物2			

[予習・復習]			
・「石山寺縁起絵」の画像を確認する。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
14. 「誉田宗廟縁起絵」			

[予習・復習]			
・応神天皇陵古墳を調べる。			
・講義内容の e-learning 課題をする。			
15. レポート課題の説明・e-learning 課題の解説			

[予習・復習]			
・e-learning 課題			

科目名	美術史特殊講義(二)		担当教員	☆ 三宅 久雄	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	定朝から運慶へー平安・鎌倉の仏像ー				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平安和様の時代を経て鎌倉時代の様式が成立していく過程を把握する。 ・鎌倉時代の彫刻が古代からの総括であることを理解する。 				
授業概要	<p>仏像制作は飛鳥時代に我が国に伝えられ、平安時代中頃に仏師定朝によって日本的なスタイルと独自の造像技法である寄木造が完成された。以後、一時期、この定朝様が一世を風靡したかにみられるが、大陸からの刺激をも連綿として受けながら、多様な展開をみせる。造像工房が発展し多くの仏師を生み出し、やがて鎌倉時代に入って運慶という世界に誇る彫刻家を輩出した。我が国彫刻史上、魅力あふれるこの時代を追ってみたい。</p>				
評価方法・基準	<p>授業中(最終授業等)に実施する学習到達度確認(筆記等による学力確認)等による総合評価。奈良仏師の中から運慶が登場し鎌倉時代の仏像が完成される過程を、実作品によって正しく理解しているかを評価する。</p>				
課題のフィードバック方法	学習到達度確認の講評を最終授業内、またはポータルサイトの講義連絡上で行う。				
履修上の注意事項等	美術史概論、日本彫刻史を履修していることが望ましい。				
テキスト	資料を配布する。				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 和様への歩みー定朝の父康尚の活躍と同聚院不動明王像及び周辺 ----- [予習・復習] 木彫仏像の大まかな流れを把握しておく。仏師康尚の年譜を整理する。</p> <p>2. 康尚と定朝親子の造像 ----- [予習・復習] 定朝の生涯を学習しておく。藤原道長と康尚・定朝の関わりを理解する。</p> <p>3. 定朝造立の平等院鳳凰堂阿弥陀如来像 ----- [予習・復習] 阿弥陀信仰と平等院建立の概略を把握しておく。平等院鳳凰堂阿弥陀如来像の特色とその意義について理解を深める。</p> <p>4. 定朝様の継承ー直弟子と三派仏師(院派、円派、奈良仏師) ----- [予習・復習] 定朝にはじまる仏師系図を調べておく。定朝仏がさかんに模倣され流行し、定朝様の形式化や変容が生じていく過程を把握する。</p>				

科目名	美術史特殊講義(二)	担当教員	☆ 三宅 久雄
授業内容	5. 奈良仏師康助および周辺仏師の造像活動 ----- [予習・復習] 康助の造像活動を概観しておく。金剛峯寺大日如来像、長岳寺阿弥陀三尊像、北向山不動院不動明王像の要点を整理する。		
	6. 平安時代における康慶・運慶の造像 ----- [予習・復習] 玉眼の技法について調べておく。保守的な定朝様から、写実的な表現に新味を感じさせる仏像が造られ始める過程を確かめる。		
	7. 平安後期の地方造像 ----- [予習・復習] 近年は各地で展覧会が盛んで、図録などに目を通しておく。九州や東北地方の仏像にみる中央の作風の伝播および地方固有の作風を把握する。		
	8. 南都復興—東大寺・興福寺の焼亡とその復興 ----- [予習・復習] 平家による東大寺・興福寺の焼き討ちとその復興計画を調べておく。運慶の法華経書写や興福寺西金堂の釈迦如来像復興造像の要点を確かめる。		
	9. 運慶の東国下向と鎌倉幕府のための造像 ----- [予習・復習] 運慶が造像した願成就院と浄楽寺の諸像について基礎事項を調べておく。運慶が飛躍的に作風を進展させ、鎌倉時代彫刻が成立したことを理解する。		
	10. 康慶と南都復興—興福寺南円堂および東大寺大仏殿の諸像 ----- [予習・復習] 興福寺南円堂不空羂索観音像について基礎事項を調べておく。快慶の初期造像を整理・把握する。		
	11. 運慶と鎌倉彫刻の完成 ----- [予習・復習] 金剛峯寺八大童子像、愛知瀧山寺聖観音像他、東大寺南大門仁王像について基礎事項を調べておく。現実的写実に装飾性を加味して完成された運慶の仏像表現を理解する。		
	12. 興福寺北円堂弥勒仏像ほか復興と運慶晩年の活動 ----- [予習・復習] 興福寺北円堂諸像、神奈川光明院大威徳明王像について基礎事項を調べておく。運慶がたどり着いた理想とする仏のすがたへの理解を深める。		
	13. 運慶の周辺—肩を並べる快慶、運慶の子息、その他運慶工房の仏師 ----- [予習・復習] 運慶の子息を含む工房の仏師達について基礎事項を調べておく。運慶と比較しての快慶の造像活動、作風の特色を整理する。		
	14. 運慶・快慶の次世代—運慶の子湛慶、快慶の高弟行快による継承 ----- [予習・復習] 湛慶と行快について基礎事項を調べておく。師である運慶、快慶から学んだもの、或いは他に求めた表現を把握する。		
	15. 鎌倉時代中期の造像界—京都、奈良、鎌倉の作風と干体千手観音像 ----- [予習・復習] 中国宋時代の作風の影響を学んでおく。京都・奈良・鎌倉の作風展開の特色について整理する。		

科目名	美術史特殊講義(三)		担当教員	岡田 健	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	東アジアの仏教彫刻—中国美術の展開(仏教彫刻編)				
到達目標	以下の2点を目標とします。 ①中国の各地でそれぞれに展開・発展した仏教彫刻の多彩な状況を理解する。 ②東アジア全域を包含する美術史として仏教彫刻を理解する。				
授業概要	広大な中国大陸では、古くから各地に多様な文化が育まれ、多くの民族の往来があった。西域を通じてもたらされた仏教とその美術は、おのずからさまざまな様相を呈してそれぞれの地域で展開・発展した。その中には仏教東漸の最終地点である日本も含まれる。この講義では、国立博物館及び文化財研究所の研究者として実施した中国各地での調査、欧米・日本に所蔵される作品調査をもとに、東アジアという大きな視点から、中国仏教彫刻の全体像をつぶさに見る。				
評価方法・基準	本科目は対面授業を予定しています。途中、数回課題を出します。また、最終的にはレポートによって成績を評価します。出席数が不足していたり、レポートの未提出がある場合は評価できません。				
課題のフィードバック方法	ポータルサイトやメールでの応答とともに行います。				
履修上の注意事項等	本科目は対面授業を予定しています。ただし、今後の状況によっては zoom による WEB 授業となる可能性があります。その場合に対応できるようにしてください。仏像の種類などの説明は省きます。日本の仏教彫刻についての授業を受けていることが前提です。				
テキスト	資料を配布する。				
参考書	北魏仏教造像史の研究 石松日奈子 ブリュック 2005 世界美術全集(東洋編)3/三国・南北朝 曾布川寛・岡田健責任編集 小学館 2000				
授業内容	<p>1. 甘肅省1:敦煌莫高窟(彫塑と壁画が生み出す華麗な空間)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 西域と中国との接点に位置する敦煌莫高窟に残る、彫塑と壁画が一体となった華麗な仏教美術空間を見る。</p> <p>2. 甘肅省2:河西回廊の石窟寺院(炳靈寺石窟・麦積山石窟他)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 多様な民族が往来した甘肅省には重要な石窟寺院が残る。涼州様式を生み出し、中国本土へ大きな影響を与えた甘肅の仏像を理解する。</p> <p>3. 山西省1:雲岡石窟(北魏時代の仏教彫刻)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 鮮卑族が建てた北魏王朝。皇帝の発願によって開かれた壮麗な大石窟寺院の仏像を見る。</p> <p>4. 河南省1:龍門石窟1(北魏時代の仏教彫刻)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 漢民族の土地中原へ進出する北魏王朝。河南の伝統文化と融合する仏教美術の典型を示す龍門石窟を見る。</p>				

科目名	美術史特殊講義(三)	担当教員	岡田 健
授業内容	5. 河北省:響堂山石窟と邯鄲周辺の仏教彫刻 -----		
	[予習・復習] 北魏の分裂とともに新たな仏教彫刻の展開が始まる。響堂山石窟を中心とした北齊彫刻の展開を見る。		
	6. 山東省:特色ある北齊仏教彫刻 -----		
	[予習・復習] 1990年代に大量に出土した石仏群。従来の河北省を中心とする北齊仏教彫刻の概念を一新した発見について見る。		
	7. 河南省2:龍門石窟2(初唐の復興—奉先寺大仏への系譜) -----		
	[予習・復習] 隋の中国統一から初唐時代の龍門石窟復興の状況を見る。		
	8. 陝西省1:長安の唐代仏教彫刻(北周・隋・初唐の長安造像) -----		
	[予習・復習] 大唐長安の初唐仏教彫刻の真髓を見る。		
	9. 山西省2:天龍山石窟の唐代彫刻と仏教寺院に残る塑像・木彫像 -----		
	[予習・復習] 唐代彫刻の精華、天龍山石窟の石仏。数多くのが寺院建築とともに残る膨大な塑像群と木彫像。山西省の特色ある仏教彫刻を見る。		
	10. 四川省1:南朝銘の仏教彫刻 -----		
	[予習・復習] 中国南北朝時代、南朝に所属した四川省には、江南地域では失われて見ることのできない、貴重な仏教彫刻が残る。その独特の表現を把握する。		
	11. 四川省2:唐～宋の仏教彫刻 -----		
	[予習・復習] 数多くの小型の石窟寺院が残る四川省。同じ時代の陝西省や河南省とも異なる様々な図像の仏教彫刻について理解する。		
	12. 陝西省2:北宋時代の仏教彫刻 -----		
[予習・復習] 陝西省北部には数多くの北宋時代の石窟寺院が残る。黄土大地の各所に残る仏教彫刻を見る。			
13. 日本にもたらされた中国彫刻1:東寺毘沙門天像の系譜 -----			
[予習・復習] 9世紀に日本にもたらされた木造毘沙門天像の系譜を、敦煌・四川にたどる。			
14. 日本にもたらされた中国彫刻2:東寺毘沙門天像—その伝説と実像 -----			
[予習・復習] 平安京羅城門安置の伝説に彩られてきた東寺毘沙門天像を実像を見る。			
15. 日本:飛鳥～奈良時代の仏教彫刻 -----			
[予習・復習] 東アジア美術史の視点から日本の仏像を見る。			

科目名	美術史特殊講義(四)		担当教員	☆ 宮崎 もも	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	江戸時代の絵画について				
到達目標	江戸時代の絵画に関する基本事項を習得すること/江戸時代の絵画を自らの基準をもって鑑賞し、考察・論述できるようになること				
授業概要	江戸時代の絵画に関する基礎的な講義です。 江戸時代の代表的な絵師たちを取りあげ、絵師の簡略な伝記をおさえつつ、スライドを見ながら絵画作品の特徴、相互の影響関係などについて学びます。テキストについては、授業ごとにプリントを配ります。				
評価方法・基準	授業ごとの小課題30% 期末試験の点数70% 小課題や期末試験では、授業の内容を理解しているか、自分の意見を理路整然と記しているかを重視します。				
課題のフィードバック方法	次の授業で前の授業を復習する際に、課題の答えについて触れます。				
履修上の注意事項等					
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 美術史の研究方法について ----- [予習・復習]予習:シラバスを読み返す 復習:ノートを読み返す</p> <p>2. 狩野派について① 江戸時代以前の狩野派 ----- [予習・復習]予習:狩野正信・元信・永徳について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、狩野派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。</p> <p>3. 狩野派について② 狩野探幽を中心に ----- [予習・復習]予習:狩野探幽について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、狩野派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。</p> <p>4. 狩野派について③ 狩野山楽・山雪を中心に ----- [予習・復習]予習:狩野山楽・山雪について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、狩野派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。</p>				

科目名	美術史特殊講義(四)	担当教員	☆ 宮崎 もも
授業内容	5. 土佐派・住吉派について		
	----- [予習・復習]予習:土佐派・住吉派について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、土佐派・住吉派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	6. 風俗画・浮世絵について		
	----- [予習・復習]予習:風俗画・浮世絵について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、風俗画・浮世絵に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	7. 琳派について① 俵屋宗達を中心に		
	----- [予習・復習]予習:俵屋宗達について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、琳派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	8. 琳派について② 尾形光琳を中心に		
	----- [予習・復習]予習:尾形光琳について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、琳派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	9. 琳派について③ 尾形乾山・渡辺始興を中心に		
	----- [予習・復習]予習:尾形乾山・渡辺始興について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、琳派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	10. 円山派について 円山応挙を中心に		
	----- [予習・復習]予習:円山応挙について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、円山派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	11. 文人画について 与謝蕪村を中心に		
	----- [予習・復習]予習:与謝蕪村について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、文人画に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。		
	12. 琳派について④ 酒井抱一を中心に		
----- [予習・復習]予習:酒井抱一について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、琳派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。			
13. 復古やまと絵派について 岡田為恭を中心に			
----- [予習・復習]予習:岡田為恭について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、復古やまと絵派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。			
14. 具体的な研究例 酒井抱一筆「文読む美人図」について			
----- [予習・復習]予習:酒井抱一について調べる。復習:授業プリントとノートを読み返し、琳派に関する本を読んだり、展覧会に行ったりする。			
15. まとめ			
----- [予習・復習]これまでの配布プリントとノートを読み返す。			

科目名	美術史特殊講義(五)		担当教員	岡田 健	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	東アジアの壁画—中国美術の展開(壁画編)				
到達目標	以下の2点を目標とします。 ①東アジア全域を包含する美術史として壁画芸術を理解する。 ②壁画材料と絵画技法に関するアプローチによって、壁画を構造的・復元的に見る方法を理解する。				
授業概要	従来の壁画研究は、考古学・美術史・宗教学・歴史学・保存科学・修復技術の各分野が個別にその成果を出してきた。しかし壁画芸術がその主題を図像と様式によって表現できるのは、それを実現するための壁画材料と絵画技法があったからである。いっぽう古代の壁画はすべてが著しく劣化しており、これを復元的に見ることができなければ、壁画の真の姿に迫ることができない。本講義では、長年にわたる敦煌壁画の調査研究や高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復事業に関わった経験等を活かし、文化財学としての総合的な視点を持って壁画芸術を見ることを論じる。				
評価方法・基準	本科目は対面授業を予定しています。途中、数回課題を出します。また、最終的にはレポートによって成績を評価します。出席数が不足していたり、レポートの未提出がある場合は評価できません。				
課題のフィードバック方法	ポータルサイトやメールでの応答とともに行います。				
履修上の注意事項等	本科目は対面授業を予定しています。ただし、今後の状況によっては zoom による WEB 授業となる可能性があります。その場合に対応できるようにしてください。				
テキスト	毎回、資料を配布する。				
参考書					
授業内容	<p>1. 総論:壁画研究の要点</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 壁画の種類・主題と図像・地域的時代的な特徴・材料と絵画技法・保存修復の方法など、壁画研究の要点を概説する。</p> <p>2. 敦煌莫高窟の壁画1:北魏~隋の壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 西域と中国との接点に位置する敦煌莫高窟に残る、彫塑と壁画が一体となった華麗な仏教美術空間を見る。</p> <p>3. 敦煌莫高窟の壁画2:唐~元の壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 唐時代以降の、中国における多様な仏教美術展開の様子を敦煌莫高窟に見る。</p> <p>4. 壁画材料と絵画技法1:科学調査の方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 敦煌莫高窟における壁画材料と絵画技法に関する調査研究の実践例を見る。</p>				

科目名	美術史特殊講義(五)	担当教員	岡田 健
授業内容	<p>5. 壁画材料と絵画技法2: 壁画の復原的研究</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 壁画研究に重要な役割を果たしてきた「模写」に関する考察を通して、壁画の見方を認識する。</p> <p>6. 中国の壁画1: 陝西省の墓室壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 今日も発掘による重要な壁画墓の発見が相次ぐ陝西省の壁画を見る。</p> <p>7. 中央アジアの壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] ロシア・エルミタージュ美術館所蔵の中央アジアの壁画を見る。</p> <p>8. 中国の壁画2: 山西省の墓室壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 北魏・東魏・北斉の各時代の壁画墓の発見が相次ぐ山西省の壁画を見る。</p> <p>9. 中国の壁画3: 山西省の寺観壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 数多くの仏教寺院・道教寺院建築とともに残る山西省の壁画群について見る。</p> <p>10. 中国の壁画4: 河北・河南の墓室壁画・寺院壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 河北省・河南省の墓室壁画と寺院壁画を見る。</p> <p>11. 中国の壁画5: 吉林省の墓室壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 中国・吉林省に残る朝鮮・三国時代の高句麗墓とその壁画について見る。</p> <p>12. 壁画の保存と修復1: 中国の保存修復</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 敦煌莫高窟や陝西省の取り組みについて見る。</p> <p>13. 日本の壁画1: 高松塚古墳壁画とキトラ古墳壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 中国大陸・朝鮮半島の墓葬壁画の影響と二つの壁画の特色について見る。</p> <p>14. 壁画の保存と修復2: 日本の保存修復</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 高松塚古墳壁画とキトラ古墳の保存修復の歴史を見る。</p> <p>15. 日本の壁画2: 法隆寺金堂壁画と平等院鳳凰堂壁画</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 仏教壁画の伝来と日本での発展について見る。</p>		

科目名	史料学特殊講義		担当教員	吉川 敏子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本古代王権下のジェンダー				
到達目標	ジェンダーに対する現代的なイメージを抱くだけではなく、漢文や古文で書かれた古代の史料に基づく実証的な考察が出来るようになることを目指す。				
授業概要	史料から日本古代王権への奉仕の在り方を読み解き、特に男と女の奉仕の在り方の共通点と相違点とを考える。大和王権の支配体制や律令制の男女の勤務規定を説明した上で、大化前代及び律令制下における王権下のジェンダーについての各テーマについて考えていく。				
評価方法・基準	期末レポートで評価する。出席状況を成績に反映させることはしないが、レポートでは史料を用いて考察することを求めるので、受講や読書を通じて、史料の読解力や思考力を養っておくことが求められる。				
課題のフィードバック方法	レポートにコメントを付ける。				
履修上の注意事項等	日本古代の史料を用いる。講義ではゆっくりと音読するが、ある程度の漢文の素養を必要とする。授業のスケジュールを修正する場合は、ガイダンスや授業において事前に連絡する。				
テキスト	なし				
参考書	授業中に紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習] 古墳時代・奈良時代・平安時代の国家体制の概略を理解しておく。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。</p> <p>2. 大和王権の王位継承 ----- [予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。</p> <p>3. 大和王権の支配体制 ----- [予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。</p> <p>4. 大和王権の支配体制を支えた系譜意識 ----- [予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。</p>				

科目名	史料学特殊講義	担当教員	吉川 敏子
授業内容	5. 采女の伝承		
	[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。		
	6. 質疑応答		
	[予習・復習] 事前に質問した事柄について自分なりに考察する。授業後は自分で立てた仮説と授業でえた知見とを比較検討すること。		
	7. 律令官司機構の概要		
	[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。		
	8. 後宮職員令を読む1		
	[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。		
	9. 後宮職員令を読む2		
	[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。		
	10. 質疑応答		
	[予習・復習] 事前に質問した事柄について自分なりに考察する。授業後は自分で立てた仮説と授業でえた知見とを比較検討すること。		
	11. 宮人の仕事の空間		
	[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。		
	12. 出仕する女性貴族		
[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。			
13. 氏女・采女の出仕			
[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。			
14. 後宮十二司の変容			
[予習・復習] 配付史料に目を通してくること。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。			
15. 総括			
[予習・復習] 前回までの授業を振り返り古代王権下のジェンダーについての課題について十分考察してくる。授業後は参考文献を読み、知識を深めること。			

科目名	保存科学特殊講義(一)		担当教員	☆ 中橋 孝博	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本人はどこから来たのか、人類はどこで生まれ、どのような道を辿って極東の島国に辿り着いたのか。700万年以上に及ぶ人類、そして日本人の来た道を辿る。				
到達目標	埋蔵文化財に準じる古人骨資料を研究することの意味、その歴史資料的価値、その保存法や調査法などを習得する。「日本人とはなにか」、「どのように日本人は成立したか」、「人間の多様性とはなにか」などに関する広範な知育の促進をはかる。				
授業概要	貴重な文化財を遺したのは言うまでもなくその時代、地域に生きた人々である。その彼らの遺骨はまた、古代の人と社会を考えるための貴重な情報源でもある。先進技術の進歩によって、人骨から得られる情報はますます多彩で豊富になっている。最初に骨からどのような知見が得られるかを学んだ上で、その適用課題として日本人の起源問題を取り上げ、遠くアフリカにおける人類の誕生から東アジアへの拡散、そして日本人の形成に至るまでの多くの謎を秘めた道程を解説する。併せて、世界文化遺産のシリア・パルミラでの研究例を紹介する。				
評価方法・基準	平常点+定期試験(16週目に実施)				
課題のフィードバック方法	ほぼ毎回、授業の終わりにコメント・シートを提出してもらう。そこに記された疑問、質問、コメント類は、次回以降の授業で適宜紹介し、回答・解題していく。				
履修上の注意事項等	毎回、スライドを観ながら講義する。細かい項目等の暗記は求めないが、何が論点になっていて、どういう異論があるのか、あり得るのかを常に意識しながら講義を聞く様にして欲しい。				
テキスト	日本人の起源 中橋孝博 講談社学術文庫 2019				
参考書	倭人への道 中橋孝博 吉川弘文館歴史文化ライブラリー402 2015				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の目的と内容、進めかた、到達目標等に関するガイダンス 及び人体(骨)の概説----- -[予習・復習] シラバスを読み、テキストを素読すること 2. 文化財としての人骨(発掘法、保存法、情報の抽出方法)-----[予習・復習] テキストの 14-35 頁を読んでおくこと 3. 日本人の起源、その 1:太古の狩人達-旧石器時代の日本列島人-----[予習・復習] テキスト 36-42 頁を読んでおくこと 4. 日本人の起源、その 2:人類の起源と進化(1)-----[予習・復習] テキスト 43-62 頁を読んでおくこと 				

科目名	保存科学特殊講義(一)	担当教員	☆ 中橋 孝博
授業内容	5. 日本人の起源、その 3: 人類の起源と進化(2)-----[予習・復習] テキスト 63-83 頁を読んでおくこと 6. 日本人の起源、その 4: 人類の起源と進化(3)-----[予習・復習] テキスト 83-104 頁を読んでおくこと 7. 日本人の起源、その 5: 人類の起源と進化(4)-----[予習・復習] テキスト 105-121 頁を読んでおくこと 8. 日本人の起源、その 6: アジアへ、そして日本列島へ(1)-----[予習・復習] テキスト 122-158 頁を読んでおくこと 9. 日本人の起源、その 7: アジアへ、そして日本列島へ(2)-----[予習・復習] テキスト 158-180 頁を読んでおくこと 10. 日本人の起源、その 8: 日本人の起源—その論争史-----[予習・復習] テキスト 181-217 頁をよんでおくこと 11. 日本人の起源、その 9: 縄文人から弥生人へ(1)-----[予習・復習] テキスト 218-267 頁を読んでおくこと 12. 日本人の起源、その 10: 縄文人から弥生人へ(2)-----[予習・復習] テキスト 267-302 頁を読んでおくこと 13. 日本人の起源、その 11: 倭国大乱から「日本」人の形成へ-----[予習・復習] テキスト 303-350 頁を読んでおくこと 14. 世界歴史遺産: シリア・パルミラのローマ時代人—シルクロードのオアシス都市に生きた人々-----[予習・復習] 参考書の 180-197 頁(できれば読んでおくこと) 15. 授業まとめ ----- [予習・復習] これまでの授業内容の復習(教科書やプリント類を読んでおく)		

科目名	保存科学特殊講義(三)		担当教員	☆ 岡田 文男	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	本講義では、発掘調査で出土した埋蔵文化財の中で保存が著しく困難な脆弱遺物(大部分は有機質遺物)を中心に、それらの材質調査と保存処理について学ぶ。その応用として、伝世する仏像や建造物の修理と調査についても学ぶ。				
到達目標	本講義を受講することにより、発掘調査員として発掘現場に立った時に、出土した脆弱遺物を保存するうえで最低限必要な知識と措置法や、その後の保存処理の対処方法の基本を習得できる。また、学芸員として、脆弱遺物の取り扱い方の基本を理解することができる。				
授業概要	本講義では、発掘調査で出土した埋蔵文化財のなかの木製品や漆製品、繊維製品などの脆弱遺物の保存処理、ならびにそれらの材質調査の実践を通して得た知見を主に扱う。講義では日本国内はもとより、中国陝西省や四川省から出土した漢・唐代の遺物、韓半島から出土した原三国・三国時代の遺物も取り上げる。あわせて、近年取り組んでいる奈良時代の仏像の材質調査、平安時代の建造物塗装調査についても取り上げる。本講義では毎回、パワーポイントを用いて講義を行い、PDF資料を配布する(資料の配布方法については受講者数により決める予定)。				
評価方法・基準	毎回の講義内容について「講義内容要約・質問票」(300-500字以内)の提出(50%)と、前半・後半で各1回、小レポートの提出(50%)を課すことにより、総合評価とする。				
課題のフィードバック方法	毎回の講義において提出された質問については内容を整理したうえで、次回の講義の冒頭において回答する。				
履修上の注意事項等	毎回配布するPDF資料については受講生の学習目的での利用を認めるが、他者への供与、転用は厳禁とする。				
テキスト					
参考書					
授業内容	<p>1. 15回の講義の概要説明</p> <p>-----</p> <p>[復習]配布したPDF資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。</p> <p>2. 出土木材の保存処理と材質調査(1)－縄文・弥生時代－</p> <p>-----</p> <p>[復習]配布したPDF資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。</p> <p>3. 出土木材の保存処理と材質調査(2)－奈良・平安時代－</p> <p>-----</p> <p>[復習]配布したPDF資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。</p> <p>4. 出土木材の保存処理と材質調査(3)－中国四川省綿陽市・成都市における調査事例－</p> <p>-----</p> <p>[復習]配布したPDF資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。</p>				

科目名	保存科学特殊講義(三)	担当教員	☆ 岡田 文男
授業内容	5. 出土漆製品の保存と材質調査(1)－鳥浜貝塚をはじめとする縄文時代の漆製品－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	6. 出土漆製品の保存と材質調査(2)－紫金山古墳をはじめとする古墳時代の漆製品－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	7. 出土漆製品の保存と材質調査(3)－奈良・平安時代の漆製品－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	8. 出土漆製品の保存と材質調査(4)－中国四川省綿陽市の漆製品－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	9. 出土繊維製品の保存と材質調査(1)－絹－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	10. 出土繊維製品の保存と材質調査(2)－麻を中心とする植物繊維－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	11. 出土鉄製品の保存と材質調査(1)－古墳時代の鉄製品－		
	[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。		
	12. 出土鉄製品の保存と材質調査(2)－中国西安出土の刀剣－		
[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。			
13. 仏像の保存修復と材質調査－奈良時代の乾漆像－			
[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。			
14. 建造物塗装の保存修復と材質調査－平等院鳳凰堂と中尊寺金色堂－			
[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。			
15. 中国西安市における壁画の調査と顔料分析			
[復習]配布した PDF 資料を熟読し、その中で関心を持ったことをさらに深化させる。質問があれば、提出する。			

科目名	社会学基礎		担当教員	尾上 正人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会学的分析のおもしろさを知る				
到達目標	社会学の基礎知識を得るだけでなく、激動する今の社会を主体的に生き抜いてゆくための洞察力を身につけてゆくことを目標とする。				
授業概要	身近な日常生活に潜む不思議な現象に着目することから出発して、次第に鳥瞰図のように社会を眺める視点を獲得してゆく。各テーマごとに、そこで培われた社会学の基礎理論を紹介してゆくのので、講義全体を通して社会学の諸学説をほぼ網羅的に学習することができる。				
評価方法・基準	平常点 30%(講義中に指名した時の発言など、積極的な態度を重視)、学習到達度確認 70%(社会学の基礎的な知識が得られているか、またそれをもとに資料・データを読みこなす力があるかを評価する)				
課題のフィードバック方法	学習到達度確認は、添削のうえオフィスアワーに研究室にて返却するか、もしくはポータルにて講評する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. はじめに…人は社会から逃げられない</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 社会というものに自分がどういうイメージを持っているか、考えておく。社会から逃げられないという考え方に対して、各自の見解をまとめる。</p> <p>2. 心の社会学 I…主我(I)と客我(me)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] ふだん自分というものをどう捉えているか、見直してみる。ミードの主我と客我について復習する。</p> <p>3. 心の社会学 II…自分は本当はいくつあるのか?</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自分が複数あると思ったことはないか、ふりかえってみる。役割理論やゴフマンが捉えた自己について復習する。</p> <p>4. 交換・贈与の社会学 I…アメリカの理論</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] お金を払わないような交換にどんなものがあるか、考えておく。ホーマンズとブラウの交換理論について復習する。</p>				

科目名	社会学基礎	担当教員	尾上 正人	
授業内容	5. 交換・贈与の社会学 II…フランスの理論			
	[予習・復習] 交換は何のためにあるのか、自分の考えをまとめておく。デュルケーム、マリノフスキー、レヴィ=ストロースらの交換理論について復習する。			
	6. 日常生活の社会学…エスノメソドロジー			
	[予習・復習] 日常生活の意外な現象を挙げてみる。ガーフィンケルの実験と理論について復習する。			
	7. 争いの社会学…Love & Peace では済まない世の中			
	[予習・復習] 争いは社会でどのような役割を果たしているのか、自分の考えをまとめておく。ジンメル、コーザー、コリンズ、ダーレンドルフのコンフリクト理論について復習する。			
	8. システムの社会学 I…社会システム理論の系譜			
	[予習・復習] 日常語で使われる「システム」の共通項的な意味内容についてまとめておく。パーソンズの AGIL 理論、ルーマンのシステム理論について復習する。			
	9. システムの社会学 II…世界システム理論			
	[予習・復習] 世界をシステムとして捉えると、どのようなものになるか考えておく。ウォーラステインの世界システム理論について復習する。			
	10. 不平等の社会学 I…ジェンダー(性)			
	[予習・復習] 日常生活で性差別や不平等を感じる場面はどんなものか、考えをまとめておく。コンフリクト理論やマルクス主義フェミニズムによるジェンダー不平等の説明について復習する。			
	11. 不平等の社会学 II…階級・階層			
	[予習・復習] 階級・階層を構成するものは財産の不平等以外にどのようなものがあるか、考えておく。マルクスとウェーバーの階級理論の違い、地位の非一貫性について復習する。			
	12. 不平等の社会学 III…エスニシティ(民族)			
[予習・復習] 民族の定義の根拠となるものは何か、考えておく。エスニシティをめぐる講義で紹介した議論について復習する。				
13. 不平等の社会学 IV…メリトクラシー(競争秩序)				
[予習・復習] 現代社会の競争にはどのようなものがあるか、自分の考えをまとめておく。講義で取り上げた競争のタイプについて復習する。				
14. 社会学の歴史				
[予習・復習] これまで講義で学んできた社会学の理論についてまとめておく。社会学史の流れについて復習する。				
15. まとめ・学習到達度確認				
[予習・復習] これまでの学びをふりかえり、社会学の知識を今後の大学生活や人生にどう生かせるか考えてみる。				

科目名	文化人類学		担当教員	片 雪蘭	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	文化人類学の基礎				
到達目標	文化人類学の基礎的な概念と思考方法を学び、多様な文化を理解するための知識と態度を身に着ける。またそのことを通して、これまで当たり前だと考えていた身の回りの事柄を新しい観点から観察できるようになる。				
授業概要	世界各地のさまざまな生活や文化的な実践について、文献資料や画像、映像資料等を通して確認し、それらを理解するための理論や概念を学習する。本講義では、長期間の住み込み調査に基づいて現地の文化的実践を記述してきた「文化人類学」の理論と基礎概念を通して、異文化を理解するための方法を学ぶ。				
評価方法・基準	平常点 30% 毎回の講義に提出するコメントシート(講義への質問やコメント等)に基づいて評価する。 定期試験 70% 文化人類学の基本概念や語句の理解を問う(定期試験期間(16週目)に定期試験を実施する)。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問・疑問は、一部次回の授業に反映し、適宜紹介していく。 定期試験の講評は、ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料を配布する				
参考書	文化人類学の思考法 松村圭一郎・中川理・石井美保編 世界思想社 2019 ようこそ文化人類学へ;異文化をフィールドワークする君たちへ 川口幸大 昭和堂 2017 21世紀の文化人類学 前川啓治・箭内匡他編 新曜社 2018				
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスの内容を読んでおくこと。</p> <p>2. 異文化を理解するための方法(1):文化人類学の誕生</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]異文化を理解する方法としての文化人類学がどのような歴史的背景があるのかを考えておくこと。</p> <p>3. 異文化を理解するための方法(2):フィールドワークと民族誌</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]異文化を理解する方法としてのフィールドワークと民族誌がどのようなものなのかを考えておくこと。</p> <p>4. 食と生業(1):食えるとはどのようなことか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]自分の文化における「食えること」について考えておくこと。</p>				

科目名	文化人類学	担当教員	片 雪蘭
授業内容	<p>5. 食と生業(2):食料獲得のさまざまなやり方 ----- [予習・復習]世界におけるさまざまな生業のあり方を考えておくこと。</p> <p>6. 家族と親族(1): 家族になること ----- [予習・復習]日本における婚姻の形態について考えておくこと。</p> <p>7. 家族と親族(2): 世界のさまざまな家族のかたち ----- [予習・復習]「家族」がどのようなものか考えておくこと。</p> <p>8. ジェンダーとセクシュアリティ(1): 「女らしさ」「男らしさ」 ----- [予習・復習]日本における「男らしさ」「女らしさ」について考えておくこと。</p> <p>9. ジェンダーとセクシュアリティ(2): 第三の性 ----- [予習・復習]「女性」でも「男性」でもない「第3の性」について考えておくこと。</p> <p>10. 儀礼(1): 通過儀礼 ----- [予習・復習]日本における通過儀礼にはどのようなものがあるのか考えておくこと。</p> <p>11. 儀礼(2): 死とは何か ----- [予習・復習]いつから「死」だと言えるのか考えておくこと。</p> <p>12. 贈与と売買(1): 贈り物をめぐって ----- [予習・復習]自分が今までどのような贈り物をしてきたのか考えておくこと。</p> <p>13. 贈与と売買(2): お金と市場 ----- [予習・復習]「カネ」の意味について考えておくこと。</p> <p>14. グローバル化の人類学: 観光と開発をめぐって ----- [予習・復習]観光地における文化は、「本当」の文化なのか考えておくこと。</p> <p>15. まとめ ----- [予習・復習]本講義に関する質問をまとめておくこと。</p>		

科目名	経済学			担当教員	中坊 勇太
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	思考ツールとしての経済学入門:ミクロ的視点とマクロ的視点から				
到達目標	現実の経済や社会の仕組みを理解するための経済学の基礎的概念・知識を修得することが目標である。				
授業概要	経済学とは個人の意思決定(何をどれだけ買うのかなど)や、それが社会全体にどのような影響をもたらすのかについて研究する学問である。本講義では、個別のモノのやりとりを分析するミクロ経済学と、国レベルの集計化されたやりとりを分析するマクロ経済学の基礎的内容について解説する。講義内では抽象的な概念の説明だけでなく、できるだけ現実の具体例を都度紹介する。毎回出題する課題に真摯に取り組むことで理解を深めてほしい。				
評価方法・基準	授業ごとに出題する課題(提出状況と、出題した問い全てに答える等の真摯な姿勢を評価する)と、定期試験(経済学の基本概念や語句の理解を問う)の成績により総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	課題の解答解説を授業内で行う。定期試験の解答例を公開する。希望者には定期試験採点済み答案をオフィシアワーにて返却する。				
履修上の注意事項等	講義内容は各回連続している(1回完結ではない)ので休みがちであるについていけなくなる。				
テキスト	マンキュー入門経済学(第3版) N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2019				
参考書	アセモグル/レイブソン/リスト 入門経済学 D・アセモグル、D・レイブソン、J・リスト 東洋経済新報社 2020				
授業内容	<p>1. ガイダンス・経済学とは ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。</p> <p>2. 経済学の考え方:トレードオフ・機会費用・インセンティブ ----- [予習・復習]教科書第1章を読む。トレードオフ・機会費用・インセンティブについて、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p> <p>3. 経済学の考え方:取引することの利益 ----- [予習・復習]教科書第3章 2・3を読む。比較優位と絶対優位の違いを自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p> <p>4. 需要:消費者の行動 ----- [予習・復習]教科書第4章 1 市場と競争、2 需要を読む。市場・需要とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p>				

科目名	経済学	担当教員	中坊 勇太
授業内容	5. 供給:企業(生産者)の行動		
	----- [予習・復習]教科書第 4 章 3 供給を読む。供給とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	6. 均衡:市場システム		
	----- [予習・復習]教科書第 4 章市場における需要と供給の作用を読む。均衡とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	7. 需要、供給、および政府の政策		
	----- [予習・復習]教科書第 5 章需要、供給、および政府の政策を読む。価格統制・税金の効果について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	8. 外部性		
	----- [予習・復習]教科書第 7 章外部性を読む。外部性とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	9. 国民所得の測定		
	----- [予習・復習]教科書第 8 章国民所得の測定を読む。GDP とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	10. 生計費の測定		
	----- [予習・復習]教科書第 9 章生計費の測定を読む。物価指数とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	11. 生産と成長		
	----- [予習・復習]教科書第 10 章生産と成長を読む。生産性とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	12. 貯蓄、投資と金融システム		
----- [予習・復習]教科書第 11 章貯蓄、投資と金融システムを読む。貯蓄と投資の関係性について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
13. 貨幣システム			
----- [予習・復習]教科書第 11 章付録 1 貨幣システムを読む。貨幣とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
14. 開放マクロ経済学			
----- [予習・復習]教科書第 13 章開放マクロ経済学を読む。純輸出と国民貯蓄・国内投資の関係性について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
15. 講義のまとめ			
----- [予習・復習]前回までの講義内容の疑問点をまとめておく。			

科目名	政治学		担当教員	竹中 浩	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	政治学の概説				
到達目標	政治学の基本的な考え方を身に着け、政治学的な議論のスタイルに慣れるとともに、現代の政治現象に対するバランスのとれた見方ができるようにする。				
授業概要	この授業では、広く社会科学を学ぶうえで必要な、政治学の基本事項について解説する。特に、経済学や社会学との違いに焦点を合わせ、社会科学の一部門としての政治学がもつ特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に 2 回の課題レポートによって評価する(1 回目 40%、2 回目 60%)。授業の最後に小テストを行い、その提出によって出席を確認するが、出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
課題のフィードバック方法	レポート課題に関しては授業の中で解説する。個々のレポートについての講評等は行わないが、レポート課題作成上で生じた疑問について、メールでなされた質問には個別に回答する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示した箇所のテキストをよりよく理解するために、その内容に関する解説文をポータルサイトの「講義連絡」にアップするという方法をとる。課題レポートを 1 回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学 川出良枝・谷口将紀編 東京大学出版会 2012 年				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]事前にシラバスを読み、授業内容について理解しておく。</p> <p>2. 古代の民主政治と近代の民主政治</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの第1章第1節と第2節を読んでおく。</p> <p>3. 民主政治と自由主義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの第1章第3節を読んでおく。</p> <p>4. 民主政治と国民国家</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストの第2章第1節を読んでおく。</p>				

科目名	政治学	担当教員	竹中 浩
授業内容	5. 民主政治の再定義		

	[予習・復習]テキストの第 2 章第 2 節と第 3 節を読んでおく。		
	6. 福祉と政治		

	[予習・復習]テキストの第 3 章を読んでおく。		
	7. 大統領制と議院内閣制		

	[予習・復習]テキストの第 4 章を読んでおく。		
	8. 選挙		

	[予習・復習]テキストの第 5 章を読んでおく。		
	9. 議会と政党		

	[予習・復習]テキストの第 6 章を読んでおく。		
10. 官僚制と政官関係			

[予習・復習]テキストの第 7 章を読んでおく。			
11. 世論とマスメディア			

[予習・復習]テキストの第 8 章を読んでおく。			
12. 地方自治			

[予習・復習]テキストの第 9 章を読んでおく。			
13. グローバル化			

[予習・復習]テキストの第 10 章を読んでおく。			
14. 民主政治の現在			

[予習・復習]テキストの第 11 章を読んでおく。			
15. 授業総括			

[予習・復習]これまでの授業全体を振り返り、理解できていない点がないか確認する。			

科目名	地域社会学			担当教員	吉村 治正
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	都市・農村格差の理解				
到達目標	都市と農村の集団構成の違いに着目し、日本における社会問題の存在を再認識する				
授業概要	都市と農村の対比から明らかになる現代社会の社会問題を、近現代史的な観点を踏まえて読み解いていく。				
評価方法・基準	授業のたびに課題を与える。一回の課題は理解度に応じて0~7点、この合計点で成績評価を行う(100点を超えるものは100点で切り捨てる)。				
課題のフィードバック方法	課題はGoogleのClassroomを用いて提出してもらう。また授業の動画もClassroomを通じて配信する。質問などのある者はこのClassroomを通じて行うこと。返事もこれを通じて行う。				
履修上の注意事項等	本科目はGoogleClassroomを用いたりリモート授業となる。履修者はtboxのアカウントでログインしてもらうので、tboxのアカウントを事前にアクティベートし、招待メールを受け取れるように設定しておくこと。				
テキスト	都市社会学入門 松本康 有斐閣アルマ 2014				
参考書					
授業内容	<p>1. 集団構成の基本原則 ----- [予習・復習] テンニースおよびマッキーヴァーの集団概念を社会学辞典などで把握しておく</p> <p>2. 産業化以前の都市の姿 ----- [予習・復習] 世界の主要都市の地図をインターネットで探しておく</p> <p>3. 産業革命と人口爆発 ----- [予習・復習] 「マルサスの人口爆発理論」について調べる</p> <p>4. 都市への人口流入 ----- [予習・復習] 「エリザベス救貧法」について調べておく</p>				

科目名	地域社会学	担当教員	吉村 治正
授業内容	5. 明治大正期の貧民問題		

	[予習・復習] 河上肇『貧乏物語』		
	6. 人口移動と逸脱者		

	[予習・復習] C.ショウ「ジャック・ローラー」		
	7. 都市の発達と成長		

	[予習・復習] 教科書第一章～第二章		
	8. 消えないスラム		

	[予習・復習] 教科書第八章		
	9. 都市は農村の延長？		

	[予習・復習] J.アベグレン『日本の経営』第六章		
10. 脱落農民的都市労働者階級の形成			

[予習・復習] 加瀬和俊『集団就職の時代』			
11. 中産階級コミュニティを夢見て			

[予習・復習] 教科書第四章、第九章			
12. 過疎と過密			

[予習・復習] 教科書第十四章			
13. グローバルシティと産業の空洞化			

[予習・復習] 教科書第七章			
14. 私化(privatization)の進行			

[予習・復習] 片桐雅隆『変容する日常世界』			
15. まとめ			

[予習・復習] これまでの授業内容の総復習			

科目名	家族社会学		担当教員	☆ 中田 奈月	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会・家族・規範・ルール				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族をめぐるさまざまな社会現象を複眼的に捉えることができる。 ・家族をめぐるさまざまな社会事象を社会学の概念を用いて説明できる。 				
授業概要	社会学の考え方を基盤として家族をめぐるさまざまな事象をとらえることを目的とする。家族をめぐり、私たちが暗黙のうちに従っているルールとは何か、そこに何かがあるのかを検討する。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのコメント(40点):提示資料に対するコメントを評価する ・授業内容をうけてのコメント(40点):基礎的知識の確認をする ・レポート(20点):提示資料および議論を踏まえたレポートを評価する 				
課題のフィードバック方法	提出されたコメントおよびレポートはコメントを添えて毎回フィードバックする				
履修上の注意事項等					
テキスト	資料提示				
参考書	その都度指示				
授業内容	<p>1. 家庭の定義(資料提示およびテスト)</p> <p>-----</p> <p>学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする</p> <p>2. 家族の定義(講義・議論)</p> <p>-----</p> <p>学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする</p> <p>3. デート(資料提示およびテスト)</p> <p>-----</p> <p>学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする</p> <p>4. デート(講義・議論)</p> <p>-----</p> <p>学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする</p>				

科目名	家族社会学	担当教員	☆ 中田 奈月
授業内容	5. 就職(資料提示およびテスト)		

	学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする		
	6. 就職(講義・議論)		

	学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする		
	7. 結婚(資料提示およびテスト)		

	学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする		
	8. 結婚(講義・議論)		

	学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする		
	9. オジサン・オバサン(資料提示およびテスト)		

	学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする		
10. オジサン・オバサン(講義・議論)			

学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする			
11. 労働(資料提示およびテスト)			

学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする			
12. 労働(講義・議論)			

学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする			
13. 近代家族・貧困(資料提示およびテスト)			

学習課題[予習・復習]提示した資料についてコメントする			
14. 近代家族・貧困(講義・議論)			

学習課題[予習・復習]提示した資料および議論を踏まえてコメントをする			
15. 最終報告およびフィードバック			

学習課題[予習・復習]提示した資料についてレポートを作成する			

科目名	産業社会学		担当教員	尾上 正人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本の企業とそこでの組織や労働の特徴的なあり方について、社会学的な立場から実態分析する。				
到達目標	日本の産業社会に関して客観的・実証的な知見を得、将来従事すべき職業や労働に対して主体的に研究できるようにすることを目標とする。				
授業概要	本講義では、産業社会学の概念枠組と方法論を学史的に遡って確定した後に、サブテーマごとにこうした特徴ある日本産業社会の実態を、歴史的・国際比較的に見てゆく。また、グローバル化の中で、こうした日本の特質がどのように変容を迫られてゆくかについても展望する。				
評価方法・基準	平常点30%(課題提出などでの積極的な態度を重視)、学習到達度確認70%(日本産業社会の特質について基礎的な知識が得られているか、またそれをもとに資料・データを読みこなす力があるかを評価する)				
課題のフィードバック方法	平常点に加味する各回の課題または小テストについて、授業中に解説する。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布し解説を行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	新しい産業社会学—仕事をとおしてみる日本と世界 犬塚先〔編〕 有斐閣 2003 仕事の経済学 小池和男 東洋経済新報社 2006				
授業内容	<p>1. 産業社会学とは何か—概念枠組と方法論</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] かつて社会科で習った産業等の知識をおさらいしておく。ホーソーン実験の結果と学問的影響について復習する。</p> <p>2. 主要国産業社会の類型化—信頼概念を軸に</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 日常語としての「信頼」が含む意味内容について、事前に考えておく。信頼を捉える社会科学の枠組について復習する。</p> <p>3. 競争原理から見た日本産業社会の特徴</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 日常語としての「競争」が含む意味内容について、事前に考えておく。競争を捉える社会科学の枠組について復習する。</p> <p>4. 就職から見た日本産業社会の特徴</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 近年の大学生の就職に関する報道について調べておく。若者の就職に戦時体制が及ぼした影響について復習する。</p>				

科目名	産業社会学	担当教員	尾上 正人
授業内容	5. 転職から見た日本産業社会の特徴		
	----- [予習・復習] 昨今の日本人の転職に関する報道について調べておく。グラノヴェッターの弱い紐帯仮説について復習する。		
	6. 余暇活動の日本人的特徴		
	----- [予習・復習] 昨今の日本人の余暇活動に関する報道について調べておく。NHKの国民生活時間調査の結果について復習する。		
	7. 給与から見た日本産業社会の特徴		
	----- [予習・復習] 昨今の日本人の賃金・年収に関する報道について調べておく。給与の世代効果仮説について復習する。		
	8. 女性雇用の日本人的特徴		
	----- [予習・復習] 昨今の女性労働力に関する報道について調べておく。M字カーブの変遷、職務隔離・職域隔離について復習する。		
	9. 定年と再雇用—高齢者雇用の日本人的特徴		
	----- [予習・復習] 昨今の高齢化に関する報道について調べておく。年功賃金カーブの労働経済学的説明について復習する。		
	10. 非典型雇用の日本人的特徴—フリーターを例に		
	----- [予習・復習] 昨今のフリーター・非正規雇用に関する報道について調べておく。生涯賃金の格差を生み出す主な仕組みについて復習する。		
	11. サービス経済化の日本人的特徴		
	----- [予習・復習] 日常語としての「サービス」が含む意味内容について、事前に考えておく。主要国のサービス経済化の帰結について復習しておく。		
	12. コーポレート・ガバナンスと企業組織		
----- [予習・復習] 日常語として普及してきた「ガバナンス」が含む意味内容について、事前に考えておく。日本のコーポレート・ガバナンスの特徴について、特に英米との比較において復習する。			
13. グローバル化・金融化の中の日本産業社会			
----- [予習・復習] 経済的な国際競争の現状に関する報道について調べておく。金融化が産業社会にもたらした影響について復習する。			
14. 歴史社会学的に見た「働くこと」の意味付け			
----- [予習・復習] 自分の人生において働くことの意味とは何か、事前に考えておく。働くことの歴史的な意味づけの変化や、働くことの喜びの2種類について復習する。			
15. まとめ			
----- [予習・復習] 受けてきた講義全体をふまえながら、日本の産業の特質について考えておく。			

科目名	国際社会学		担当教員	中原 洪二郎	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国際社会の多水準分析				
到達目標	国際社会を国家間の関係としてだけでなく他の社会集団や個人を含めた関係として理解し、自身と世界の関わりを深く考察すること。				
授業概要	主に(1)国家間関係としての国際社会(2)民族集団や企業、NGO など非国家間関係としての国際社会(3)国際社会における「個人」の意味と役割、という 3 つの水準と、世界の(1)民族と文化(2)産業・経済・労働(3)情報化、という 3 つの視点から、国際社会の構造を分析・検討する。				
評価方法・基準	a=各回の理解度確認(75%)+最終課題(25%) 課題の評価基準: (要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している) and (独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている) 最終課題の評価基準: 各回課題の評価基準に加えて、「自分」という視点が盛り込まれていること				
課題のフィードバック方法	課題へのコメントおよび講義中の質疑口頭				
履修上の注意事項等	課題提出をおろそかにしないこと。詳しくは第 1 回の講義で説明するので、必ず出席すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				
授業内容	<p>1. ガイダンス:国際社会学が対象とするものは何か</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 個人と世界がどのように関わっていると感じているのか、この時点での感じ方を次回までにまとめておくこと。</p> <p>2. 国家というシステム: 国民国家とナショナリズム</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 国民とは何か、国家とは何か、それらが自分とどのように関係しているのか、次回までに考えておくこと。</p> <p>3. 人種・民族・エスニシティ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 講義でとりあげた概念について、自らの回りにどのような形で存在しているのか、次回までに考えておくこと。</p> <p>4. 民族と文化</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 講義でとりあげた概念について、それまでの自分の理解と何が同じで何が違うのかを、次回までに考えておくこと。</p>				

科目名	国際社会学	担当教員	中原 洪二郎
授業内容	5. 異文化接触と文化変容		
	[予習・復習] 具体的な異文化接触と文化変容について、講義でとりあげたもの以外の事例を、次回までに調べておくこと。		
	6. 文化相対主義と自民族中心主義		
	[予習・復習] どうすれば世界の人々が文化の違いを超えて『理解』しあえるのか、次回までに考えておくこと。		
	7. 国際人口移動: 奴隷制度の遺したもの(1) 奴隷輸入先の状況: アメリカとブラジル		
	[予習・復習] 講義でとりあげた事例について、それまでの自分の理解と何が同じで何が違うのかを、次回までに考えておくこと。		
	8. 国際人口移動: 奴隷制度の遺したもの(2) 奴隷輸出元の状況: アフリカの歴史		
	[予習・復習] アフリカの人々が我々の生活にどのように関わっているのか、講義で示した資料を参考に、次回までに調べておくこと。		
	9. 国際人口移動: 移民・外国人労働者		
	[予習・復習] もし日本に移民を受け入れるとしたら、どのような制度設計が望ましいか、次回までに自分なりの考えをまとめておくこと。		
	10. グローバル化の理論と現実		
	[予習・復習] グローバル化のメリットとデメリットについて、それぞれの生活の中から発見し、次回までにまとめておくこと。		
	11. 国際経済格差(1) 格差はなぜ生まれるか		
	[予習・復習] この講義で取り上げた国際経済格差と、我が国の社会で問題になっている「格差」のメカニズムについて、その同じ点と異なる点を、次回までに考えておくこと。		
	12. 国際経済格差(2) 格差の解消は可能か		
[予習・復習] 国際経済格差を解消するアイデアについて、次回までに考えておくこと。			
13. 日本の産業・消費構造とグローバル化			
[予習・復習] 日本の産業構造の変化について、講義で取り上げたもの以外の事例を、次回までに調べておくこと。			
14. インターネットは世界を変えるのか			
[予習・復習] SNSなどで世界が結びついている状況について、講義で取り上げた以外の事例を、次回までに調べておくこと。			
15. まとめ			
[予習・復習] 「トランスナショナルな世界と自分」というテーマの最終レポートを執筆して、期日までに提出すること。			

科目名	環境社会学			担当教員	☆ 山本 素世
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	様々な環境課題の展開についての環境社会学からのアプローチ				
到達目標	自然環境、生活環境などの環境に関する課題を多様な社会関係について社会的視点より捉え、これからの環境と市民生活について考える				
授業概要	講義では、環境課題の歴史的経緯、自然環境、社会環境など環境について多角的にとらえ、環境社会学のアプローチと分析手法を知る。これまで NPO やボランティアで環境教育、SDGs ガイド、温暖化防止、まちづくりに取り組んできた現場の経験や実際の事例、調査で得た知見を活用し、地域の人々や諸団体の環境課題への取り組みから、市民生活と環境について考える。また、SDGs と環境課題について、それぞれのテーマに応じて解説する。ワークショップ、グループディスカッションを何度か採用する予定である。				
評価方法・基準	講義での発言、ワークショップ方式への参加など講義に積極的な取り組み。ミニレポートおよびレポートを指示するので指定期日までに提出すること。定期試験(筆記)を実施する				
課題のフィードバック方法	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントし評価する。レポートおよびミニレポートについては、後日の講義でコメントする。コメントシートの内容や質問、疑問は、次回以降の授業に反映し適宜紹介していく。				
履修上の注意事項等	講義及びワークショップ、グループディスカッションに積極的に参加し、レポートおよびミニレポートを期日までに提出すること。定期試験を受けること。				
テキスト	よくわかる環境社会学第2版 鳥越皓之・帯谷博明 ミネルヴァ書房 2017				
参考書					
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境社会学とは(ガイダンス)環境社会学と講義で取り上げる分野の概要について知る [予習・復習] シラバスを確認し、講義の全体概要について理解する。 2. 自然保護(1) 野生とは、自然保護の考え方について知る [予習・復習] テキストの野生と自然保護を読む。自然保護の考え方を確認し整理する。 3. 自然保護(2) 世界遺産と地域社会 世界遺産が地域社会にもたらすものについて [予習・復習] テキストを読み、世界遺産の意義や制定について確認する。奈良県下の世界遺産について確認し、まとめる。 4. 身近な自然(1) 里山、入会地。里山と入会地と地域社会の関係について学ぶ [予習・復習] 講義で解説した里山や入会地に関する用語と概念をテキストをもとに確認しまとめる 				

科目名	環境社会学	担当教員	☆ 山本 素世
授業内容	<p>5. 身近な自然(2) 生活と水、人の生活と水の関係について学ぶ [予習・復習] 講義内容を振り返り、地域にとっての川、里山と里川の違いや同じところについて、確認し整理を行う。</p> <p>6. ゴミ問題 ゴミと地域社会の取り組みについて学ぶ [予習・復習] テキストのごみ問題の部分を読む。3R やプラスチックなどのゴミ問題について確認し整理しておく。</p> <p>7. NPO、市民活動、ボランティアと環境問題について学ぶ [予習・復習] NPO および NGO の定義や特徴について、テキストやレジュメを読み整理する。身近な環境問題と市民活動、ボランティアに関心をもつ</p> <p>8. 地域づくり(1) 地域組織、コミュニティについて学ぶ [予習・復習] コミュニティ、アソシエーション、地域組織の機能と役割について、テキストやレジュメを参照してまとめる。</p> <p>9. 地域づくり(2)自治体と住民のまちづくり活動と協働 [予習・復習] 自治体の環境政策や住民との協働にはどのようなものがあるか、関心をもち調べる。</p> <p>10. 歴史的環境と伝統文化、地域社会 [予習・復習] 奈良や京都の歴史的景観について関心をもち、学ぶ。テキストや講義内容を参考に、身近な伝統文化や行事について関心を深める。</p> <p>11. SDGs 持続可能な開発のための目標について、これまでのテーマをふまえ学ぶ [予習・復習] SDGsについて、制定経緯や詳細をしる。SDGs の視点から身近な社会や生活との関連について理解を深める</p> <p>12. 公害、開発、日本の公害と環境課題について、開発の影響から学ぶ [予習・復習] 公害や開発について講義やテキストに出てきた用語を理解し、仕組みを理解する</p> <p>13. 開発とSDGs、エネルギー課題 [予習・復習]開発とSDGs、エネルギー課題の関係性を整理し、理解する。用語についても整理しておく</p> <p>14. 地球温暖化とSDGs、エネルギー [予習・復習] 温暖化とエネルギー政策、社会の変化について、講義内容を振り返り、自分の関心を深める。</p> <p>15. 全体の総括とふりかえり [予習・復習] これまでの講義でとりあげたテーマについて SDGs の視点より振り返る。解説した概念や用語をテキストやレジュメで内容を確認し理解する。</p>		

科目名	情報社会学		担当教員	☆ 喜多 満里花	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	現代の情報社会における情報メディア、社会、個人の関係性について考える				
到達目標	学生が情報社会についての基礎的な理論を理解し、情報社会について関心のある事柄について社会的に考える能力を獲得することを目標とする				
授業概要	メディアの歴史とその理論を概観した上で、近年の様々な事象を取り上げながら、急速に発達している現代の情報社会におけるメディアと情報と個人の関係について考察する				
評価方法・基準	毎回授業後には、自分の考えをまとめたり、授業で議論したことの具体例を探すワークが課される。その各回の課題の内容(約50%)、期末レポート(約50%)で成績評価する。				
課題のフィードバック方法	各回の課題へのフィードバックは、解説資料のアップロードや次回の授業冒頭の質疑応答を通じて行う。 また期末レポートは個別に返却は行わないが、締切後に採点基準をポータルサイトに一定期間掲示する。				
履修上の注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業で指示された文献がある場合は熟読すること。 ・本講義では復習を重視するので、授業終了後は必ず講義資料と講義メモノートを基に復習をしておくこと ・指示内容に従わない課題や、明らかに授業資料に目を通していない課題は大きく減点する 				
テキスト	『基礎ゼミ メディアスタディーズ』 石田佐恵子・岡井崇之編 世界思想社 2020				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス ----- [予習・復習]情報社会学を学ぶ上で関心のある事象について考えておく 教科書の序章を読む</p> <p>2. プラットフォームから社会を見る① ネット世論とフェイクニュース ----- [予習・復習]教科書の1章、2章を読んでおく。授業後は丁寧な復習をしておくこと。</p> <p>3. プラットフォームから社会を見る② スマートフォンと写真、Instagram ----- [予習・復習]教科書の3章を読んでおく。授業後は丁寧な復習をしておくこと。</p> <p>4. プラットフォームから社会を見る③ 美容整形とウェブ言説、雑誌言説 ----- [予習・復習]教科書の4章を読んでおく。授業後は丁寧な復習をしておくこと。</p>				

科目名	情報社会学	担当教員	☆ 喜多 満里花
授業内容	5. HOME からメディアを見る① CM とジェンダー表現		
	----- [予習・復習]教科書の5章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	6. HOME からメディアを見る② 障害者のテレビ表象		
	----- [予習・復習]教科書の6章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	7. HOME からメディアを見る③ 犯罪報道とジェンダー		
	----- [予習・復習]教科書の7章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	8. メディアのレポートを書く		
	----- [予習・復習] 期末レポートの準備のために、教科書の順番を入れ替え、終章を扱う。教科書の終章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	9. HOME からメディアを見る④ 健康とメディア		
	----- [予習・復習]教科書の8章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	10. 期末レポートの構想を練る		
	----- この回では、期末レポートに向けた準備課題を課す。それまでの授業の内容などをよく復習し、課題に取り組むことが望ましい。		
	11. メディアで境界を越える① 外国人選手へのまなざし		
	----- [予習・復習]教科書の9章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。		
	12. メディアで境界を越える② クールジャパン		
----- [予習・復習]教科書の10章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。			
13. メディアで境界を越える③ K-POP と政治			
----- [予習・復習]教科書の11章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。			
14. メディアで記録／記憶する① グーグルマップと場所			
----- [予習・復習]教科書の12章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。			
15. メディアで記録／記憶する② メディア経験の語り			
----- [予習・復習]教科書の13章を読んでおく。授業後は丁寧な復習しておくこと。			

科目名	東アジア・東南アジア社会論		担当教員	☆ 上田 達	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	東アジア・東南アジアの生活と社会				
到達目標	文化人類学、地域研究等の知見に基づき、アジアに暮らす人々の生活を理解し、フィールドワークに基づく地域調査の方法を身につける				
授業概要	東アジアと東南アジアの諸社会について、とくに文化人類学の分野の主要な研究テーマをテキストに即して紹介する。また東アジアと東南アジアの接点として興味深い地理的・歴史的条件を備えたマレーシアについて、担当者の現地調査に基づく知見も含めて扱う。以下の通り実施する。				
評価方法・基準	成績は次の二つの観点から総合的に評価する。 ・最終授業時に行う学習到達度確認課題で40%を評価する。東アジアと東南アジア社会を理解するための基本概念や語句の理解を問う。 ・授業中に提出を要求する課題で60%を評価する。授業時に基本的な語句の理解等、講義内容の理解度を確認する課題を出す。				
課題のフィードバック方法	授業中に提出された課題について、授業中に講評を行う。授業最終日に実施する学習到達度確認課題は、実施後、講義時間内で回答例など提示しながら講評を行う。				
履修上の注意事項等	指定したテキストを必ず購入し、毎回の授業時に持参すること。				
テキスト	東アジアで学ぶ文化人類学 上水流久彦他編 昭和堂 2017年				
参考書	文化人類学の思考法 松村圭一郎ほか編 世界思想社 2019 文化人類学キーワード 改訂版 山下 晋司&船曳 建夫編 有斐閣 2008 人類学のコンセンサス—文化人類学入門 浜本満&浜本まり子編 学術図書出版社 1994				
授業内容	<p>1. 「アジア」という言葉とその地理的範囲 ----- [予習・復習] 「アジア」という語について事典等で調べておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>2. 東アジアの地理的範囲と日本の地理的特徴 ----- [予習・復習] 東アジアに含まれる国家について調べておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>3. 東アジアへの文化人類学的アプローチ ----- [予習・復習] テキストの序章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>4. 文化人類学のフィールドワーク ----- [予習・復習] テキストの第1章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p>				

科目名	東アジア・東南アジア社会論	担当教員	☆ 上田 達
授業内容	<p>5. 韓国と日本の血縁 ----- [予習・復習] テキストの第2章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>6. 韓国の女らしさ／男らしさ ----- [予習・復習] テキストの第4章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>7. 台湾の結婚式 ----- [予習・復習] テキストの第5章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>8. 中国の神・祖先・鬼 ----- [予習・復習] テキストの第3章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>9. 台湾の先住民 ----- [予習・復習] テキストの第7章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>10. 香港の移民 ----- [予習・復習] テキストの第8章を読んでおくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>11. 東南アジアの地理的範囲と民族・宗教構成 ----- [予習・復習] 東南アジアに含まれる国家について調べておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>12. マレーシアの地理的環境と歴史 ----- [予習・復習] マレーシアについて調べておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>13. マレーシアにおける民族構成について ----- [予習・復習] テキスト第8-10章も含め、復習しておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>14. マレーシア社会と日常生活 ----- [予習・復習] テキスト第5章および第7章と授業内容を確認し、理解を深めること。</p> <p>15. まとめ ----- [予習・復習] 学習到達度確認のための復習をしておくこと。授業内容を確認し、理解を深めること。</p>		

科目名	消費者行動分析			担当教員	中坊 勇太
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	経済学による消費者行動の分析				
到達目標	消費者行動に関する経済学の考え方を学び、その考え方をを用いて現実の消費者行動のメカニズムを分析できるようになる。				
授業概要	消費者行動に関する経済学の考え方をミクロ経済理論を用いて講義する。まず、価格理論の観点から、伝統的経済学が前提としていた合理的な消費者の行動を、数理的に表現する方法論について説明する。次に、ゲーム理論の観点から、消費者の戦略的行動について説明する。最後に、伝統的経済学では説明できない消費者の心理・行動のバイアス(偏り)について、行動経済学の観点から説明する。				
評価方法・基準	平常点 30%(コメントシートへの感想質問記入の充実度を評価)、学期末レポート 70%(講義で紹介した考え方をを用いて、現実の消費者行動のメカニズムについて自説を展開できているかを評価)				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問は、次回以降の授業に反映し適宜紹介していく。レポートの講評は、ポータルサイトの講義連絡上で連絡する。希望者には、採点済みレポート答案の写しをオフィスアワーにて返却する。				
履修上の注意事項等	数式を用いた説明を行う場合がある。授業内容は各回連続している(1回完結ではない)ので休みがちであるとしていけなくなる。				
テキスト	プリント資料を配布する				
参考書	ミクロ経済学の力 神取道宏 日本評論社 2014 消費経済学入門 樋口一清 中央経済社 2019 行動経済学入門 筒井義郎 ほか 東洋経済新報社 2017				
授業内容	<p>1. ガイダンス・経済学による「分析」とは</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。配布資料を読み返し、経済学の分析の特徴を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>2. 価格理論(1): 選好と効用の概念</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]配布資料を読み返し、選好と効用の概念を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>3. 価格理論(2): 最適消費とその性質</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]配布資料を読み返し、最適消費の導出を自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>4. ゲーム理論(1): ナッシュ均衡と囚人のジレンマ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]配布資料を読み返し、ナッシュ均衡の概念を自分の言葉で説明できるようにする。</p>				

科目名	消費者行動分析	担当教員	中坊 勇太
授業内容	5. ゲーム理論(2): 協調ゲーム		

	[予習・復習]協調ゲームで分析可能な現実の消費者行動例を探す。		
	6. 行動経済学とは・ヒューリスティクス		

	[予習・復習]ヒューリスティクスにより説明可能な現実の消費者行動例を探す。		
	7. リスク選好(1): 期待効用理論		

	[予習・復習]配布資料を読み返し、期待効用理論の要点を自分の言葉で説明できるようにする。		
	8. リスク選好(2): アレのパラドックス		

	[予習・復習]アレのパラドックスにより説明可能な現実の消費者行動例を探す。		
	9. リスク選好(3): プロスペクト理論		

	[予習・復習]プロスペクト理論で分析可能な現実の消費者行動例を探す。		
10. 時間選好(1): 現在バイアスと先延ばし行動			

[予習・復習]自分の身の回りの先延ばし行動例を探す。			
11. 時間選好(2): コミットメント			

[予習・復習]前回探した先延ばし行動例を改善できるコミットメント例を考える。			
12. 社会的選好(1): 利他性			

[予習・復習]利他性により説明可能な現実の消費者行動例を探す。			
13. 社会的選好(2): 互酬性・不平等回避性			

[予習・復習]互酬性や不平等回避性により説明可能な現実の消費者行動例を探す。			
14. メンタルアカウンティング			

[予習・復習]メンタルアカウンティングにより説明可能な、自分の身の回りのお金にまつわる行動例を探す。			
15. 講義のまとめ			

[予習・復習]これまでの授業内容に関する疑問点をまとめておく。			

科目名	産業と技術の発展		担当教員	尾上 正人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	近代日本の産業・技術の発展を概観する				
到達目標	人や事件を軸にした歴史とは異なった、連続性と断層の織り交じった技術史を知ること、科学的・客観的な歴史観・社会観を身に付けてもらうことを目標とする。				
授業概要	日本は戦後、特に「産業立国」「技術立国」として国際的地位の飛躍的な向上を成し遂げた。しかし、90年代以降のグローバル化する経済の中で、日本はいくつかの産業技術分野において新興諸国の後塵を拝するようになってきている。日本が「技術立国」としての地位を回復するために必要なことは何であろうか。				
評価方法・基準	平常点30%(課題提出などでの積極的な態度を重視)、学習到達度確認70%(産業と技術の発展の歴史について基礎知識がある、また近年の諸国の経済・産業事情について理解しているかどうかを評価する)				
課題のフィードバック方法	平常点に加味する各回の課題または小テストを、授業中に解説する。最終授業時に学習到達度確認を実施し、解答例を配布し解説を行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	なし				
参考書	人間と労働の未来 中岡哲郎 中公新書 1970 日本の技術と産業の発展 森谷正規 放送大学 1996 日本産業史1~4 山口・中村・向坂・服部 日経文庫 1994				
授業内容	<p>1. はじめに—人間社会にとっての技術の意味</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 普段の生活の中でどのような技術に接しているか考えておく。技術と人間の相互関係について復習する。</p> <p>2. 3つの技術革命</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 技術は人間の生活をどのように変えたの、考えをまとめておく。近年の情報技術革命を人類史の中に位置づけて復習する。</p> <p>3. 近代以前における産業と技術の発展</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 昔の人の暮らしにどのような技術が生かされたか考えておく。近代以前の技術革新の特徴について復習する。</p> <p>4. 産業革命の意義—近年の産業史研究から</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 高校までで習った産業革命についてまとめておく。近年の産業革命否定論の骨子について復習する。</p>				

科目名	産業と技術の発展	担当教員	尾上 正人
授業内容	<p>5. 日本の産業技術史 I 近世以前の蓄積 ----- [予習・復習] 最近、江戸時代についてどんなことが言われているかチェックしておく。江戸時代の技術革新と社会への影響について復習する。</p> <p>6. 日本の産業技術史 II 明治期 ----- [予習・復習] 明治維新の評価について、高校までで習った内容をまとめておく。明治期の欧米技術の受容・吸収について復習する。</p> <p>7. 日本の産業技術史 III 大正・戦前昭和期 ----- [予習・復習] 大正から昭和にかけての社会に対する評価をまとめておく。小林一三などこの時期に現れた起業家について復習する。</p> <p>8. 日本の産業技術史 IV 戦後昭和期 ----- [予習・復習] 戦後のめざましい経済成長についての議論をまとめておく。盛田昭夫・本田宗一郎など、この時期に現れた起業家・技術者について復習する。</p> <p>9. 海外の現代産業技術 I 欧州 ----- [予習・復習] 現代の欧州はどのような社会であるのか、調べておく。欧州各国の経済・産業事象について復習する。</p> <p>10. 海外の現代産業技術 II 米国 ----- [予習・復習] 現代の米国はどのような社会であるのか、調べておく。シリコンバレーの躍進など、米国産業界の新しい動向について復習する。</p> <p>11. 海外の現代産業技術 III 新興諸国 ----- [予習・復習] 現在の新興国の経済的な様子について調べておく。新興国各国の経済・産業事情について復習する。</p> <p>12. IT 革命後の国際的な技術開発競争 ----- [予習・復習] 今世紀の IT 革命について調べ、まとめておく。日本の産業界が遅れをとった要因について復習する。</p> <p>13. 21 世紀の新産業・新技術 ----- [予習・復習] 何か1つの新産業・新技術について調べておく。新産業・新技術と、それが社会に及ぼす影響について復習する。</p> <p>14. 「技術立国」日本の針路 ----- [予習・復習] 日本は今後どのような道を歩むべきか、考えておく。B to B、B to C について復習する。</p> <p>15. まとめ ----- [予習・復習] 授業全体の内容についてまとめておく。</p>		

科目名	世界の民族誌		担当教員	片 雪蘭	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	民族誌からみる世界				
到達目標	本授業では、世界各地を対象とした民族誌を読み、各地域の生活世界と執筆された時代的背景を理解することを目標とする。				
授業概要	オセアニア、アフリカ、南アジア、東南アジアの地域を対象にした5冊の民族誌を年代順に読み、各々の調査地や調査対象、調査内容を吟味する。また、写真や映像も参考にしつつ、各地域の生活世界を理解することによって自文化とは異なる世界のあり方を考えていく。				
評価方法・基準	平常点 50% コメントシートの提出や授業で実施する小テスト(5冊の民族誌の基本情報について)を総合的に評価する。 期末レポート 50% 課題の文献を正確に読めているかを評価する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問・疑問は、一部次回の授業に反映し、適宜紹介していく。 レポートの講評は、ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	必ず一冊の民族誌(授業で扱う民族誌以外でも可)を精読し、内容や感想を期末レポートに書いて提出する必要がある。				
テキスト	資料を配布する				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]シラバスの内容を読んでおくこと。</p> <p>2. フィールドワークと民族誌 ----- [予習・復習]フィールドワークと民族誌について調べておくこと。</p> <p>3. オセアニア①『西太平洋の遠洋航海者』: マリノフスキーとトロブリアンド諸島 ----- [予習・復習]マリノフスキーとトロブリアンド諸島について調べておくこと。</p> <p>4. オセアニア②『西太平洋の遠洋航海者』: クラ交易について ----- [予習・復習]『西太平洋の遠洋航海者』の一部(授業で指定)を読んでおくこと。</p>				

科目名	世界の民族誌	担当教員	片 雪蘭
授業内容	5. オセアニア③『サモアの思春期』: マーガレット・ミードとサモア -----		
	[予習・復習] マーガレット・ミードとサモアについて調べておくこと。		
	6. オセアニア④『サモアの思春期』: サモアのジェンダーについて -----		
	[予習・復習] 『サモアの思春期』の一部(授業で指定)を読んでおくこと。		
	7. アフリカ①『ヌアー族』: エヴァンズ=プリチャードとヌアー族 -----		
	[予習・復習] エヴァンズ=プリチャードとヌアー族について調べておくこと。		
	8. アフリカ②『ヌアー族』: ヌアー族と牛の関係について -----		
	[予習・復習] 『ヌアー族』の一部(授業で指定)を読んでおくこと。		
	9. 映像人類学①: 東アジア地域における映像民族誌の鑑賞 -----		
	[予習・復習] 映像民族誌とは何か調べておくこと。		
	10. 映像人類学②: ヨーロッパ地域における映像民族誌の鑑賞 -----		
	[予習・復習] 映像民族誌とは何か調べておくこと。		
	11. 南アジア①『ホモ・ヒエラルキクス』ルイ・デュモンとインド -----		
	[予習・復習] ルイ・デュモンとインドについて調べておくこと。		
	12. 南アジア②『ホモ・ヒエラルキクス』: カーストと浄／不浄について -----		
[予習・復習] 『ホモ・ヒエラルキクス』の一部(授業で指定)を読んでおくこと。			
13. 東南アジア①『ヌガラー19世紀バリの劇場国家』: クリフォード・ギアツとインドネシア -----			
[予習・復習] クリフォード・ギアツとインドネシアについて調べておくこと。			
14. 東南アジア②『ヌガラー19世紀バリの劇場国家』: ヌガラと劇場国家論 -----			
[予習・復習] 『ヌガラ』の一部(授業で指定)を読んでおくこと。			
15. 授業のまとめ -----			
[予習・復習] レポートの提出。			

科目名	国際政治学		担当教員	竹中 浩	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	国際政治学の基礎				
到達目標	国際政治学の基本的な概念や考え方について理解する。				
授業概要	この授業では、国際政治の歴史や、国際政治に対する基本的な見方について解説する。前半で 17 世紀から今日にいたるまでの国家間関係の歴史を概観し、後半で、国際政治を理解するための基本的な概念や考え方について説明する。特に、冷戦終焉の後、国際政治がどのように変化しつつあるかという点に注目する。				
評価方法・基準	基本的に 2 回の課題レポートによって評価する(1 回目 40%、2 回目 60%)。授業の最後に小テストを行い、その提出によって出席を確認するが、出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
課題のフィードバック方法	レポート課題に関しては授業の中で解説する。個々のレポートについての講評等は行わないが、レポート課題作成上で生じた疑問について、メールでなされた質問には個別に回答する。小テストについては次の回の授業で確認する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示した箇所のテキストをよりよく理解するために、その内容に関する解説文をポータルサイトの「講義連絡」にアップするという方法をとる。課題レポートを 1 回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	国際政治学をつかむ(新版) 村田晃嗣他 有斐閣 2015 年				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]事前にシラバスを読み、授業内容について理解するとともに、テキストの unit 0 の「国際政治学を学ぶ」を読んでおく。</p> <p>2. 主権国家の誕生 ----- [予習・復習]テキストの unit 1(16 頁 11 行目まで)を読んでおく。関連する高校世界史の学習内容を思い出しておくこと。</p> <p>3. ナショナリズムと国民国家 ----- [予習・復習]テキストの unit 1(16 頁 12 行目以降)と unit 2(26 頁 12 行目まで)を読んでおく。関連する高校世界史の学習内容を思い出しておくこと。</p> <p>4. 帝国主義と第一次世界大戦 ----- [予習・復習]テキストの unit 2(26 頁 13 行目以降)と unit 3(39 頁 19 行目まで)を読んでおく。関連する高校世界史の学習内容を思い出しておくこと。</p>				

科目名	国際政治学	担当教員	竹中 浩
授業内容	<p>5. 第二次世界大戦 ----- [予習・復習]テキストの unit 3(39 頁 20 行目以降)と unit 4 を読んでおく。関連する高校世界史の学習内容を思い出しておくこと。</p> <p>6. 冷戦 ----- [予習・復習]テキストの unit 5 を読んでおく。関連する高校世界史の学習内容を思い出しておくこと。</p> <p>7. 安全保障 ----- [予習・復習]テキストの unit 6 と unit 10 を読んでおく。</p> <p>8. 経済のグローバル化と国益 ----- [予習・復習]テキストの unit 23 を読んでおく。余裕があれば、unit 8、unit 11、unit 18 にも目を通しておくこと。</p> <p>9. 支配と従属 ----- [予習・復習]テキストの unit 8 を読んでおく。</p> <p>10. 地域主義 ----- [予習・復習]テキストの unit 17 を読んでおく。</p> <p>11. 「文明」の衝突 ----- [予習・復習]テキストの unit 12 を読んでおく。</p> <p>12. 政治体制 ----- [予習・復習]テキストの unit13 を読んでおく。</p> <p>13. 人権と民主主義 ----- [予習・復習]テキストの unit 22 を読んでおく。</p> <p>14. 開発援助 ----- [予習・復習]テキストの unit 24 を読んでおく。</p> <p>15. 授業総括 ----- [予習・復習]これまでの授業全体を振り返り、理解できていない点がないか確認する。</p>		

科目名	ジェンダーとライフコース		担当教員	島本 太香子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人間のライフステージを通じたジェンダーの諸課題を多角的、科学的に理解し、自ら考え選択し行動する力を養います。				
到達目標	ジェンダーの視点から先端医療と生命科学研究の最前線を概観し、性差の医学的な背景と科学が提起する新しい社会学的諸問題を理解して、生涯を通じて主体的に考えて行動する姿勢を身につける。				
授業概要	本講では人間のライフステージを通じたジェンダーの「生命科学的な基盤」と「社会、文化的要因」の関わりを考察する。近年の生命科学や医療技術の進歩はめざましく、古来の生殖や家族についての価値観が問い直されている。講義では産婦人科医師として患者の治療や医療行政に従事した経験を踏まえて、現代社会のジェンダーをめぐる様々な課題を発生学、発達心理学、性差医療、母子保健、生命倫理学等の観点から多角的に考察し、広く世界に目を向け他文化圏の状況と日本を比較、必要に応じて今日的な話題を取り入れ理解を深める。				
評価方法・基準	最終授業での学習到達確認 20%(ジェンダーをめぐる現代社会の実情への理解、将来に向けて独自の課題意識を総合的に評価する)と授業中のミニレポート 80%(講義内容の理解の確認)				
課題のフィードバック方法	ミニレポートの内容や質問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。期間内に学習到達度確認を実施し、最終授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	講義では、国内外の最新の生殖補助医療技術やジェンダーをめぐる今日的な話題を取り入れることがあります。健康科学Ⅰ、Ⅱとあわせて受講することで理解が深まります。 この科目は、実務経験のある教員による授業科目となります。担当教員が、企業や団体等の現場にて従事した経験に基づき授業を実施します。				
テキスト	生きることの人間論 島本太香子 他 ナカニシヤ出版 2016 必要な資料を授業で配布				
参考書					
授業内容	<p>1. オリエンテーション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスを読み講義の全体像を把握する。復習として講義内容を整理し、テーマと到達目標を確認する。</p> <p>2. 世界の最先端医療と次世代育成の課題 妊娠出産を担う性</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の妊娠・出産のメカニズムの部分を読む。復習として講義内容を整理し、現代の出産をめぐる課題を確認する。</p> <p>3. 不妊治療の社会的背景</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の事前に参考書の人工授精の項を読む。復習として講義内容を整理し、AID治療の課題を整理する。</p> <p>4. 最新の生殖補助医療と生命倫理学</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前に教科書の生殖補助医療の種類の部分を読む。復習として講義内容を整理し、体外受精が可能となったことによる生命倫理的な課題を確認する。</p>				

科目名	ジェンダーとライフコース	担当教員	島本 太香子
授業内容	5. 胎児発生学と着床前診断による男女産み分け		
	[予習・復習] 事前に教科書の着床前診断の部分を読む。復習として講義内容を整理し、日本産科婦人科学会の生殖補助医療に関する記載を確認する。		
	6. 性染色体と性ホルモン 環境と性分化		
	[予習・復習] 事前に教科書の有性生殖の部分を読む。復習として性の分化の仕組みを確認する。		
	7. 脳科学における性差 男の脳・女の脳		
	[予習・復習] 事前に配布資料の記憶と性差の部分を読む。復習として講義内容を整理し、脳の発達の性差を確認する。		
	8. 女性医学と性差医療		
	[予習・復習] 事前に配布資料の性差医療の項を読む、復習として性差医療の対象疾患を調べる		
	9. リプロダクティブヘルスアンドライツ(性感染症 人工妊娠中絶)		
	[予習・復習] 事前に教科書の流産・早産・人工妊娠中絶の限界の部分を読む。復習として講義内容を整理し、STDの疾患を確認する。		
	10. 乳幼児虐待と予防		
	[予習・復習] 事前に配布資料の虐待の定義を読む。復習として講義内容を整理し、法令を確認する。		
	11. ジェンダーとバイオレンス DV		
	[予習・復習] 事前に最近の事例を調べる、復習として、身近な自治体のDV、性被害の対策システムを確認する。		
	12. 男女共同参画、女性活躍推進政策とヘルスケア		
[予習・復習] 事前に内閣府のホームページを読む。復習として、自らのキャリアとワークライフバランスを考察する。			
13. 少子化社会と母子保健			
[予習・復習] 事前に配布資料の該当の項を読む。復習として、日本の母子保健統計を確認する。			
14. ジェンダーをめぐる科学技術とこれからの社会			
[予習・復習] 事前に世界のジェンダーをめぐる最新的话题を収集する。復習として講義内容を整理し、自分が考える今後のジェンダーをめぐる課題を考察する。			
15. 授業総括			
[予習・復習] 事前に本講義の全体像を確認する。復習として本講義のテーマと到達目標を再点検し、ジェンダーの課題に対する自分の考え方を整理する。			

科目名	企業倫理と消費者		担当教員	倉 光巖	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	企業の理念や倫理の概念、そしてガバナンスの方法論および企業が抱えるリスクについて講義する。企業不祥事・不正問題などを学問的に追究する。				
到達目標	社会変化・経済変化に対応している企業のガバナンス方法を理解する。発生する企業の不祥事に対して、ガバナンスをどのように効かせるかも研究する。企業が想定するリスクについても理解を深める。				
授業概要	半導体製造装置・液晶製造装置・印刷製版機器メーカーにおいて「ものづくり」に30年、「調達業務統括」に10年、「LOGISTICS 企業」の社長として4年携わってきたキャリアを生かして、企業の理念や倫理の概念、そしてガバナンスの方法論および企業が抱えるリスクについて講義する。想定したリスクに対応した経験についても話をする。				
評価方法・基準	毎授業時に講義した基本事項の理解度や受講者の気づき等についてコメント提出を求め、それらで評価する。:(1回4点×15回=60点) 全講義終了時のレポート(1200字前後、講義内容を全体的に理解しているかを問う)を評価。:(40点) (合計100点)				
課題のフィードバック方法	提出物の「各授業テーマの理解コメント」について、次週の授業でフィードバックする。最終レポート提出については最終日に今までの全体講評を行う。				
履修上の注意事項等					
テキスト	自作レジュメを配布する。				
参考書					
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理観 [予習]事前にシラバスを読んでおくこと。[復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。 2. 企業理念・企業倫理 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。 3. 内部通報・インサイダー [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。 4. 働き方改革 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。 				

科目名	企業倫理と消費者	担当教員	倉 光巖
授業内容	<p>5. 消費者運動 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>6. 内外企業の不祥事 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>7. リーマンショック [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>8. コーポレート・ガバナンス・コード [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>9. スチュワードシップ・コード [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>10. 内部統制 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>11. CSR・ISO26000・LOHAS [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>12. BCP・BCM [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>13. 巨大企業と倫理 [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>14. 最新トピックス [復習]講義の基本事項や受講者の気づき等についてコメントを提出する。</p> <p>15. レポート講評 [復習]全体講評</p>		

科目名	現代社会と哲学(一)		担当教員	丸田 健	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化(特に生きることにおける人と物との関わり)への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学(生活文化論、風土論)、民俗学(アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一)、工芸論(ウィリアム・モリス、民藝運動)等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館 国立民族学博物館 淡交社 2013 工芸文化 柳宗悦 岩波書店 2003 民衆の芸術 ウィリアム・モリス 岩波書店 1953				
授業内容	<p>1. 導入</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。配布資料を読み返し、講義の要点を理解する。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 生活文化の思想</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自分にとって「生活文化」とは何か、考えておくとよい。三木清の思想の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 人と生活:生まれることをめぐる現代と過去</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 誕生にまつわる生活文化を調べてみる。生まれることについて、考えた内容をコメントとして提出する。</p> <p>4. 人と生活:死をめぐる現代と過去</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 死にまつわる生活文化を調べてみる。死ぬことについて、考えた内容をコメントとして提出する。</p>				

科目名	現代社会と哲学(一)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 渋沢敬三の屋根裏博物館:物への関心		
	----- [予習・復習] 可能なら国立民族学博物館を見学することを勧める。アチックミュージアムの関心について、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 道具研究の模索		

	[予習・復習] 前回と同じ(民博訪問時には、隣接の大阪日本民芸館も合わせて見学するとよい)。渋沢敬三の考えについて、自ら考えたことをコメントして提出する。		
	7. あるくみる きく		

	[予習・復習] 講義内で紹介する文献を、図書館で手に取ってみよう。宮本常一の活動について、考えたことをコメントして提出する。		
	8. 民具学		

	[予習・復習] 古い生活道具を、各自で調べてみる。民具について考えたことを、コメントとして提出する。		
	9. 暮らしと芸術:ウィリアム・モリス		

	[予習・復習] 生活の中にある美について、その意義を考えてみる。モリスの思想について、考えたことをコメントして提出する。		
	10. 柳宗悦『工藝文化』(1):美術と工藝の違い		

[予習・復習] 柳宗悦や民藝運動について、基本事項を調べる。柳宗悦の思想について、コメントを提出する。			
11. 柳宗悦『工藝文化』(2):工藝の目標			

[予習・復習] (各地の)民藝館の収蔵品を調べる。前回の続きについて、考えたことをコメントとして提出する。			
12. 暮らしの道具(1):食の道具の一例			

[予習・復習] 紹介する具体的道具について、各自でさらに理解を深める。映像を見て考えたことを、コメントとして提出する。			
13. 暮らしの道具(2):工藝の複合性			

[予習・復習] 道具の成立背景に関心をもって、日常を振り返る。日常の道具について、考えたことをコメントして提出する。			
14. 人間とは何か:風土内存在とグローバル化			

[予習・復習] 道具が人間に対して持つ哲学的意義を、授業全体を振り返って理解し直す。考えたことをコメントして提出する。			
15. 授業まとめ——学習到達度確認			

[予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習しておく。			

科目名	現代社会と哲学(二)		担当教員	丸田 健	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生活と文化の思想				
到達目標	生活文化(特に生きることにおける人と物との関わり)への関心を喚起し、物の具体性を手掛かりに人間存在について考えることを目標とします。				
授業概要	日常生活から出発して人間を考えます。特に生活の基本道具から見えてくる様々の連関を掘り下げていきます。哲学(生活文化論、風土論)、民俗学(アチックミュージアム、渋沢敬三、宮本常一)、工芸論(ウィリアム・モリス、民藝運動)等にも言及しつつ、物に映し出される人間の姿を捉える予定です。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト					
参考書	屋根裏部屋の博物館 国立民族学博物館 淡交社 2013 工芸文化 柳宗悦 岩波書店 2003 民衆の芸術 ウィリアム・モリス 岩波書店 1953				
授業内容	<p>1. 導入</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。配布資料を読み返し、講義の要点を理解する。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 生活文化の思想</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自分にとって「生活文化」とは何か、考えておくとよい。三木清の思想の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 人と生活:生まれることをめぐる現代と過去</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 誕生にまつわる生活文化を調べてみる。生まれることについて、考えた内容をコメントとして提出する。</p> <p>4. 人と生活:死をめぐる現代と過去</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 死にまつわる生活文化を調べてみる。死ぬことについて、考えた内容をコメントとして提出する。</p>				

科目名	現代社会と哲学(二)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 渋沢敬三の屋根裏博物館:物への関心		
	[予習・復習] 可能なら国立民族学博物館を見学することを勧める。アチックミュージアムの関心について、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 道具研究の模索		
	[予習・復習] 前回と同じ(民博訪問時には、隣接の大阪日本民芸館も合わせて見学するとよい)。渋沢敬三の考えについて、自ら考えたことをコメントして提出する。		
	7. あるくみる きく		
	[予習・復習] 講義内で紹介する文献を、図書館で手に取ってみよう。宮本常一の活動について、考えたことをコメントして提出する。		
	8. 民具学		
	[予習・復習] 古い生活道具を、各自で調べてみる。民具について考えたことを、コメントとして提出する。		
	9. 暮らしと芸術:ウィリアム・モリス		
	[予習・復習] 生活の中にある美について、その意義を考えてみる。モリスの思想について、考えたことをコメントして提出する。		
	10. 柳宗悦『工藝文化』(1):美術と工藝の違い		
	[予習・復習] 柳宗悦や民藝運動について、基本事項を調べる。柳宗悦の思想について、コメントを提出する。		
	11. 柳宗悦『工藝文化』(2):工藝の目標		
	[予習・復習] (各地の)民藝館の収蔵品を調べる。前回の続きについて、考えたことをコメントとして提出する。		
	12. 暮らしの道具(1):食の道具の一例		
[予習・復習] 紹介する具体的道具について、各自でさらに理解を深める。映像を見て考えたことを、コメントとして提出する。			
13. 暮らしの道具(2):工藝の複合性			
[予習・復習] 道具の成立背景に関心をもって、日常を振り返る。日常の道具について、考えたことをコメントして提出する。			
14. 人間とは何か:風土内存在とグローバル化			
[予習・復習] 道具が人間に対して持つ哲学的意義を、授業全体を振り返って理解し直す。考えたことをコメントして提出する。			
15. 授業まとめ——学習到達度確認			
[予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習しておく。			

科目名	現代社会と倫理(一)		担当教員	丸田 健	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることがを目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何でしょうか。道具の機能性、記号性、身体性、美の観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等)と、レポート 60%程度(必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本 柳宗悦 岩波書店 1885 生きることの間論 伊藤・丸田・島本・市川 ナカニシヤ出版 2016				
参考書	ものと人間の文化史 シリーズ 法政大学出版局				
授業内容	<p>1. 導入 ----- [予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。講義期間中、教科書テキストは各自で読み進める。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 道具の概念(1): どのような物を考えるか——ポリバケツ民具論／新幹線民藝論 ----- [予習・復習] 内容を振り返り、講義の要点を理解したうえで(分類についての考え方など)、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 道具の概念(2): どのような物を考えるか——補足と具体例 ----- [予習・復習] 内容を振り返り、講義の要点(本授業の方向性について)を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 道具の意味(1): 機能的道具理解——有用性 ----- [予習・復習] 『生きることの間論』33-34 頁を読む。機能性の観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	現代社会と倫理(一)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 道具の意味(2):道具の記号論的側面——消費社会論		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』35-38 頁を読む。記号的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 道具の意味(3):道具の記号論的側面——経験的記号性		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』39-42 頁を読む。先週とは異なる道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. 道具と身体性——人間を必要とする物		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』42-48 頁を読む。身体的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 道具と感性——道具にある美		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』48-52 頁を読む。美的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 到達度確認		
	[予習・復習] 到達度確認を実施するので、これまでの内容を振り返っておく。また最終課題(発表/レポート)のテーマを考え始める。		
	10. モノの具体例(1):植物繊維		
	[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、麻をはじめとする繊維関係の記述を見つける。繊維という道具について考え、コメントを提出する。		
	11. モノの具体例(2):木		
	[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、木の仕事の記述を見つける。木地について考え、コメントを提出する。		
	12. モノの具体例(3):鉄		
[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、鉄の仕事の記述を見つける。鉄という素材について考え、コメントを提出する。			
13. 課題説明			
[予習・復習] レポート課題について、出された指示を理解し、作業を始める。			
14. モノの具体例(4):匙			
[予習・復習] 提出期日に合わせ、レポートを作成を進める。映像を見て考えたことをコメントとして提出する。			
15. レポート提出			
[予習・復習] チェック事項を確認し、完成したレポートを提出する。			

科目名	現代社会と倫理(二)		担当教員	丸田 健	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「人と物」について論じる				
到達目標	物が人間に対して持つ様々な意味を、取り出し、考えます。特に原型的な道具的な物の意味理解を通じて、世界や人間への関心を広げることがを目標とします。				
授業概要	「ホモ・ファベル」という人間規定もありますが、人間が自然から素材を得て、手で物を作り出す行為は現在も続いています。そのような営為、またそれによって生み出される物が、人間にとって持つ意味は何でしょうか。道具の機能性、記号性、身体性、美の観点から、それを考えます。後半は、具体例を検討する予定です。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度、中間の学習到達度確認、等)と、レポート 60%程度(必要な情報を自分の言葉でまとめられているか等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	手仕事の日本 柳宗悦 岩波書店 1885 生きることの間論 伊藤・丸田・島本・市川 ナカニシヤ出版 2016				
参考書	ものと人間の文化史 シリーズ 法政大学出版局				
授業内容	<p>1. 導入 ----- [予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。講義期間中、教科書テキストは各自で読み進める。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 道具の概念(1):どのような物を考えるか——ポリバケツ民具論／新幹線民藝論 ----- [予習・復習] 内容を振り返り、講義の要点を理解したうえで(分類についての考え方など)、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 道具の概念(2):どのような物を考えるか——補足と具体例 ----- [予習・復習] 内容を振り返り、講義の要点(本授業の方向性について)を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 道具の意味(1):機能的道具理解——有用性 ----- [予習・復習] 『生きることの間論』33-34 頁を読む。機能性の観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	現代社会と倫理(二)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 道具の意味(2):道具の記号論的側面——消費社会論		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』35-38 頁を読む。記号的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 道具の意味(3):道具の記号論的側面——経験的記号性		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』39-42 頁を読む。先週とは異なる道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. 道具と身体性——人間を必要とする物		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』42-48 頁を読む。身体的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 道具と感性——道具にある美		
	[予習・復習] 『生きることの人間論』48-52 頁を読む。美的観点からの道具論を踏まえたうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 到達度確認		
	[予習・復習] 到達度確認を実施するので、これまでの内容を振り返っておく。また最終課題(発表/レポート)のテーマを考え始める。		
	10. モノの具体例(1):植物繊維		
	[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、麻をはじめとする繊維関係の記述を見つける。繊維という道具について考え、コメントを提出する。		
	11. モノの具体例(2):木		
	[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、木の仕事の記述を見つける。木地について考え、コメントを提出する。		
	12. モノの具体例(3):鉄		
[予習・復習] 『手仕事の日本』の中に、鉄の仕事の記述を見つける。鉄という素材について考え、コメントを提出する。			
13. 課題説明			
[予習・復習] レポート課題について、出された指示を理解し、作業を始める。			
14. モノの具体例(4):匙			
[予習・復習] 提出期日に合わせ、レポートを作成を進める。映像を見て考えたことをコメントとして提出する。			
15. レポート提出			
[予習・復習] チェック事項を確認し、完成したレポートを提出する。			

科目名	心理学			担当教員	中原 洪二郎
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	心理学とは何か				
到達目標	人間の「こころ」の働きについて理解し、心理学に関する学修深化および、他領域への応用の基盤となる知識を習得すること。				
授業概要	この講義では、私たちの誰もがひとつは持っている「こころ」について行われてきた様々な観点の研究を紹介すると同時に、それらが互いにどのような関係を持っているのかについて解説する。また、履修者自身が自分や他人の「こころ」にどのように向き合うか、実践的な観点からの取り組みも行う。				
評価方法・基準	a=各回の理解度確認(75%)+最終課題(25%) 課題の評価基準: テーマに沿った内容となっている 最終課題の評価基準 (1) 指示されたテーマに沿っていること (2) 具体的な内容を踏まえていること (3) 適切な理論的解釈が行われていること を重視する。				
課題のフィードバック方法	課題へのコメントおよび講義中の質疑応答時間を設定する。				
履修上の注意事項等	課題提出をおろそかにしないこと。詳しくは第1回の講義で説明するので、必ず出席すること。				
テキスト	適宜資料を配付する				
参考書	適宜資料を配付する				
授業内容	<p>1. ガイダンス、心理学とは何か ----- [予習・復習] 心理学が対象とする範囲について復習しておく。</p> <p>2. 心理学の歴史と「歴史」: 心理学は人間とどう向き合ってきたのか ----- [予習・復習] 心理学史と社会変動の関係について復習しておく。</p> <p>3. 感覚と知覚: 「感じる」ということの意味 ----- [予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。</p> <p>4. 学習: あたりまえのようであたりまえでない我々の行動 ----- [予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。</p>				

科目名	心理学	担当教員	中原 洪二郎
授業内容	5. 記憶: 人は忘れてこそ人 -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	6. 言語: 言葉は思考の乗り物なのか -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	7. 感情と動機付け: 叱るか誉めるか -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	8. 発達: 「成長」と呼ばれる「変化」 -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	9. 知能: 「知能指数が高い」人は「頭がよい」? -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	10. 性格: 「性格がよい」人と「個性的な人」 -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	11. トピックス: 占いと心理学 -----		
	[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。		
	12. 社会的認知: 世の中はどう見える? -----		
[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。			
13. 自己: 私っていったい… -----			
[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。			
14. 援助行動: なぜ彼は助けてと言わなかったのか -----			
[予習・復習] 今回の講義で取り上げた内容に沿う、身近な事例を収集しておくこと。			
15. まとめ -----			
[予習・復習] 授業内で指示したテーマの最終レポートを提出する。			

科目名	考古学 I		担当教員	☆ 狭川 真一	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	考古学の基本的な事項(方法論・調査法・遺跡・遺構・遺物など)について概説する。				
到達目標	日本考古学は歴史学の一翼を担っているのので、日本史の流れの中で学ぶことを心がけて欲しい。時代の変化を遺跡や遺構、遺物から学び、考える方法を取得する。				
授業概要	考古学が扱う主要な対象物は遺跡、遺構、遺物である。これらは正しく調査されてさえいれば、その土地に確かに存在したものだ。資料を正確に研究することで、事実に基づいた歴史構築が可能になる学問である。授業ではその方法論、調査法を学んだうえで、各時代の考古学的な概要を解説する。				
評価方法・基準	通常時: 最終回に行う学習到達度確認で評価。オンデマンド授業: 各講義後に簡単なレポート提出を求めます。また 15 回目の課題は評価点を大きくします。				
課題のフィードバック方法	通常時: 質問は毎回配布する出席カードに記載。次回の講義開始時に解説します。オンデマンド授業における質問は、メールで受け付けます(20000114@daibutsu.nara-u.ac.jp)。				
履修上の注意事項等	通常時: 毎回レジメを配布するので自己で管理すること。オンデマンド授業時: 一定期間掲示しますので、確実に確認、受講すること。レジメは Web 講義の画面を PDF にして毎回提示する予定です。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト	なし				
参考書	考古学研究入門 H・J・エガース 岩波書店 1981 考古学入門 鈴木公雄 東京大学出版会 1988 考古学の方法 藤本 強 東京大学出版会 2000				
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 考古学とはどんな学問? [予習・復習]考古学関係の参考書などを通読しておくこと。講義後には十分に講義内容を整理しておくことが重要。 2. 考古学の資料 [予習・復習]博物館などで実際の資料を見る機会を作ること。講義後には十分に講義内容を整理しておくことが重要。 3. 遺構・遺物の順序を考える [予習・復習]発掘調査の現地説明会などがあれば、積極的に参加し、講義内容と比較することが重要。 4. 型式学について [予習・復習]身近なもの(生活用品でよい)にも形の変遷があることを理解し、我々が使っている商品の歴史についても考えてみる機会を作ること。 				

科目名	考古学 I	担当教員	☆ 狭川 真一
授業内容	<p>5. 年代推定法(1)—相対年代と絶対年代— [予習・復習]年代測定関係の参考書などを通読しておくこと。講義後には十分に講義内容を整理しておくことが重要。</p> <p>6. 年代推定法(2)—理化学的年代推定法— [予習・復習]年代測定関係の参考書などを通読しておくこと。講義後には十分に講義内容を整理しておくことが重要。</p> <p>7. 考古学的調査(1)—発掘調査の方法と手順— [予習・復習]考古学関係の参考書などは通読し、講義後には十分に講義内容を整理しておくことが重要。</p> <p>8. 考古学的調査(2)—遺物整理の方法と手順— [予習・復習]実際に考古資料の整理作業を行っている埋蔵文化財センターなどに出かけ、講義内容を復習すること。</p> <p>9. 考古学的調査(3)—考古学と周辺領域— [予習・復習]考古学を取り巻く周辺領域の学問についても興味をもっておくこと。</p> <p>10. 考古学にみる時代の特徴①—旧石器～縄文時代— [予習・復習]考古学の立場から旧石器時代や縄文時代の諸事項を整理しておくこと。</p> <p>11. 考古学にみる時代の特徴②—弥生時代— [予習・復習]考古学の立場から弥生時代の諸事項を整理しておくこと。</p> <p>12. 考古学にみる時代の特徴②—古墳時代— [予習・復習]考古学の立場から古墳時代の諸事項を整理しておくこと。</p> <p>13. 考古学にみる時代の特徴④—飛鳥・奈良時代— [予習・復習]考古学の立場から古代＝飛鳥・奈良時代の諸事項を整理しておくこと。</p> <p>14. 考古学にみる時代の特徴⑤—中世・近世— [予習・復習]考古学の立場から鎌倉時代以降の諸事項を整理しておくこと。</p> <p>15. 授業総括 [予習・復習]学習到達度確認を行うので、すべてのレジュメを再整理して備えておくこと。</p>		

科目名	考古学Ⅱ		担当教員	☆ 狭川 真一	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古墳時代から鎌倉時代にかけて重要なテーマを抽出し、詳述する。考古学的成果を日本の歴史の中に位置づける。				
到達目標	日本考古学は歴史学の一翼を担っているため、日本史の流れの中で学ぶことを心がけて欲しい。時代の変化を遺跡や遺構、遺物から学び考える方法を取得する。				
授業概要	考古学がこれまで蓄積してきた成果は大きく、日本の歴史研究に大きく寄与してきた。この授業では時代を代表するテーマを選び出し、これまでの研究成果を踏まえながら日本の歴史の中に考古学の成果を位置付けながら概説する。				
評価方法・基準	通常時:最終回に行う学習到達度確認で評価。オンデマンド授業時:各講義の後に簡単な課題を提示。その提出をもって出席とする。また15回目の課題は評価点を大きくします。				
課題のフィードバック方法	質問は毎回配布する出席カードに記載。質問は次回の講義開始時に解説します。オンデマンド授業における質問は、メールで受け付けます(20000114@daibutsu.nara-u.ac.jp)。				
履修上の注意事項等	通常時:毎回レジメを配布。オンデマンド授業時:一定期間掲示しておきますので、確実に確認、受講すること。レジメはWeb講義の画面をPDFにして毎回提示する予定。なお、講義の内容や順番を一部変更する場合があります。				
テキスト	なし				
参考書	『日本考古学を学ぶ1~3』大塚初重ほか編 有斐閣 1978 『日本歴史考古学を学ぶ上・中・下』坂詰秀一ほか編 有斐閣 1983				
授業内容	1. 邪馬台国論 [予習・復習]邪馬台国関係の参考書などを通読しておくこと。纏向遺跡など推定地を現地踏査することも重要である。 2. 前方後円墳の世界 [予習・復習]古墳関係の参考書などを通読しておくこと。近くにある大型前方後円墳を現地踏査することも重要である。 3. 稲荷山古墳出土鉄剣の金錯名 [予習・復習]鉄剣銘文関係の参考書などを通読するとともに、金石文の研究法についても学ぶことが重要である。 4. 横穴式石室そして終末期古墳 [予習・復習]古墳関係の参考書などを通読しておくこと。飛鳥地域など当該機種の古墳が多く残る地域を現地踏査することも重要である。				

科目名	考古学Ⅱ	担当教員	☆ 狭川 真一
授業内容	<p>5. 仏教伝来・飛鳥寺創建 [予習・復習] 仏教伝来や飛鳥寺創建関係の参考書などを通読しておくこと。飛鳥寺は現存しているので、現地踏査することが重要である。</p> <p>6. 飛鳥の宮都と藤原宮・京 [予習・復習] 都城関係の参考書などを通読しておくこと。遺跡はすべて保存整備されているので、現地踏査することが重要である。</p> <p>7. 古代山城と国防体制 [予習・復習] 古代山城関係の参考書などを通読しておくこと。西日本の各地に現存しているので、現地踏査することも重要である。</p> <p>8. 大宰府の構造 [予習・復習] 大宰府や古代官衙関係の参考書などを通読しておくこと。身近にある関連遺跡に足を運ぶことも重要である。</p> <p>9. 平城宮・平城京 [予習・復習] 古代都城関係の参考書などを通読しておくこと。平城宮跡にはガイダンス施設としての資料館や様々な形の史跡整備が行われているのでぜひ一度は足を運んで、実物に触れることがじゅうようである。</p> <p>10. 古代寺院の平城京移転を探る [予習・復習] 古代寺院関係の参考書などを通読しておくこと。ここでは元興寺をテーマにしているので、ぜひ現地に足を運び、実物に触れることを推奨する。</p> <p>11. 東大寺大仏直下発見の陰陽剣 [予習・復習] 実物が東大寺ミュージアムに展示されているので、ぜひ実際の遺物を観察してもらいたい。</p> <p>12. 土塔の考古学 [予習・復習] 仏塔関係の参考書などを通読しておくこと。ここで紹介する遺跡はすべて保存されているので、機会をみて現地を踏査することをお勧めする。</p> <p>13. 春日山古墓群の性格 [予習・復習] ここで紹介する遺跡は奈良公園内に保存され、いつでも見学が可能である。機会をみて現地を踏査することをお勧めする。</p> <p>14. 鳥羽離宮金剛心院の仏教儀礼 [予習・復習] 平安時代後期に平安京の南辺に造営された鳥羽離宮の一角に建設された寺院の様相を紹介する。</p> <p>15. 授業総括 [予習・復習] これまでの講義内容をすべて再整理しておくこと。なお、オンデマンド授業の場合は、「興福寺を護る玄昉僧正」を講義したうえで課題を出します。</p>		

科目名	美術史 I		担当教員	☆ 平川 佳世	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代から 16 世紀までのヨーロッパにおける美術史の流れを概観する。				
到達目標	古代から 16 世紀までのヨーロッパにおける美術史の流れを理解し、基礎的な専門用語に関する知識を習得する。				
授業概要	毎回、数点の作品を取り上げ、時代による作品(絵画、彫刻、建築等)の特徴と、そうした作品が生み出された当時の時代背景(宗教、社会、政治、思想等の状況)について考察する。また、時代を代表する作品・芸術家や、美術史の専門用語に関する基礎的な知識を身に付け、美術史研究の観点から作品を鑑賞する手法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業期間中の小テスト・課題および授業への積極的な参加(40%)、定期試験期間(16 週目)に実施する定期試験(60%)で評価する。 小テスト・課題では、基礎的な語句の理解をはじめ、授業内容の理解度を確認する。定期試験では、古代から 16 世紀までの西洋美術史の流れ、各時代の代表的な芸術家とその様式・特徴・代表的作品の把握、基礎的な専門用語の理解、論理性等について総合的に評価する。 なお、社会状況により定期試験の実施が難しい場合は、期末レポート(60%)に代えて評価する可能性がある。				
課題のフィードバック方法	授業期間中の課題については、原則として次の授業にて講評するが、e-Learning を介して課題を実施した場合は、e-Learning 上で講評する。				
履修上の注意事項等	WEB 授業となる場合は、Zoom を利用し、リアルタイムで実施する予定である。他の対面授業に参加するため登校する都合上、リアルタイムでの参加が難しい履修生については、なんらかの形式で受講できるよう配慮する。				
テキスト	西洋美術史 北澤洋子ほか 武蔵野美術大学出版局 2006				
参考書	増補新装 カラー版 西洋美術史 高階秀爾ほか 美術出版社 2002				
授業内容	<p>1. 導入／先史美術と古代オリエント美術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。テキスト第 1 章 1、2 を読んでおく。</p> <p>2. 【古代】ギリシア美術 I : 幾何学様式期、アルカイック期</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第 1 章 3、4 (「アルカイック期」まで) を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>3. 【古代】ギリシア美術 II: クラシック期、ヘレニズム期</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第 1 章 4 (「クラシック盛期」から) を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>4. 【古代】ローマ美術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第 1 章 5 を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p>				

科目名	美術史 I	担当教員	☆ 平川 佳世
授業内容	5. 【中世 I】初期キリスト教美術		
	[予習・復習] テキスト第2章1を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	6. 【中世 I】ビザンティン美術		
	[予習・復習] テキスト第2章2を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	7. 【中世 II】中世初期		
	[予習・復習] テキスト第2章3を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	8. 【中世 II】ロマネスク		
	[予習・復習] テキスト第2章4を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	9. 【中世 II】ゴシック		
	[予習・復習] テキスト第2章5を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	10. 【ルネサンス I】イタリア 1300 年代の美術、国際ゴシック様式		
	[予習・復習] テキスト第2章6を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	11. 【ルネサンス I】15 世紀のイタリア美術		
	[予習・復習] テキスト第3章1-3を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。		
	12. 【ルネサンス I】盛期ルネサンス		
[予習・復習] テキスト第3章4(「ティツィアーノ」部分を除く)および6を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。			
13. 【ルネサンス I】ヴェネツィアの美術、マニエリスム			
[予習・復習] テキスト第3章4(「ティツィアーノ」部分)から6までを読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。			
14. 【ルネサンス II】14 世紀から 15 世紀の北方美術			
[予習・復習] テキスト第2章7(「イタリア・ルネサンスへの影響」まで)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。			
15. 【ルネサンス II】15 世紀後半から 16 世紀の北方美術			
[予習・復習] テキスト第2章7(「16 世紀前半のネーデルラント絵画」から)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。			

科目名	美術史Ⅱ		担当教員	☆ 平川 佳世	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	16世紀末から20世紀までの、主に西洋における美術史の流れを概観する。				
到達目標	16世紀末から20世紀までの、主に西洋における美術史の流れを理解し、基礎的な専門用語に関する知識を習得する。				
授業概要	毎回、数点の作品を取り上げ、時代による作品(絵画、彫刻、建築等)の特徴と、そうした作品が生み出された当時の時代背景(宗教、社会、政治、思想等の状況)について考察する。また、時代を代表する作品・芸術家や、美術史の専門用語に関する基礎的な知識を身に付け、美術史研究の観点から作品を鑑賞する手法を学ぶ。				
評価方法・基準	授業中の小テスト・課題および授業への積極的な参加(40%)、定期試験期間(16週目)に実施する定期試験(60%)で評価する。 小テスト・課題では、基礎的な語句の理解をはじめ、授業内容の理解度を確認する。定期試験では、16世紀末から20世紀までの西洋美術史の流れ、各時代の代表的な芸術家とその様式・特徴・代表的作品の把握、基礎的な専門用語の理解、論理性等について総合的に評価する。 なお、社会状況により定期試験の実施が難しい場合は、期末レポート(60%)に代えて評価する可能性がある。				
課題のフィードバック方法	授業期間中の課題については、原則として次の授業にて講評するが、e-learningを介して課題を実施した場合は、e-Learning上で講評する。				
履修上の注意事項等	WEB授業となる場合は、Zoomを利用し、リアルタイムで実施する予定である。他の対面授業に参加するため登校する都合上、リアルタイムでの参加が難しい履修生については、なんらかの形式で受講できるよう配慮する。				
テキスト	西洋美術史 北澤洋子ほか 武蔵野美術大学出版局 2006				
参考書	増補新装 カラー版 西洋美術史 高階秀爾ほか 美術出版社 2002				
授業内容	<p>1. 導入／古代から16世紀までの西洋美術史の流れの概略</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。テキスト p. 137 までを概観しておく。</p> <p>2. 【17-18世紀】イタリアのバロック美術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第3章7、8を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>3. 【17-18世紀】スペインのバロック美術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第3章9を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>4. 【17-18世紀】フランスのバロック美術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキスト第3章10を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p>				

科目名	美術史 II	担当教員	☆ 平川 佳世
授業内容	<p>5. 【17-18 世紀】フランドルのバロック美術 ----- [予習・復習] テキスト第3章11を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>6. 【17-18 世紀】オランダのバロック美術 ----- [予習・復習] テキスト第3章12を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>7. 【17-18 世紀】フランスのロココ美術 ----- [予習・復習] テキスト第4章1(「フランスの 18 世紀」まで)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>8. 【17-18 世紀】ヴェネツィアの美術、イギリスの美術 ----- [予習・復習] テキスト第3章13(「ヴェネツィア」)、第4章1(「イギリスの 18 世紀」)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>9. 【19 世紀前半】革命の時代と新古典主義 ----- [予習・復習] テキスト第4章2を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>10. 【19 世紀前半】ロマン主義 ----- [予習・復習] テキスト第4章3、4(「中世への視線」のナザレ派の部分および「風景画の旗手たち」のターナー、コンスタブルの部分)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>11. 【19 世紀後半】レアリズム ----- [予習・復習] テキスト第4章4(ナザレ派、アーツ・アンド・クラフツ、ターナー、コンスタブル部分を除く)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>12. 【19 世紀後半】印象派 ----- [予習・復習] テキスト第5章1(「印象派」まで)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>13. 【19 世紀後半】ポスト印象派 ----- [予習・復習] テキスト第5章1(「印象派以後の絵画」)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>14. 【19 世紀後半】象徴主義と世紀末芸術 ----- [予習・復習] テキスト第5章1(「独立と分離」および「象徴主義」以降の部分)、テキスト第4章4(「中世への視線」のアーツ・アンド・クラフツに関する部分)を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p> <p>15. 【20 世紀】抽象芸術の誕生と展開 ----- [予習・復習] テキスト第5章2-4を読んでおく。授業で取り上げた美術の特徴、時代背景について要点を整理し、理解する。</p>		

科目名	地理学 I			担当教員	☆ 海津 正倫
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界史を必修として学んできたことをふまえて地理的事象にかかわるさまざまなテーマをとりあげ、地理学について学習する。				
到達目標	自然環境をはじめとするさまざまな地理学分野の考えが、歴史の流れの中でどのように形成され、発展してきたかをふまえながら地理学の特質や地域の問題について理解する。				
授業概要	地理学にかかわる歴史を振り返りながら、地域や地理的事象のとらえ方の移り変わりを把握すると共に、日本や世界の地理的課題について理解する。				
評価方法・基準	各回毎に与えられる課題についてのレポート内容および提出状況などに基づいて評価する。				
課題のフィードバック方法	各回毎に課題を与えるが、レポートは与えられたテーマについて文献などを利用して検討し、自分の言葉で整理して述べる。その際、「山陵(2010)によると、……とされており、……」など引用部分については出典を明記する。ネット文章をそのままコピー&ペーストすることは不可。また、参照したネットの情報は引用・参照部分を明確に示すとともに URL を示すこと。レポートは担当教員のメールアドレスへ授業科目名、学籍番号等を明記して送付する。				
履修上の注意事項等	授業時に地図帳を手元に置いておくことが望ましい。授業内容についての質問については質問事項を担当教員のメールアドレスに授業科目名、学籍番号、氏名を明記して送付すること。シラバスは 15 回分示されているが、実際の授業回数に対応させるため、必ずしも第 X 回の授業が第 X 週の授業になるとは限らない。また、一部省略されたり順序が入れ替わることもある。				
テキスト	特になし				
参考書	必要に応じて適宜指示する				
授業内容	<p>1. 地理学が扱うテーマと課題</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]地理学がどのような分野をカバーする学問かについて整理・理解する。</p> <p>2. ギリシャ・ローマ時代の地球に関する知識</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] ギリシャ・ローマ時代を振り返り、人々の地球や環境に関する知識がどのように拡大したかについて考える。</p> <p>3. 中世における自然環境の把握</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 科学の暗黒時代と言われる中世について振り返り、そのような時代における地理学について考える。</p> <p>4. 近世・近代の地理学</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 近代の歴史を振り返り、近代科学としての地理学がどのようにして生まれ、発展したかを考える</p>				

科目名	地理学 I	担当教員	☆ 海津 正倫
授業内容	5. 近代地理学としての地形学の展開		
	[予習・復習] 自然地理学の重要な構成要素である地形学がどのように発展し、どのようなことが明らかにされてきたか考える。		
	6. 近代科学としての気候学とケッペンの気候区分		
	[予習・復習] わが国で広く知られているケッペンの気候区分について、その特質とどのようにして区分されるのかを理解する		
	7. ウェーゲナーの大陸移動説とプレートテクトニクス		
	[予習・復習] プレートテクトニクスの考えはどのように生まれ、それによって現在の自然環境はどのように説明されるか考える。		
	8. 地震・火山と自然災害		
	[予習・復習] 変動地形や火山地形を理解するとともにそれらによる自然災害について考える。		
	9. 乾燥地の地形と人々の生活		
	[予習・復習] 乾燥地の自然環境と人々の生活をサウジアラビアを例に考える。		
	10. 河川の作る地形		
	[予習・復習] 沖積平野の地形と水害について検討する		
	11. 三角州の自然環境とバングラデシュの人々の生活		
	[予習・復習] 三角州の特質とバングラデシュの人々の生活について考える		
	12. 三角州の自然災害とマングローブ		
[予習・復習] 高潮による災害をバングラデシュを事例として考え、マングローブの役割について検討する。			
13. 地形図・衛星画像などの地理情報について考える			
[予習・復習] 地形図や衛星画像の特質と利用について考える。			
14. 地域の変化について考える。			
[予習・復習] 地形図を利用して地域変化を把握する。			
15. 地球環境問題について考える。			
[予習・復習] 温暖化などの現在の地球が抱えている問題について考える。			

科目名	地理学Ⅱ		担当教員	☆ 辰己 勝	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地理学の基本事項の習得と日本及び世界各地の地域理解				
到達目標	1. 自然地理学、人文地理学の基礎事項の把握と世界各地の地域的特色を理解する。 2. 中学と高校での地理の授業における教材研究、資料収集、資料提示、学習指導案の作成等を習得する。				
授業概要	はじめに地理学の基礎である地図の種類や読図方法を解説する。次いで地理学の二大分野である自然地理学と人文地理学の概要を地域ごとの事例を用いて解説する。内容は自然環境が中心となることが多い。Web授業の場合は資料の提示と録画を配信する。 毎時の授業を通じて、実際の中学・高校での授業展開での、資料収集、指導計画や学習指導案が作成できることを留意しながら授業を進めていく。				
評価方法・基準	Web授業の時は、毎時の授業内容の課題(50~60%)、講義全体にかかわる最終レポート(40~50%)で評価します。地理学的事象や地域の基礎事項の理解について判断します。				
課題のフィードバック方法	課題の要点については、次週の授業の中で解説・講評をします。最終レポートについては、Webで講評します。				
履修上の注意事項等	テキストとともに毎時地図帳を手元の置いて参考にしてください。自分の得意とする分野や身近な地域での、学習指導案作成のための資料収集を行うこと。				
テキスト	図説 世界の自然環境 辰己 勝 古今書院 2013				
参考書	図説 世界の地誌 改訂版 辰己 勝・辰己眞知子著 古今書院 2016 データブック オブ・ザ・ワールド 2020 二宮書店 2020 新詳高等地図 帝国書院 2017				
授業内容	1. 地理学の内容の解説と授業の進め方 ----- [予習・復習]大学での地理学の授業内容の概要を整理しておく。 2. 地図の種類、地形図の読図、統計資料の利用法 ----- [予習・復習]配布(提示)したプリントの作業を完成させておく。 3. 世界の自然環境—世界の大地形の形態と分布 ----- [予習・復習]テキスト1章の大地形についての内容を、配布(提示)したプリント等と合わせてまとめておく。 4. 世界の自然環境—気候の特徴と気候区分の方法 ----- [予習・復習]テキスト1章の気候についての重要事項を整理し、配布(提示)した資料と課題を完成しておく。				

科目名	地理学 II	担当教員	☆ 辰己 勝
授業内容	<p>5. 日本の自然環境と自然災害について ----- [予習・復習]テキスト第 2 章の日本の項目を読み、配布(提示)したプリントの作業を完成し、重要事項をまとめておく。</p> <p>6. 近畿地方の地形形成について一大阪平野を事例として ----- [予習・復習]テキストの大阪平野の項目を読み、配布(提示)した地図やプリントの作業を完成し、地域的特徴をまとめておく。</p> <p>7. 近畿地方の地形形成について一京都盆地の形成と河川の変遷 ----- [予習・復習]テキストの京都盆地の項目を読み、配布(提示)した資料をみて、人為的な地形変化の特徴をまとめておく。</p> <p>8. 火山地形の形成と火山周辺の地形一南九州の火山を事例として ----- [予習・復習]テキストの南九州の火山地形の項目を読み、火山地形の特徴をまとめておく。</p> <p>9. アジア各地の自然環境と産業・民族等の特徴 ----- [予習・復習]テキスト2章を参考にして、アジア各地の自然環境と産業や文化の差異をまとめておく。</p> <p>10. アフリカの自然環境と産業・文化 ----- [予習・復習]テキスト3章を読み、アフリカの特徴的な自然環境を中心にまとめておく。</p> <p>11. ヨーロッパの地形・気候と産業の地域的特徴 ----- [予習・復習]テキスト4章を読み、ヨーロッパ各地の地形の形態や分布を調べておく。</p> <p>12. アングロアメリカの自然景観と産業の発展 ----- [予習・復習]テキスト5章を読み、アメリカ合衆国・カナダの特徴的な自然景観や産業をまとめておく。</p> <p>13. ラテンアメリカの民族、古代文化、産業の特徴 ----- [予習・復習]テキスト6章を読み、自然環境の特徴と古代文化の立地についてまとめておく。</p> <p>14. オセアニアの自然環境と産業、文化の地域的特徴 ----- [予習・復習]テキスト7章を読み、オセアニア各地の自然と産業についてまとめておく。</p> <p>15. 授業のまとめ。Web 授業の場合は最終レポートの作成について。 ----- [予習・復習]授業内容をテキストをもとに復習しておく。</p>		

科目名	地誌学 I		担当教員	☆ 角 克明	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計: 4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地誌学的な地域の見方・とらえ方を考える。				
到達目標	地誌学的な地域の見方・とらえ方を通して、地誌学的な考え方・ものの見方の習得をめざす。日本や世界の諸地域について、その地域的特色や地域の課題などを多面的・多角的に考察し理解すること(分析方法や考え方を含む)。※基本的には、授業内容の把握と理解を目標とする。				
授業概要	★2022年度はWEB授業で実施。 この講義では、地誌学の基礎を学ぶ。授業計画は以下のとおり。地理学や地誌学の基礎を学習したうえで、事例としていくつかの地域の地誌をとりあげる。教職課程においては中学校や高等学校で教授するための「地理的な基礎」のうちの「地誌」を学ぶ。なお、授業計画には未記載であるが、地形図の読図などの地理的技能に関する取り組みも実践する(2022年度はWEB授業のため実施なし)。最終的には、基礎的な知識だけではなく、地誌的な考え方・ものの見方の習得をめざしたい。				
評価方法・基準	最終回に実施する学修到達度確認(筆記による講義内容の理解度: テーマや到達目標にあげたことからの理解とそれらを説明・表現できる力の有無)で評価する。ただし、授業進行にあわせて、それまでの学修内容を確認するための「授業後の質問」を実施予定(例えば、第2回授業後に第2回授業の内容が理解できているかどうかを確認するもの)。これらの蓄積が最終回の学修到達度確認へむすびつく。評価は上記の総合評価で行う(2022年度はWEB授業となるため、「授業後の質問」が最終回の学修到達度確認の受験資格に関与)。※詳細は第1回目の講義時に説明する予定であるため、必ず出席してきくこと。				
課題のフィードバック方法	最終回に実施する学習到達度確認の終了後、内容に関する講評を行う予定である。また、「授業後の質問」が実施された場合、つぎの講義で講評などを行う。				
履修上の注意事項等	講義には単に出席しているだけではなく、講義内容の理解が求められる。なお、配付プリントはやむを得ず欠席する場合、友人に依頼して確保してもらうか、コピーさせてもらうなど、必ず入手すること。また、講義時の長時間退出や無断早退、大幅な遅刻、あらゆる不正行為には厳正に対処する。シラバスをよく読み、担当教員からの連絡事項などはききもらすことのないように十分注意し、不利益が生じないようにすること。なお、色鉛筆(色ペンやマーカーなど)を用意し、必要に応じて授業資料や教科書の地図に着色したり加筆することで理解を深めてほしい				
テキスト	①帝国書院編集部編:『新詳高等地図』、帝国書院、2021年。ISBN 978-4807165896 ※【注意】すでに『地図帳』(書名、出版年次、出版社は問わない)を持っている場合はそれで代用してもよい。ただし、主題図などで異なる場合があり、多少の障害が発生することを承知されたい。不安な場合は第1回目の授業で担当者に相談してください(2022年度はWEB授業のため、指定の教科書購入をお勧めします)。 ②必要に応じてプリントを配付。※【注意】プリントは基本的に次回以降の講義で再配付しないが、余分がある場合に限って提供する(2022年度はWEB授業のため、オンラインで配信予定)。				
参考書	参考書等は必要に応じて講義時に紹介・指示する。				
授業内容	<p>1. 第1回 オリエンテーション 地理学への招待【必ず出席すること!】</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習](予習)シラバスを読み、授業内容を理解する。「地理学」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)オリエンテーションの内容について確認する。</p> <p>2. 第2回 地理学と地誌学 地理学の体系から学ぶ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習](予習)「地誌学」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「地理学」と「地誌学」について確認する。</p> <p>3. 第3回 地誌学のルーツをたずねて(1) 地理学の歴史から学ぶ(古代から近世のヨーロッパ地理学)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習](予習)「地理学の歴史」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「地誌学のルーツ」について確認する。</p> <p>4. 第4回 地誌学のルーツをたずねて(2) 地理学の歴史から学ぶ(近代地理学の進展)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習](予習)「地理学の歴史」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「地誌学のルーツ」について確認する。</p>				

科目名	地誌学 I	担当教員	☆ 角 克明
授業内容	5. 第5回 地誌学のルーツをたずねて(3) 地理学の歴史から学ぶ(地域スケールと地域レベル)		
	[予習・復習] (予習)「地域」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「地域スケール」や「地域レベル」について確認する。		
	6. 第6回 地誌学のルーツをたずねて(4) 地理学の歴史から学ぶ(景観・地域)		
	[予習・復習] (予習)「景観」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「景観」や「地域」について確認する。		
	7. 第7回 地域研究と地域スケール(1) マクロな視点から地域をとらえる事例		
	[予習・復習] (予習)「地域研究」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「マクロな視点から地域をとらえる事例」について整理する。		
	8. 第8回 地域研究と地域スケール(2) ミクロな視点から地域をとらえる事例		
	[予習・復習] (予習)「地域研究」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「ミクロな視点から地域をとらえる事例」について整理する。		
	9. 第9回 さまざまな地域区分 地域の見方・とらえ方		
	[予習・復習] (予習)「地域区分」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)「地域区分」について確認し、いろいろな地域区分を探してみよう。		
	10. 第10回 地誌学の実践事例(1) 日本地誌・自然環境編		
	[予習・復習] (予習)日本の「自然環境」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)日本の「自然環境」について整理する。		
	11. 第11回 地誌学の実践事例(2) 日本地誌・人文社会環境編		
	[予習・復習] (予習)日本の「人文社会環境」について、自由な視点で調べてみよう。(復習)日本の「人文社会環境」について整理する。		
	12. 第12回 地誌学の実践事例(3) 世界地誌・大陸レベル編		
[予習・復習] (予習)任意の「大陸」について、地誌的な視点で調べてみよう。(復習)「大陸レベルの事例」について整理する。			
13. 第13回 地誌学の実践事例(4) 世界地誌・大陸レベルよりもミクロな地域スケールでみた地域編			
[予習・復習] (予習)第12回で調べた大陸について、よりミクロな地域スケールで調べてみよう。(復習)「大陸レベルよりもミクロな地域スケールでみた地域の事例」について整理する。			
14. 第14回 地誌学の実践事例(5) 世界地誌・比較による「地域差」の発見編			
[予習・復習] (予習)第10回～第13回の授業内容をしっかりと振り返っておく。(復習)「地域間の比較による地域差」について整理する。			
15. 第15回 授業総括			
[予習・復習] (予習)第1回～第14回の授業内容を確認する。(復習)全授業内容を整理する。			

科目名	地誌学Ⅱ		担当教員	☆ 出田 和久	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	「日本と世界の諸地域の理解を深める」				
到達目標	日本の国土を正しく認識し、日本国民としての基礎的資質と現代世界の地理的認識を養うとともに現代世界の諸地域を、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に考察し、地誌的理解を深める。				
授業概要	日本および世界の諸地域をいくつか取り上げ、歴史的背景にも留意しながら地域の特徴・特質について解説することにより、大小様々な地域が部分と全体とを構成し、重層的関係にあるという点を踏まえた地誌的理解を深める。その際、できるだけ地域の特質解明に関わる事項についても説明することにより、地域調査の方法の一端にふれ、フィールドワークなどの基本的方法を理解できるようにする。また、地域調査のために必要な地図類、史料、統計資料、画像資料などの利用方法や使用上の問題についても適宜解説を加える。				
評価方法・基準	定期試験 50%(地誌や地域の基本概念、講義内容の理解度を論述式と客観式の両形式で問う)、小レポート(適切な問題意識をもち、文献を正確に読み、地誌的に思考し論理的に展開できているかを評価する)30%、小テスト(理解の確認)20%の予定であるが、若干の変更もありうる。				
課題のフィードバック方法	コメントシートの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。小レポートについては、講義中に適宜講評を加える。また、定期試験答案の講評を、e-learning/ポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等	テキストの指定は行わず、適宜講義中に資料を配布し、参考文献を紹介する。授業には主体的、積極的に参加すること。				
テキスト	特に使用しない				
参考書	日本(世界地誌シリーズ1) 菊地俊夫編 朝倉書店 2011 インド(世界地誌シリーズ5) 友澤和夫編 朝倉書店 2013 EU(世界地誌シリーズ3) 加賀美 雅弘編 朝倉書店 2011				
授業内容	<p>1. オリエンテーション・地誌学の位置付け</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]予:地理学と地誌学の関係について、下記参考書などを利用して理解しておく。復:配布プリント、ノートおよび参考書を活用し、地誌学について理解を深める。</p> <p>2. 地誌的理解の基礎資料と地域を把握する視点</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]予:地誌の基礎資料にはどのようなものがあるか、調べておく。復:配布プリント、ノート及び参考書等を参考に、地域を把握する視点を任意の事例地域について検討を試みる。</p> <p>3. 日本の地域区分と諸地域(1)首都圏①歴史の変遷と現況</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]予:首都圏について参考書などにより基礎的理解を得ておく。復:首都圏の現況について、授業資料、参考書(下記以外に、『首都圏Ⅰ(日本の地誌5)』(2009)等)により要点をまとめ、理解を深める。</p> <p>4. 日本の地域区分と諸地域(1)首都圏②一極集中とその課題</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]予:首都圏への諸機能の一極集中とその課題について、参考書などにより基礎的理解を得ておく。復:一極集中とその弊害について、小レポートをまとめ、2週間後に提出する。</p>				

科目名	地誌学Ⅱ	担当教員	☆ 出田 和久
授業内容	5. 日本の諸地域(2)近畿圏		
	[予習・復習]予:近畿圏について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、ノートおよび参考書などを活用し、近畿圏の特徴についてまとめ、理解を深める。		
	6. 本の諸地域(3)九州地方		
	[予習・復習]予:九州地方について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、ノートおよび参考書などを活用し、九州地方の特徴など授業内容について理解を深める。		
	7. 身近な地域(1)奈良盆地		
	[予習・復習]予:奈良盆地について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、ノートおよび参考書などを活用し、奈良盆地の特徴についてまとめ、理解を深める。		
	8. 身近な地域(2)大分市		
	[予習・復習]予:大分市について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、ノートおよび参考書などを活用し、新産業都市以降の大分市の変遷とその特徴についてまとめ、理解を深める。		
	9. 世界の諸地域(1)南アジア①インド亜大陸の自然		
	[予習・復習]予:南アジアの自然について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、参考文献などを活用し、インド亜大陸の自然について要点を整理し、理解を深める。		
	10. 世界の諸地域(2)南アジア②インドの産業		
	[予習・復習]予:インドの産業(農業と紡工業)について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:インド農業の課題をひとつあげて論じた小レポートを、2週間後に提出する。		
	11. 世界の諸地域(2)南アジア③インドの社会と文化		
	[予習・復習]予:インドの社会と文化について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、参考文献などを活用し、インドの社会と文化について要点を整理し、理解を深める。		
	12. 世界の諸地域(3)南アジア③パキスタンの農業と社会		
[予習・復習]予:パキスタンの農業と社会について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、参考文献などを活用し、パキスタンの農業と社会の特徴について理解を深める。			
13. 世界の諸地域(4)ヨーロッパ①自然・文化・社会			
[予習・復習]予:ヨーロッパの自然環境、特に気候について、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、参考文献などを活用し、ヨーロッパの自然環境・文化・社会などについて理解を深める。			
14. 世界の諸地域(5)ヨーロッパ②ヨーロッパの大都市と都市問題—ロンドンとパリ			
[予習・復習]予:ロンドンとパリについて、参考書などにより基礎的な理解を得ておく。復:授業資料、参考文献などを活用し、インナーシティの再開発などについて要点をまとめ、理解を深める。			
15. まとめ—日本とヨーロッパの大都市—			
[予習・復習]予:講義内容や参考書などにより、日本とヨーロッパの大都市地域の共通点、相違点をまとめる。復:日本とヨーロッパの大都市地域について、共通点と相違点の要因をまとめる。			

科目名	日本史 I(一)		担当教員	木下 光生	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代から現代にいたる日本史の理解を深める				
到達目標	中学・高校の歴史・日本史教科書の内容を深く理解し、各時代の特徴を、長期的な目線と世界史的な視野でとらえる。				
授業概要	中学・高校で歴史を教えていくうえで、教科書の内容を深く理解しておくことは絶対条件である。本講義では、現行および過去の中学・高校の歴史・日本史教科書を利用して、古代～現代における各時代の政治、経済、文化の特徴を検討し、それが通史的・世界史的にもつ意味合いを考えていく。				
評価方法・基準	<p>期末レポート</p> <p>講義内容について、自由な観点から、思う存分、批判を書いてもらう。</p> <p>自分で独自に探してきた論文、学術書、史料、データなどにもとづいて批判できたら、一番素晴らしい。</p>				
課題のフィードバック方法	レポートの講評を、オフィスアワーに研究室でおこなう。				
履修上の注意事項等	日本史 I (二)を履修済みの者は、日本史 I (一)を受講できない。				
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	適宜紹介				
授業内容	<p>1. 講義の目的と進め方</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 歴史学に関する学術書を勉強。授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>2. 国家の存立と国際承認①:倭国から律令国家への道と東アジア</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 歴史学に関する学術書を勉強。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>3. 国家の存立と国際承認②:国際承認「無関心」時代の到来～鎌倉幕府から江戸幕府へ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>4. 国家の存立と国際承認③:近代国家の領土拡張・侵略戦争と欧米列強承認</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p>				

科目名	日本史 I(一)	担当教員	木下 光生
授業内容	5. 経済からみた日本史①: 中国銅銭と中世日本の貨幣・商品経済		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	6. 経済からみた日本史②: 中世～近代の「自給」経済と「貨幣」経済		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	7. 経済からみた日本史③: 近現代日本における「小経営」の存在意義		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	8. 管理貿易からみた日本史①: 古代～中世における管理貿易の重要性		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	9. 管理貿易からみた日本史②: 近世の管理貿易＝「鎖国」の実態		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	10. 管理貿易からみた日本史③: 近現代国家と管理貿易		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	11. 戦争からみた日本史①: 古代・中世国家と対外戦争～対外緊張のなかの仏教伝来、白村江の戦いとモンゴル襲来のもったインパクト		
	----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	12. 戦争からみた日本史②: 東・東南アジアの軍事緊張と近世国家		
----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
13. 戦争からみた日本史③: 大規模戦争で血塗られた近現代国家			
----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
14. 政治、経済、文化から、1～21 世紀の日本史と世界史をあらためて通観する			
----- [予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
15. 講義のまとめ			
----- [予習・復習] 半年間の論点を整理。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			

科目名	日本史 I(二)			担当教員	木下 光生
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	古代から現代にいたる日本史の理解を深める				
到達目標	中学・高校の歴史・日本史教科書の内容を深く理解し、各時代の特徴を、長期的な目線と世界史的な視野でとらえる。				
授業概要	中学・高校で歴史を教えていくうえで、教科書の内容を深く理解しておくことは絶対条件である。本講義では、現行および過去の中学・高校の歴史・日本史教科書を利用して、古代～現代における各時代の政治、経済、文化の特徴を検討し、それが通史的・世界史的にもつ意味合いを考えていく。				
評価方法・基準	<p>期末レポート</p> <p>講義内容について、自由な観点から、思う存分、批判を書いてもらう。</p> <p>自分で独自に探してきた論文、学術書、史料、データなどにもとづいて批判できたら、一番素晴らしい。</p>				
課題のフィードバック方法	レポートの講評を、オフィスアワーに研究室でおこなう。				
履修上の注意事項等	日本史 I (一)を履修済みの者は、日本史 I (二)を受講できない。				
テキスト	毎回プリントを配布				
参考書	適宜紹介				
授業内容	<p>1. 講義の目的と進め方</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 歴史学に関する学術書を勉強。授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>2. 国家の存立と国際承認①:倭国から律令国家への道と東アジア</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 歴史学に関する学術書を勉強。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>3. 国家の存立と国際承認②:国際承認「無関心」時代の到来～鎌倉幕府から江戸幕府へ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p> <p>4. 国家の存立と国際承認③:近代国家の領土拡張・侵略戦争と欧米列強承認</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。</p>				

科目名	日本史 I(二)	担当教員	木下 光生
授業内容	5. 経済からみた日本史①: 中国銅銭と中世日本の貨幣・商品経済		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	6. 経済からみた日本史②: 中世～近代の「自給」経済と「貨幣」経済		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	7. 経済からみた日本史③: 近現代日本における「小経営」の存在意義		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	8. 管理貿易からみた日本史①: 古代～中世における管理貿易の重要性		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	9. 管理貿易からみた日本史②: 近世の管理貿易＝「鎖国」の実態		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	10. 管理貿易からみた日本史③: 近現代国家と管理貿易		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	11. 戦争からみた日本史①: 古代・中世国家と対外戦争～対外緊張のなかの仏教伝来、白村江の戦いとモンゴル襲来のもったインパクト		
	[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。		
	12. 戦争からみた日本史②: 東・東南アジアの軍事緊張と近世国家		
[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
13. 戦争からみた日本史③: 大規模戦争で血塗られた近現代国家			
[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
14. 政治、経済、文化から、1～21 世紀の日本史と世界史をあらためて通観する			
[予習・復習] 前回プリントの再チェック。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			
15. 講義のまとめ			
[予習・復習] 半年間の論点を整理。配付プリントの再チェック、および授業中に紹介された文献のチェック。			

科目名	日本史Ⅱ(一)		担当教員	河内 将芳	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本史の基礎知識				
到達目標	中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけることめざす。				
授業概要	この講義では、中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけるため、主に高等学校の日本史の教科書に出てくることがらについて、その内容を掘り下げて講義を展開する。資料・史料をもちいて、ことがらの具体的なようすを講義していく。なお、本授業はポータルサイトをもちいたWEB授業でおこなう。				
評価方法・基準	平常点(10%、出席および授業に対する積極的な参加度合い)、期末レポート(90%、400字詰め換算で10~15枚以上予定)で評価。				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し、最終授業内で講評をおこなう。				
履修上の注意事項等	日本史の教科書に出てくることがらがどのような文献史料によって語られているのか、具体的に史料を読みつつ講義を行うので、受講生には史料をじっくりと読むという辛抱強さが求められる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 日本列島と日本人 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解をする。「日本列島と日本人」について確認と整理をおこなう。</p> <p>2. 古代国家の成立 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「古代国家の成立」について確認と整理をおこなう。</p> <p>3. 貴族政治の展開 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「貴族政治の展開」について確認と整理をおこなう。</p> <p>4. 鎌倉幕府の成立 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「鎌倉幕府の成立」について確認と整理をおこなう。</p>				

科目名	日本史 II(一)	担当教員	河内 将芳
授業内容	<p>5. 武家政治の展開 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「武家政治の展開」について確認と整理をおこなう。</p> <p>6. 南北朝の内乱 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「南北朝の内乱」について確認と整理をおこなう。</p> <p>7. 室町幕府と地域社会 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「室町幕府と地域社会」について確認と整理をおこなう。</p> <p>8. 戦乱と民衆 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦乱と民衆」について確認と整理をおこなう。</p> <p>9. 信長・秀吉の天下統一 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「信長・秀吉の天下統一」について確認と整理をおこなう。</p> <p>10. 江戸幕府と諸藩 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「江戸幕府と諸藩」について確認と整理をおこなう。</p> <p>11. 近世社会の展開 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「近世社会の展開」について確認と整理をおこなう。</p> <p>12. 明治国家の成立 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「明治国家の成立」について確認と整理をおこなう。</p> <p>13. 近現代の政治と社会 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「近現代の政治と社会」について確認と整理をおこなう。</p> <p>14. 戦争と国民 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦争と国民」について確認と整理をおこなう。</p> <p>15. 戦後社会の推移 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦後社会の推移」について確認と整理をおこなう</p>		

科目名	日本史Ⅱ(二)		担当教員	河内 将芳	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	日本史の基礎知識				
到達目標	中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけることめざす。				
授業概要	この講義では、中学校社会・高等学校地理歴史の教員免許取得に対応できる日本史の基礎的な知識を身につけるため、主に高等学校の日本史の教科書に出てくることがらについて、その内容を掘り下げて講義を展開する。資料・史料をもちいて、ことがらの具体的なようすを講義していく。なお、本授業はポータルサイトをもちいたWEB授業でおこなう。				
評価方法・基準	平常点(10%、出席および授業に対する積極的な参加度合い)、期末レポート(90%、400字詰め換算で10~15枚以上予定)で評価。				
課題のフィードバック方法	期間内にレポートを課し、最終授業内で講評をおこなう。				
履修上の注意事項等	日本史の教科書に出てくることがらがどのような文献史料によって語られているのか、具体的に史料を読みつつ講義を行うので、受講生には史料をじっくりと読むという辛抱強さが求められる。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 日本列島と日本人 ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解をする。「日本列島と日本人」について確認と整理をおこなう。</p> <p>2. 古代国家の成立 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「古代国家の成立」について確認と整理をおこなう。</p> <p>3. 貴族政治の展開 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「貴族政治の展開」について確認と整理をおこなう。</p> <p>4. 鎌倉幕府の成立 ----- [予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「鎌倉幕府の成立」について確認と整理をおこなう。</p>				

科目名	日本史 II(二)	担当教員	河内 将芳
授業内容	5. 武家政治の展開		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「武家政治の展開」について確認と整理をおこなう。		
	6. 南北朝の内乱		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「南北朝の内乱」について確認と整理をおこなう。		
	7. 室町幕府と地域社会		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「室町幕府と地域社会」について確認と整理をおこなう。		
	8. 戦乱と民衆		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦乱と民衆」について確認と整理をおこなう。		
	9. 信長・秀吉の天下統一		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「信長・秀吉の天下統一」について確認と整理をおこなう。		
	10. 江戸幕府と諸藩		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「江戸幕府と諸藩」について確認と整理をおこなう。		
	11. 近世社会の展開		
	[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「近世社会の展開」について確認と整理をおこなう。		
	12. 明治国家の成立		
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「明治国家の成立」について確認と整理をおこなう。			
13. 近現代の政治と社会			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「近現代の政治と社会」について確認と整理をおこなう。			
14. 戦争と国民			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦争と国民」について確認と整理をおこなう。			
15. 戦後社会の推移			
[予習・復習] 参考文献を読み、授業内容について理解をする。「戦後社会の推移」について確認と整理をおこなう。			

科目名	外国史 I		担当教員	☆ 飯田 祥子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	諸民族の交流からみた東アジア地域の歴史的展開				
到達目標	東アジア地域の歴史的事象について説明できるようになる。民族間の関係から、東アジア地域の歴史的展開を理解する。				
授業概要	東アジアの地域は多様であり、それぞれの地域には独特の文化を持つ人々が暮らしてきた。一方で、この地域に対して強い影響力をもち、時に主導的な立場にあったのは中国王朝である。この授業では、中国王朝との関係を軸に、東アジア地域の歴史的展開を考察する。中国やその他の地域の歴史と、それぞれの地域で育まれた文化を知ることによって、受講者が自文化と異文化を認識する視点を養う機会としたい。				
評価方法・基準	平常点(授業時提出物)60%…語句クイズ(前回授業の理解度)、記述課題(その回の授業の理解度)、コメント(問題意識・意欲) 定期試験 40%…到達目標の達成度				
課題のフィードバック方法	授業時提出物 語句クイズ:その回または次回授業時に正答を示す 記述課題:次回授業時に解答例を示す コメント:授業時に適宜紹介する 定期試験:試験終了後に解答例を示す				
履修上の注意事項等	オンデマンド型 Web 授業(動画視聴+課題提出)を予定。 初回ガイダンスで、受講における注意事項や、成績評価方法などについて説明する。欠席すると不利益になる可能性がある。板書の撮影は禁止する。				
テキスト	なし				
参考書	東アジア世界の歴史 堀敏一 講談社 2008 天下と天朝の中国史 壇上寛 岩波書店 2016				
授業内容	1. ガイダンス/空間 シラバスを理解し、各自手持ちの教科書(中学・高校)・地図帳等によって、対象となる地域を確認しておく/ノート・配布資料の整理を行う 2. 「東アジア世界」 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、地域間の歴史的交流を反映する事象について考察する。 3. 文明のはじまり ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、文明のはじまりを反映する物質資料について考察する。 4. 初期王朝 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、権力の形成を反映する物質資料について考察する。				

科目名	外国史 I	担当教員	☆ 飯田 祥子
授業内容	<p>5. 「中華」と「夷狄」 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における他者認識について考察する。</p> <p>6. 統一国家の成立 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における統一政権について考察する。</p> <p>7. 分裂政権の時代 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における権力の分散現象について考察する。</p> <p>8. 南北の対峙 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。気候風土による人の生活の違いについて考察する。</p> <p>9. 「世界帝国」 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における「帝国」について考察する。</p> <p>10. 周辺地域①—従属から自立へ 東南アジアおよび東北アジア地域の地理を確認しておく／ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。</p> <p>11. 周辺地域②—侵入者から支配者へ 内陸アジア地域の地理を確認しておく／ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。</p> <p>12. 多極化する東アジア ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における多極化現象について考察する。</p> <p>13. 東アジアの海 世界全体からみた東アジア地域の地理的位置を確認しておく／ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。</p> <p>14. 中華帝国の「完成」 ノート・配布資料の整理を行い、提出物に対する正答・解答例を確認する。自身の関心に基づき、任意の地域・時代における民族間の関係について考察する。</p> <p>15. おわりに 15 回の講義内容を振り返る。自身の関心に基づいて、東アジア地域の歴史的事象の特色を考察する。</p>		

科目名	外国史 II		担当教員	☆ 石田 信義	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	ヨーロッパ世界の社会・文化的歩みの源流および形成過程を探る				
到達目標	総合史的分析視点に立ってヨーロッパ文化圏の拡大と周辺地域との史的関連を理解する。				
授業概要	総合史的分析視点の涵養を目的とし、講義では、ヨーロッパの社会・文化的諸相の時間的・空間的広がり、および大航海時代に至る世界の一体化の動きを、主に地中海を中心とした南欧文化圏の広がりを通して追及していく。世界が、一方では地域の独自性、他方ではその枠組みをこえた多様な複合化によって形成された点を理解することにより、現代世界理解のための政治・経済・社会・文化の学際的アプローチの視点を養う。				
評価方法・基準	各回レポート記述内容に基づいて成績を総合判断する。ただし、レポート課題提出回数が全回数の 3 分の 2 に満たない場合は、原則として成績評価は行われない。				
課題のフィードバック方法	最終課題提出時に、模範レポート例を送信配布するので、今後の学習の参考にすること。				
履修上の注意事項等	課題表示内容をのファイリングを常に心がけること。各課題提示において紹介する主な参考文献を可能な限り読み込んで各自の研究の参考にすること。やむをえずレポート提出ができない場合は、必ず事前に届け出ること。				
テキスト	各回資料送信				
参考書	歴史とは何か E.H.カー 岩波新書 2003 南欧史 井上幸治編 山川出版 1997 ヨーロッパとは何か 増田四郎 岩波新書 2001				
授業内容	<p>1. 世界の風土的特徴と民族の多様性</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み授業内容を確認する。世界地図帳をみてヨーロッパの地理的位置を把握する。テーマに関する自己の個別の関心事を筆記できるように準備しておく。紹介する参考文献「風土」を図書館等で実際に手にする。</p> <p>2. ヨーロッパ大陸の自然と文化的枠組み</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]次回課題を事前によく読み、紹介する参考文献「歴史とは何か」に目を通す。自己の関心事を事前にノートに箇条書きにしておく。授業で送信した資料内容を参考にして確認しておく。</p> <p>3. 地中海世界－海洋民族、点から線へ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]高校世界史の教科書等で地中海世界の古代の概要を理解しておく。課題送信配布資料のファイリングを心がける。</p> <p>4. ギリシア・ローマ文明の興り、キリスト教文化圏の拡大</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]第 1 回から第 3 回までの課題をノートで整理し、歴史全体の捉え方に関してまとめておく。フェニキア人の行動の跡付けを、文献かネットで調べて自己のノートにまとめておく。</p>				

科目名	外国史 II	担当教員	☆ 石田 信義
授業内容	5. ローマ帝国の興亡		
	[予習・復習]ギリシア・イタリア・アフリカ北岸の地理的広がりを把握しておく。送信配布される「ローマ史」の年表を辿り、各文化圏の領域の広がりを把握する。逐次紹介する「ローマ帝国」(青柳著)等を講義の前後に読み込んでおく。		
	6. ゲルマン民族の移動と展開		
	[予習・復習]世界史の教科書、参考文献「南欧史」等で民族の移動に関する基礎知識を準備する。		
	7. イスラム文化の開化		
	[予習・復習]地中海・アフリカ北岸・アラビア半島の位置関係を把握しておくこと。		
	8. ヨーロッパ・アフリカ・アジア諸文化の積層		
	[予習・復習]これまでのレポート課題を整理しておくこと。参考文献等に基づき、キリスト教・イスラム教の基礎知識を整理し、ノートで宗教の広がりを各自図示してみること。		
	9. イスラム文化圏の広がり		
	[予習・復習]レポート課題、送信配布された資料を整理し、かつてのローマ文化圏の上にイスラム教文化圏が積層化して地中海が複合化したことを整理し、要因を書きとめておくこと。		
	10. 十字軍の遠征と都市の発達		
	[予習・復習]イベリア半島の位置と地理的特徴を、参考資料に基づいて理解し、ノートに整理・記述しておくこと。		
	11. レコンキスターイベリア半島文化圏の拡大		
	[予習・復習]レコンキスタに関し、各自文献資料をあたり、要点をノートに整理・記述しておくこと。		
	12. 大航海時代—大西洋へのうねり		
[予習・復習]大航海時代のイベリア半島における時代背景を、政治・経済・社会・文化の主な側面に項目分けして整理・記述しておくこと。			
13. 南北アメリカ大陸への植民と「ヨーロッパ」の拡大			
[予習・復習]植民の形態の特徴と大西洋の人びとの移動を、配布資料に基づいてノート整理・記述し、必要な箇所をノートで図示しておくこと。			
14. 膨張と対立—まとめ			
[予習・復習]大航海時代以降のヨーロッパ世界の拡大を、高校の世界史の教科書や主要参考文献を読み込んで理解すること。と。			
15. 学習到達度確認			
[予習・復習]これまでのレポート課題および送信配布された資料等を順を追ってファイリング・整理すること。			

科目名	法学(一)			担当教員	床谷 文雄
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人間が他者と交わり社会を形成し、さまざまな場所で生活をする上で欠かすことができない法律(法規)について学ぶ				
到達目標	法律は国家によって強制されている規範であり、私たちは数多くのさまざまな法律に関わりながら生活をしている。この多様な法律の世界を知り、社会における法の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	私たちの社会生活のあらゆる場面において法律は存在している。法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、私たちの身近なところにある法律について学び、理解する力をつけるために、社会生活の法律、家庭生活の法律の基本について学び考える時間とする。				
評価方法・基準	Web 授業の場合:小テスト(法学用語、理論等の理解度を確認)とレポート課題(講義に関する問題への理解と考察)、資料閲覧等授業参加度の評価。 対面授業の場合:小テスト、課題に加えて、最終授業で学力確認を行う。				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-learning で実施し、評価・講評する。対面授業の場合の到達度確認についても、e-learning で講評を行う。授業に関する質問は e-learning のメッセージ(Gメール)で受け付ける。E-learning の登録コードはポータルサイトの初回講義連絡で通知する。				
履修上の注意事項等	私たちは日々の暮らしの中で、どのような法律に関わっているのか、新聞、ネットニュースなどで紹介される法律や裁判に関心を持ちながら、法学を学んでいこう。Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧しておくこと(まとめて読んでも身につけません)。				
テキスト	法の世界へ第8版 池田真朗・犬伏由子他 有斐閣 2020年				
参考書	教科書の「参考文献」一覧表を参照、				
授業内容	<p>1. 法とは何か、法学を学ぶ意義、日常生活と契約(契約と法1)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章「日常生活と契約」を読んでおくこと。生活の中で「契約」と聞いて思い浮かぶ例を2つか3つ、考えておくこと。</p> <p>2. 現代の契約の特徴(契約と法2)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章を再度、読み直しておくこと。</p> <p>3. 契約と消費者保護の法律(契約と法3)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章特に4・5および第2章「日常生活とアクシデント」4(悪徳商法による被害)を読んでおくこと。</p> <p>4. 日常生活における事故と法(不法行為法の基本原則)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第2章「日常生活とアクシデント」1~3を読んでおくこと。</p>				

科目名	法学(一)	担当教員	床谷 文雄
授業内容	5. 日常生活における事故と法(特殊な不法行為に関する法)		

	[予習・復習] 教科書の第2章1~3を再度読んでおくこと。		
	6. 日常生活における事故と法(不法行為法の実際)		

	[予習・復習] 教科書の第2章をよく読んでおくこと。		
	7. 労働関係に関する法律(労働者と法律1)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読んでおくこと。		
	8. 職場におけるハラスメント、非正規雇用(労働者と法律2)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読み直しておくこと。		
	9. 社会保障と法律		

	[予習・復習] 教科書の第7章「法学フラッシュ」11(生存権の保障)を読んでおくこと。		
10. 高齢社会と法			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」4(高齢社会と家族)を読んでおくこと。			
11. 相続と法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」5(死後の財産の行方)を読んでおくこと。			
12. 遺言の法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」を読み直しておくこと。			
13. 犯罪と刑罰			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)を読んでおくこと。			
14. 刑事裁判、刑事手続、少年事件			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)をもう一度、読んでおくこと。			
15. 授業のまとめ			

[予習・復習] 授業で扱った法律について、教科書の関係部分をもう一度、読んでおくこと。			

科目名	法学(二)		担当教員	床谷 文雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人間が他者と交わり社会を形成し、さまざまな場所で生活をする上で欠かすことができない法律(法規範)について学ぶ				
到達目標	法律は国家によって強制されている規範であり、私たちは数多くのさまざまな法律に関わりながら生活をしている。この多様な法律の世界を知り、社会における法の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	私たちの社会生活のあらゆる場面において法律は存在している。法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、私たちの身近なところにある法律について学び、理解する力をつけるために、社会生活の法律、家庭生活の法律の基本について学び考える時間とする。				
評価方法・基準	Web 授業:小テスト(法学の用語、理論等の理解度を確認)とレポート課題(講義に関する問題への理解と考察)、資料閲覧等授業参加度・学習到達度の総合評価による。 対面授業:授業中の小テスト及びレポート課題の評価				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-learning で実施し、評価・講評する。対面授業の場合の到達度確認についても、e-learning で講評を行う。授業に関する質問は e-learning のメッセージ(Gメール)で受け付ける。E-learning の登録コードはポータルサイトの初回講義連絡で通知する。				
履修上の注意事項等	私たちは日々の暮らしの中で、どのような法律に関わっているのか、新聞、ネットニュースなどで紹介される法律や裁判に関心を持ちながら、法学を学んでいこう。Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧しておくこと(まとめて読んで身につきません)。				
テキスト	法の世界へ第8版 池田真朗・犬伏由子他 有斐閣 2020年				
参考書	教科書の「参考文献」一覧表を参照、				
授業内容	<p>1. 法とは何か、法学を学ぶ意義、日常生活と契約(契約と法1)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章「日常生活と契約」を読んでおくこと。生活の中で「契約」と聞いて思い浮かぶ例を2つか3つ、考えておくこと。</p> <p>2. 現代の契約の特徴(契約と法2)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章を再度、読み直しておくこと。</p> <p>3. 契約と消費者保護の法律(契約と法3)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章特に4・5および第2章「日常生活とアクシデント」4(悪徳商法による被害)を読んでおくこと。</p> <p>4. 日常生活における事故と法(不法行為法の基本原則)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第2章「日常生活とアクシデント」1~3を読んでおくこと。</p>				

科目名	法学(二)	担当教員	床谷 文雄
授業内容	5. 日常生活における事故と法(特殊な不法行為に関する法)		

	[予習・復習] 教科書の第2章1~3を再度読んでおくこと。		
	6. 日常生活における事故と法(不法行為法の実際)		

	[予習・復習] 教科書の第2章をよく読んでおくこと。		
	7. 労働関係に関する法律(労働者と法律1)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読んでおくこと。		
	8. 職場におけるハラスメント、非正規雇用(労働者と法律2)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読み直しておくこと。		
	9. 社会保障と法律		

	[予習・復習] 教科書の第7章「法学フラッシュ」11(生存権の保障)を読んでおくこと。		
10. 高齢社会と法			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」4(高齢社会と家族)を読んでおくこと。			
11. 相続と法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」5(死後の財産の行方)を読んでおくこと。			
12. 遺言の法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」を読み直しておくこと。			
13. 犯罪と刑罰			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)を読んでおくこと。			
14. 刑事裁判、刑事手続、少年事件			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)をもう一度、読んでおくこと。			
15. 授業のまとめ			

[予習・復習] 授業で扱った法律について、教科書の関係部分をもう一度、読んでおくこと。			

科目名	法学(三)		担当教員	床谷 文雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人間が他者と交わり社会を形成し、さまざまな場所で生活をする上で欠かすことができない法律(法規範)について学ぶ				
到達目標	法律は国家によって強制されている規範であり、私たちは数多くのさまざまな法律に関わりながら生活をしている。この多様な法律の世界を知り、社会における法の役割と重要性を理解すること。				
授業概要	私たちの社会生活のあらゆる場面において法律は存在している。法律は、人間が社会生活を円滑に送ることができるようにするためのものであり、起こりうる紛争を予防し、起こった紛争を解決するためのルールである。この授業では、私たちの身近なところにある法律について学び、理解する力をつけるために、社会生活の法律、家庭生活の法律の基本について学び考える時間とする。				
評価方法・基準	Web 授業:小テスト(法学の用語、理論等の理解度を確認)とレポート課題(講義に関する問題への理解と考察)、資料閲覧等授業参加度の総合評価による。 対面授業:授業中の小テスト及びレポート課題の評価				
課題のフィードバック方法	小テスト・課題は、e-learning で実施し、評価・講評する。対面授業の場合の到達度確認についても、e-learning で講評を行う。授業に関する質問は e-learning のメッセージ(Gメール)で受け付ける。E-learning の登録コードはポータルサイトの初回講義連絡で通知する。				
履修上の注意事項等	私たちは日々の暮らしの中で、どのような法律に関わっているのか、新聞、ネットニュースなどで紹介される法律や裁判に関心を持ちながら、法学を学んでいこう。Eラーニングで配信する資料を、その都度、閲覧しておくこと(まとめて読んでも身につけません)。				
テキスト	法の世界へ第8版 池田真朗・犬伏由子他 有斐閣 2020年				
参考書	教科書の「参考文献」一覧表を参照、				
授業内容	<p>1. 法とは何か、法学を学ぶ意義、日常生活と契約(契約と法1)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章「日常生活と契約」を読んでおくこと。生活の中で「契約」と聞いて思い浮かぶ例を2つか3つ、考えておくこと。</p> <p>2. 現代の契約の特徴(契約と法2)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章を再度、読み直しておくこと。</p> <p>3. 契約と消費者保護の法律(契約と法3)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第1章特に4・5および第2章「日常生活とアクシデント」4(悪徳商法による被害)を読んでおくこと。</p> <p>4. 日常生活における事故と法(不法行為法の基本原則)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教科書の第2章「日常生活とアクシデント」1~3を読んでおくこと。</p>				

科目名	法学(三)	担当教員	床谷 文雄
授業内容	5. 日常生活における事故と法(特殊な不法行為に関する法)		

	[予習・復習] 教科書の第2章1~3を再度読んでおくこと。		
	6. 日常生活における事故と法(不法行為法の実際)		

	[予習・復習] 資料の裁判例をよく読んでおくこと。		
	7. 労働関係に関する法律(労働者と法律1)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読んでおくこと。		
	8. 職場におけるハラスメント、非正規雇用(労働者と法律2)		

	[予習・復習] 教科書の第3章「雇用社会のルール」を読み直しておくこと。		
	9. 社会保障と法律		

	[予習・復習] 教科書の第7章「法学フラッシュ」11(生存権の保障)を読んでおくこと。		
10. 高齢社会と法			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」4(高齢社会と家族)を読んでおくこと。			
11. 相続と法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」5(死後の財産の行方)を読んでおくこと。			
12. 遺言の法律			

[予習・復習] 教科書の第4章「家族関係」を読み直しておくこと。			
13. 犯罪と刑罰			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)を読んでおくこと。			
14. 刑事裁判、刑事手続、少年事件			

[予習・復習] 教科書の第6章「紛争の解決」、第7章5(民事責任と刑事責任)をもう一度、読んでおくこと。			
15. 授業のまとめ			

[予習・復習] 授業で扱った法律について、教科書の関係部分をもう一度、読んでおくこと。			

科目名	政治学(一)		担当教員	竹中 浩	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	政治学概論				
到達目標	政治学の基本概念を身に着け、政治の制度や思想について基礎的な理解を得る。				
授業概要	この授業では、民主政治に関する諸問題を中心に、政治学の基本的な概念や考え方について解説する。政治にはさまざまなアクターが登場し、自らの利益や目的価値を実現しようとして行動する。利益も目的価値も人によって異なり、時とともに変化するから、政治的な問題に唯一絶対の解決はなく、一旦なされた解決も、時代とともにたえず見直しを迫られる。そうした持続的な営みとしての政治の特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する(1回目40%、2回目60%)。授業の最後に示す問題に対する回答によって出席を確認する。出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
課題のフィードバック方法	レポート課題に関しては授業の中で解説する。個々のレポートについての講評等は行わないが、レポート課題作成上で生じた疑問について、メールでなされた質問には個別に回答する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示した箇所のテキストをよりよく理解するために、その内容に関する解説文をポータルサイトの「講義連絡」にアップするという方法をとる。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学 川出良枝・谷口将紀編 東京大学出版会 2012年				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]事前にシラバスを読み、授業内容について理解しておく。</p> <p>2. 古代の民主政治と近代の民主政治 ----- [予習・復習]テキストの第1章第1節と第2節を読んでおく。</p> <p>3. 民主政治と自由主義 ----- [予習・復習]テキストの第1章第3節を読んでおく。</p> <p>4. 民主政治と国民国家 ----- [予習・復習]テキストの第2章第1節を読んでおく。</p>				

科目名	政治学(一)	担当教員	竹中 浩
授業内容	5. 民主政治の再定義		

	[予習・復習]テキストの第 2 章第 2 節と第 3 節を読んでおく。		
	6. 福祉と政治		

	[予習・復習]テキストの第 3 章を読んでおく。		
	7. 大統領制と議院内閣制		

	[予習・復習]テキストの第 4 章を読んでおく。		
	8. 選挙		

	[予習・復習]テキストの第 5 章を読んでおく。		
	9. 議会と政党		

	[予習・復習]テキストの第 6 章を読んでおく。		
10. 官僚制と政官関係			

[予習・復習]テキストの第 7 章を読んでおく。			
11. 世論とマスメディア			

[予習・復習]テキストの第 8 章を読んでおく。			
12. 地方自治			

[予習・復習]テキストの第 9 章を読んでおく。			
13. グローバル化			

[予習・復習]テキストの第 10 章を読んでおく。			
14. 民主政治の現在			

[予習・復習]テキストの第 11 章を読んでおく。			
15. 授業総括			

[予習・復習]これまでの授業全体を振り返り、理解できていない点がないか確認する。			

科目名	政治学(二)		担当教員	竹中 浩	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	政治学概論				
到達目標	政治学の基本概念を身に着け、政治の制度や思想について基礎的な理解を得る。				
授業概要	この授業では、民主政治に関する諸問題を中心に、政治学の基本的な概念や考え方について解説する。政治にはさまざまなアクターが登場し、自らの利益や目的価値を実現しようとして行動する。利益も目的価値も人によって異なり、時とともに変化するから、政治的な問題に唯一絶対の解決はなく、一旦なされた解決も、時代とともにたえず見直しを迫られる。そうした持続的な営みとしての政治の特質について学ぶ。				
評価方法・基準	基本的に2回の課題レポートによって評価する(1回目40%、2回目60%)。授業の最後に示す問題に対する回答によって出席を確認する。出席状況の良好な人については評価の際に考慮する。				
課題のフィードバック方法	レポート課題に関しては授業の中で解説する。個々のレポートについての講評等は行わないが、レポート課題作成上で生じた疑問について、メールでなされた質問には個別に回答する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示した箇所のテキストをよりよく理解するために、その内容に関する解説文をポータルサイトの「講義連絡」にアップするという方法をとる。課題レポートを1回でも提出しないと単位が取得できないので注意すること。				
テキスト	政治学 川出良枝・谷口将紀編 東京大学出版会 2012年				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]事前にシラバスを読み、授業内容について理解しておく。</p> <p>2. 古代の民主政治と近代の民主政治 ----- [予習・復習]テキストの第1章第1節と第2節を読んでおく。</p> <p>3. 民主政治と自由主義 ----- [予習・復習]テキストの第1章第3節を読んでおく。</p> <p>4. 民主政治と国民国家 ----- [予習・復習]テキストの第2章第1節を読んでおく。</p>				

科目名	政治学(二)	担当教員	竹中 浩
授業内容	5. 民主政治の再定義		

	[予習・復習]テキストの第 2 章第 2 節と第 3 節を読んでおく。		
	6. 福祉と政治		

	[予習・復習]テキストの第 3 章を読んでおく。		
	7. 大統領制と議院内閣制		

	[予習・復習]テキストの第 4 章を読んでおく。		
	8. 選挙		

	[予習・復習]テキストの第 5 章を読んでおく。		
	9. 議会と政党		

	[予習・復習]テキストの第 6 章を読んでおく。		
10. 官僚制と政官関係			

[予習・復習]テキストの第 7 章を読んでおく。			
11. 世論とマスメディア			

[予習・復習]テキストの第 8 章を読んでおく。			
12. 地方自治			

[予習・復習]テキストの第 9 章を読んでおく。			
13. グローバル化			

[予習・復習]テキストの第 10 章を読んでおく。			
14. 民主政治の現在			

[予習・復習]テキストの第 11 章を読んでおく。			
15. 授業総括			

[予習・復習]これまでの授業全体を振り返り、理解できていない点がないか確認する。			

科目名	経済学		担当教員	中坊 勇太	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	思考ツールとしての経済学入門:ミクロ的視点とマクロ的視点から				
到達目標	現実の経済や社会の仕組みを理解するための経済学の基礎的概念・知識を修得することが目標である。				
授業概要	経済学とは個人の意思決定(何をどれだけ買うのかなど)や、それが社会全体にどのような影響をもたらすのかについて研究する学問である。本講義では、個別のモノのやりとりを分析するミクロ経済学と、国レベルの集計化されたやりとりを分析するマクロ経済学の基礎的内容について解説する。講義内では抽象的な概念の説明だけでなく、できるだけ現実の具体例を都度紹介する。毎回出題する課題に真摯に取り組むことで理解を深めてほしい。				
評価方法・基準	毎回出題する課題(授業で説明した経済学の基礎的概念を正しく理解しているかを問う)の提出状況と解答内容により評価する。				
課題のフィードバック方法	提出された課題は採点し返却する。課題の解答解説を授業内で行う。				
履修上の注意事項等	講義内容は連続している(1回完結ではない)ので継続的な学習が求められる。Google Classroomを用いた教材提示型WEB授業となる予定である。受講者はtboxアカウントを使えるようにしておくこと。				
テキスト	マンキュー入門経済学(第3版) N・グレゴリー・マンキュー 東洋経済新報社 2019				
参考書	適宜、紹介する				
授業内容	<p>1. ガイダンス:経済学とは ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。教科書第1章を読む。</p> <p>2. 需要:消費者の行動 ----- [予習・復習]教科書第4章1 市場と競争、2 需要を読む。市場・需要とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p> <p>3. 供給:企業(生産者)の行動 ----- [予習・復習]教科書第4章3 供給を読む。供給とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p> <p>4. 均衡:市場システム ----- [予習・復習]教科書第4章市場における需要と供給の作用を読む。均衡とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。</p>				

科目名	経済学	担当教員	中坊 勇太
授業内容	5. 需要、供給、および政府の政策		
	----- [予習・復習]教科書第 5 章需要、供給、および政府の政策を読む。価格統制・税金の効果について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	6. 消費者、生産者、市場の効率性		
	----- [予習・復習]教科書第 6 章消費者、生産者、市場の効率性を読む。余剰とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	7. 外部性		
	----- [予習・復習]教科書第 7 章外部性を読む。外部性とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	8. 国民所得の測定		
	----- [予習・復習]教科書第 8 章国民所得の測定を読む。GDP とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	9. 生計費の測定		
	----- [予習・復習]教科書第 9 章生計費の測定を読む。物価指数とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	10. 生産と成長		
	----- [予習・復習]教科書第 10 章生産と成長を読む。生産性とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	11. 貯蓄、投資と金融システム		
	----- [予習・復習]教科書第 11 章貯蓄、投資と金融システムを読む。貯蓄と投資の関係性について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。		
	12. 貨幣システム		
----- [予習・復習]教科書第 11 章付録 1 貨幣システムを読む。貨幣とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
13. 総需要と総供給			
----- [予習・復習]教科書第 12 章総需要と総供給を読む。総需要・総供給とは何か、自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
14. 開放マクロ経済学			
----- [予習・復習]教科書第 13 章開放マクロ経済学を読む。純輸出と国民貯蓄・国内投資の関係性について自分の言葉で説明できるよう配布資料を読み直す。			
15. 講義のまとめ			
----- [予習・復習]前回までの講義内容の疑問点をまとめておく。			

科目名	社会学(一)		担当教員	吉村 治正	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会学の基礎知識の修得				
到達目標	社会学の全体的なイメージをつかむことで、社会学の各論および隣接諸社会科学について学ぶための準備を整える。				
授業概要	社会学とは、現実の社会の仕組みを解明し、社会問題の解決を目指す科学である。我々の生きている社会は決して理想社会ではあり得ない。実際の社会は貧困や犯罪、差別や不平等などの様々な社会問題に満ちている。こうした諸問題を解決するために、現実の社会はいったいどのような仕組みで成立しているのかを適切に理解しようというのが社会学の目標である。				
評価方法・基準	本科目は GoogleClassroom を用いたりリモート授業となる。毎週、授業動画と共に課題を出す。この課題を提出してもらい、その合計点をもって本授業の評価とする。				
課題のフィードバック方法	授業の内容および課題についての質問は Classroom を通じて行うこと。その回答も Classroom を通じて行う。				
履修上の注意事項等	履修登録した者には、それぞれの tbox のアカウントに招待メールが送られる。履修を希望する者は、必ず tbox アカウントを事前にアクティベートしておくように。				
テキスト	社会学 アンソニー・ギデンス 而立書房				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス:社会学の基礎的な性格 ----- [予習・復習]教科書第6章</p> <p>2. 行為と相互行為 ----- [予習・復習]教科書第5章</p> <p>3. 社会集団 ----- [予習・復習]教科書第1章</p> <p>4. ジェンダーと性 ----- [予習・復習]教科書第12章</p>				

科目名	社会学(一)	担当教員	吉村 治正
授業内容	5. 婚姻と家族		

	[予習・復習]教科書第 7 章		
	6. 人口問題		

	[予習・復習]赤川学『これが答えだ！少子化問題』		
	7. 逸脱と犯罪		

	[予習・復習]教科書第 19 章		
	8. 国家と権力		

	[予習・復習]教科書第 20 章		
	9. 組織と官僚制		

	[予習・復習]教科書第 16 章		
10. 農村と都市			

[予習・復習]教科書第 21 章			
11. 宗教			

[予習・復習]教科書第 14 章			
12. 社会成層			

[予習・復習]教科書第 9 章			
13. メリットクラシー			

[予習・復習]教科書第 17 章			
14. 情報化と大衆社会			

[予習・復習]教科書第 15 章			
15. 文化と社会変動			

[予習・復習]エマニュエル・トッド『世界像革命』			

科目名	社会学(二)		担当教員	吉村 治正	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会学の基礎知識の修得				
到達目標	社会学の全体的なイメージをつかむことで、社会学の各論および隣接諸社会科学について学ぶための準備を整える。				
授業概要	社会学とは、現実の社会の仕組みを解明し、社会問題の解決を目指す科学である。我々の生きている社会は決して理想社会ではあり得ない。実際の社会は貧困や犯罪、差別や不平等などの様々な社会問題に満ちている。こうした諸問題を解決するために、現実の社会はいったいどのような仕組みで成立しているのかを適切に理解しようというのが社会学の目標である。				
評価方法・基準	本科目は GoogleClassroom を用いたりリモート授業となる。毎週、授業動画と共に課題を出す。この課題を提出してもらい、その合計点をもって本授業の評価とする。				
課題のフィードバック方法	授業の内容および課題についての質問は Classroom を通じて行うこと。その回答も Classroom を通じて行う。				
履修上の注意事項等	履修登録した者には、それぞれの tbox のアカウントに招待メールが送られる。履修を希望する者は、必ず box アカウントを事前にアクティベートしておくように。				
テキスト	社会学 アンソニー・ギデンス 而立書房				
参考書					
授業内容	1. ガイダンス:社会学の基礎的な性格 ----- [予習・復習]教科書第6章 2. 行為と相互行為 ----- [予習・復習]教科書第5章 3. 社会集団 ----- [予習・復習]教科書第1章 4. ジェンダーと性 ----- [予習・復習]教科書第12章				

科目名	社会学(二)	担当教員	吉村 治正
授業内容	5. 婚姻と家族		

	[予習・復習]教科書第 7 章		
	6. 人口問題		

	[予習・復習]赤川学『これが答えだ！ 少子化問題』		
	7. 逸脱と犯罪		

	[予習・復習]教科書第 19 章		
	8. 国家と権力		

	[予習・復習]教科書第 20 章		
	9. 組織と官僚制		

[予習・復習]教科書第 16 章			
10. 農村と都市			

[予習・復習]教科書第 21 章			
11. 宗教			

[予習・復習]教科書第 14 章			
12. 社会成層			

[予習・復習]教科書第 9 章			
13. メリットクラシー			

[予習・復習]教科書第 17 章			
14. 情報化と大衆社会			

[予習・復習]教科書第 15 章			
15. 文化と社会変動			

[予習・復習]エマニュエル・トッド『世界像革命』			

科目名	哲学・思想 I(一)		担当教員	丸田 健	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	西洋哲学への入門				
到達目標	西洋哲学の基礎的な諸説・諸議論を知り、哲学的思考の基本に親しむようになることを目標とします。				
授業概要	哲学は、人間の普遍的な関心事について、筋道立てて根本から考えようとする分野です。様々な論理的可能性も考慮しつつ、理性を用いて問題を掘り下げる哲学は、独特な仕方による人間の自己探究です。授業では主に近代以降の西洋哲学の展開(特にデカルト哲学、ヴィトゲンシュタイン哲学への言及が多くなる)を手掛かりに、心、他者、知識とは何か等について、代表的な考え方を学びます。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	方法序説 R.デカルト 岩波書店 1997 哲学探究 L.ウィトゲンシュタイン 講談社 2020 哲学の基礎 山本信 北樹出版 1988				
授業内容	<p>1. 導入</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解する。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 心身二元論</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 講義内容を振り返り、心身二元論の考えを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. デカルトの方法的懐疑</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 講義内容を振り返り、デカルトの知識観、彼の方法的懐疑の目的を理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 「われ思う、ゆえにわれあり」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 「第一原理」に至ったデカルトの思考を振り返り、その展開の仕組みを図式的に理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	哲学・思想 I(一)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 二元論の諸問題(1):心身問題		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に心身問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 二元論の諸問題(2):外界の存在		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に外界存在の懐疑の問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. 二元論の諸問題(3):他我問題		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に他我問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 哲学の展開(1):古代		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、古代哲学の大きな転回点を整理し理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 哲学の展開(2):近代		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、近代哲学の大きな転回点を整理し理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	10. 言葉の写像理論		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、言語論的転回の特長を理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	11. 言語ゲームという言語観		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、ヴィトゲンシュタインの前期思想・後期思想のコントラストを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	12. 言語ゲームと非デカルト的の心——心身問題・他我問題の行方		
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、心身問題や他我問題がどう解消されるのかを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
13. 知識の基礎づけ主義と世界像命題——外界存在の問題の行方			
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、外界存在の問題がどう解消されるのかを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
14. 魂に対する態度			
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、心に関する言語ゲームの広がりを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
15. 授業まとめ——学習到達度確認			
----- [予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習する。			

科目名	哲学・思想 I(二)		担当教員	丸田 健	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	西洋哲学への入門				
到達目標	西洋哲学の基礎的な諸説・諸議論を知り、哲学的思考の基本に親しむようになることを目標とします。				
授業概要	哲学は、人間の普遍的な関心事について、筋道立てて根本から考えようとする分野です。様々な論理的可能性も考慮しつつ、理性を用いて問題を掘り下げる哲学は、独特な仕方による人間の自己探究です。授業では主に近代以降の西洋哲学の展開(特にデカルト哲学、ヴィトゲンシュタイン哲学への言及が多くなる)を手掛かりに、心、他者、知識とは何か等について、代表的な考え方を学びます。				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	方法序説 R.デカルト 岩波書店 1997 哲学探究 L.ウィトゲンシュタイン 講談社 2020 哲学の基礎 山本信 北樹出版 1988				
授業内容	<p>1. 導入 ----- [予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解する。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 心身二元論 ----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、心身二元論の考えを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. デカルトの方法的懐疑 ----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、デカルトの知識観、彼の方法的懐疑の目的を理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 「われ思う、ゆえにわれあり」 ----- [予習・復習] 「第一原理」に至ったデカルトの思考を振り返り、その展開の仕組みを図式的に理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	哲学・思想 I(二)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. 二元論の諸問題(1):心身問題		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に心身問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. 二元論の諸問題(2):外界の存在		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に外界存在の懐疑の問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. 二元論の諸問題(3):他我問題		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、第四回の図式の中に他我問題を位置づけ、それを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 哲学の展開(1):古代		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、古代哲学の大きな転回点を整理し理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 哲学の展開(2):近代		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、近代哲学の大きな転回点を整理し理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	10. 言葉の写像理論		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、言語論的転回の特長を理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	11. 言語ゲームという言語観		
	----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、ヴィトゲンシュタインの前期思想・後期思想のコントラストを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。		
	12. 言語ゲームと非デカルト的の心——心身問題・他我問題の行方		
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、心身問題や他我問題がどう解消されるのかを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
13. 知識の基礎づけ主義と世界像命題——外界存在の問題の行方			
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、外界存在の問題がどう解消されるのかを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
14. 魂に対する態度			
----- [予習・復習] 講義内容を振り返り、心に関する言語ゲームの広がりを理解したうえで、考えたことをコメントとして提出する。			
15. 授業まとめ——学習到達度確認			
----- [予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習する。			

科目名	倫理学(一)		担当教員	丸田 健	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	倫理学入門				
到達目標	道徳哲学の基本的考えの理解を通し、道徳的観点からの思考になじむことことを目標とします。				
授業概要	日常的事象について、道徳的観点から多角的かつ深く考えることができるようにするために、道徳教育の歴史を振り返るとともに、倫理学の三部門である①メタ倫理、②規範倫理、③応用倫理のそれぞれについて、そこに含まれる基本的諸事項・諸見解の解説をします。(教職に対応した内容を一部含みます。)				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	プレップ倫理学 柘植尚則 弘文堂 2010 現実をみつめる道徳哲学 J.レイチェルズ 晃洋書房 2003				
授業内容	<p>1. 導入 ----- [予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 道徳教育の歴史:戦前 ----- [予習・復習] 通常の資料以外に追加資料を添付する。授業後、読んでおくこと。戦前の道徳教育の展開を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 道徳教育の歴史:戦後 ----- [予習・復習] 自分が受けた道徳教育を予め振り返っておくとよい。戦後の道徳教育の展開を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 日本人の道徳観 ----- [予習・復習] 授業後半で取り上げた倫理学の基本的三分野の区別を覚えておくこと。授業内容を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	倫理学(一)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. メタ倫理(1):主観主義 -----		
	[予習・復習] 主観主義的考えの利点・欠点について、自ら考えてみる。主観主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. メタ倫理(2):相対主義 -----		
	[予習・復習] 相対主義的考えの利点・欠点について、自ら考えてみる。相対主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. メタ倫理(3):利己主義 -----		
	[予習・復習] 利己主義的人間観の正しさ・誤りについて、自ら考えてみる。利己主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 規範倫理(1):功利主義 -----		
	[予習・復習] 功利主義の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。功利主義の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 規範倫理(2):義務論 -----		
	[予習・復習] 次回までに、講義中に見た映像資料の歴史的背景について調べてみる。		
	10. 規範倫理(2):義務論(続き) -----		
	[予習・復習] 義務論の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。義務論の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	11. 規範倫理(3):徳倫理 -----		
	[予習・復習] 徳倫理の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。徳倫理の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	12. 応用倫理(1):生命倫理学 紹介 -----		
[予習・復習] 生命倫理のトピックとして、どんなものがあるか調べてみよう。また安楽死の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
13. 応用倫理(2):生命倫理学(続き)臓器移植 -----			
[予習・復習] 臓器移植について、家族とも話し合ってみる。脳死臓器移植の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
14. 応用倫理(3):生命倫理学(続き)人間とは何か(パーソン論) -----			
[予習・復習] 動物の権利について、自分でも調べてみよう。動物の権利に関する理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
15. 授業まとめ -----			
[予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習しておく。			

科目名	倫理学(二)		担当教員	丸田 健	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	倫理学入門				
到達目標	道徳哲学の基本的考えの理解を通し、道徳的観点からの思考になじむことことを目標とします。				
授業概要	日常的事象について、道徳的観点から多角的かつ深く考えることができるようにするために、道徳教育の歴史を振り返るとともに、倫理学の三部門である①メタ倫理、②規範倫理、③応用倫理のそれぞれについて、そこに含まれる基本的諸事項・諸見解の解説をします。(教職に対応した内容を一部含みます。)				
評価方法・基準	平常点 40%程度(コメント記入の充実度等)と、学習到達度確認 60%程度(基本概念の理解、等)とで、総合評価する。				
課題のフィードバック方法	受講者からのコメントに対しては、次の回の授業で適宜応答する。学習到達度確認については、実施後、解答・解説を掲示する。				
履修上の注意事項等	Google Classroom を用いた Web 授業です。 毎回の授業内容を自分のノートに整理し、自分で調べるなどした内容を補いながら、簡潔にまとめるようにしてください。				
テキスト	なし				
参考書	プレップ倫理学 柘植尚則 弘文堂 2010 現実をみつめる道徳哲学 J.レイチェルズ 晃洋書房 2003				
授業内容	<p>1. 導入 ----- [予習・復習] 事前にシラバスをよく読み、授業全体の流れを理解しておく。授業を通して考えたことを、コメントとして提出する。</p> <p>2. 道徳教育の歴史:戦前 ----- [予習・復習] 通常の資料以外に追加資料を添付する。授業後、読んでおくこと。戦前の道徳教育の展開を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>3. 道徳教育の歴史:戦後 ----- [予習・復習] 自分が受けた道徳教育を予め振り返っておくとよい。戦後の道徳教育の展開を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p> <p>4. 日本人の道徳観 ----- [予習・復習] 授業後半で取り上げた倫理学の基本的三分野の区別を覚えておくこと。授業内容を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。</p>				

科目名	倫理学(二)	担当教員	丸田 健
授業内容	5. メタ倫理(1):主観主義 -----		
	[予習・復習] 主観主義的考えの利点・欠点について、自ら考えてみる。主観主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	6. メタ倫理(2):相対主義 -----		
	[予習・復習] 相対主義的考えの利点・欠点について、自ら考えてみる。相対主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	7. メタ倫理(3):利己主義 -----		
	[予習・復習] 利己主義的人間観の正しさ・誤りについて、自ら考えてみる。利己主義的価値観の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	8. 規範倫理(1):功利主義 -----		
	[予習・復習] 功利主義の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。功利主義の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	9. 規範倫理(2):義務論 -----		
	[予習・復習] 次回までに、講義中に見た映像資料の歴史的背景について調べてみる。		
	10. 規範倫理(2):義務論(続き) -----		
	[予習・復習] 義務論の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。義務論の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	11. 規範倫理(3):徳倫理 -----		
	[予習・復習] 徳倫理の基本的考えを振り返り、利点・欠点を整理しておく。徳倫理の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。		
	12. 応用倫理(1):生命倫理学 紹介 -----		
[予習・復習] 生命倫理のトピックとして、どんなものがあるか調べてみよう。また安楽死の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
13. 応用倫理(2):生命倫理学(続き)臓器移植 -----			
[予習・復習] 臓器移植について、家族とも話し合ってみる。脳死臓器移植の理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
14. 応用倫理(3):生命倫理学(続き)人間とは何か(パーソン論) -----			
[予習・復習] 動物の権利について、自分でも調べてみよう。動物の権利に関する理解を踏まえ、考えたことをコメントとして提出する。			
15. 授業まとめ -----			
[予習・復習] 学習到達度確認に備え、これまでの授業内容を復習しておく。			

科目名	宗教学(一)		担当教員	☆ 加藤 希理子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界の諸宗教				
到達目標	人間と宗教の関わりは、きわめて長い歴史を持ち、時代・地域によって多様な姿をとっている。本科目では、諸宗教の歴史、教義、儀礼を学び、宗教が人間と文化、社会の形成において果たす役割に対する理解を深めることを目的とする。受講者各々が宗教に対する広い視点を培い、宗教の意義を考え、それぞれの宗教観を形成していった欲しい。				
授業概要	世界における古今の宗教形態の考察を通して、宗教の営みについての理解を深めたい。宗教は、歴史的・社会的制約を免れないが、その一方で、宗教が文化・社会の動きに及ぼした影響もまた度外視できない。本講義では、ユダヤ教・キリスト教、イスラーム、仏教という長い歴史を持つ伝統的諸宗教を、その歴史の相の下で取り上げるとともに、そうした諸宗教と現代社会との関係を分析し、現代における宗教の風潮や現代を生きる人間と宗教の関係について考察する。				
評価方法・基準	各回(1~14回)に課す小レポートおよび最終授業(15回)で実施する学習到達度確認による総合評価。いずれも講義の内容を正確に把握しているか、さらにそれを踏まえたうえで自分の考えを展開できているかを問う。				
課題のフィードバック方法	小レポートの内容や質問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。また、学習到達度確認答案の講評をポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	使用しない。適宜資料を配布する。				
参考書	講義中に紹介する。				
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]シラバスを読み、講義内容について確認したうえで、講義に臨む。講義後は、講義の全体像や講義の進め方に関する説明についてよく確認し、以降の講義に備えること。</p> <p>2. ユダヤ教(1)ユダヤ教の成立とその展開 ----- [予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、ユダヤ教について下調べをしておく。講義後は、ユダヤ教の神観について、講義内容を確認しておくこと。</p> <p>3. ユダヤ教(2)ラビ・ユダヤ教の成立 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に振り返ったうえで、講義に臨むこと。講義後は、ラビ・ユダヤ教の特徴について理解を深めること。</p> <p>4. ユダヤ教(3)ユダヤ人共同体の分布と変遷 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に復習したうえで、講義に臨むこと。講義後は、離散ユダヤ人の歴史について、理解を深めておくこと。</p>				

科目名	宗教学(一)	担当教員	☆ 加藤 希理子
授業内容	<p>5. ユダヤ教(4)近現代におけるユダヤ教 ----- [予習・復習]あらかじめ配布した資料を読み込んでおく。次回までにユダヤ教のレポートを作成する。</p> <p>6. キリスト教の成立とその展開(1)キリスト教の誕生 ----- [予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、キリスト教について下調べをしておく。ユダヤ教と密接な関連を有するので、ユダヤ教に関する講義内容を復習し、理解を深めたうえで講義に臨むこと。講義後は、ユダヤ教とキリスト教の関係について、理解を深めておくこと。</p> <p>7. キリスト教の成立とその展開(2)原始キリスト教 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に振り返ったうえで、講義に臨むこと。講義後は、原始キリスト教の伝道および国家との関係を整理しておくこと。</p> <p>8. キリスト教の成立とその展開(3)キリスト教の教義 ----- [予習・復習]前2回において扱ったキリスト教の歴史について整理したうえで、講義に臨むこと。講義後は、キリスト教の教義の要点を整理しておく。</p> <p>9. キリスト教の成立とその展開(4)宗教改革 ----- [予習・復習]あらかじめ配布した資料の「宗教改革」の部分を読み込んでおく。次回までにキリスト教についての課題レポートを作成する。</p> <p>10. イスラーム(1)イスラームの概要と教義 ----- [予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、イスラームについて下調べをしておく。ユダヤ教ならびにキリスト教と密接な関係を有するので、両者に関する講義内容を確認・整理したうえで講義に臨むこと。講義後は、イスラームの成立過程と教義について整理しておくこと。</p> <p>11. イスラーム(2)イスラーム法とイスラーム社会 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に整理したうえで、講義に臨むこと。講義後には、イスラーム法がイスラーム社会において果たす役割について理解を深めておくこと。</p> <p>12. イスラーム(3)イスラーム復興運動 ----- [予習・復習]あらかじめ配布した資料の「イスラーム復興運動」の部分を読み込んでおく。次回までにイスラームについての課題レポートを作成する。</p> <p>13. 仏教(1)仏教の成立 ----- [予習・復習]世界史や日本史、倫理社会の教科書等を参考に、仏教について下調べをしておく。また、身近な仏教にまつわる事例を振り返っておく。講義後には、仏教の成立過程と教義について整理しておくこと。</p> <p>14. 仏教(2)日本における仏教の展開 ----- [予習・復習]あらかじめ配布した資料の「日本仏教」の部分を読み込んでおく。次回までに仏教についての課題レポートを作成する。</p> <p>15. 授業まとめ ----- [予習・復習]学習到達度確認に備えて、授業内容全体を確認しておくこと。</p>		

科目名	宗教学(二)		担当教員	☆ 加藤 希理子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	世界の諸宗教				
到達目標	人間と宗教の関わりは、きわめて長い歴史を持ち、時代・地域によって多様な姿をとっている。本科目では、諸宗教の歴史、教義、儀礼を学び、宗教が人間と文化、社会の形成において果たす役割に対する理解を深めることを目的とする。受講者各々が宗教に対する広い視点を培い、宗教の意義を考え、それぞれの宗教観を形成していった欲しい。				
授業概要	世界における古今の宗教形態の考察を通して、宗教の営みについての理解を深めたい。宗教は、歴史的・社会的制約を免れないが、その一方で、宗教が文化・社会の動きに及ぼした影響もまた度外視できない。本講義では、ユダヤ教・キリスト教、イスラーム、仏教という長い歴史を持つ伝統的諸宗教を、その歴史の相の下で取り上げるとともに、そうした諸宗教と現代社会との関係を分析し、現代における宗教の風潮や現代を生きる人間と宗教の関係について考察する。				
評価方法・基準	各回(1~14回)に課す小レポートおよび最終授業(15回)で実施する学習到達度確認による総合評価。いずれも講義の内容を正確に把握しているか、さらにそれを踏まえたうえで自分の考えを展開できているかを問う。				
課題のフィードバック方法	小レポートの内容や質問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。また、学習到達度確認答案の講評をポータルサイトの講義連絡上で公開する。				
履修上の注意事項等					
テキスト	使用しない。毎回資料を配布する。				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する。				
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習]シラバスを読み、講義内容について確認したうえで、講義に臨む。講義後は、講義の全体像や講義の進め方に関する説明についてよく確認して課題に取り組み、以降の講義に備えること。</p> <p>2. ユダヤ教(1)ユダヤ教の成立とその展開 ----- [予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、ユダヤ教について下調べをしておく。講義後は、ユダヤ教の神観について、講義内容を確認し、課題に取り組むこと。</p> <p>3. ユダヤ教(2)ラビ・ユダヤ教の成立 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に振り返ったうえで、講義に臨むこと。講義後は、ラビ・ユダヤ教の特徴について理解を深め、課題に取り組むこと。</p> <p>4. ユダヤ教(3)ユダヤ人共同体の分布と変遷 ----- [予習・復習]前回の講義内容を事前に復習したうえで、講義に臨むこと。講義後は、離散ユダヤ人の歴史について、理解を深め、課題に取り組むこと。</p>				

科目名	宗教学(二)	担当教員	☆ 加藤 希理子
授業内容	5. ユダヤ教(4)近現代におけるユダヤ教		
	[予習・復習] 前回の講義内容を事前に復習したうえで、講義に臨むこと。講義後は近現代のユダヤ教の在り方について理解を深め、課題に取り組むこと。		
	6. キリスト教の成立とその展開(1)キリスト教の誕生		
	[予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、キリスト教について下調べをしておく。ユダヤ教と密接な関連を有するので、ユダヤ教に関する講義内容を復習し、理解を深めたうえで講義に臨むこと。講義後は、ユダヤ教とキリスト教の関係について、理解を深め、課題に取り組むこと。		
	7. キリスト教の成立とその展開(2)キリスト教の神観と祝祭		
	[予習・復習]前回の講義内容を事前に振り返ったうえで、講義に臨むこと。講義後は、キリスト教の神観をめぐる教義と祝祭に関する要点を整理し、課題に取り組むこと。		
	8. キリスト教の成立とその展開(3)キリスト教の教義の決定と東西教会の歩み		
	[予習・復習]前2回において扱ったキリスト教の歴史や教義について整理したうえで、講義に臨むこと。講義後は、キリスト教の教義の要点や東西教会の相違点などを整理して、課題に取り組むこと。		
	9. キリスト教の成立とその展開(4)宗教改革		
	[予習・復習]これまでのキリスト教の歴史や教義について整理したうえで、講義に臨むこと。講義後は、「宗教改革」の要点を整理して、課題に取り組むこと。		
	10. イスラーム(1)イスラームの概要と教義		
	[予習・復習]世界史や倫理社会の教科書等を参考に、イスラームについて下調べをしておく。ユダヤ教ならびにキリスト教と密接な関係を有するので、両者に関する講義内容を確認・整理したうえで講義に臨むこと。講義後は、イスラームの成立過程と教義について整理して、課題に取り組むこと。		
	11. イスラーム(2)イスラーム法とイスラーム社会		
	[予習・復習]前回の講義内容を事前に整理したうえで、講義に臨むこと。講義後には、イスラーム法がイスラーム社会において果たす役割について理解を深め、課題に取り組むこと。		
	12. イスラーム(3)イスラーム復興		
[予習・復習]これまでのイスラームに関する講義内容を振り返ったうえで、講義に臨むこと。講義後は、現代におけるイスラーム復興について理解を深め、課題に取り組むこと。			
13. 仏教(1)仏教の成立			
[予習・復習]世界史や日本史、倫理社会の教科書等を参考に、仏教について下調べをしておく。また、身近な仏教にまつわる事例を振り返っておく。講義後には、仏教の成立過程と教義について整理し、課題に取り組むこと。			
14. 仏教(2)日本における仏教の展開			
[予習・復習]前回の講義内容を事前に整理したうえで、講義に臨むこと。講義後には、日本仏教の特徴について理解を深め、課題に取り組むこと。			
15. 授業まとめ			
[予習・復習]学習到達度確認に備えて、授業内容全体を確認しておくこと。			

科目名	教職論(一)		担当教員	大西 英人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	価値ある教育専門家をめざす資質・態度の育成				
到達目標	教職の性格、教職の専門性の理解と確かな教育観を形成する態度・能力を身につける。				
授業概要	教職の専門性、教師文化、教育制度改革等の考察を通して教職の意義及び教員の役割、職務内容、チーム学校としての学校運営等について理解を深める。授業では、具体的な学校現場の事例に照らし、教育の今日的な課題に迫りながら教員・教職とは何かを考えることにより、教職を目指すための基本的力量形成を図る。				
評価方法・基準	課題レポート(100%)で考察力、表現力等を評価する。				
課題のフィードバック方法	「課題レポート」は、ポータルサイトでコメントを行い、次回のレポートで改善する。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 平成29年 適宜配付する講義関係資料				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス(学習の目的と学ぶ意義)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。講義の内容及びテキスト全体の構成を概観し、教員としての教育及び教職への関わり方をまとめる。</p> <p>2. 人間の発達と教育</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配付の資料を読み、人間の発達と教育の関わりについて考えておく。学習した内容について、自己の成長とを重ね合わせ、発達と教育の関わりを確認し、整理する。</p> <p>3. 期待される教師像 1 教職の社会的意義、教師観の変遷</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の経験や周囲の意見をふまえ、「期待される教師像」について具体的な項目を挙げておく。学習した内容を自己の意見と対照し社会全体や自分を含めた教育利害関係者の視点から考察し、レポートを作成する。</p> <p>4. 期待される教師像 2 教員に求められる資質能力</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] なぜ教員を目指すのかを各自でまとめておく。教員に求められる資質能力の重要性、今後特に求められる資質能力や教師力等について確認し整理する。</p>				

科目名	教職論(一)	担当教員	大西 英人
授業内容	<p>5. 教職の意義と教員の使命 -----]</p> <p>[予習・復習] 教職の意義と教員の役割について考える。前回の内容も踏まえ、教員養成及び教員の資質能力の向上等に向けた自身の考えをまとめ、レポート作成する。</p> <p>6. 教育関係法規 1 教育基本法と学校教育法 -----</p> <p>[予習・復習] 教育と関係法規の関係を理解し、変化の激しい社会における教育のあり方について確認し、整理する。</p> <p>7. 教育関係法規 1 教育公務員特例法、学習指導要領 -----</p> <p>[予習・復習] 教育公務員特例法及び学習指導要領が示す内容について確認し整理する。</p> <p>8. 学校の教員組織と職務 1 教職員の職務 -----</p> <p>[予習・復習] 教職員の職務と関係法規の関係を理解し、校務の分掌組織のあり方を確認し、整理する。</p> <p>9. 学校の教員組織と職務 2 学校組織と課題 -----</p> <p>[予習・復習] 組織的マネジメントの視点から学校組織の特徴を理解し、その課題を整理する。</p> <p>10. 教員の服务等 1 教員の服務規程 -----</p> <p>[予習・復習] 事前配布資料を読んでおく。教育公務員としての服務の根本基準について理解を深め、その義務について確認し、整理する。</p> <p>11. 教員の服务等 2 身分保障と分限・懲戒 -----</p> <p>[予習・復習] 教育公務員の身分について考える。講義内容を踏まえ、教育に携わる者としての義務と責任についてレポートを作成する。</p> <p>12. 教員免許と教員養成 -----</p> <p>[予習・復習] 自己の教員免許取得希望の理由について整理し、今後の取組予定を展望する。教育専門職の育成システムを知り、それを支える免許法について確認し、整理する。</p> <p>13. 教員採用と教員研修 -----</p> <p>[予習・復習] 事前配布資料から採用システムについて確認するとともに、研究・修養がなぜ必要かについて考える。</p> <p>14. 学校経営、学級経営、学校評価(チーム学校としての学校運営を中心に) -----</p> <p>[予習・復習] 教育における PDCA サイクルについて考える。講義をふまえ、「チーム学校」の立場から学校・学級・教科において「個を大切に教育」の在り方について理解を深める。</p> <p>15. 専門職としての教職(授業総括) -----</p> <p>[予習・復習] 講義を通して学んだこと、気付いたことを基にして、教職のあるべき姿を考える。既習事項について確認・整理すると共に、今後の教職課程の学びの充実に向けて展望を持つ。</p>		

科目名	教職論(二)		担当教員	大西 英人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	1年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	価値ある教育専門家をめざす資質・態度の育成				
到達目標	教職の性格、教職の専門性の理解と確かな教育観を形成する態度・能力を身につける。				
授業概要	教職の専門性、教師文化、教育制度改革等の考察を通して教職の意義及び教員の役割、職務内容、チーム学校としての学校運営等について理解を深める。授業では、具体的な学校現場の事例に照らし、教育の今日的な課題に迫りながら教員・教職とは何かを考えることにより、教職を目指すための基本的力量形成を図る。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で意欲、関心、態度等を評価する。 課題レポート(50%)で考察力、表現力等を評価する。 試験(40%)で教職論の理解度を総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	「課題レポート」等は、必要に応じて講義中にコメントを行い評価する。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	中学校学習指導要領 文部科学省 東山書房 平成29年 適宜配付する講義関係資料				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス(学習の目的と学ぶ意義)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。講義の内容及びテキスト全体の構成を概観し、教員としての教育及び教職への関わり方をまとめる。</p> <p>2. 人間の発達と教育</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配付の資料を読み、人間の発達と教育の関わりについて考えておく。学習した内容について、自己の成長とを重ね合わせ、発達と教育の関わりを確認し、整理する。</p> <p>3. 期待される教師像 1 教職の社会的意義、教師観の変遷</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の経験や周囲の意見をふまえ、「期待される教師像」について具体的な項目を挙げておく。学習した内容を自己の意見と対照し社会全体や自分を含めた教育利害関係者の視点から考察し、レポートを作成する。</p> <p>4. 期待される教師像 2 教員に求められる資質能力</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] なぜ教員を目指すのかを各自でまとめておく。教員に求められる資質能力の重要性、今後特に求められる資質能力や教師力等について確認し整理する。</p>				

科目名	教職論(二)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 教職の意義と教員の使命 -----]		
	[予習・復習] 教職の意義と教員の役割について考える。前回の内容も踏まえ、教員養成及び教員の資質能力の向上等に向けた自身の考えをまとめ、レポート作成する。		
	6. 教育関係法規 1 教育基本法と学校教育法 -----		
	[予習・復習] 教育と関係法規の関係を理解し、変化の激しい社会における教育のあり方について確認し、整理する。		
	7. 教育関係法規 1 教育公務員特例法、学習指導要領 -----		
	[予習・復習] 教育公務員特例法及び学習指導要領が示す内容について確認し整理する。		
	8. 学校の教員組織と職務 1 教職員の職務 -----		
	[予習・復習] 教職員の職務と関係法規の関係を理解し、校務の分掌組織のあり方を確認し、整理する。		
	9. 学校の教員組織と職務 2 学校組織と課題 -----		
	[予習・復習] 組織的マネジメントの視点から学校組織の特徴を理解し、その課題を整理する。		
	10. 教員の服務等 1 教員の服務規程 -----		
	[予習・復習] 事前配布資料を読んでおく。教育公務員としての服務の根本基準について理解を深め、その義務について確認し、整理する。		
	11. 教員の服務等 2 身分保障と分限・懲戒 -----		
	[予習・復習] 教育公務員の身分について考える。講義内容を踏まえ、教育に携わる者としての義務と責任についてレポートを作成する。		
	12. 教員免許と教員養成 -----		
[予習・復習] 自己の教員免許取得希望の理由について整理し、今後の取組予定を展望する。教育専門職の育成システムを知り、それを支える免許法について確認し、整理する。			
13. 教員採用と教員研修 -----			
[予習・復習] 事前配布資料から採用システムについて確認するとともに、研究・修養がなぜ必要かについて考える。			
14. 学校経営、学級経営、学校評価(チーム学校としての学校運営を中心に) -----			
[予習・復習] 教育における PDCA サイクルについて考える。講義をふまえ、「チーム学校」の立場から学校・学級・教科において「個を大切に教育」の在り方について理解を深める。			
15. 専門職としての教職(授業総括) -----			
[予習・復習] 講義を通して学んだこと、気付いたことを基にして、教職のあるべき姿を考える。既習事項について確認・整理すると共に、今後の教職課程の学びの充実に向けて展望を持つ。			

科目名	教育原理(一)		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育を支える原理の考察。教育の基本的な概念を理解し、今日の多様な教育現象やこれまでの教育の歴史・思想を検討する。				
到達目標	自らがもつ教育観も踏まえ、多様な教育的事象を確認しつつ視野を広げながら、自分なりの教育観を自覚・形成していくことをめざす。その際には教育の基本的な概念、教育の歴史の変遷、教育に関わるさまざまな思想を理解し、それらの相互の関係性についての認識を深めていく。現代の教育・学校がもつ問題点とその可能性を的確に説明できるようになることが目標。				
授業概要	現代社会の急激な変化の中で、学校教育に代表される教育のあり方もその転換を余儀なくされている。人間の素朴な営みであった教育が社会システムとして巨大化し、その全体像を見極めることは今日では容易ではない。この授業では、こうした教育という営為を原理的・歴史的・思想的に問い直し、必要に応じて個別的な諸問題も取り上げながら考察していきたい。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 50%(各授業内容の理解度と問いの設定の仕方を重視)、課題レポート 50%(自分なりの問題設定とそれについての調査・探究の程度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問や疑問は次回以降の授業で紹介し、必要に応じて回答をしていく。課題レポートについては受講者間での相互評価も取り入れる。				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点も持ちながらの参加を求める。				
テキスト	探究・教育原論 田井康雄・中戸義雄編 学術図書出版社 2005				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業の概要について理解をする。</p> <p>2. 現代日本の教育状況をどうとらえるか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 予習では、今日の教育問題を3つ以上あげておく。復習では授業で取り上げられた教育問題の中から、関心を持った内容について自分なりに調査研究をし、ノートなどにまとめておく。</p> <p>3. 教育言説を問い直す</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 予習では、現代で教育が語られるときの特徴・傾向について3つ以上あげておく。復習ではその問題点についてノートにまとめる。</p> <p>4. 教育の歴史と思想(1)ー日本の教育思想</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布資料で日本の代表的な教育思想について通読しておく。復習では授業での学習を踏まえ、そこに現れている子どもや学校にかかわる思想をノートにまとめる。</p>				

科目名	教育原理(一)	担当教員	中戸 義雄
授業内容	<p>5. 教育の歴史と思想(2)ー日本の教育史 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 4 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、日本での学校や社会そして家庭がもつ役割の変化についてノートにまとめる。</p> <p>6. 教育の歴史と思想(3)ー西洋の教育思想 ----- [予習・復習] 配布資料で西洋の代表的な教育思想について通読しておく。復習では授業での学習を踏まえ、そこに現れている子どもや学校にかかわる思想を理解しノートにまとめる。</p> <p>7. 教育の歴史と思想(4)ー西洋の教育史 ----- [予習・復習] 配布資料で西洋の教育史について通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、近代教育制度が先駆けて展開された西洋での学校や社会、そして家庭がもつ役割の変化についてノートにまとめる。</p> <p>8. 教育的関係を考える(1)ー児童生徒と教師 ----- [予習・復習] 予習では、あらかじめ自分が考える教師の役割を 3 つ以上あげておく。復習では授業での学習・考察を踏まえ、児童生徒との関係の中での教師の役割を再考してノートにまとめる。</p> <p>9. 教育的関係を考える(2)ー家庭と学校 ----- [予習・復習] 予習では、あらかじめ自分が考える学校の役割を 3 つ以上あげておく。復習では授業での学習・考察を踏まえ、家庭(あるいは社会)との関係の中で学校の役割を再考してノートにまとめる。</p> <p>10. 教育と時間ー授業という時間 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 11 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、教育と時間とのかかわりをノートにまとめる。</p> <p>11. 教育と空間ー学校・教室という空間 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 12 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、教育と空間とのかかわりをノートにまとめておく。</p> <p>12. 教育のパラダイム転換 ----- [予習・復習] 予習ではテキスト第 3 章を通読しておく。復習では、授業での学習・考察を踏まえ、従来の教育や学校が果たしてきた役割・機能とこれからの教育や学校の果たす役割の差異がもつ意味についてノートにまとめる。</p> <p>13. いのちと教育(1)ー生命観と教育 ----- [予習・復習] 私たちがもつ生命観について、配布資料を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、従来の生命観がもつ課題をノートにまとめる。</p> <p>14. いのちと教育(2)ー学校教育といのち ----- [予習・復習] 学校教育の中で「いのち」にかかわる学習や活動について、自分の体験をもとにノートに整理をしておく。復習では授業での考察を踏まえ、今後の学校でのいのちの教育の可能性についてノートにまとめる。</p> <p>15. まとめ ----- [予習・復習] 本授業で考察した内容の中から、自分の関心を持ったテーマについて詳細に調査研究し、自分なりの考察を加えてレポートを作成し、完成させようとして提出する。</p>		

科目名	教育原理(二)		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育を支える原理の考察。教育の基本的な概念を理解し、今日の多様な教育現象やこれまでの教育の歴史・思想を検討する。				
到達目標	自らがもつ教育観も踏まえ、多様な教育的事象を確認しつつ視野を広げながら、自分なりの教育観を自覚・形成していくことをめざす。その際には教育の基本的な概念、教育の歴史の変遷、教育に関わるさまざまな思想を理解し、それらの相互の関係性についての認識を深めていく。現代の教育・学校がもつ問題点とその可能性を的確に説明できるようになることが目標。				
授業概要	現代社会の急激な変化の中で、学校教育に代表される教育のあり方もその転換を余儀なくされている。人間の素朴な営みであった教育が社会システムとして巨大化し、その全体像を見極めることは今日では容易ではない。この授業では、こうした教育という営為を原理的・歴史的・思想的に問い直し、必要に応じて個別的な諸問題も取り上げながら考察していきたい。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 50%(各授業内容の理解度と問いの設定の仕方を重視)、課題レポート 50%(自分なりの問題設定とそれについての調査・探究の程度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問や疑問は次回以降の授業で紹介し、必要に応じて回答をしていく。課題レポートについては受講者間での相互評価も取り入れる。				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点も持ちながらの参加を求める。				
テキスト	探究・教育原論 田井康雄・中戸義雄編 学術図書出版社 2005				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業の概要について理解をする。</p> <p>2. 現代日本の教育状況をどうとらえるか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 予習では、今日の教育問題を3つ以上あげておく。復習では授業で取り上げられた教育問題の中から、関心を持った内容について自分なりに調査研究をし、ノートなどにまとめておく。</p> <p>3. 教育言説を問い直す</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 予習では、現代で教育が語られるときの特徴・傾向について3つ以上あげておく。復習ではその問題点についてノートにまとめる。</p> <p>4. 教育の歴史と思想(1)ー日本の教育思想</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布資料で日本の代表的な教育思想について通読しておく。復習では授業での学習を踏まえ、そこに現れている子どもや学校にかかわる思想をノートにまとめる。</p>				

科目名	教育原理(二)	担当教員	中戸 義雄
授業内容	<p>5. 教育の歴史と思想(2)ー日本の教育史 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 4 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、日本での学校や社会そして家庭がもつ役割の変化についてノートにまとめる。</p> <p>6. 教育の歴史と思想(3)ー西洋の教育思想 ----- [予習・復習] 配布資料で西洋の代表的な教育思想について通読しておく。復習では授業での学習を踏まえ、そこに現れている子どもや学校にかかわる思想を理解しノートにまとめる。</p> <p>7. 教育の歴史と思想(4)ー西洋の教育史 ----- [予習・復習] 配布資料で西洋の教育史について通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、近代教育制度が先駆けて展開された西洋での学校や社会、そして家庭がもつ役割の変化についてノートにまとめる。</p> <p>8. 教育的関係を考える(1)ー児童生徒と教師 ----- [予習・復習] 予習では、あらかじめ自分が考える教師の役割を 3 つ以上あげておく。復習では授業での学習・考察を踏まえ、児童生徒との関係の中での教師の役割を再考してノートにまとめる。</p> <p>9. 教育的関係を考える(2)ー家庭と学校 ----- [予習・復習] 予習では、あらかじめ自分が考える学校の役割を 3 つ以上あげておく。復習では授業での学習・考察を踏まえ、家庭(あるいは社会)との関係の中で学校の役割を再考してノートにまとめる。</p> <p>10. 教育と時間ー授業という時間 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 11 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、教育と時間とのかかわりをノートにまとめる。</p> <p>11. 教育と空間ー学校・教室という空間 ----- [予習・復習] 予習ではテキストの第 12 章を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、教育と空間とのかかわりをノートにまとめておく。</p> <p>12. 教育のパラダイム転換 ----- [予習・復習] 予習ではテキスト第 3 章を通読しておく。復習では、授業での学習・考察を踏まえ、従来の教育や学校が果たしてきた役割・機能とこれからの教育や学校の果たす役割の差異がもつ意味についてノートにまとめる。</p> <p>13. いのちと教育(1)ー生命観と教育 ----- [予習・復習] 私たちがもつ生命観について、配布資料を通読しておく。復習では授業での考察を踏まえ、従来の生命観がもつ課題をノートにまとめる。</p> <p>14. いのちと教育(2)ー学校教育といのち ----- [予習・復習] 学校教育の中で「いのち」にかかわる学習や活動について、自分の体験をもとにノートに整理をしておく。復習では授業での考察を踏まえ、今後の学校でのいのちの教育の可能性についてノートにまとめる。</p> <p>15. まとめ ----- [予習・復習] 本授業で考察した内容の中から、自分の関心を持ったテーマについて詳細に調査研究し、自分なりの考察を加えてレポートを作成し、完成させようとして提出する。</p>		

科目名	教育心理学(一)			担当教員	☆ 武藤 百合
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人の学びを心理学の視点から理解し支援するための教育心理学の知識を伝え、教育心理学の多彩な世界に触れる。				
到達目標	教職に就いた際の学習指導に役立つ、乳幼児期・児童期・青年期などの発達や学びのメカニズム、教育実践や特別な支援、心理的支援についての基本的知識を身につける。				
授業概要	e-Learning で提供する教材(資料および動画)によりオンデマンド(教材提示型)Web 授業を行う。				
評価方法・基準	毎回(15回)の授業内容についての感想レポート(60点)と第15回の講義終了時に1回出す予定の長めのレポート(40点)の合計点(100点)。				
課題のフィードバック方法	毎回の感想レポートの内容(質問や疑問を含む)は、可能な限り次回以降の授業に反映させ、適宜紹介していくよう努める。				
履修上の注意事項等	オンデマンド(教材提示型)Web 授業ですが、積極的・主体的な取り組みを望みます。				
テキスト	なし				
参考書	たのしく学べる最新教育心理学 櫻井茂男 図書文化 2017 よくわかる教育心理学 中澤潤 ミネルヴァ書房 2008 教育心理学 田爪宏二 ミネルヴァ書房 2018				
授業内容	1. 教育心理学とは [予習・復習]教育心理学の全体像について、どのような学問で、何について学ぶのかを理解し、復習する 2. 心身の発達①乳児の基礎的な理論と乳幼児期の発達 [予習・復習] 発達の基礎的な理論を把握し、乳幼児の心身の発達の姿と発達を支援する教師や保育者の関わりについて理解し、復習する 3. 心身の発達②児童期 [予習・復習] 児童期の発達の特徴やその個人差およびそれらの背景を理解し、教師として関わることの意味について学び、復習する 4. 心身の発達③青年期以降 [予習・復習] 青年期の具体的な変化を「心」と「体」の両面から学び、併せて成人期以降の発達についても理解し、復習する				

科目名	教育心理学(一)	担当教員	☆ 武藤 百合
授業内容	<p>5. 学びのメカニズム①学習と知識獲得 [予習・復習] 学習とはどのようなものなのか、どんなときに学習が生じるものなのか理解し、復習する。</p> <p>6. 学びのメカニズム②認知的情報処理と記憶 [予習・復習] 認知心理学の視点から、認知的情報処理と記憶の特徴について学び、それらの学校における学びとの関係について理解し、復習する。</p> <p>7. 学びのメカニズム③動機づけと学習 [予習・復習] 学びにおける動機づけの理論や機能、動機づけの高め方などについて理解し、復習する</p> <p>8. 教育心理学と教育実践①認知発達と学習支援 [予習・復習] 認知心理学の立場から学習のプロセスを理解し、児童生徒の学びと効果的な学習指導、授業づくりについて考え、復習する</p> <p>9. 教育心理学と教育実践②学級集団と学習支援 [予習・復習] 児童生徒の集団の特徴や、集団で行う学習形態と人間関係が及ぼす学習効果への影響、集団で学ぶ意義について理解し、復習する</p> <p>10. 教育心理学と教育実践③個性や個人差と学習支援 [予習・復習] 子どもの個性や個人差と学校における学びとの関係、それを踏まえた学習支援のあり方について考え、復習する</p> <p>11. 教育心理学と教育実践④教育評価 [予習・復習]教育評価の理論と方法について学び、児童生徒の学力や知能についての考え方、測定の方法について理解し、復習する</p> <p>12. 特別な支援と教育心理学①障害の基本的理解と学校教育における配慮 [予習・復習] 発達障害の特性がある児童・生徒に対する適切な理解と、それに基づいた配慮のあり方について学び、復習する</p> <p>13. 特別な支援と教育心理学②困難さを抱える子どもへの教育的支援 [予習・復習] 発達障害の特性のある子どもの社会性の発達や学習の特性について理解し、適切に支える方法について学び、復習する</p> <p>14. 子どもの情緒・適応の理解と心理的支援 [予習・復習] 児童・生徒の社会性の発達や適応の特徴を学び、環境的要因を踏まえた心理的支援の基礎的な理論について理解し、復習する</p> <p>15. 授業まとめ [予習・復習] 到達度確認に向けて全ての授業内容を復習しておく。</p>		

科目名	教育心理学(二)		担当教員	☆ 武藤 百合	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育心理学の扱う内容は多岐にわたるが、その中から主に臨床心理学以外の分野を取り上げる。				
到達目標	学習指導の基礎として役立てることのできる、児童生徒の発達や学習の過程についての基本的知識を身につける。				
授業概要	<p>(Web 授業の場合) ポータルサイトで提供するレジュメ(教職教養の過去問付)とグーグルドライブで提供する動画により授業を行う。</p> <p>(通常授業の場合) ほぼ毎回始めと終わりに、教職教養の教育心理学分野の過去問からの小テスト(成績には入れない)を行う。 授業は講師の作成した書き込み式のレジュメと板書を併用して進める。丸暗記でない学習のために、概念の背景にある実験などについても紹介して解説する。</p>				
評価方法・基準	<p>(Web 授業なら) ほぼ毎回の授業内容についての感想等のレポートと半期通じて2回出す予定の長めのレポートの2つのレポートの合計点。</p> <p>(通常授業なら) 最終授業で実施する到達度確認+平常点 平常点は毎回提出するコメントシートと授業中の発表など。 到達度確認の得点(100点満点)に平常点を加算する。</p>				
課題のフィードバック方法	<p>コメントシートあるいは毎回のレポートの内容、質問や疑問は、次回以降の授業に反映させ、適宜紹介していくよう努める。</p> <p>(通常授業の場合) 期間内に到達度確認を実施し、最終授業で講評を行う。</p>				
履修上の注意事項等	<p>授業中の電子機器(スマートフォンなど)の使用は事情がない限り認めません。 その他のことも含め、授業に臨む態度が不適切あるいは授業の妨げになると判断されれば退席を促すことがあります。</p>				
テキスト	なし				
参考書					
授業内容	<p>1. 心理学史 ----- [予習・復習] 特にゲシュタルト心理学・行動主義について講義内容を復習する。</p> <p>2. 学習(1)連合説 ----- [予習・復習] 2つの条件付けについて講義内容を復習する。</p> <p>3. 学習(2)社会的学習理論など ----- [予習・復習] 特にモデリングと学習の転移について復習する。</p> <p>4. 記憶 ----- [予習・復習] 記憶の種類や記憶に関する様々な現象名を復習する</p>				

科目名	教育心理学(二)	担当教員	☆ 武藤 百合
授業内容	<p>5. 動機づけ(1)内発的動機づけとその周辺 ----- [予習・復習] 特にアンダーマイニング効果や自己決定理論を復習する。</p> <p>6. 動機づけ(2)原因帰属理論など ----- [予習・復習] 特にワイナーの原因帰属理論を復習する。</p> <p>7. 発達(1)発達段階ごとの特徴など ----- [予習・復習] 時に学童期・青年期の発達における特徴について復習する。</p> <p>8. 発達(2)発達課題など ----- [予習・復習] 特にフロイトやエリクソンの理論について復習する。</p> <p>9. 学習指導の方法(1)講義法・討論法など ----- [予習・復習] 特に各種の指導方法の長所と短所を復習する。</p> <p>10. 学習指導の方法(2)適性処遇交互作用など ----- [予習・復習] 各指導方法の名称やその意義などを復習して理解を深める。</p> <p>11. 教育評価 ----- [予習・復習] 評価の目的とは何かを自分なりに考えておく(予習)。各種の評価の長所短所や意義を復習して理解を深める。</p> <p>12. 学級・集団 ----- [予習・復習] 学級というもののもつ意義や目的を自分なりに考えておく(予習)。リーダーシップの各種理論や学級集団における人間関係を調べる各種の方法について復習する。</p> <p>13. 発達障害(1)特別支援教育など ----- [予習・復習] 発達障害と特別支援教育の概念について復習する。</p> <p>14. 発達障害(2)指導の方法など ----- [予習・復習] 具体的支援としてどんなことができるかを自分なりに考えながら講義内容を復習する。</p> <p>15. 授業まとめ ----- [予習・復習] 到達度確認に向けて全ての授業内容を復習しておく。</p>		

科目名	特別支援教育(一)		担当教員	☆ 久保田 裕斗	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	共生のための教育				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の理念やその背景を理解し、そのうえで近年の特別支援教育のあり方を考えることができる。 ・知的障害や発達障害を含む様々な障害についての基礎知識を身につけるとともに、様々な教育的ニーズについて理解する。 ・特別支援教育のカリキュラムや方法について理解するとともに、多様な支援に必要な基本的な知識や態度を身につける。 				
授業概要	今日、共生社会に向けてインクルーシブ教育システムを推進していくことが、重要となっている。本授業では、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、多様な支援を行うために必要な知識と態度を身につけることを目指す。そのために個別の障害の特性や支援の方法を学ぶとともに、障害とは何かを深く理解し、困難や苦勞を抱えた当事者の視点に立ち、自立生活へ向けた支援を行うために必要な態度とは何かを考えていく。				
評価方法・基準	授業態度 30% 授業内試験 70% ただし受講人数などによって評価方法を変更することがある。具体的にはグループ発表を導入する可能性がある。				
課題のフィードバック方法	学生のニーズを確認し、合理的な範囲内でフィードバックを行う。				
履修上の注意事項等	初回に評価方法や授業の進め方などについての説明を行う。また講義にそって適時プリントを配布する。参考文献に関しては授業内で指示する。				
テキスト	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア』全国特別支援学校長会・全国特別支援教育推進連盟 編著 ジアース教育新社 2020				
参考書					
授業内容	<p>1. 教育と支援</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを確認しておくこと。</p> <p>2. 障害を持つとはどういうことか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配付したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを理解した上で講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>3. 障害者権利条約とインクルーシブ教育の理念: 共生社会と合理的配慮</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 上記と同様</p> <p>4. インクルーシブ教育とその背景1: ノーマライゼーションと自立生活運動</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 上記と同様</p>				

科目名	特別支援教育(一)	担当教員	☆ 久保田 裕斗
授業内容	5. インクルーシブ教育とその背景2:特別な教育的ニーズと各国のインクルーシブ教育		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	6. 知的障害、肢体不自由を理解する		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	7. 視覚障害、聴覚障害を理解する		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	8. 発達障害を理解する		

	[予習・復習]		
上記と同様			
9. 発達障害支援の多様な方法			

[予習・復習]			
上記と同様			
10. 特別支援教育の現在1:特別支援教育の理念と制度			

[予習・復習]			
上記と同様			
11. 特別支援教育の現在2:特別支援教育の実際			

[予習・復習]			
上記と同様			
12. 特別支援教育のカリキュラムと方法:合理的配慮を基礎とした教育			

[予習・復習]			
上記と同様			
13. 当事者の視点から支援を考える			

[予習・復習]			
上記と同様			
14. 支援とはどうありうるのか:様々な教育的ニーズに対応する			

[予習・復習]			
上記と同様			
15. まとめ			

[予習・復習]			
自ら振り返りを行い、全体の流れを理解したうえで講義に臨むこと。			

科目名	特別支援教育(二)		担当教員	☆ 久保田 裕斗	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	共生のための教育				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の理念やその背景を理解し、そのうえで近年の特別支援教育のあり方を考えることができる。 ・知的障害や発達障害を含む様々な障害についての基礎知識を身につけるとともに、様々な教育的ニーズについて理解する。 ・特別支援教育のカリキュラムや方法について理解するとともに、多様な支援に必要な基本的な知識や態度を身につける。 				
授業概要	今日、共生社会に向けてインクルーシブ教育システムを推進していくことが、重要となっている。本授業では、インクルーシブ教育の理念を踏まえ、多様な支援を行うために必要な知識と態度を身につけることを目指す。そのために個別の障害の特性や支援の方法を学ぶとともに、障害とは何かを深く理解し、困難や苦勞を抱えた当事者の視点に立ち、自立生活へ向けた支援を行うために必要な態度とは何かを考えていく。				
評価方法・基準	授業態度 30% 授業内試験 70% ただし受講人数などによって評価方法を変更することがある。具体的にはグループ発表を導入する可能性がある。				
課題のフィードバック方法	学生のニーズを確認し、合理的な範囲内でフィードバックを行う。				
履修上の注意事項等	初回に評価方法や授業の進め方などについての説明を行う。また講義にそって適時プリントを配布する。参考文献に関しては授業内で指示する。				
テキスト	『特別支援学校における介護等体験ガイドブック 新フィリア』全国特別支援学校長会・全国特別支援教育推進連盟 編著 ジアース教育新社 2020				
参考書					
授業内容	<p>1. 教育と支援</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを確認しておくこと。</p> <p>2. 障害を持つとはどういうことか</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配付したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを理解した上で講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>3. 障害者権利条約とインクルーシブ教育の理念:共生社会と合理的配慮</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 上記と同様</p> <p>4. インクルーシブ教育とその背景1:ノーマライゼーションと自立生活運動</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 上記と同様</p>				

科目名	特別支援教育(二)	担当教員	☆ 久保田 裕斗
授業内容	5. インクルーシブ教育とその背景2:特別な教育的ニーズと各国のインクルーシブ教育		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	6. 知的障害、肢体不自由を理解する		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	7. 視覚障害、聴覚障害を理解する		

	[予習・復習]		
	上記と同様		
	8. 発達障害を理解する		

	[予習・復習]		
上記と同様			
9. 発達障害支援の多様な方法			

[予習・復習]			
上記と同様			
10. 特別支援教育の現在1:特別支援教育の理念と制度			

[予習・復習]			
上記と同様			
11. 特別支援教育の現在2:特別支援教育の実際			

[予習・復習]			
上記と同様			
12. 特別支援教育のカリキュラムと方法:合理的配慮を基礎とした教育			

[予習・復習]			
上記と同様			
13. 当事者の視点から支援を考える			

[予習・復習]			
上記と同様			
14. 支援とはどうありうるのか:様々な教育的ニーズに対応する			

[予習・復習]			
上記と同様			
15. まとめ			

[予習・復習]			
自ら振り返りを行い、全体の流れを理解したうえで講義に臨むこと。			

科目名	教育行政・制度論(一)		担当教員	大西 英人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育現場の現状を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育の基本的な枠組み等について理解を深める。				
到達目標	教育現場の実際を知り、教育制度の根本を理解する。				
授業概要	学校教育の状況を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育制度等について解説し、理解させる。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で意欲、関心、態度等を評価する。 課題レポート(50%)で考察力、表現力等を評価する。 試験(40%)で教育行政・制度についての理解度を総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	対話カードの内容について講評等を行う。 課題レポートについても講評するとともに授業内容にも反映する。				
履修上の注意事項等	授業の都度資料の配付を行うため、資料の整理に努めること。				
テキスト	特になし				
参考書	授業の都度資料配布				
授業内容	<p>1. 教育行政と法規 ----- [予習・復習] シラバス全体に目を通して授業内容の概要を把握する。今回は、教育行政の意義及び内容、教育行政法の意義と構造並びに教育法規の体系を理解する。</p> <p>2. 憲法と教育基本法 ----- [予習・復習] 配布資料を確認し、日本国憲法の教育条項、教育基本法並びに現代の公教育制度と教育行政を理解する。</p> <p>3. 文部科学省と教育政策形成 ----- [予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、戦後初期の教育行政機関と教育政策、戦後の釈迦変化と教育政策形成等を理解する。</p> <p>4. 教育委員会制度 ----- [予習・復習] 配布資料参考にするとともに、教育委員会制度の理念としくみ、教育委員会制度の変遷並びに教育委員会制度の課題と改革論を理解する。</p>				

科目名	教育行政・制度論(一)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 教育財政		
	[予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、教育財政の意義、国の教育財政並びに地方の教育財政を理解する。		
	6. 教育課程経営		
	[予習・復習] 配付資料を参考にするとともに、教育課程に関する法制や行政等について理解する。		
	7. 現代の公教育制度		
	[予習・復習] 公教育の概念、構成原理並びに学校制度の成立や構造等を理解する。		
	8. 学校組織と学校経営		
	[予習・復習] 学校の組織と経営、自律的学校経営の推進等について理解を深める。		
	9. 教員の服務等1		
	[予習・復習] 教員の任用と身分保障、服務並びに研修について理解を深める。		
	10. 教員の服務等2		
	[予習・復習] 教員の任用と身分保障、服務並びに研修について理解を深める。		
	11. 就学前教育制度		
	[予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、小学校就学前教育のあゆみ、幼稚園教育制度、認定こども園教育等について理解を深める。		
	12. 特別支援教育制度1		
[予習・復習] 第2次世界大戦後の障がい児教育から特別支援教育の意義、特別支援学校並びに特別支援教育制度の課題等について理解を深める。			
13. 特別支援教育制度2			
[予習・復習] 第2次世界大戦後の障がい児教育から特別支援教育の意義、特別支援学校並びに特別支援教育制度の課題等について理解を深める。			
14. 進路を拓く若者支援と学校の取組1			
[予習・復習] 学校から仕事への移行、高校中退と学校の取組並びに若者支援政策の展開と行政組織間の連携等について理解する。			
15. 進路を拓く若者支援と学校の取組1			
[予習・復習] 学校から仕事への移行、高校中退と学校の取組並びに若者支援政策の展開と行政組織間の連携等について理解する。			

科目名	教育行政・制度論(二)		担当教員	☆ 堀川 忠道	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育現場の現状を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育の基本的な枠組み等について理解を深める。				
到達目標	教育現場の実際を知り、教育制度の根本を理解する。				
授業概要	学校教育の状況を踏まえ、教育法規、教育行政、学校教育制度等について解説し、理解させる。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で意欲、関心、態度等を評価する。 課題レポート(50%)で考察力、表現力等を評価する。 試験(40%)で教育行政・制度についての理解度を総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	対話カードの内容について講評等を行う。 課題レポートについても講評するとともに授業内容にも反映する。				
履修上の注意事項等	授業の都度資料の配付を行うため、資料の整理に努めること。				
テキスト	特になし				
参考書	授業の都度資料配布				
授業内容	<p>1. 教育行政と法規 ----- [予習・復習] シラバス全体に目を通して授業内容の概要を把握する。今回は、教育行政の意義及び内容、教育行政法の意義と構造並びに教育法規の体系を理解する。</p> <p>2. 憲法と教育基本法 ----- [予習・復習] 配布資料を確認し、日本国憲法の教育条項、教育基本法並びに現代の公教育制度と教育行政を理解する。</p> <p>3. 文部科学省と教育政策形成 ----- [予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、戦後初期の教育行政機関と教育政策、戦後の釈迦変化と教育政策形成等を理解する。</p> <p>4. 教育委員会制度 ----- [予習・復習] 配布資料参考にするとともに、教育委員会制度の理念としくみ、教育委員会制度の変遷並びに教育委員会制度の課題と改革論を理解する。</p>				

科目名	教育行政・制度論(二)	担当教員	☆ 堀川 忠道
授業内容	5. 教育財政		
	[予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、教育財政の意義、国の教育財政並びに地方の教育財政を理解する。		
	6. 教育課程経営		
	[予習・復習] 配付資料を参考にするとともに、教育課程に関する法制や行政等について理解する。		
	7. 現代の公教育制度		
	[予習・復習] 公教育の概念、構成原理並びに学校制度の成立や構造等を理解する。		
	8. 学校組織と学校経営		
	[予習・復習] 学校の組織と経営、自律的学校経営の推進等について理解を深める。		
	9. 教員の服務等1		
	[予習・復習] 教員の任用と身分保障、服務並びに研修について理解を深める。		
	10. 教員の服務等2		
	[予習・復習] 教員の任用と身分保障、服務並びに研修について理解を深める。		
	11. 就学前教育制度		
	[予習・復習] 配布資料を参考にするとともに、小学校就学前教育のあゆみ、幼稚園教育制度、認定こども園教育等について理解を深める。		
	12. 特別支援教育制度1		
[予習・復習] 第2次世界大戦後の障がい児教育から特別支援教育の意義、特別支援学校並びに特別支援教育制度の課題等について理解を深める。			
13. 特別支援教育制度2			
[予習・復習] 第2次世界大戦後の障がい児教育から特別支援教育の意義、特別支援学校並びに特別支援教育制度の課題等について理解を深める。			
14. 進路を拓く若者支援と学校の取組1			
[予習・復習] 学校から仕事への移行、高校中退と学校の取組並びに若者支援政策の展開と行政組織間の連携等について理解する。			
15. 進路を拓く若者支援と学校の取組1			
[予習・復習] 学校から仕事への移行、高校中退と学校の取組並びに若者支援政策の展開と行政組織間の連携等について理解する。			

科目名	教育課程論(一)		担当教員	☆ 辻 寛司	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育課程の理論と構造とその編成の実際を学ぶ				
到達目標	教育課程の構造と諸概念を理解し、学習指導要領のあり方も確認しながら、教育課程を編成し、カリキュラム・マネジメントを行う基礎力を養うことをめざす。学習内容を踏まえ、独自に設定したテーマでの学習指導案の作成が目標。				
授業概要	教育課程(カリキュラム)の構造と諸概念を概観する。総合的な学習の時間の実施などにもみられるように、これからの学校・教師にはこれまで以上にカリキュラム編成の能力が求められるようになってきた。そこでこの授業では、カリキュラムの構造を理解し、その編成の実際についても考えていきたい。				
評価方法・基準	授業中の小レポート、グループワーク 50%(各授業内容の理解度とグループワークへの積極性を重視)、課題レポート 50%(学習指導案の独自性と完成度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問・疑問については次回以降の授業で紹介し、必要に応じて回答をする。課題レポートについては、受講者間での相互評価を取り入れる。				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的に思考し、疑問や批判的視点も持ちながらの参加を求める。				
テキスト	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編 文部科学省 東山書房 2018				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業の概要を理解する。</p> <p>2. 学校教育の目的・目標について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめ自分が卒業した小中高校の学校教育目標を読んでおく。授業後は学習内容を踏まえ、学校教育の目的とその課題をノートにまとめる。</p> <p>3. 教育課程編成の目的と学習指導要領がもつ意味</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめ学習指導要領の目次と前文を読んでおく。授業後は学習内容を踏まえ、学習指導要領と教育課程編成の目的をノートにまとめる。</p> <p>4. カリキュラムの類型とその機能</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 配布資料等でカリキュラムの類型を確認しておく。授業後は学習内容を踏まえ、それぞれのカリキュラムがもつ特徴とカリキュラムが果たす機能をノートにまとめる。</p>				

科目名	教育課程論(一)	担当教員	☆ 辻 寛司	
授業内容	5. 教育課程の基本原理と諸概念			
	[予習・復習] 配布資料で、教育課程にかかわる諸概念の内容を読んでおく。授業後は学習内容を踏まえ、教育課程の基本原理と諸概念をノートにまとめる。			
	6. 教育課程編成の方法			
	[予習・復習] 学校における教育課程編成の実例を調べておく。授業後は学習内容を踏まえ、教科・領域横断横断的な教育課程編成の方法をノートにまとめる。			
	7. 教育課程編成の実際(1)中長期的視点から			
	[予習・復習] 中長期にわたる教育課程編成の実例を調べておく。授業後は中長期の課程編成に際しての課題とポイントをノートにまとめる。			
	8. 教育課程編成の実際(2)子どもや地域の実態をもとに			
	[予習・復習] 生徒や地域の実態にもとづいた教育課程編成の実例を調べておく。授業後は課程編成に際しての課題とポイントをノートにまとめる。			
	9. 学習指導要領の変遷(1)ー第3次改訂まで			
	[予習・復習] 資料などをもとに学習指導要領の改訂の変遷について通読しておく。授業後は第3次改訂までのポイントと意味をノートにまとめる。			
	10. 学習指導要領の変遷(2)ー第4次改訂以降			
	[予習・復習] 資料などをもとに学習指導要領の改訂の変遷について通読しておく。授業後は第4次改訂以降のポイントと意味をノートにまとめる。			
	11. カリキュラム・マネジメント(1)ー教育実践におけるPDCAサイクル			
	[予習・復習] 教育実践におけるPDCAサイクルの実例を調べておく。授業後は教育実践におけるPDCAサイクルの課題とポイントをノートにまとめる。			
	12. カリキュラム・マネジメント(2)ー教科横断的な教育課程編成			
[予習・復習] 教科横断的なカリキュラムの実例を調べておく。授業後は教科横断的な教育課程編成における課題とポイントをのーとにまとめる。				
13. 教育実践における評価とは				
[予習・復習] 学校の教育実践における評価活動を3つ以上あげておく。授業後は学習内容にもとづき、学校・教員が行う教育実践における評価の課題とポイントをノートにまとめる。				
14. 総合学習について考える				
[予習・復習] これまでの学校で受けてきた総合学習の授業のテーマ・方法を3つ以上あげておく。授業後はその課題と実施にあたっての課題とポイントをノートにまとめ、学習指導案の作成準備をする。				
15. まとめ				
[予習・復習] これまでの学習内容をノートで整理し、総合学習の学習指導案を完成させて提出する。				

科目名	教育課程論(二)		担当教員	☆ 鈴木 伸尚	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育課程の理論と構造を学ぶ				
到達目標	①教育課程の基本的な考え方を学んだうえで、その歴史と編成を考察する。②学習指導要領のあり方や変遷について理解する。③教育・学習活動をマネジメントする力を養う。				
授業概要	現代日本の教育状況において、教育課程の基本的な考え方を身につけることが必要不可欠となっている。本授業では、教育課程ないしカリキュラムの理論や歴史について学んだうえで、実践的な学習を通じて教育・学習活動をマネジメントする力を養う。				
評価方法・基準	授業態度(20%)、グループ発表(30%)、学習到達度確認試験(50%)により総合的に評価を行う。 授業態度の評価では、授業後に提出するコメントカードの記述を重視する。				
課題のフィードバック方法	コメントシートは必要に応じて授業内で取り上げる。 グループ発表に対してはその場で簡潔な講評を行う。 最終授業時に学習到達度を確認する試験を実施し、授業内で解説を行う。				
履修上の注意事項等	授業は、テキスト・配布資料に沿って行う。授業で分からなかった内容は適宜質問して理解するよう努めること。 また、授業内のディスカッションでは積極的に意見表明すること。 授業の後半で行うグループワークとグループ発表では責任をもって協働すること。				
テキスト	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編 文部科学省 東山書房 2018 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編 文部科学省 東洋館出版社 2019				
参考書					
授業内容	1. イントロダクションー教育課程とカリキュラム [予習・復習]シラバスを確認しておくこと。 2. カリキュラムの基礎1ー教育課程の意義と諸概念 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。 3. カリキュラムの基礎2ー教育の目的と目標 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。 4. カリキュラムの基礎3ーカリキュラムの多様な編成 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。				

科目名	教育課程論(二)	担当教員	☆ 鈴木 伸尚
授業内容	<p>5. 学習指導要領の目指すもの1ー学習指導要領を概観する [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>6. 学習指導要領の目指すもの2ー学習指導要領における学力観 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>7. 教育課程をめぐる動向ーPDCA サイクルとカリキュラム・マネジメント [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>8. 学習指導要領とカリキュラムの変遷1ー戦後教育の展開 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>9. 学習指導要領とカリキュラムの変遷2ー教育改革の展開 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>10. 教育課程と教育実践1ー生活教育から見るカリキュラムのあり方 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>11. 教育課程と教育実践2ーカリキュラムと教師のあり方 [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>12. 教育・学習活動のマネジメント1:教育目標を考える [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>13. 教育・学習活動のマネジメント2:教育計画を考える [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>14. 教育・学習活動のマネジメント3:総合的な学習・探究の時間について [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで前回までの講義内容の流れを確認したうえで講義に臨むこと。また授業課題について事前準備をしっかりと行うこと。詳細は授業内で指示する。</p> <p>15. まとめ [予習・復習]配布したプリントや講義ノートで全体を理解したうえで臨むこと。</p>		

科目名	国語科教育法Ⅰ		担当教員	☆ 元根 俊孝	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	言語の教育及び基幹教科としての国語科教育において「何をどのように学ばせるのか」を探究する。				
到達目標	①国語教育の動向と課題、目指すべき国語科教育の方向性について理解する。②国語科授業で、「何をどのように学ばせるのか」という確かなイメージを持つ。③国語科の特性に応じた情報機器の効果的な活用、教材開発及びその効果的な活用方法等を理解する。				
授業概要	学習指導要領に準拠して、国語科の領域ごとに指導内容や方法を学ぶと共に、具体的に学習指導案を作成し、教材研究及び模擬授業・授業研究等を行うことで、国語科教育の本質に迫る。				
評価方法・基準	授業における取り組み姿勢、課題レポート、授業における各種レポートや学習指導案等の提出物及び対話カードにより総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	「課題レポート、授業における各種レポート、学習指導案等の提出物」は必要に応じて講義中にコメントを行い評価する。「対話カード」は毎回提出させ、各々にコメントを記入し、次時に返却すると共に必要に応じて講義中に講評する。				
履修上の注意事項等	学習指導案の作成、模擬授業の実施など実践的な活動が主体となるので、積極的な受講・参加が求められる。後期開講の「国語科教材研究Ⅰ」と継続して受講することが望ましい。使用するテキストは「国語科教材研究Ⅰ」と同じである。				
テキスト	「高等学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 東洋館出版社 平成31年				
参考書	随時紹介する				
授業内容	<p>1. 国語科教育の目標と内容</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。テキスト記載事項を概観し、国語教育の目標・在り方について整理し、理解を深める。</p> <p>2. 学習指導要領の変遷及び国語科教育の動向と課題</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]事前配付資料を読み、各学習指導要領改訂の要点を確認する。講義内容をふまえ、各学習指導要領の編成趣・要点、及びその背景を理解し、整理する。</p> <p>3. 国語科の授業開き(方法と目的)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストを読むと共に自己の経験を通して望ましい授業の在り方を考える。講義内容に基づき、望ましい授業の要点・在り方について確認し、整理する。</p> <p>4. 国語科教員の力量形成(基本的ポイントとICT活用授業・アクティブラーニングにおけるポイント)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストを読み、国語科教員の力量とは何かを考える。講義内容に基づき、これからの国語科教員に特に求められる要素、及び力量についてレポートを作成する。</p>				

科目名	国語科教育法 I	担当教員	☆ 元根 俊孝
授業内容	5. 国語科教育の実際の内容(1) 知識、及び技能①		
	[予習・復習]テキスト及び事前配付資料に基づき、「知識、及び技能」に関する指導のポイントについて考える。講義内容に基づき、「現代の国語」を対象に「知識、及び技能」の指導事項を確認し、整理する。		
	6. 国語科教育の実際の内容(2) 知識、及び技能②		
	[予習・復習]テキスト及び事前配付資料に基づき、「知識、及び技能」に関する指導のポイントを再確認する。講義内容に基づき、「言語文化」を対象に「知識、及び技能」の指導事項を確認し、整理する。		
	7. 国語科教育の実際の内容(3) 思考力、判断力、表現力①(話すこと・聞くこと)		
	[予習・復習]テキスト及び事前配付資料に基づき、「話すこと・聞くこと」に関する思考力、判断力、表現力等に関する指導のポイントについて考える。講義内容に基づき、「現代の国語」「言語文化」を対象に「話すこと・聞くこと」に関する思考力、判断力、表現力等の指導事項を確認し、整理する。		
	8. 国語科教育の実際の内容(4) 思考力、判断力、表現力②(書くこと・読むこと)		
	[予習・復習]テキスト及び事前配付資料に基づき、「書くこと・読むこと」に関する思考力、判断力、表現力等に関する指導のポイントについて考える。講義内容に基づき、「現代の国語」「言語文化」を対象に「書くこと・読むこと」に関する思考力、判断力、表現力等の指導事項を確認し、整理する。		
	9. 学習指導案の作成と教材研究の方法(小説教材)		
	[予習・復習]事前配付資料及びテキストを参考に、「現代の国語」(小説教材)の学習指導案作成を通してそのポイントを考える。講義内容に基づき、小説教材を対象にした学習指導案を再考する。		
	10. 模擬授業(小説教材)授業研究(1)		
	[予習・復習]再考し、改善された指導案を基に授業への準備をする。模擬授業及び授業研究を通して授業づくりのポイント、及び指導案作成のポイントについて確認し、整理する。		
	11. 模擬授業(小説教材)授業研究(2)		
	[予習・復習]教材の特性を活かすための指導案作成、及び教材研究・授業づくりの在り方について考える。講義、及び授業研究に基づく指導案の作成、及び授業づくりのポイントについて再確認し、整理する。		
	12. 学習指導案の作成と教材研究の方法(古典・随筆教材)		
[予習・復習]事前配付資料及びテキストを参考に、「言語文化」における古典教材の学習指導案作成を通してそのポイントを考える。講義内容に基づき、古典教材の特性を活かした学習指導案を再考する。			
13. 模擬授業(古典・随筆教材)授業研究(1)			
[予習・復習]再考し、改善された指導案を基に授業への準備をする。模擬授業、及び授業研究を通して授業づくりのポイント、及び指導案作成のポイントについて確認し、整理する。			
14. 模擬授業(古典・随筆教材)授業研究(2)			
[予習・復習]教材の特性を活かすための指導案作成、及び教材研究・授業づくりの在り方について考える。講義、及び授業研究に基づく指導案の作成、及び授業づくりのポイントについて確認し、整理する。			
15. 国語科教育における評価(目的・内容・方法)			
[予習・復習]事前配付資料を読み、国語科教育における評価の在り方等について考察する。講義内容に基づき、今後特に求められる国語科教育における評価の在り方、活かし方についてレポートを作成する。			

科目名	国語科教育法Ⅱ		担当教員	☆ 増田 正子	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	現代の国語科教育の課題をとりあげながら、目標・構造・指導過程・実践につながる具体的指導のあり方を考える。				
到達目標	国語科の今日の課題を理解し、課題意識を持って教材研究・授業研究をすすめることができる人材を養成する。				
授業概要	課題意識を持った教材研究・授業研究の方法を学び、各ジャンルの教材について教材研究を行う。また授業を構想し学習指導案を作成すること、さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析によって、よりよい授業へと改善していくことを目標とする。				
評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(積極的な参加)30% ・授業中の課題(指導案作成 30%・模擬授業 40%)70% 課題意識を持って教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業に取り組むこと。				
課題のフィードバック方法	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントする。 コメントの内容や質問・疑問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。模擬授業については、担当教員が授業の振り返りでコメントし評価する。				
履修上の注意事項等	免許・資格科目なので、それにふさわしい真摯な学習態度で受講すること。 授業への積極的な参加・発言を求める。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	中学校学習指導要領 文科省 高等学校学習指導要領 文科省				
授業内容	1. ガイダンス・学習指導要領について ----- [予習・復習] シラバスを事前に読み、授業内容を理解する。学習指導要領について理解を深めるために、ノートなどにまとめる。 2. 教材1(説明的文章教材 小学校高学年 教材例「インスタント食品とわたしたちの生活」)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開など) ----- [予習・復習] 教材を読み、授業を具体的に構想する。 3. 教材1(説明的文章教材 小学校高学年 教材例「インスタント食品とわたしたちの生活」)の授業についての具体的な指導方法(発問・板書・ノートなど) ----- [予習・復習] 教材研究に基づいて、授業を構想する。 4. 教材2(説明的文章教材 中学校1年 教材例「玄関扉」)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開など) ----- [予習・復習] 教材を読み、指導案に基づいて授業を具体的に構想し、有効性をさぐる。				

科目名	国語科教育法 II	担当教員	☆ 増田 正子
授業内容	5. 教材3(説明的文章教材 中学校3年 教材例「ディズニーランドという聖地」)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開など)		
	----- [予習・復習] 教材を読み、授業を具体的に構想し、有効性をさぐる。		
	6. 教材3(説明的文章教材 中学校3年 教材例「ディズニーランドという聖地」)の授業についての具体的な指導方法(発問・板書・ノート・視聴覚教材など)		
	----- [予習・復習] 教材研究に基づいて授業を構想する。		
	7. 教材4(説明的文章教材 高等学校 教材例「メディアとしての顔」)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開など)		
	----- [予習・復習] 教材を読み、授業を具体的に構想し、有効性をさぐる。		
	8. 教材5(説明的文章教材 高等学校 教材例「顔」という現象)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開など)		
	----- [予習・復習] 教材を読み、授業を具体的に構想し、有効性をさぐる。		
	9. 説明的文章教材(中学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(1)		
	----- [予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	10. 説明的文章教材(中学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(2)		
	----- [予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	11. 説明的文章教材(高等学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(3)		
	----- [予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	12. 説明的文章教材(高等学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(4)		
----- [予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。			
13. 教材6 「書くこと」についての教材研究(目標・方法・展開など)			
----- [予習・復習] 教材を読み、教材研究の方向性をつかむ。具体的な指導方法を考え、授業を構想する。			
14. 教材6 「書くこと」についての指導案作成(目標・方法・展開・発問・板書・視聴覚教材など)			
----- [予習・復習] 教材を読み教材研究を行い、指導案を完成させる。指導案に基づいて、授業を具体的に構想する。			
15. 教材7 「話すこと・聞くこと」についての教材研究(目標・方法・展開など)・授業のまとめ			
----- [予習・復習] 教材を読み、具体的な指導方法を考え、授業を構想する。 教材研究・授業研究についてまとめる。			

科目名	社会科教育法 I(一)		担当教員	☆ 山本 雅一	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて社会科の指導法を探究する。				
到達目標	社会科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して社会科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート(50% 学習指導案の作成:授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。) 平常点(50% 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。)				
課題のフィードバック方法	学習指導案の作成と発表では、研究協議をするとともに、指導助言・講評を行う。コメントシートの内容や質問等は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。期間内にレポートを課し、最終授業内に講評を行う。				
履修上の注意事項等	社会科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス 学校教育と教科の意義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。＜教育関連法規＞の配付資料から学校教育に関する規定を調べ、学校教育の目標、教育課程、教科の意義をまとめる。</p> <p>2. 学習指導要領の変遷(1) 社会科の改訂と趣旨</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]＜学習指導要領の変遷＞に関する配付資料を読んでおく。講義内容に基づいて、学習指導要領試案から第8次までの学習指導要領改訂の趣旨及び社会科の目標を理解し、整理する。</p> <p>3. 学習指導要領の変遷(2) 新学習指導要領「社会科」改訂の趣旨</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストp1～p22＜学習指導要領の基本方針・改訂の趣旨＞を読んでおく。講義内容から、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の考え方を理解し、整理する。</p> <p>4. 地理的分野の目標・内容とその取扱い</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストp29～p82＜地理的分野の目標と内容＞を読んでおく。講義内容から、「日本の諸地域」について、具体的な授業場面を想定した授業設計案を立てる。</p>				

科目名	社会科教育法I(一)	担当教員	☆ 山本 雅一
授業内容	5. 歴史的分野の目標・内容とその取扱い		
	[予習・復習]テキストp83～p125<歴史的分野の目標と内容>を読んでおく。講義内容から、「歴史との対話」について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	6. 公民的分野の目標・内容とその取扱い		
	[予習・復習]テキストp126～p168<公民的分野の目標と内容>を読んでおく。講義内容から、「私たちと現代社会」について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	7. 社会科の授業形態と指導方法		
	[予習・復習]<社会科の授業形態と指導方法>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、様々な授業事例を通して、実際の授業形態と指導方法を理解し、整理する。		
	8. 社会科の指導と評価		
	[予習・復習]<社会科の指導と評価>に関する配付資料を読んでおく。授業事例から授業における指導と評価の考え方や評価方法を理解し、整理する。		
	9. 社会科学学習指導案の作成		
	[予習・復習]テキストp169～p181<指導計画の作成と内容の取扱い>を読んでおく。学習指導案の作成後、様々な学習指導案と比較検討し、学んだことをまとめる。		
	10. 地理的分野の授業づくり 発問の工夫と板書計画について		
	[予習・復習]事前に地理的分野の教科書教材を研究しておく。「世界の諸地域」「日本の諸地域」から中単元を選択し、学習指導案を作成する。		
	11. 地理的分野の授業研究		
	[予習・復習]地理的分野の学習指導案を発表し、発問や板書計画、授業の成立について研究協議する。同単元の様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。		
	12. 歴史的分野の授業づくり 参加体験型授業づくりの工夫		
[予習・復習]事前に歴史的分野の教科書教材を研究しておく。「古代～近代」から中単元を選択し、学習指導案を作成する。			
13. 歴史的分野の授業研究			
[予習・復習]歴史的分野の学習指導案を発表し、参加体験型授業の成立について研究協議する。同単元の様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。			
14. 公民的分野の授業づくり 討論・ディベートを取り入れた授業の工夫			
[予習・復習]事前に公民的分野の教科書教材を研究しておく。公民的分野で討論・ディベートを取り入れた学習指導案を作成する。			
15. 公民的分野の授業研究・授業総括			
[予習・復習]公民的分野の学習指導案を発表し、討論・ディベートを取り入れた授業の成立について研究協議する。社会科の学習指導案と授業について指導助言・講評を行う。			

科目名	社会科教育法 I(二)		担当教員	☆ 山本 雅一	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて社会科の指導法を探究する。				
到達目標	社会科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	社会科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して社会科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート(50% 学習指導案の作成:授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。) 平常点(50% 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。)				
課題のフィードバック方法	学習指導案の作成と発表では、研究協議をするとともに、指導助言・講評を行う。コメントシートの内容や質問等は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。期間内にレポートを課し、最終授業内に講評を行う。				
履修上の注意事項等	社会科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 東洋館出版社 平成29年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス 学校教育と教科の意義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。＜教育関連法規＞の配付資料から学校教育に関する規定を調べ、学校教育の目標、教育課程、教科の意義をまとめる。</p> <p>2. 学習指導要領の変遷(1) 社会科の改訂と趣旨</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]＜学習指導要領の変遷＞に関する配付資料を読んでおく。講義内容に基づいて、学習指導要領試案から第8次までの学習指導要領改訂の趣旨及び社会科の目標を理解し、整理する。</p> <p>3. 学習指導要領の変遷(2) 新学習指導要領「社会科」改訂の趣旨</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストp1～p22＜学習指導要領の基本方針・改訂の趣旨＞を読んでおく。講義内容から、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の考え方を理解し、整理する。</p> <p>4. 地理的分野の目標・内容とその取扱い</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストp29～p82＜地理的分野の目標と内容＞を読んでおく。講義内容から、「日本の諸地域」について、具体的な授業場面を想定した授業設計案を立てる。</p>				

科目名	社会科教育法I(二)	担当教員	☆ 山本 雅一
授業内容	5. 歴史的分野の目標・内容とその取扱い		
	[予習・復習]テキストp83～p125<歴史的分野の目標と内容>を読んでおく。講義内容から、「歴史との対話」について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	6. 公民的分野の目標・内容とその取扱い		
	[予習・復習]テキストp126～p168<公民的分野の目標と内容>を読んでおく。講義内容から、「私たちと現代社会」について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	7. 社会科の授業形態と指導方法		
	[予習・復習]<社会科の授業形態と指導方法>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、様々な授業事例を通して、実際の授業形態と指導方法を理解し、整理する。		
	8. 社会科の指導と評価		
	[予習・復習]<社会科の指導と評価>に関する配付資料を読んでおく。授業事例から授業における指導と評価の考え方や評価方法を理解し、整理する。		
	9. 社会科学学習指導案の作成		
	[予習・復習]テキストp169～p181<指導計画の作成と内容の取扱い>を読んでおく。学習指導案の作成後、様々な学習指導案と比較検討し、学んだことをまとめる。		
	10. 地理的分野の授業づくり 発問の工夫と板書計画について		
	[予習・復習]事前に地理的分野の教科書教材を研究しておく。「世界の諸地域」「日本の諸地域」から中単元を選択し、学習指導案を作成する。		
	11. 地理的分野の授業研究		
	[予習・復習]地理的分野の学習指導案を発表し、発問や板書計画、授業の成立について研究協議する。同単元の様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。		
	12. 歴史的分野の授業づくり 参加体験型授業づくりの工夫		
[予習・復習]事前に歴史的分野の教科書教材を研究しておく。「古代～近代」から中単元を選択し、学習指導案を作成する。			
13. 歴史的分野の授業研究			
[予習・復習]歴史的分野の学習指導案を発表し、参加体験型授業の成立について研究協議する。同単元の様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。			
14. 公民的分野の授業づくり 討論・ディベートを取り入れた授業の工夫			
[予習・復習]事前に公民的分野の教科書教材を研究しておく。公民的分野で討論・ディベートを取り入れた学習指導案を作成する。			
15. 公民的分野の授業研究・授業総括			
[予習・復習]公民的分野の学習指導案を発表し、討論・ディベートを取り入れた授業の成立について研究協議する。社会科の学習指導案と授業について指導助言・講評を行う。			

科目名	社会科教育法 II(一)		担当教員	☆ 西岡 尚也	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生きる力に結びつく社会科のための教育法研究と実践。社会科教員としての授業実践力を、学習指導案・模擬授業を経験し考える。				
到達目標	社会科教育法 I や社会科教育研究 I の内容も踏まえながら、授業を構成・実践できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	社会科教員志望者の基本として、社会科の地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの存在意味と、その相互の関連性について①②③の順に考察していく。①科目としての社会科の役割を理解する。②学習指導案の作成について学ぶ。③全員が模擬授業を行い、相互に評価する。指導案作成と模擬授業については、丁寧な助言や改善点をアドバイスする。これらを通して教育実習(教育実践)への心構えと実践力を高めることを目指す。以上を通して総合的に社会科教員の指導法を探求する。				
評価方法・基準	レポート 30%:(情報を整理し自分の意見を展開できたかを評価)。講義中の発表 50%:(発表内容の充実度、模擬授業の完成度を評価)。講義参加の意欲 20%:(課題に取り組む姿勢を評価)				
課題のフィードバック方法	全員模擬授業を体験し、その受講者には「評価カード」を記入したあと、そのカードを交換して相互評価を経験する。模擬授業では事前に「学習指導案」を作成し全員に配布、教員がその都度コメントし、指導助言を行う。				
履修上の注意事項等	教科書は必ず購入して受講する。日常から世の中の出来事、国内・海外のニュースには関心を持って接し、記録する習慣を身につける。そのためには社会科教員は「新聞購読」が必須である。特に教育関連のニュースは意識して収集し、記録しておくように心がける。				
テキスト	中学校学習指導要領解説社会編 文部科学省 中学社会地理地域に学ぶ 竹内裕一ほか 教育出版 2021				
参考書	図説世界地誌【改訂版】 辰巳勝 古今書院 2018 自然地理のなぜ!? 松本穂高 二宮書店 2016 子供たちへの開発教育 西岡尚也 ナカニシヤ出版 2007				
授業内容	<p>1. そもそも教育とは何か。学校教育・社会科教育の意義を考える。 -----</p> <p>[予習・復習]予習:シラバス全体をしっかりと読み、講義全体を概観する。復習:教育・学校教育・社会科教育の3つを、簡潔にノートにまとめる。</p> <p>2. 中学校社会科学習指導要領を概観する。 -----</p> <p>[予習・復習]予習:学習指導要領にはどんな役割があるか調べておく。復習:地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標について、共通点・相違点をノートにまとめる。</p> <p>3. 生きる力と社会科:地理的分野 -----</p> <p>[予習・復習]予習:「地理的なものの見方・考え方」について整理する。復習:地理の手法である地域区分が、歴史や公民にどのように発展するのか、具体例をノートにまとめる。</p> <p>4. 生きる力と社会科:歴史的分野 -----</p> <p>[予習・復習]予習:「歴史的なもの見方・考え方」について整理する。復習:歴史の手法である時代区分が、地理や公民にどのように発展するのか、具体例をノートにまとめる。</p>				

科目名	社会科教育法Ⅱ(一)	担当教員	☆ 西岡 尚也
授業内容	5. 生きる力と社会科: 公民的分野		
	[予習・復習]「公民的分野のもの見方・考え方」を整理しておく。復習: 社会科全体そして公民分野のめざす、「公民的資質」とは何か、具体例をあげノートに記録しまとめる。		
	6. 地理的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習:「空間認識」へ「地図帳」の活用方法を考える。復習: 地図帳・地球儀、教科書以外の視聴覚・ICT教材について、どのようなものがあるかノートにまとめる。		
	7. 歴史的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習: 自身が歴史に興味を持つきっかけをまとめておく。復習: 学習者の興味を促すには教科書以外にどんな教材があるか具体例をあげて、ノートに整理してまとめる。		
	8. 公民的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習: 最新の新聞記事・ニュースを教材化した例を考えておく。復習: 生徒に公民的分野に興味・関心を持たせるには、どんな工夫が必要かノートに整理してまとめる。		
	9. 地理的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	10. 歴史的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	11. 公民的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	12. 地理的分野の模擬授業の実施		
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
13. 歴史的分野の模擬授業の実施			
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
14. 公民的分野の模擬授業の実施			
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
15. 15 回講義の総括			
[予習・復習]予習: 教育実習への準備、優先順位をつけ取り組む計画表を作成。復習: 教員採用試験への対策、これまでを振り返り各自の取り組みを総括して余裕を持って準備し本番に備える。			

科目名	社会科教育法 II(二)		担当教員	☆ 西岡 尚也	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生きる力に結びつく社会科のための教育法研究と実践。社会科教員としての授業実践力を、学習指導案・模擬授業を経験し考える。				
到達目標	社会科教育法 I や社会科教育研究 I の内容も踏まえながら、授業を構成・実践できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	社会科教員志望者の基本として、社会科の地理的分野・歴史的分野・公民的分野のそれぞれの存在意味と、その相互の関連性について①②③の順に考察していく。①科目としての社会科の役割を理解する。②学習指導案の作成について学ぶ。③全員が模擬授業を行い、相互に評価する。指導案作成と模擬授業については、丁寧な助言や改善点をアドバイスする。これらを通して教育実習(教育実践)への心構えと実践力を高めることを目指す。以上を通して総合的に社会科教員の指導法を探求する。				
評価方法・基準	レポート 30%:(情報を整理し自分の意見を展開できたかを評価)。講義中の発表 50%:(発表内容の充実度、模擬授業の完成度を評価)。講義参加の意欲 20%:(課題に取り組む姿勢を評価)				
課題のフィードバック方法	全員模擬授業を体験し、その受講者には「評価カード」を記入したあと、そのカードを交換して相互評価を経験する。模擬授業では事前に「学習指導案」を作成し全員に配布、教員がその都度コメントし、指導助言を行う。				
履修上の注意事項等	教科書は必ず購入して受講する。日常から世の中の出来事、国内・海外のニュースには関心を持って接し、記録する習慣を身につける。そのためには社会科教員は「新聞購読」が必須である。特に教育関連のニュースは意識して収集し、記録しておくように心がける。				
テキスト	中学校学習指導要領解説社会編 文部科学省 中学社会地理地域に学ぶ 竹内裕一ほか 教育出版 2021				
参考書	図説世界地誌【改訂版】 辰巳勝 古今書院 2018 自然地理のなぜ!? 松本穂高 二宮書店 2016 子供たちへの開発教育 西岡尚也 ナカニシヤ出版 2007				
授業内容	<p>1. そもそも教育とは何か。学校教育・社会科教育の意義を考える。 ----- [予習・復習]予習:シラバス全体をしっかりと読み、講義全体を概観する。復習:教育・学校教育・社会科教育の3つを、簡潔にノートにまとめる。</p> <p>2. 中学校社会科学習指導要領を概観する。 ----- [予習・復習]予習:学習指導要領にはどんな役割があるか調べておく。復習:地理的分野・歴史的分野・公民的分野の目標について、共通点・相違点をノートにまとめる。</p> <p>3. 生きる力と社会科:地理的分野 ----- [予習・復習]予習:「地理的なものの見方・考え方」について整理する。復習:地理の手法である地域区分が、歴史や公民にどのように発展するのか、具体例をノートにまとめる。</p> <p>4. 生きる力と社会科:歴史的分野 ----- [予習・復習]予習:「歴史的なもの見方・考え方」について整理する。復習:歴史の手法である時代区分が、地理や公民にどのように発展するのか、具体例をノートにまとめる。</p>				

科目名	社会科教育法Ⅱ(二)	担当教員	☆ 西岡 尚也
授業内容	5. 生きる力と社会科: 公民的分野		
	[予習・復習]「公民的分野のもの見方・考え方」を整理しておく。復習: 社会科全体そして公民分野のめざす、「公民的資質」とは何か、具体例をあげノートに記録しまとめる。		
	6. 地理的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習:「空間認識」へ「地図帳」の活用方法を考える。復習: 地図帳・地球儀、教科書以外の視聴覚・ICT 教材について、どのようなものがあるかノートにまとめる。		
	7. 歴史的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習: 自身が歴史に興味を持つきっかけをまとめておく。復習: 学習者の興味を促すには教科書以外にどんな教材があるか具体例をあげて、ノートに整理してまとめる。		
	8. 公民的分野の授業構想と構成		
	[予習・復習]予習: 最新の新聞記事・ニュースを教材化した例を考えておく。復習: 生徒に公民的分野に興味・関心を持たせるには、どんな工夫が必要かノートに整理してまとめる。		
	9. 地理的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	10. 歴史的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	11. 公民的分野の指導案の検討		
	[予習・復習]予習: 教科書の単元から 50 分の指導案を作成する。復習: 各自が模擬授業を体験し、相互に意見交換しその振り返りから改善点を整理しノートにまとめて記録しておく。		
	12. 地理的分野の模擬授業の実施		
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
13. 歴史的分野の模擬授業の実施			
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
14. 公民的分野の模擬授業の実施			
[予習・復習]予習: 模擬授業へ準備、指導案作成と教材研究・独自の教材工夫と開発。復習: 受講者相互に模擬授業を評価し「評価カード」に記入する。改善点など意見交換を行う。			
15. 15 回講義の総括			
[予習・復習]予習: 教育実習への準備、優先順位をつけ取り組む計画表を作成。復習: 教員採用試験への対策、これまでを振り返り各自の取り組みを総括して余裕を持って準備し本番に備える。			

科目名	地理歴史科教育法(一)		担当教員	☆ 元田 茂充	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地理歴史科の意義・目標・内容について理解し、授業展開の基本を習得する。				
到達目標	①教育現場で高等学校地理歴史科の学習指導ができるようになる。 ②社会科・地理歴史科教育の現状と課題を踏まえ、社会の変化に対応する教育者としての基礎的素養を多方面から養成する。				
授業概要	本講義では高等学校の地理歴史科の教育法を指導する。学習指導要領の意義・内容を理解した上で、学習指導案の作成、教材研究、模擬授業などに実践的に取り組み、授業を行うために必要な知識と技能や、教員としての心構えを習得していく。				
評価方法・基準	方法: 模擬授業の出来映え、課題・レポートの提出状況、授業への取り組み方などを総合的に評価する。 基準: 模擬授業を40%、課題・レポートを40%、授業への取り組み方を20%とする。				
課題のフィードバック方法	①受講者全員が模擬授業を行い、授業担当者には終了後にアドバイスを行う。 ②模擬授業時に作成する相互評価時のコメント票については、内容の確認・講評の後、担当者に返却する。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②学習指導案作成や模擬授業に備えて高校地理歴史科の教科書を通読すること。 ③教材研究の一環として世界や日本各地の自然環境、政治・経済の動向、歴史・生活文化などに注目してテレビを見たり、新聞を読むようにする。				
テキスト	高等学校 新地理総合 戸井田克己ほか 帝国書院 2022 歴史総合 近代から現代へ 岸本美緒・鈴木淳ほか 山川出版社 2022				
参考書	新詳地理B 帝国書院 2017 詳説日本史 改訂版 山川出版社 2017 詳説世界史 改訂版 山川出版社 2017				
授業内容	<p>1. 導入: 教師になるには、求められる教師像</p> <p>-----</p> <p>予習: シラバスを読み、講義内容15回の概略を理解しておく。 復習: 自身が教師を目指す理由・動機をまとめて発表する。</p> <p>2. 地理歴史科教育史概説: 地歴科教育の歴史・意義・目的</p> <p>-----</p> <p>予習: 各種資料を駆使して戦前の地理・歴史教育と、戦後の高校社会科および地理歴史科の展開について調べる。 復習: 復習: 地歴科教育の歴史に関する課題を作成する。</p> <p>3. 学習指導要領: 平成30年版高等学校学習指導要領の内容と特徴</p> <p>-----</p> <p>予習: 学習指導要領の「総説」の部分を読む。 復習: 課題に取り組む(学習指導要領の「総説」の要点をまとめる)。</p> <p>4. 学習指導要領: 地理系科目の内容と要点</p> <p>-----</p> <p>予習: 学習指導要領の「地理総合」・「地理探求」の部分を読む。 復習: 課題を作成する(「地理総合」・「地理探求」の要点をまとめる)。</p>				

科目名	地理歴史科教育法(一)	担当教員	☆ 元田 茂充
授業内容	5. 学習指導要領:歴史系科目の内容との要点		

	予習:学習指導要領の「歴史総合」・「世界史探究」・「日本史探究」の部分を読む。		
	復習:課題を作成する(「歴史総合」・「世界史探究」・「日本史探究」の要点をまとめる)。		
	6. 学習指導案の作成:指導案作成の手順・書式、指導案の記述内容		

	予習:各種資料を駆使して学習指導案の作成方法を調べる。		
	復習:地理歴史科の学習指導案を作成する。		
	7. 教材研究の方法:教材の作成、資料の収集と扱い方、情報機器の活用		

	予習:各種資料を駆使して地理・世界史・日本史における教材研究の方法について調べる。		
	復習:授業を想定した教材(グラフ・表・地図)を作成する。		
	8. ICT教育の導入: 意義・目的、効果、オンライン授業の形態		

	予習:各種資料を駆使して学校におけるICT教育の実態について調べる		
復習:課題を作成する(ICT教育の要点をまとめる)。			
9. 様々な授業形態:ICTの活用・プレゼンテーションの技能など			

予習:各種資料を駆使して授業におけるICTの活用やプレゼンテーションの技能について調べる。			
復習:パワーポイントを用いて授業を想定したスライドを作成する。			
10. 指導方法の検討:板書術、発問・質問、机間指導など			

予習:各種資料を駆使して授業における指導方法を調べる。			
復習:地理歴史科の授業を想定した板書計画を作成する。			
11. 模擬授業(1)地理:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
12. 模擬授業(2)日本史:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
13. 模擬授業(3)世界史:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
14. 試験問題の作成:問題作成のポイント			

予習:各種資料を駆使して様々な出題形式の試験問題を収集する。			
復習:定期考査を想定した地理歴史科の試験問題を作成する。			
15. 成績評価:評価の方法・ポイント			

予習:各種資料を駆使して成績評価の方法を調べる。			
復習:これまでの授業を通して学んだことを振り返り、コメント票を作成して授業で学んだこと整理する。			

科目名	地理歴史科教育法(二)		担当教員	☆ 元田 茂充	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地理歴史科の意義・目標・内容について理解し、授業展開の基本を習得する。				
到達目標	①教育現場で高等学校地理歴史科の学習指導ができるようになる。 ②社会科・地理歴史科教育の現状と課題を踏まえ、社会の変化に対応する教育者としての基礎的素養を多方面から養成する。				
授業概要	本講義では高等学校の地理歴史科の教育法を指導する。学習指導要領の意義・内容を理解した上で、学習指導案の作成、教材研究、模擬授業などに実践的に取り組み、授業を行うために必要な知識と技能や、教員としての心構えを習得していく。				
評価方法・基準	方法: 模擬授業の出来映え、課題・レポートの提出状況、授業への取り組み方などを総合的に評価する。 基準: 模擬授業を40%、課題・レポートを40%、授業への取り組み方を20%とする。				
課題のフィードバック方法	①受講者全員が模擬授業を行い、授業担当者には終了後にアドバイスをを行う。 ②模擬授業時に作成する相互評価時のコメント票については、内容の確認・講評の後、担当者に返却する。				
履修上の注意事項等	①積極的な授業参加を望む。 ②学習指導案作成や模擬授業に備えて高校地理歴史科の教科書を通読すること。 ③教材研究の一環として世界や日本各地の自然環境、政治・経済の動向、歴史・生活文化などに注目してテレビを見たり、新聞を読むようにする。				
テキスト	高等学校 新地理総合 戸井田克己ほか 帝国書院 2022 歴史総合 近代から現代へ 岸本美緒・鈴木淳ほか 山川出版社 2022				
参考書	新詳地理B 帝国書院 2017 詳説日本史 改訂版 山川出版社 2017 詳説世界史 改訂版 山川出版社 2017				
授業内容	<p>1. 導入: 教師になるには、求められる教師像</p> <p>-----</p> <p>予習: シラバスを読み、講義内容15回の概略を理解しておく。 復習: 自身が教師を目指す理由・動機をまとめて発表する。</p> <p>2. 地理歴史科教育史概説: 地歴科教育の歴史・意義・目的</p> <p>-----</p> <p>予習: 各種資料を駆使して戦前の地理・歴史教育と、戦後の高校社会科および地理歴史科の展開について調べる。 復習: 復習: 地歴科教育の歴史に関する課題を作成する。</p> <p>3. 学習指導要領: 平成30年版高等学校学習指導要領の内容と特徴</p> <p>-----</p> <p>予習: 学習指導要領の「総説」の部分を読む。 復習: 課題に取り組む(学習指導要領の「総説」の要点をまとめる)。</p> <p>4. 学習指導要領: 地理系科目の内容と要点</p> <p>-----</p> <p>予習: 学習指導要領の「地理総合」・「地理探求」の部分を読む。 復習: 課題を作成する(「地理総合」・「地理探求」の要点をまとめる)。</p>				

科目名	地理歴史科教育法(二)	担当教員	☆ 元田 茂充
授業内容	5. 学習指導要領:歴史系科目の内容との要点		

	予習:学習指導要領の「歴史総合」・「世界史探究」・「日本史探究」の部分を読む。		
	復習:課題を作成する(「歴史総合」・「世界史探究」・「日本史探究」の要点をまとめる)。		
	6. 学習指導案の作成:指導案作成の手順・書式、指導案の記述内容		

	予習:各種資料を駆使して学習指導案の作成方法を調べる。		
	復習:地理歴史科の学習指導案を作成する。		
	7. 教材研究の方法:教材の作成、資料の収集と扱い方、情報機器の活用		

	予習:各種資料を駆使して地理・世界史・日本史における教材研究の方法について調べる。		
	復習:授業を想定した教材(グラフ・表・地図)を作成する。		
	8. ICT教育の導入:意義・目的、効果、オンライン授業の形態		

	予習:各種資料を駆使して学校におけるICT教育の実態について調べる		
復習:課題を作成する(ICT教育の要点をまとめる)。			
9. 様々な授業形態:ICTの活用・プレゼンテーションの技能など			

予習:各種資料を駆使して授業におけるICTの活用やプレゼンテーションの技能について調べる。			
復習:パワーポイントを用いて授業を想定したスライドを作成する。			
10. 指導方法の検討:板書術、発問・質問、机間指導など			

予習:各種資料を駆使して授業における指導方法を調べる。			
復習:地理歴史科の授業を想定した板書計画を作成する。			
11. 模擬授業(1)地理:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
12. 模擬授業(2)日本史:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
13. 模擬授業(3)世界史:相互評価と講評			

予習:授業担当者は指導案を作成し、教材研究を行う。			
復習:担授業担当者以外はコメント票を完成させ、模擬授業から学んだこと整理する。			
14. 試験問題の作成:問題作成のポイント			

予習:各種資料を駆使して様々な出題形式の試験問題を収集する。			
復習:定期考査を想定した地理歴史科の試験問題を作成する。			
15. 成績評価:評価の方法・ポイント			

予習:各種資料を駆使して成績評価の方法を調べる。			
復習:これまでの授業を通して学んだことを振り返り、コメント票を作成して授業で学んだこと整理する。			

科目名	公民科教育法		担当教員	☆ 山本 雅一	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	公民科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえて公民科の指導法を探究する。				
到達目標	公民科の目標・内容を理解するとともに、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行う方法や教科指導力の基礎を身に付ける。				
授業概要	公民科の目標・内容を理解し、様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計と学習指導案を作成する。学習指導案の作成と実際の授業を検証するとともに、授業研究を通して公民科の指導法を探究する。				
評価方法・基準	期末レポート(50% 学習指導案の作成:授業形態、指導方法、授業展開など総合的に評価する。) 平常点(50% 授業への意欲、課題への取組、授業に対する積極性を重視する。)				
課題のフィードバック方法	学習指導案の作成と発表では、研究協議をするとともに、指導助言・講評を行う。コメントシートの内容や質問等は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。期間内にレポートを課し、最終授業内に講評を行う。				
履修上の注意事項等	公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて理解を深めること。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 公民編 文部科学省 東京書籍 平成30年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス 学校教育と教科の意義 ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。＜教育関連法規＞の配付資料から学校教育に関する規定を調べ、高等学校教育の目標、教育課程、教科の意義をまとめる。</p> <p>2. 高等学校学習指導要領の変遷と「公民科」 ----- [予習・復習]＜学習指導要領の変遷＞に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、学習指導要領の変遷及び公民科改定の経緯と趣旨を理解し、まとめる。</p> <p>3. 「公共」の目標・内容とその取扱い ----- [予習・復習]テキストp27～p84＜公共の目標と内容＞を読んでおく。講義内容から、新科目「公共」の目標と内容について理解するとともに、背景となる学問領域と関連させて教材研究をしておく。</p> <p>4. 「倫理」の目標・内容とその取扱い ----- [予習・復習]テキストp85～p120＜倫理の目標と内容＞を読んでおく。講義内容から、「倫理」の目標と内容について理解するとともに、背景となる学問領域と関連させて教材研究をしておく。</p>				

科目名	公民科教育法	担当教員	☆ 山本 雅一
授業内容	5. 「政治・経済」の目標・内容とその取扱い		
	[予習・復習]テキストp121～p159<政治・経済の目標と内容>を読んでおく。講義内容から、「政治・経済」の目標と内容について理解するとともに、背景となる学問領域と関連させて教材研究をしておく。		
	6. 「公共」の教材研究と指導方法		
	[予習・復習]<主権者教育><思考実験を活用する授業>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	7. 「公共」の授業づくり		
	[予習・復習]主権者教育や思考実験を活用する単元の学習指導案を作成する。(演習)		
	8. 「公共」の授業研究		
	[予習・復習]「公共」の学習指導案を発表し、教材設定と活用方法、授業の成立について研究協議するとともに、様々な指導事例と比較検討し、学んだことをまとめる。		
	9. 「倫理」の教材研究と指導方法		
	[予習・復習]<現代に生きる自己の課題>に関する配付資料を読んでおく。自己の課題について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。		
	10. 「倫理」の授業づくり		
	[予習・復習]単元「現代に生きる自己の課題」において「各種の意識調査」や「生徒へのアンケート」を教材化する学習指導案を作成する。(演習)		
	11. 「倫理」の授業研究		
	[予習・復習]「倫理」の学習指導案を発表し、各種の意識調査や生徒へのアンケートを効果的に活用する「倫理」の授業について研究協議するとともに、様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。		
	12. 「政治・経済」の教材研究と指導方法		
[予習・復習]<民主政治の基本原則>に関する配付資料を読んでおく。民主政治の基本原則と日本国憲法について、具体的な授業場면을想定した授業設計案を立てる。			
13. 「政治・経済」の授業づくり			
[予習・復習]単元「日本国憲法における基本的人権の保障」において「判例」を教材とする学習指導案を作成する。(演習)			
14. 「政治・経済」の授業研究			
[予習・復習]平等権、自由権、社会権、参政権、新しい人権の5分類から学習指導案を発表し、「判例」を効果的に活用する授業について研究協議するとともに、様々な指導事例を比較検討し、学んだことをまとめる。			
15. 授業総括			
[予習・復習]各科目の学習指導案の作成と実際の授業について振り返りをするとともに、よりよい授業づくりについて指導助言・講評を行う。			

科目名	国語科教材研究 I		担当教員	☆ 元根 俊孝	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016 年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	言語の教育及び基幹教科としての国語科教育における「よりよい授業づくり」はどう在るべきかを探究する。				
到達目標	①豊かで確かな言語生活を支える国語科の授業づくりの手法を会得する。②各教材の価値を掌握し、学びの過程と課題意識の視点を持って授業を構築・展開できるようになる。③国語科の特性に応じた情報機器及び教材の活用方法を創意工夫する姿勢・手法を体得する。				
授業概要	「国語科教育法 I」の学習成果を礎に、国語科におけるよりよい授業づくりのための教材研究の在り方を実践的に学ぶ。模擬授業を通して、授業者・学習者の立場でよりよい授業づくりのための教材研究はいかに行い、具体化していくかを実践的に学ぶ。				
評価方法・基準	授業における取り組み姿勢、課題レポート、授業における各種提出物、及び対話カードにより総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	「課題レポート、授業における各種提出物」等は必要に応じて講義中にコメント行い評価する。「対話カード」は毎回提出させ、各々にコメントを記入し、次時に返却すると共に必要に応じて講義中に講評する。				
履修上の注意事項等	シラバスに示されたように、実践・実習を伴う活動が主体となるので、積極的な受講・参加が求められる。前期開講の「国語科教育法 I」の継続履修が望ましい。使用するテキストは「国語科教育法 I」と同じである。				
テキスト	「高等学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省 東洋館出版社 平成 31 年				
参考書	随時紹介する				
授業内容	<p>1. 国語科教育の意義と授業設計・授業技術</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業の概要について理解する。講義内容を基に国語科教育の意義と使命を確認すると共に基本的な授業づくりのための技術と準備内容を確認し、整理する。</p> <p>2. 国語科学習のデザイン(1) 単元と教材</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]「国語科教育法 I」の学習成果を基に、国語科教育の学習デザインの在り方について考える。講義内容を基に各単元と教材の各特性をどのように授業づくりに活かすか、そのポイントを確認し、整理する。</p> <p>3. 国語科学習のデザイン(2) 学習指導案にかかる教材研究と教材開発 ICT 活用授業・アクティブラーニングの活用事例を参考に)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]「国語科教育法 I」の学習成果を基に、国語科教育の学習デザインの在り方、教材研究と教材開発について考える。とくに、ICT 活用授業・アクティブラーニングの活用事例を参考に、その内容・手法等を指導案にどのように反映し、授業づくりに活かすか、そのポイントを確認し、整理する。</p> <p>4. 学習指導案の作成と教材研究・評価の在り方(「現代の国語」における小説・詩歌教材)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]事前配付資料に基づき、小説・詩歌教材について素材研究・教材研究を行うと共に学習指導案を作成する。講義内容・研究協議に基づき、素材研究を活かした教材研究及び学習指導案の作成のポイント、評価の在り方について確認し、整理する。</p> <p>5. 模擬授業(「現代の国語」における小説・詩歌教材)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]本時までの講義内容を基に、提出した学習指導案を推敲し、再作成する。模擬授業及び相互評価を通して教材の特性を活かした教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点等を整理する。</p> <p>6. 模擬授業と研究協議(「現代の国語」における小説・詩歌教材)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]模擬授業を振り返り、教材の特性を活かすための授業研究の在り方・評価の在り方について整理する。授業研究・講義を通し、教材の特性を活かした教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点について整理する。</p>				

科目名	国語科教材研究 I	担当教員	☆ 元根 俊孝
授業内容	7. 学習指導案の作成と教材研究・評価の在り方(「現代の国語」における評論・論説教材 ICT 活用授業・アクティブラーニングの具体的実践を目指して)		
	----- [予習・復習]事前配付資料に基づき、評論・論説教材について素材研究・教材研究を行うと共に学習指導案を作成する。講義内容・研究協議に基づき、素材研究を活かした教材研究及び学習指導案の作成のポイント、評価の在り方について確認し、整理する。指導案作成にあつては、ICT 活用授業・アクティブラーニングを意識した学習指導案を作成する。		
	8. 模擬授業(「現代の国語」における評論・論説教材 ICT 活用授業・アクティブラーニングの具体的実践を目指して)		
	----- [予習・復習]本時までの講義内容を基に、提出した学習指導案を推敲し、ICT 活用授業・アクティブラーニングの活用をめざして再作成する。模擬授業及び相互評価を通して教材の特性や ICT 活用授業・アクティブラーニングを意図した授業のための教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点等を整理する。		
	9. 模擬授業と研究協議(「現代の国語」における評論・論説教材 ICT 活用授業・アクティブラーニングの活用事例をめざして)		
	----- [予習・復習]模擬授業を振り返り、ICT 活用授業・アクティブラーニング授業で学習効果を期待できるための授業の在り方、前提となる授業研究の在り方・評価の在り方について気付いたことを確認し、その留意点について整理する。授業研究・研究協議を振り返り、教材の特性を活かすための授業研究の在り方・評価の在り方について整理する。		
	10. 学習指導案の作成と教材研究・評価の在り方(「言語文化」における古典 随筆・評論教材)		
	----- [予習・復習]事前配付資料に基づき、古典 随筆・評論教材について素材研究・教材研究を行うと共に学習指導案を作成する。講義内容・研究協議に基づき、素材研究を活かした教材研究及び学習指導案の作成のポイント、評価の在り方について確認し、整理する。		
	11. 模擬授業(「言語文化」における古典 随筆・評論教材)		
	----- [予習・復習]本時までの講義内容を基に、提出した学習指導案を推敲し、再作成する。模擬授業及び相互評価を通して教材の特性を活かした教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点等を整理する。		
	12. 模擬授業と研究協議(「言語文化」における古典 随筆・評論教材)		
	----- [予習・復習]模擬授業を振り返り、教材の特性を活かすための授業研究の在り方・評価の在り方について整理する。授業研究・講義を通し、教材の特性を活かした教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点について整理する。		
	13. 学習指導案の作成と教材研究・評価の在り方(「言語文化」における古典 物語・詩歌教材 ICT 活用を前提とした授業づくり)		
	----- [予習・復習]事前配付資料に基づき、古典 物語・詩歌教材について素材研究・教材研究を行うと共に ICT 活用授業を前提とした学習指導案を作成する。講義内容・研究協議に基づき、素材研究を活かした教材研究及び ICT 活用授業を前提とした学習指導案の作成のポイント、評価の在り方について確認し、整理する。		
	14. 模擬授業(「言語文化」における古典 物語・詩歌教材 ICT 活用を前提とした授業づくり)		
----- [予習・復習]本時までの講義内容を基に、提出した学習指導案を推敲し、再作成する。模擬授業及び相互評価を通して教材の特性を活かし、ICT 活用を前提とした授業に向けた教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点等を整理する。			
15. 模擬授業と研究協議(「言語文化」における古典 物語・詩歌教材 ICT 活用を前提とした授業づくり)			
----- [予習・復習]模擬授業を振り返り、教材の特性を活かすための授業研究の在り方・評価の在り方について整理する。授業研究・講義を通し、教材の特性や ICT 活用授業を活かす教材研究の在り方について気付いたことを確認し、その留意点について整理する。			

科目名	国語科教材研究Ⅱ		担当教員	☆ 増田 正子	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中・高等学校国語教育の内容・方法に関わり、具体的に教材研究・授業研究を行ない、よりよい「授業作り」を実践的に探究する。				
到達目標	教材についてグループおよび個人で教材研究を行い、授業を構想し学習指導案を作成することができる。さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析ができる。				
授業概要	国語科教材研究Ⅰの応用・発展として、教材についてグループおよび個人で教材研究を行い、授業を構想し学習指導案を作成すること、さらに模擬授業とその振り返りとしての授業分析によって、よりよい授業へと改善していくことを目標とする。				
評価方法・基準	平常点(授業への積極的な参加)30% 授業中の課題(指導案作成 30%・模擬授業 40%)70% 教材研究・授業研究を行い、学習指導案を作成し模擬授業に取り組むことができるか。				
課題のフィードバック方法	授業中の発表については、担当教員がその場でコメントする。 コメントシートの内容や質問は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。 模擬授業については、担当教員が授業の振り返りでコメントし評価する。				
履修上の注意事項等	免許・資格科目なので、それにふさわしい真摯な学習態度で出席すること。 授業への積極的な参加・発言を求める。				
テキスト	プリントを配布				
参考書	中学校学習指導要領 文科省 高等学校学習指導要領 文科省				
授業内容	<p>1. ガイダンス・学習指導要領について ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業の流れを理解する。学習指導要領について理解を深めるためにノートなどにまとめる。</p> <p>2. 教材1(小説・物語教材 中学校1年 教材例「麦わら帽子」)についての教材研究(目標・方法・展開など) ----- [予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。</p> <p>3. 教材1の授業についての具体的な指導方法(発問・板書・ノート・視聴覚教材など)について ----- [予習・復習] 教材研究に基づいて、具体的な指導方法を想定する。想定された指導方法の有効性を探る。</p> <p>4. 教材2(小説・物語教材 中学校2年 教材例「夏の葬列」)についての教材研究(目標・方法・展開など) ----- [予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。</p>				

科目名	国語科教材研究Ⅱ	担当教員	☆ 増田 正子
授業内容	5. 教材2の授業についての具体的指導法(発問・板書・ノート・視聴覚教材など)と指導案作成について		
	[予習・復習] 教材研究に基づいて、具体的な指導方法を想定する。想定された指導方法の有効性を探る。		
	6. 教材3(小説・物語教材 高等学校 教材例「カンガルー日和」)についての教材研究(目標・方法・展開など)		
	[予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。		
	7. 教材3の授業についての具体的指導法(発問・板書・ノート・視聴覚教材など)と指導案作成について		
	[予習・復習] 教材研究に基づいて、具体的な指導方法を想定する。想定された指導方法の有効性を探る。		
	8. 小説・物語教材(中学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(1)		
	[予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	9. 小説・物語教材(中学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(2)		
	[予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	10. 小説・物語教材(高等学校教材 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(3)		
	[予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。		
	11. 教材4(詩歌教材 詩)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開・発問・板書・視聴覚教材など)		
	[予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。		
	12. 教材5(詩歌教材 短歌)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開・発問・板書・視聴覚教材など)		
[予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。			
13. 教材6(詩歌教材 俳句)についての教材研究と指導案作成(目標・方法・展開・発問・板書・視聴覚教材など)			
[予習・復習] 事前に配布した教材を読む。教材研究の方法を確認し、授業研究につなげる。			
14. 詩歌(詩 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(1)			
[予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。			
15. 詩歌(短歌・俳句 受講者が選んだ教材)の模擬授業と授業分析(2)授業のまとめ			
[予習・復習] 模擬授業の準備をする。模擬授業の振り返りを行う。教材研究、授業研究の方法についてまとめる。			

科目名	社会科教材研究 I		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	中学生の社会認識力を養うための教材研究				
到達目標	中学社会科が目指す目標とその学習内容を理解し、実際に社会科教材を作成し、それをもとに授業を構成・実践できる基礎力を身につける。社会科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)の授業を構成していく上で、教材をどのように選択し、研究・開発していくことが必要なのかを考察していく。社会への関心が乏しいとされる今日の生徒に、広義の社会認識力を養うことが一つの目標となる。社会科授業での ICT 活用も検討していく。				
評価方法・基準	小レポート 20%(授業内容の理解)、授業内でのプレゼンテーション・研究発表 30%(事前準備の程度と独自性を重視)と自作の学習指導案 50%(独自性と完成度を重視)。				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問・疑問については次回以降の授業で回答する。プレゼンテーション・研究発表については授業時間内に講評する。学習指導案については個別に講評する。				
履修上の注意事項等	中学校社会科の基礎学力をつけておくこと(公立高校入試レベル)。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 東洋館出版社 2018				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業の概要を理解する。</p> <p>2. 中学社会科がめざすもの</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 学習指導要領の中学校社会科の目標について通読しておく。学習後はその目標、主要内容と全体の構造を整理してノートにまとめる。</p> <p>3. 生徒の実態を踏まえた中学社会科授業の構成について</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自らの経験などをもとに、社会科に関わる現在の中学生の実態を調べて3つ以上あげておく。授業後は生徒の実態を踏まえた授業のポイントをノートのまとめる。</p> <p>4. 地理認識のあり方を考えるー地理的分野</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 地理的分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるようにノートにまとめる。</p>				

科目名	社会科教材研究 I	担当教員	中戸 義雄
授業内容	5. 歴史認識のあり方を考える－歴史的分野		
	[予習・復習] 歴史的分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるようにノートにまとめる。		
	6. 社会認識のあり方を考える－公民的分野		
	[予習・復習] 公民的分野について教科書の目次等でその概要を通読して。地理的分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるようにノートにまとめる。		
	7. 社会科教材の選択とその効果的な活用		
	[予習・復習] 自らの経験を振り返り、中学社会科での教材や情報機器の活用事例を 2 つ以上あげておく。授業後は学習内容にもとづき、機器や教材の活用法を整理し、ノートにまとめる。		
	8. 市区町村をもとにした教材作成		
	[予習・復習] 事前に自分が生徒たちに紹介したい市区町村を選んでおく。授業での考察を踏まえ、その市区町村についてどのような観点から紹介することで、実感を伴った社会科学習につながるかを考慮したうえで教材を作成する。		
	9. 作成教材をもとにしたグループワーク		
	[予習・復習] 第 8 回の内容をもとに、自分が選んだ市区町村についての教材(紹介レポート)を作成しておく。授業後はグループでのプレゼンを振り返り、自分の教材およびプレゼン方法の課題を整理しノートにまとめる。		
	10. 学習指導案の構成と授業実践		
	[予習・復習] テキストなどで実際の学習指導案の構成について 3 つ以上の例を調べておく。授業後は学習内容をもとに、学習指導案(略案)を作成する。		
	11. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(1)		
	[予習・復習] 第 10 回の学習指導案をもとに、授業内容と方法についてのプレゼンテーションの準備をする。授業後は自分の授業内容と方法およびプレゼンテーションの課題についてノートにまとめる。		
	12. 授業テーマについての個人プレゼンテーション (2)		
[予習・復習] 他の受講者によるプレゼンテーションに参加し、その長所と課題を確認してノートにまとめる。			
13. 教材にもとづいた授業方法・授業展開			
[予習・復習] プレゼンテーションでの課題を 5 つ以上あげておく。模擬授業後は教員や他の受講者からのコメントを踏まえて、授業改善のポイントをノートにまとめる。			
14. 実践研究を踏まえた授業設計について			
[予習・復習] 資料などをもとに、実践研究の実際を調べておく。授業後は学習した実践研究のポイントを整理し、それを踏まえて学習指導案を作成する。			
15. まとめ			
[予習・復習] これまでの学習内容を踏まえ、学習指導案を完成させて提出する。			

科目名	社会科教材研究Ⅱ		担当教員	大西 英人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生きる力に結びつく社会科のための教材研究				
到達目標	この時間では社会科教材研究Ⅰの内容も踏まえ、社会科授業を構成・実践できる実践力を身につけることをめざす。1時間分以上の学習指導案を完成させ、それに基づいた模擬授業を行うことが目標。				
授業概要	どのような時代の流れの中で(歴史的分野)、どんな場所で(地理的分野)、どのようななかかわりの中で(公民的分野)生きているのかを生徒自身が問うためにも、社会科は重要な科目であるといえる。こういった、いわば生きる力に結びつく社会科であるために、教材をどのように選択・開発し提示していくことが必要なのかを考察していく。社会科授業でのICT活用も検討していく。				
評価方法・基準	授業内での小レポート・模擬授業 50%(授業内容の理解度と事前準備の程度の独自性を重視)と自作の学習指導案 50%(独自性と完成度を重視)。				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問・疑問については次回以降の授業で回答する。プレゼンテーション・研究発表については授業時間内に講評する。学習指導案については個別に講評する。				
履修上の注意事項等	中学校社会科の基礎学力をつけておくこと(高校受験レベル)。時間的に可能であれば、主として中学校社会科教員を目指す受講者を中心に、教材研究にもとづいた模擬授業を積極的に行いたい。				
テキスト	中学校学習指導要領解説 社会編 文部科学省 東洋館出版社 2018				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業の概要を理解する。</p> <p>2. 教材研究の意義と目的 ----- [予習・復習] 社会科教材研究Ⅰの内容を踏まえ、教材研究の意義と目的を3つ以上あげておく。授業後は学習内容を踏まえ実践研究の動向を整理しノートにまとめる。</p> <p>3. 生きる力の再検討 ----- [予習・復習] 学習指導要領における生きる力の位置づけをノートにまとめる。授業後はこの概念が今日の学校教育実践に与える意味を整理しノートにまとめる。</p> <p>4. 生きる力と社会科ー地理的分野 ----- [予習・復習] 学習指導要領で地理的分野の目標を通読しておく。授業後は地理的分野の学習が生きる力にどうつながっていくかを整理しノートにまとめる。</p>				

科目名	社会科教材研究 II	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 生きる力と社会科－歴史的分野		
	[予習・復習] 学習指導要領で歴史的分野の目標を通読しておく。授業後は歴史的分野の学習が生きる力にどうつながっていくかを整理しノートにまとめる。		
	6. 生きる力と社会科－公民的分野		
	[予習・復習] 学習指導要領で公民的分野の目標を通読しておく。授業後は公民的分野の学習が生きる力にどうつながっていくかを整理しノートにまとめる。		
	7. 地理的分野教材の検討		
	[予習・復習] 中学の地理学習における特徴的な教材を調べておく。授業後は学習内容を踏まえ、新たな教材の検討・活用について整理し、ノートにまとめる。		
	8. 歴史的分野教材の検討		
	[予習・復習] 中学の歴史学習における特徴的な教材を調べておく。授業後は学習内容を踏まえ、新たな教材の検討・活用について整理し、ノートにまとめる。		
	9. 公民的分野教材の検討		
	[予習・復習] 中学の公民学習における特徴的な教材を調べておく。授業後は学習内容を踏まえ、新たな教材の検討・活用について整理し、ノートにまとめる。		
	10. 学習指導案の検討		
	[予習・復習] あらかじめ中学社会科 1 時間分の学習指導案を作成しておく。授業内での検討をもとに、自作学習指導案の問題点・課題を整理し、修正を加える。		
	11. 選択した社会科テーマについての模擬授業(1)地理的分野		
	[予習・復習] 教材の活用、主発問などについて十分な検討を加えながら準備をする。模擬授業実施後は問題点を確認し、今後に向けて課題を整理しノートにまとめる。		
	12. 選択した社会科テーマについての模擬授業(2)歴史的分野		
[予習・復習] 教材の活用、主発問などについて十分な検討を加えながら準備をする。模擬授業実施後は問題点を確認し、今後に向けて課題を整理しノートにまとめる。			
13. 選択した社会科テーマについての模擬授業(3)公民的分野			
[予習・復習] 教材の活用、主発問などについて十分な検討を加えながら準備をする。模擬授業実施後は問題点を確認し、今後に向けて課題を整理しノートにまとめる。			
14. 教材にもとづいた授業方法・授業展開			
[予習・復習] 模擬授業で実施した授業方法の課題を 3 つ以上あげておく。授業後は学習内容も踏まえ、他の方法や展開についても検討しノートにまとめる。			
15. まとめ			
[予習・復習] 本授業での学習内容、模擬授業等を振りノートにまとめる。中学社会科 1 時間分の学習指導案を完成させて提出する。			

科目名	地理歴史科教材研究		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	地理歴史科が目指す目標とその内容を理解し、生徒・教師がともに興味・関心をもちうる教材研究、授業設計を行う。				
到達目標	地理歴史科が目指す目標とその学習内容を理解し、実際に地理歴史教材を作成し、それをもとに授業を構成・実践できる基礎力を身につける。地理歴史科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	地理・歴史分野への興味・関心を高め、地理的視点、歴史的視点を獲得していくための教材のあり方を考える。その際に、教師自身が興味・関心をもちうるものであることが一つの重要な条件となるだろう。高等学校で実際に地理・歴史科の授業ができる学習指導案を作成することが最終課題である。地理・歴史科授業でのICT活用も検討していく。				
評価方法・基準	小レポート20%(授業内容の理解度)授業内でのプレゼンテーション・研究発表30%(事前準備の程度と独自性を重視)と自作の学習指導案50%(独自性と完成度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問・疑問については次回以降の授業で回答する。プレゼンテーション・研究発表については授業時間内に講評する。学習指導案については個別に講評する。				
履修上の注意事項等	高校地歴の基礎学力をつけておくこと(大学入学共通テストレベル)。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 文部科学省 東洋館出版社 2019				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ----- [予習・復習] シラバスを読み、授業の概要を理解する。</p> <p>2. 地理歴史科がめざすもの ----- [予習・復習] 学習指導要領要領の地理歴史科の目標について通読しておく。授業後はその目標、主な内容と全体の構造を整理しノートにまとめる。</p> <p>3. 地理的視点について(1)ー自然地理学分野 ----- [予習・復習] 自然地理学分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるように整理しまとめておく。</p> <p>4. 地理的視点について(2)ー人文地理学分野 ----- [予習・復習] 人文地理学分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるように整理しノートにまとめる。</p>				

科目名	地理歴史科教材研究	担当教員	中戸 義雄
授業内容	5. 歴史的視点について(1)ー日本史分野 -----		
	[予習・復習] 日本史分野について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるように整理しノートにまとめる。		
	6. 歴史的視点について(2)ー世界史分野 -----		
	[予習・復習] 世界史について教科書の目次等でその内容を通読しておく。授業後はその学習内容と評価の観点を理解し、今後の教材研究に役立てるように整理しノートにまとめる。		
	7. 生徒の実態を踏まえた地理歴史科授業の構成について -----		
	[予習・復習] 自らの経験などをもとに、地歴学習に関わる現在の高校生の実態を調べてその特徴・傾向を3つ以上あげておく。授業後は生徒の実態を踏まえた地理歴史科授業の課題・ポイントを整理し、ノートにまとめる。		
	8. 地理歴史科教材の選択とその効果的な活用 -----		
	[予習・復習] 自らの経験を振り返り、地歴学習での教材や情報機器の活用事例を2つ以上上げておく。授業後は学習内容にもとづき、機器や教材の活用法を理解し、ノートに整理しておく。		
	9. 博物館・美術館等をもとにした教材作成 -----		
	[予習・復習] 事前に自分が生徒たちに紹介したい博物館を選んでおく。授業での考察を踏まえ、その博物館についてどのような観点から紹介することで、実感を伴った地歴学習につながるかを考慮したうえで教材の作成準備をする。		
	10. 作成教材をもとにしたグループワーク -----		
	[予習・復習] 第9回の内容をもとに、自分が選んだ博物館についての教材(紹介レポート)を作成しておく。授業後はグループでのプレゼンを振り返り、自分の教材およびプレゼン方法の課題をノートにまとめる。		
	11. 学習指導案の構成と授業実践 -----		
	[予習・復習] テキストなどで実際の学習指導案の構成に3つ以上調べておく。授業後は学習内容をもとに、学習指導案(略案)を作成する。		
	12. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(1) -----		
[予習・復習] 第11回の学習指導案をもとに、授業内容と方法についてのプレゼンテーションの準備をする。授業後は自分の授業内容と方法およびプレゼンテーションの課題について整理しノートにまとめる。			
13. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(2) -----			
[予習・復習] 他の受講者によるプレゼンテーションに参加し、その課題を確認しノートにまとめる。			
14. 教材にもとづいた授業方法・授業展開 -----			
[予習・復習] 事前にプレゼンテーションでの課題を5つ以上上げておく。模擬授業後は教員や他の受講者からのコメントを踏まえて、授業改善のポイントを整理しノートにまとめる。			
15. 実践研究を踏まえた授業設計について -----			
[予習・復習] 資料などをもとに、実践研究の実例を2つ以上調べておく。学習内容を踏まえ、学習指導案を完成させて提出する。			

科目名	公民科教材研究			担当教員	☆ 山本 雅一
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	公民科の教材研究・教材開発の基礎的な方法論を踏まえて、豊かで深い授業づくりを探究する。				
到達目標	公民科の教材研究・教材開発の基礎的な方法を理解し、教材設定と教材の効果的な活用、及び豊かで深い授業づくりの方法を身に付ける。				
授業概要	公民科の目標を達成するための教材研究や教材開発の基礎的な方法を理解し、教材設定と教材の効果的な活用方法を探究するとともに、豊かで深い授業づくりや指導事例研究を行う。				
評価方法・基準	期末レポート(50% 授業設計案:教材研究と教材開発、教材設定と教材活用など総合的に評価する。) 平常点(50% 授業への意欲、課題への取組、発表等、授業に対する積極性を重視する。)				
課題のフィードバック方法	授業設計案の発表では、研究協議とともに、指導助言・講評を行う。コメントシートの内容や質問等は、次回以降の授業に反映し、適宜紹介していく。期間内にレポートを課し、最終授業内で講評を行う。				
履修上の注意事項等	公民科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させて教材研究をすること。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 公民編 文部科学省 東京書籍 平成30年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス 「公民科」の教材研究 ----- [予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解をする。講義内容に基づいて、教科指導における教材の意義を確認し、整理する。</p> <p>2. 「公民科」教材研究の方法 ----- [予習・復習]<教材研究の方法>に関する配付資料を読んでおく。講義内容に基づいて、教材研究の方法の基礎を理解し、整理する。</p> <p>3. 「公共」「政治・経済」政治分野の教材研究(1)教科書教材の分析 ----- [予習・復習]同単元の教科書教材を比較検討しておく。教科書本文、写真、グラフ、図解等の教材の構成や特色を分析し、その教材の効果的な活用方法を考え、まとめる。</p> <p>4. 「公共」「政治・経済」政治分野の教材研究(2)教科書教材の研究 ----- [予習・復習]教科書から知識や概念を抽出し、教科書に掲載された様々な事例から、教科書教材を最大限活用したり精選したりして具体的な授業設計を考える。</p>				

科目名	公民科教材研究	担当教員	☆ 山本 雅一
授業内容	<p>5. 「公共」「政治・経済」政治分野の教材研究(3)教科書教材以外の教材活用</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<教材開発>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、教科書教材以外の教材探しとストックの方法、及びその効果的な教材活用を考え、まとめる。</p> <p>6. 「公共」「政治・経済」経済分野の教材研究 ～マイクロ、マクロ、実験経済～</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]「経済分野」の教科書教材を比較研究しておく。講義内容から、マイクロ経済、マクロ経済、実験経済の手法を研究するとともに、その手法を活用した授業設計を考える。</p> <p>7. 「倫理」哲学・宗教分野の教材研究 ～先哲の言行・原典資料の活用～</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<哲学・宗教の原典資料>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、先哲の言行・原典資料を活用し、先哲の人間観、世界観を手掛かりとした授業設計を考える。</p> <p>8. 「公共」哲学・宗教分野の教材研究 ～思考実験の活用～</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<思考実験>に関する配付資料を読んでおく。講義内容から、人間の在り方生き方を考察するため、思考実験を活用した授業設計を考える。</p> <p>9. 「公民科」各科目の授業設計案の作成</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]各科目の目標を達成するための教材設定と教材活用について研究する。教科書教材、教科書教材以外の教材、原典資料、思考実験等を活用した授業設計案を作成する。</p> <p>10. 「公民科」の教材活用と授業研究</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]教科書教材、教科書教材以外の教材、原典資料、思考実験等を活用した授業設計案の発表を行う。公民科における教材設定と教材活用をテーマに授業の研究協議を行うとともに、講評を行う。</p> <p>11. 「公民科」における専門家・関係諸機関との連携授業</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<公民科における連携授業>に関する配付資料を読んでおく。専門家や関係諸機関の授業研究をするとともに、専門家や関係諸機関の教材資料の活用を考え、まとめる。</p> <p>12. 「公民科」における補完教材を活用した授業設計</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<図解・表解を活用した補完教材>に関する配付資料を読んでおく。公民科の知識・概念・理論を具体的かつ可視的に理解する図解・表解の活用を考え、まとめる。</p> <p>13. 「公民科」における思考ツールを活用した授業設計</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<思考ツールの基礎>に関する配付資料を読んでおく。公民科の学習において、課題追究と課題解決の学習に効果的な思考ツールの活用を考え、図解、思考ツールを活用したワークシートの作成をする。</p> <p>14. 「公民科」における哲学的対話の手法を活用した授業設計</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]<哲学的対話>に関する配付資料を読んでおく。公民科において哲学的対話の手法を活用し、対話的で深い学びを探究する授業設計を行う。</p> <p>15. 授業設計案の発表と授業研究・授業総括</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]図解・思考ツール・哲学的対話を活用した授業設計案を発表する。公民科における教材設定と教材活用について研究協議をするとともに、講評を行う。また、これまでの授業を振り返り総括を行う。</p>		

科目名	道徳教育論(一)		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	道徳教育実践のための原理的・実践的考察				
到達目標	道徳の意義や原理を踏まえ、道徳教育の柱となる道徳科の目標や内容や指導計画などを理解する。これらをもとに、児童生徒が自らの生き方を考えられる道徳教育・道徳授業を構成・実践できる基礎力を身につけることをめざす。道徳科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	「道徳的」ということは堅苦しく融通の利かないイメージとしてとらえられることが多い。しかし道徳は自分自身、他者そして社会などと自分とのかかわりのあり方をとらえたものであり、その点からも動的であることが理解される。本授業では、まず道徳の本質やそのあり方を理解し、学校教育における道徳教育が目指すものを考察していく。そのうえで、学校の教育活動全体を通して実践される必要のある道徳教育のあり方を多面的に考察し、その実践への基礎を身につけていく。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 30%(授業内容の理解度)、プレゼンテーション・研究発表 20%(事前の準備と独自性を重視)と自作の学習指導案 50%(独自性と完成度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートの主な質問・疑問については次回以降の授業で紹介し、必要に応じて回答する。プレゼンテーションについては担当教員がコメントし評価する。学習指導案については個別に講評する。				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的な参加を求める。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	道徳教育の可能性 中戸義雄他編 ナカニシヤ出版 2005 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 文部科学省 教育出版 2018				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業概要について理解をする。</p> <p>2. 道徳教育とは何か</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 小中学校時代に自分が経験した道徳教育(道徳授業)の実例について3つ以上あげておく。授業を踏まえたうえでその問題点、課題をノートにまとめる。</p> <p>3. 道徳教育の現状</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめテキスト第1章を通読しておく。授業での考察を踏まえ、道徳教育の現状と課題をノートにまとめる。</p> <p>4. 道徳と倫理</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめテキスト第2章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳と倫理の関係性についてノートにまとめる。</p>				

科目名	道徳教育論(一)	担当教員	中戸 義雄
授業内容	5. 道徳教育の歴史		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 3 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、わが国の道徳教育の歴史の流れをノートにまとめる。		
	6. 学習指導要領と道徳教育		
	[予習・復習] 学習指導要領に示された道徳教育の概要を通読しておく。学習内容を踏まえ、そこに示されている人間観について理解しノートにまとめる。		
	7. 道徳性の発達－ピアジェ、コールバーグ		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 4 章を通読しておく。学習内容を踏まえたうえで道徳性の発達のあり方についてノートにまとめておく。		
	8. モラルジレンマとは		
	[予習・復習] 配布された資料を通読しておく。学習内容を踏まえ、児童生徒の思考に働きかける教材のあり方、課題をノートのまとめる。		
	9. 道徳教育と生徒指導		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 13 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳教育と生徒指導・進路指導との関係のあり方をノートにまとめる。		
	10. 道徳の哲学的考察		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 5 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳的価値判断、道徳的相対主義のあり方についてノートにまとめる。		
	11. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(1)準備の仕方		
	[予習・復習] 自らが取り上げる道徳授業のテーマを選んでおく。そのテーマについてのプレゼンテーションの準備をする。		
	12. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(2)工夫の仕方		
[予習・復習] 道徳授業テーマのプレゼンテーションをより効果的に行うための工夫を検討しておく。プレゼンテーションの実施を踏まえて今後の課題をノートにまとめる。			
13. 興味・関心がもてる教材のあり方とは			
[予習・復習] あらかじめテキスト第 15、16 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、児童生徒が関心を持つことができる道徳教材のあり方を検討し、ノートにまとめる。			
14. 教材にもとづいた道徳教育の進め方			
[予習・復習] 自分が設定した授業テーマにかかわる教材を選んでおく。その効果的な利用方法についてノートにまとめる。			
15. まとめ			
[予習・復習] 本授業のさまざまな考察やプレゼンテーションをもとに、自らが実施する道徳授業の学習指導案を完成させて提出する。			

科目名	道徳教育論(二)		担当教員	中戸 義雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	道徳教育実践のための原理的・実践的考察				
到達目標	道徳の意義や原理を踏まえ、道徳教育の柱となる道徳科の目標や内容や指導計画などを理解する。これらをもとに、児童生徒が自らの生き方を考えられる道徳教育・道徳授業を構成・実践できる基礎力を身につけることをめざす。道徳科の学習指導案を作成し、それに基づいた授業を行えることが目標。				
授業概要	「道徳的」ということは堅苦しく融通の利かないイメージとしてとらえられることが多い。しかし道徳は自分自身、他者そして社会などと自分とのかかわりのあり方をとらえたものであり、その点からも動的であることが理解される。本授業では、まず道徳の本質やそのあり方を理解し、学校教育における道徳教育が目指すものを考察していく。そのうえで、学校の教育活動全体を通して実践される必要のある道徳教育のあり方を多面的に考察し、その実践への基礎を身に付けていく。				
評価方法・基準	授業中の小レポート 30%(授業内容の理解度)、プレゼンテーション・研究発表 20%(事前の準備と独自性を重視)と自作の学習指導案 50%(独自性と完成度を重視)				
課題のフィードバック方法	小レポートの主な質問・疑問については次回以降の授業で紹介し、必要に応じて回答する。プレゼンテーションについては担当教員がコメントし評価する。学習指導案については個別に講評する。				
履修上の注意事項等	出席することは当然の前提条件。加えて積極的な参加を求める。プレゼンテーションに参加しない者は単位認定を行わない。				
テキスト	道徳教育の可能性 中戸義雄他編 ナカニシヤ出版 2005 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 文部科学省 教育出版 2018				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業概要について理解をする。</p> <p>2. 道徳教育とは何か</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 小中学校時代に自分が経験した道徳教育(道徳授業)の実例について3つ以上あげておく。授業を踏まえたうえでその問題点、課題をノートにまとめる。</p> <p>3. 道徳教育の現状</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめテキスト第1章を通読しておく。授業での考察を踏まえ、道徳教育の現状と課題をノートにまとめる。</p> <p>4. 道徳と倫理</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] あらかじめテキスト第2章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳と倫理の関係性についてノートにまとめる。</p>				

科目名	道徳教育論(二)	担当教員	中戸 義雄
授業内容	5. 道徳教育の歴史		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 3 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、わが国の道徳教育の歴史の流れをノートにまとめる。		
	6. 学習指導要領と道徳教育		
	[予習・復習] 学習指導要領に示された道徳教育の概要を通読しておく。学習内容を踏まえ、そこに示されている人間観について理解しノートにまとめる。		
	7. 道徳性の発達－ピアジェ、コールバーグ		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 4 章を通読しておく。学習内容を踏まえたうえで道徳性の発達のあり方についてノートにまとめておく。		
	8. モラルジレンマとは		
	[予習・復習] 配布された資料を通読しておく。学習内容を踏まえ、児童生徒の思考に働きかける教材のあり方、課題をノートのまとめる。		
	9. 道徳教育と生徒指導		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 13 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳教育と生徒指導・進路指導との関係のあり方をノートにまとめる。		
	10. 道徳の哲学的考察		
	[予習・復習] あらかじめテキスト第 5 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、道徳的価値判断、道徳的相対主義のあり方についてノートにまとめる。		
	11. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(1)準備の仕方		
	[予習・復習] 自らが取り上げる道徳授業のテーマを選んでおく。そのテーマについてのプレゼンテーションの準備をする。		
	12. 授業テーマについての個人プレゼンテーション(2)工夫の仕方		
[予習・復習] 道徳授業テーマのプレゼンテーションをより効果的に行うための工夫を検討しておく。プレゼンテーションの実施を踏まえて今後の課題をノートにまとめる。			
13. 興味・関心がもてる教材のあり方とは			
[予習・復習] あらかじめテキスト第 15、16 章を通読しておく。学習内容を踏まえ、児童生徒が関心を持つことができる道徳教材のあり方を検討し、ノートにまとめる。			
14. 教材にもとづいた道徳教育の進め方			
[予習・復習] 自分が設定した授業テーマにかかわる教材を選んでおく。その効果的な利用方法についてノートにまとめる。			
15. まとめ			
[予習・復習] 本授業のさまざまな考察やプレゼンテーションをもとに、自らが実施する道徳授業の学習指導案を完成させて提出する。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (一)		担当教員	大西 英人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロ マポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間 数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間 は自分のペースを考え、各自で判断の上確保 すること)	
テーマ	「望ましい集団活動を通して」という方法原理を軸にしなが、特別活動のあるべき姿とその指導 法、また各教科学習及び教育活動で育まれる見方・考え方を総合的に活用して実社会を生きる力 や知識・技能を獲得するための指導法を探究する。				
到達目標	「特別活動」「総合的な学習の時間」の目標を達成する指導理論と実践の基礎を身につける。				
授業概要	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の基本的な知識を得ると共に、各々の教育活動の指導 で果たす教員の役割などについて理解する。授業では、学習指導要領の解説に基づき、理論と実 践(模擬授業)を展開するとともに、この教育活動の性質を踏まえ、模擬授業においては、グルー プワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基 準	課題レポート並びにホームルーム活動指導案の作成等により、考察力、表現力等総合的に評価 する。				
課題のフィード バック方法	課題レポート並びにホームルーム活動指導案の作成にコメント等を行い評価する。				
履修上の 注意事項等	特になし				
テキスト	中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東山書房 平成29年 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 文部科学省 東山書房 平成29年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス(学校教育における「特別活動」「総合的な学習の時間」)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。講義内容に基づき教育における「特別活 動」「総合的な学習の時間」の位置づけを確認し、整理する。</p> <p>2. 学習指導要領と「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配付資料及びテキストを基に、「特別活動」「総合的な学習の時間」の設置経緯を考 える。講義内容に基づき、各々の教育活動の変遷の背景、設置の趣旨やねらいについて確認し、整理 する。</p> <p>3. 「特別活動」の特質と目標及び教育的意義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキストを読み、自己の経験をふり返り、具体的な「特別活動」「総合的な学習の時間」か ら学んだことを考える。教育課程に位置づけられた各々の教育活動の特質と目標及び教育的意義を 確認し、整理する。</p> <p>4. 「特別活動」と教育課程(各教科、道徳)及び生徒指導等との関係</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の経験をふり返り、「特別活動」と他の教育活動との関係性について考える。講義内 容に基づき、教育課程内の「特別活動」の位置づけと生徒指導の関連性について確認し、整理する。</p>				

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (一)	担当教員	大西 英人
授業内容	<p>5. 「総合的な学習の時間」の特質と目標及び教育的意義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキストを読み、自己の経験をふり返り、具体的な「総合的な学習の時間」から学んだことを考える。教育課程に位置づけられた教育活動の特質と目標及び教育的意義を確認し、整理する。</p> <p>6. 「特別活動」「総合的な学習の時間」における「学校力」「教師力」</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の経験を基に、指導者の立場から「特別活動」「総合的な学習の時間」を実施する場合の要件等について考える。講義内容に基づき、各々の教育活動に求められる「教師力」「学校力」についてレポートを作成する。</p> <p>7. 「特別活動」の内容(1)ホームルーム活動</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配布した事例(ホームルーム活動)を基に、具体的指導のポイントを考える。講義や演習から、教育活動の基本となるホームルーム活動の在り方、留意点について確認し、整理する。</p> <p>8. 特別活動の内容(2)生徒会活動と学校行事</p> <p>-----]</p> <p>[予習・復習] 事前配布した事例(生徒会活動・学校行事)を基に、具体的指導のポイントを考える。講義や演習から、生徒会活動・学校行事のねらい、実施上の工夫、留意点等について確認し、整理する。</p> <p>9. 特別活動の内容の取り扱いと評価</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 7・8 時限目の学びをふまえ、特別活動の在り方、留意点を確認する。講義と演習の内容に基づき、特別活動の評価の在り方についてレポートを作成する。</p> <p>10. 「特別活動」(ホームルーム活動)等の指導案の作成(演習)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配付資料に基づき、ホームルーム活動及び学校行事の指導案を作成する。講義とグループワークを通して、作成した各指導案の指導の在り方を整理し、実施上の工夫のポイントを確認する。</p> <p>11. 「特別活動」(ホームルーム活動)等の指導案に基づく指導(模擬授業)及び事例研究</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 模擬授業に向け、前時の学びの視点を加味して指導案を改善する。模擬授業と授業研究に即してホームルーム活動の在り方等を整理し、評価ポイントを確認する。ふり返りシートを作成する。</p> <p>12. 「総合的な学習の時間」領域と内容の取り扱い及び評価</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 5・6 時限目の学びをふまえ、「総合的な学習の時間」の在り方、留意点を確認する。講義と演習の内容に基づき、「総合的な学習の時間」の評価の在り方について考察する。</p> <p>13. 「総合的な学習の時間」の指導案の作成(演習)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 事前配付資料に基づき、「総合的な学習の時間」の指導案を作成する。講義とグループワークを通して、作成した各指導案の指導の在り方を整理し、実施上の工夫のポイントを確認する。</p> <p>14. 「総合的な学習の時間」の指導案に基づく指導(模擬授業)及び事例研究</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 模擬授業に向け、前時の学びの視点を加味して指導案を改善する。模擬授業と授業研究に即して「総合的な学習の時間」の在り方等を整理し、評価ポイントを確認する。ふり返りシートを作成する。</p> <p>15. 「特別活動」「総合的な学習の時間」の指導法の総括</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] これまでの講義内容をふり返り、確かな「特別活動」「総合的な学習の時間」の在り方について確認し、整理する。学習到達度確認に基づき、教育課程上の位置づけを確認すると共に具体的な実施に向けてポイントを確認し、整理する。</p>		

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (二)		担当教員	☆ 山本 雅一	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロ マポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間 数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間 は自分のペースを考え、各自で判断の上確保 すること)	
テーマ	「望ましい集団活動を通して」という方法原理を軸にしなが、特別活動のあるべき姿とその指導 法、また各教科学習及び教育活動で育まれる見方・考え方を総合的に活用して実社会で生きる力 や知識・技能を獲得するための指導法を探究する。				
到達目標	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の目標を達成する指導理論と実践の基礎を身に付ける。				
授業概要	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の基本的な知識を得るとともに、各々の教育活動の指導 で果たす教員の役割などについて理解する。授業では、学習指導要領の解説に基づき、理論と実 践(演習・事例研究等)を展開するとともに、その性質を踏まえて演習を盛り込み、学生の発表・質 疑を適宜取り入れる。				
評価方法・基 準	学習到達度確認(50%)、授業中の課題発表、各指導案の作成等(50%)により総合的に評価す る。				
課題のフィード バック方法	期間内に学習到達度確認を実施し、最終講義内で講評を行う。授業中の各指導案の作成、課題 レポート等は必要に応じて講義中にコメントする。				
履修上の 注意事項等	「特別活動」「総合的な学習の時間」は、講義において指導法の基礎を理解するとともに、具体的 な指導案の作成及び実践演習等を取り入れるので、積極的・能動的に臨むこと。				
テキスト	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 東京書籍 平成30年 高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間 文部科学省 学校図書 平成30年				
参考書					
授業内容	<p>1. ガイダンス(学校教育における「特別活動」「総合的な学習の時間」)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]シラバスを読み、授業内容について理解する。講義内容から、教育における「特別活動」 「総合的な学習の時間」の位置付けを確認し、整理する。</p> <p>2. 学習指導要領と「特別活動」「総合的な学習の時間」の変遷</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]事前配付資料及びテキストを基に、「特別活動」「総合的な学習の時間」の設置経緯を考え る。講義内容に基づき、各々の教育活動の変遷の背景、設置の趣旨やねらいについて確認し、整理す る。</p> <p>3. 「特別活動」の特質と目標及び教育的意義</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]テキストを読み、自己の経験を振り返り、具体的な「特別活動」から学んだことを考える。教 育課程に位置付けられた特別活動の特質と目標及び教育的意義を確認し、整理する。</p> <p>4. 「特別活動」と教育課程(各教科、道徳)及び生徒指導等との関連</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習]自己の経験を振り返り、「特別活動」と他の教育活動との関連性について考える。講義内 容から、教育課程内の「特別活動」の位置付けと生徒指導の関連性について確認し、整理する。</p>				

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (二)	担当教員	☆ 山本 雅一
授業内容	5. 「総合的な学習の時間」の特質と目標及び教育的意義 -----		
	[予習・復習]テキストを読み、自己の経験を振り返り、具体的な「総合的な学習の時間」から学んだことを考える。教育課程に位置付けられた教育活動の特質と目標及び教育的意義を確認し、整理する。		
	6. 「特別活動」「総合的な学習の時間」における「学校力」「教師力」 -----		
	[予習・復習]自己の経験を基に、指導者の立場から「特別活動」「総合的な学習の時間」を実施する場合の要件等について考える。講義内容に基づき、各々の教育活動に求められる「学校力」「教師力」についてレポートを作成する。		
	7. 「特別活動」の内容(1) ホームルーム活動 -----		
	[予習・復習]テキストを読み、ホームルーム活動の目標と内容を理解する。講義内容から、学校におけるホームルームの位置付けと役割、ホームルーム活動を通して身に付ける能力を確認し、整理する。		
	8. ホームルーム活動指導案の作成(演習) -----		
	[予習・復習]事前配付資料<ホームルーム活動指導案の作成>を読んでおく。講義内容から、3年間を見通したホームルームの年間指導計画を立てるとともに、個別の活動指導案を作成する。		
	9. ホームルーム活動の指導事例研究 -----		
	[予習・復習]個別のホームルーム活動指導案を検証する。各種の指導事例を参考にホームルーム活動の在り方と指導の工夫を確認し、整理する。		
	10. 「特別活動」の内容(2) 生徒会活動と学校行事 -----		
	[予習・復習]テキストを読み、生徒会活動と学校行事の目標・内容を理解する。講義内容に基づいて、自己の経験を振り返り、生徒会活動と学校行事の活動内容を再確認し、その教育的意義を整理する。		
	11. 生徒会活動と学校行事の企画案の作成(演習) -----		
	[予習・復習]事前配付資料<生徒会活動・学校行事の企画案作成>を読んでおく。講義内容から、学校文化を創る特別活動の意義を理解し、生徒会活動、または学校行事の個別企画案を作成する。		
	12. 生徒会活動と学校行事の指導事例研究 -----		
[予習・復習]生徒会活動、学校行事の個別企画案について検証する。各種の指導事例を参考に生徒会活動、学校行事の在り方や企画内容、指導の工夫を確認し、整理する。			
13. 「総合的な学習の時間」領域と内容の取扱い -----			
[予習・復習]第5. 6時限目の学びを踏まえ、「総合的な学習の時間」の在り方、留意点を確認する。講義内容に基づいて、探究的な学習の指導のポイントを確認し、整理する。			
14. 「総合的な学習の時間」の指導案の作成(演習) -----			
[予習・復習]事前配付資料に基づき、「総合的な学習の時間」の指導案を作成する。講義を通して、作成した各指導案の指導の在り方を整理し、実施上の工夫のポイントを確認する。			
15. 「特別活動」「総合的な学習の時間」の指導法の総括 -----			
[予習・復習]これまでの講義内容を振り返り、確かな「特別活動」「総合的な学習の時間」の在り方について確認する。学習到達度確認に基づき、教育課程上の位置付けを確認するとともに、具体的な実施に向けてポイントを確認し、整理する。			

科目名	教育方法・メディア論(一)		担当教員	☆ 笠置 慎一	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	確かな学力向上のための授業のデザインとそのための教育メディアの活用				
到達目標	授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、各種メディアを学習活動に有効に活用できるスキルを身につける。				
授業概要	社会の国際化・情報化が一層進むなかで、学校教育においても、生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、それぞれの個性を生かした主体的な取組が求められている。本講座では、授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、電子黒板をはじめ各種情報メディアを学習活動に生かすスキルを身につけ、生徒の生きる力を育む授業の方法を考える。				
評価方法・基準	毎回の授業のテキストに示した課題や探究のレポートの提出及び内容で評価する。詳細は、講義連絡で説明する。				
課題のフィードバック方法	レポートに対話コメント欄を設け、授業の内容や質問・疑問を受け付ける。課題・探究のレポート内容から、留意点をテキストに追加して、反映する。				
履修上の注意事項等	毎回講義レジュメ及び参考資料を配信する。テキスト内に示す参考サイトを各自探究すること。				
テキスト	特になし				
参考書	中学校学習指導要領解説 国語編・社会編 文部科学省 教育出版 高等学校学習指導要領解説 国語編・地理歴史編・公民編・情報編 文部科学省 教育出版				
授業内容	1. ガイダンス・教育方法の概論 ----- [予習・復習] 「教育」とはなにか? 考えてみる。 2. 授業の構造と働き ----- [予習・復習] 発問等、教員の生徒への働きかけの必要性を考えてみる。 3. 授業の方法による学習指導の形態 ----- [予習・復習] 確かな学力を育む授業とはどのようなものか考えてみる。 4. 学習指導における教育メディアの活用 ----- [予習・復習] 指導の手段としてのいろいろなメディアを調べる。				

科目名	教育方法・メディア論(一)	担当教員	☆ 笠置 慎一
授業内容	<p>5. 授業の設計(1) 授業の目標・ねらい等 ----- [予習・復習] 学習指導要領(解説)に示されている教科の目標を確認する。</p> <p>6. 授業の設計(2) 学習指導案 ----- [予習・復習] 学習指導案に盛り込まれている授業設計の要素を整理し、その必要性を再確認する。</p> <p>7. 授業の展開 ----- [予習・復習] 自分が受けてきた授業で、「印象に残っている授業」とはどのような展開のものであつてか検証してみる。</p> <p>8. 授業の評価 ----- [予習・復習] 「目標に準拠した評価の在り方」、「指導と評価の一体化」について考えてみる。</p> <p>9. 教育メディアの特性(1) 活字・音声 ----- [予習・復習] 学習の深化を図るための「抽象化と具体化」の必要性を確認する。</p> <p>10. 教育メディアの特性(2) 映像 ----- [予習・復習] 映像による教材化の有効性と問題点を検証する。</p> <p>11. 教育メディアの特性(3) コンピュータ(ICT) ----- [予習・復習] PCの機能の有効性と問題点を検証する。</p> <p>12. 教育メディアの活用における留意点 ----- [予習・復習] いろいろなメディアの光と陰を知り、授業での課題を検証する。</p> <p>13. 映像の授業への活用(演習) 教材映像や録画映像 ----- [予習・復習] 活用事例を情報収集する。</p> <p>14. コンピュータ(ICT)の授業への活用(演習) 電子黒板・デジタル教科書等 ----- [予習・復習] 活用事例を情報収集する。</p> <p>15. 講義全体のまとめ ----- [予習・復習] 確かな学力を育む授業とはなにか、新学習指導要領に求める学力を育む授業の工夫はなにか、整理する。</p>		

科目名	教育方法・メディア論(二)		担当教員	☆ 笠置 慎一	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	確かな学力向上のための授業のデザインとそのための教育メディアの活用				
到達目標	授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、各種メディアを学習活動に有効に活用できるスキルを身につける。				
授業概要	社会の国際化・情報化が一層進むなかで、学校教育においても、生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、それぞれの個性を生かした主体的な取組が求められている。本講座では、授業をデザインするために必要な要素を理解するとともに、電子黒板をはじめ各種情報メディアを学習活動に生かすスキルを身につけ、生徒の生きる力を育む授業の方法を考える。				
評価方法・基準	毎回の授業のテキストに示した課題や探究のレポートの提出及び内容で評価する。詳細は、講義連絡で説明する。				
課題のフィードバック方法	レポートに対話コメント欄を設け、授業の内容や質問・疑問を受け付ける。課題・探究のレポート内容から、留意点をテキストに追加して、反映する。				
履修上の注意事項等	毎回講義レジュメ及び参考資料を配信する。テキスト内に示す参考サイトを各自探究すること。				
テキスト	特になし				
参考書	中学校学習指導要領解説 国語編・社会編 文部科学省 教育出版 高等学校学習指導要領解説 国語編・地理歴史編・公民編・情報編 文部科学省 教育出版				
授業内容	<p>1. ガイダンス・教育方法の概論</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 「教育」とはなにか? 考えてみる。</p> <p>2. 授業の構造と働き</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 発問等、教員の生徒への働きかけの必要性を考えてみる。</p> <p>3. 授業の方法による学習指導の形態</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 確かな学力を育む授業とはどのようなものか考えてみる。</p> <p>4. 学習指導における教育メディアの活用</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 指導の手段としてのいろいろなメディアを調べる。</p>				

科目名	教育方法・メディア論(二)	担当教員	☆ 笠置 慎一
授業内容	<p>5. 授業の設計(1) 授業の目標・ねらい等 ----- [予習・復習] 学習指導要領(解説)に示されている教科の目標を確認する。</p> <p>6. 授業の設計(2) 学習指導案 ----- [予習・復習] 学習指導案に盛り込まれている授業設計の要素を整理し、その必要性を再確認する。</p> <p>7. 授業の展開 ----- [予習・復習] 自分が受けてきた授業で、「印象に残っている授業」とはどのような展開のものであつてか検証してみる。</p> <p>8. 授業の評価 ----- [予習・復習] 「目標に準拠した評価の在り方」、「指導と評価の一体化」について考えてみる。</p> <p>9. 教育メディアの特性(1) 活字・音声 ----- [予習・復習] 学習の深化を図るための「抽象化と具体化」の必要性を確認する。</p> <p>10. 教育メディアの特性(2) 映像 ----- [予習・復習] 映像による教材化の有効性と問題点を検証する。</p> <p>11. 教育メディアの特性(3) コンピュータ(ICT) ----- [予習・復習] PCの機能の有効性と問題点を検証する。</p> <p>12. 教育メディアの活用における留意点 ----- [予習・復習] いろいろなメディアの光と陰を知り、授業での課題を検証する。</p> <p>13. 映像の授業への活用(演習) 教材映像や録画映像 ----- [予習・復習] 活用事例を情報収集する。</p> <p>14. コンピュータ(ICT)の授業への活用(演習) 電子黒板・デジタル教科書等 ----- [予習・復習] 活用事例を情報収集する。</p> <p>15. 講義全体のまとめ ----- [予習・復習] 確かな学力を育む授業とはなにか、新学習指導要領に求める学力を育む授業の工夫はなにか、整理する。</p>		

科目名	生徒指導論(一)		担当教員	大西 英人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生徒の「自己指導能力」の育成を目指した実践につながる生徒指導論の探究				
到達目標	生徒理解の上に立って、計画的・組織的な指導・援助・支援が図れる実践的な態度・資質を身につける。				
授業概要	生徒指導にかかる今日的課題に沿って、生徒指導の基本的事項(理論、考え方等)をおさえること並びにこの教育活動の性質を踏まえ、事例演習を通してプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	課題レポート並びに事例演習を基に総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	課題レポート等はポータルサイトでコメントを行い評価する。				
履修上の注意事項等	特になし				
テキスト	生徒指導提要 文部科学省 教育図書 平成22年 適宜講義関係資料を配付する。				
参考書	随時紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス(生徒指導の意義)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。講義の内容をふまえ、教育活動における生徒指導の意義を確認し、整理する。</p> <p>2. 生徒指導の原理</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキストを読み生徒指導の原理について考える。講義内容をふまえ、教育活動(教育課程)における生徒指導の原理について確認し、整理する。</p> <p>3. 生徒指導の領域と方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の成長過程を振り返り、生徒指導がどのように関わっていたかを考える。講義を基に生徒指導の各領域での関わり方の留意点について確認し、整理する。</p> <p>4. 学習指導要領と生徒指導</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の学びの過程で、教育課程に位置づけられた教育活動における生徒指導について振り返る。学習指導要領と生徒指導及び教育課程の教育活動と生徒指導の関連性について確認し、整理する。</p>				

科目名	生徒指導論(一)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 生徒指導体制の確立と生徒指導の計画		
	[予習・復習] 教職論の学びとテキストの読みをふまえ、学校組織としての生徒指導の在り方について考える。組織としての体制づくりの必要性及び学校外の組織との連携協力体制の在り方についてレポートを作成する。		
	6. 生徒理解の基本と方法		
	[予習・復習] テキストを読み、生徒理解とはどのようなことであるかを考える。講義内容をふまえ、生徒理解が総ての教育活動の前提である理由について確認し、整理する。		
	7. 問題行動への理解及び対応と指導(1) 反社会的行動		
	[予習・復習] 事前配付資料(反社会的行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、反社会的行動の背景や内容分析、初期対応をはじめとした基本的対応の在り方について確認し、整理する。		
	8. 問題行動への理解及び対応と指導(2) 非社会的行動		
	[予習・復習] 事前配付資料(非社会的行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、非社会的行動の背景や内容分析、初期対応をはじめとした基本的対応の在り方について確認し、整理する。		
	9. 問題行動への理解及び対応と指導(3) その他		
	[予習・復習] 事前配付資料(その他の問題行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、課題となる行動の背景や内容分析、初期対応及び効果的な指導をはじめとした基本的対応の在り方についてレポートを作成する。		
	10. 生徒指導と保護者・地域・関係機関・団体等との連携・協力		
	[予習・復習] 事前配付資料を読み、5時限目の既習内容をふまえ、一人ひとりをよりよく育むためにどうあるべきかを考える。講義の内容を基に、「個」を大切にする教育の基本を確認し、連携の必要性を理解する。		
	11. 生徒指導と進路指導・キャリア教育		
	[予習・復習] テキストを読み、自己の経験を基にして進路指導及びキャリア教育の在り方について考える。講義内容をふまえ、発達段階に適した進路指導とキャリア教育の必要性とその在り方についてレポートを作成する。		
	12. 特別支援教育		
[予習・復習] 事前配付資料を読み、共生社会の形成に向けた生徒指導の在り方について考える。講義内容を基に、特別支援教育(特別ニーズ教育)がなぜ共生社会形成に向けて必要なのかについて整理する。			
13. 生徒指導の実際と事例演習			
[予習・復習] 事前配付資料(想定事例Ⅰ)を読み、事例における課題を発見し、解決に向けた対応策を考える。事例研究を通し、既習事項の確認と実践的な対応のポイントを整理する。			
14. 教育相談、進路指導の実際と事例演習			
[予習・復習] 事前配付資料(想定事例Ⅱ)を読み、事例における課題を発見し、解決に向けた対応策を考える。事例研究を通し、既習事項の確認と実践的な対応のポイントを整理する。			
15. 生徒指導の総括、授業まとめ			
[予習・復習] 講義を通して学んだことを整理し、よりよい生徒指導実践の在り方について考える。学習到達度の確認を通し、教育専門職として確かな自己指導能力の育成への力量を養う。			

科目名	生徒指導論(二)		担当教員	大西 英人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	2年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	生徒の「自己指導能力」の育成を目指した実践につながる生徒指導論の探究				
到達目標	生徒理解の上に立って、計画的・組織的な指導・援助・支援が図れる実践的な態度・資質を身につける。				
授業概要	生徒指導にかかる今日の課題に沿って、生徒指導の基本的事項(理論、考え方等)をおさえること並びにこの教育活動の性質を踏まえ、事例演習を通してプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で関心、意欲、態度等を評価する。 課題レポート及び事例演習(50%)で考察力、表現力等を評価する。 試験(40%)で生徒指導論の理解度を総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	課題レポートは講義中にコメント等を行い評価する。 事前に提出された事例演習を評価したうえで、授業中にフィードバックする。				
履修上の注意事項等	講義の内容を深めるため、学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、授業には積極的・能動的な態度で臨むこと。				
テキスト	生徒指導提要 文部科学省 教育図書 平成22年 適宜講義関係資料を配付する。				
参考書	随時紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス(生徒指導の意義)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。講義の内容をふまえ、教育活動における生徒指導の意義を確認し、整理する。</p> <p>2. 生徒指導の原理</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] テキストを読み生徒指導の原理について考える。講義内容をふまえ、教育活動(教育課程)における生徒指導の原理について確認し、整理する。</p> <p>3. 生徒指導の領域と方法</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の成長過程を振り返り、生徒指導がどのように関わっていたかを考える。講義を基に生徒指導の各領域での関わり方の留意点について確認し、整理する。</p> <p>4. 学習指導要領と生徒指導</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 自己の学びの過程で、教育課程に位置づけられた教育活動における生徒指導について振り返る。学習指導要領と生徒指導及び教育課程の教育活動と生徒指導の関連性について確認し、整理する。</p>				

科目名	生徒指導論(二)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 生徒指導体制の確立と生徒指導の計画		
	[予習・復習] 教職論の学びとテキストの読みをふまえ、学校組織としての生徒指導の在り方について考える。組織としての体制づくりの必要性及び学校外の組織との連携協力体制の在り方についてレポートを作成する。		
	6. 生徒理解の基本と方法		
	[予習・復習] テキストを読み、生徒理解とはどのようなことであるかを考える。講義内容をふまえ、生徒理解が総ての教育活動の前提である理由について確認し、整理する。		
	7. 問題行動への理解及び対応と指導(1) 反社会的行動		
	[予習・復習] 事前配付資料(反社会的行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、反社会的行動の背景や内容分析、初期対応をはじめとした基本的対応の在り方について確認し、整理する。		
	8. 問題行動への理解及び対応と指導(2) 非社会的行動		
	[予習・復習] 事前配付資料(非社会的行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、非社会的行動の背景や内容分析、初期対応をはじめとした基本的対応の在り方について確認し、整理する。		
	9. 問題行動への理解及び対応と指導(3) その他		
	[予習・復習] 事前配付資料(その他の問題行動の事例)を通し、課題となること、対応の在り方について考える。講義内容をふまえ、課題となる行動の背景や内容分析、初期対応及び効果的な指導をはじめとした基本的対応の在り方についてレポートを作成する。		
	10. 生徒指導と保護者・地域・関係機関・団体等との連携・協力		
	[予習・復習] 事前配付資料を読み、5時限目の既習内容をふまえ、一人ひとりをよりよく育むためにどうあるべきかを考える。講義の内容を基に、「個」を大切にする教育の基本を確認し、連携の必要性を理解する。		
	11. 生徒指導と進路指導・キャリア教育		
	[予習・復習] テキストを読み、自己の経験を基にして進路指導及びキャリア教育の在り方について考える。講義内容をふまえ、発達段階に適した進路指導とキャリア教育の必要性とその在り方についてレポートを作成する。		
	12. 特別支援教育		
[予習・復習] 事前配付資料を読み、共生社会の形成に向けた生徒指導の在り方について考える。講義内容を基に、特別支援教育(特別ニーズ教育)がなぜ共生社会形成に向けて必要なのかについて整理する。			
13. 生徒指導の実際と事例演習			
[予習・復習] 事前配付資料(想定事例Ⅰ)を読み、事例における課題を発見し、解決に向けた対応策を考える。事例研究を通し、既習事項の確認と実践的な対応のポイントを整理する。			
14. 教育相談、進路指導の実際と事例演習			
[予習・復習] 事前配付資料(想定事例Ⅱ)を読み、事例における課題を発見し、解決に向けた対応策を考える。事例研究を通し、既習事項の確認と実践的な対応のポイントを整理する。			
15. 生徒指導の総括、授業まとめ			
[予習・復習] 講義を通して学んだことを整理し、よりよい生徒指導実践の在り方について考える。学習到達度の確認を通し、教育専門職として確かな自己指導能力の育成への力量を養う。			

科目名	教育相談心理学(一)			担当教員	☆ 飯田 香織
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	多岐にわたる教育心理学の扱うジャンルの中から、教育相談を行う際に必要な臨床心理学的知識などを取り上げる。				
到達目標	教育相談の意義を理解し、教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身につける。				
授業概要	(Web 授業の場合) グーグルクラスルームで提供する資料や動画により授業を行う。 (通常授業の場合) 授業は講師の作成した資料と板書を併用して進める。毎回授業の最後に授業の理解を確認する提出課題と質問などを記載するコミュニケーションペーパーの記載を行う。また、具体的なトピックについて自分の考えをまとめたりそれを発表したりする機会も設ける。				
評価方法・基準	(Web 授業なら) 毎回の授業内容に関する提出課題と最後に課す長めのレポートの合計点。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象とせず、単位を出しません。期限内の課題提出で出席とします。 (通常授業なら) 最終授業で実施する到達度確認と毎回提出する課題の合計点。ただし、正当な理由なく5回以上(5回を含む)欠席した場合は、評価の対象とせず、単位を出しません。				
課題のフィードバック方法	コミュニケーションシートあるいは毎回のレポートの内容、質問や疑問は、次回以降の授業に反映させ、適宜紹介していくよう努める。 (通常授業の場合) 期間内に到達度確認を実施し、最終授業で講評を行う。				
履修上の注意事項等	正当な理由なく5回以上(5回を含む)欠席した場合は、評価の対象とせず、単位を出しません。WEB 授業の場合は、毎回の期限内の提出課題提出をもって出席とみなします。期限を過ぎると一切受け付けませんので、注意してください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 教育相談と生徒指導</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教育相談の目的・意義について復習する。</p> <p>2. 予防的・開発的教育相談</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 生徒指導提要における8つの手法について復習する。</p> <p>3. 不登校-----[予習・復習] WEB 授業であれば解説を聞いて、通常授業であれば他の学生の意見を聞いて、さらに自分の意見を見直し、様々な支援の視点を復習しておく。</p> <p>4. 児童期・思春期の精神病理の基礎知識(1)うつ、統合失調症、PTSD など-----[予習・復習] それまで知らなかった事項があれば復習して理解しておく。</p>				

科目名	教育相談心理学(一)	担当教員	☆ 飯田 香織
授業内容	<p>5. 児童期・思春期の精神病理の基礎知識(2) 自傷行為や自殺予防など-----[予習・復習] 授業資料について復習しておく。</p> <p>6. 発達障害(1) 概念 ----- [予習・復習] 発達障害の概念について復習する。</p> <p>7. 発達障害(2) 援助 ----- [予習・復習] 不適応や対人関係の困難などに教師として自分ならどう援助したいかを考える(復習)。</p> <p>8. 虐待・反社会的問題行動 ----- [予習・復習] 概念や対応について復習する。</p> <p>9. さまざまな心理療法の理論(1) 精神分析など ----- [予習・復習] 各理論について大まかに理解できるところまで復習する。</p> <p>10. さまざまな心理療法の理論(2) 行動論、認知行動療法など-----[予習・復習] 行動論、認知行動療法の考え方について復習する。</p> <p>11. 知能 ----- [予習・復習] 特に知能検査について復習する。</p> <p>12. パーソナリティ ----- [予習・復習] 特に類型論と特性論の違いと、それぞれの代表的理論について復習する。</p> <p>13. いじめ-----[予習・復習] 授業内容を踏まえて、いじめ事案にかかわる際に自分はどういうようにするとよいのかを考えておく。</p> <p>14. 保護者支援-----[予習・復習] 保護者支援の重要性についてや具体的対応について、授業の内容をふりかえり、自身の考えを相対化し深める(復習)。</p> <p>15. 授業まとめ ----- [予習・復習] 到達度確認に向けて全ての授業内容を復習しておく。</p>		

科目名	教育相談心理学(二)			担当教員	☆ 飯田 香織
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	多岐にわたる教育心理学の扱うジャンルの中から、教育相談を行う際に必要な臨床心理学的知識などを取り上げる。				
到達目標	教育相談の意義を理解し、教育相談をすすめる際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身につける。				
授業概要	(Web 授業の場合) グーグルクラスルームで提供する資料や動画により授業を行う。 (通常授業の場合) 授業は講師の作成した資料と板書を併用して進める。毎回授業の最後に授業の理解を確認する提出課題と質問などを記載するコミュニケーションペーパーの記載を行う。また、具体的なトピックについて自分の考えをまとめたりそれを発表したりする機会も設ける。				
評価方法・基準	(Web 授業なら) 毎回の授業内容に関する提出課題と最後に課す長めのレポートの合計点。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は評価の対象とせず、単位を出しません。期限内の課題提出で出席とします。 (通常授業なら) 最終授業で実施する到達度確認と毎回提出する課題の合計点。ただし、正当な理由なく5回以上(5回を含む)欠席した場合は、評価の対象とせず、単位を出しません。				
課題のフィードバック方法	コミュニケーションシートあるいは毎回のレポートの内容、質問や疑問は、次回以降の授業に反映させ、適宜紹介していくよう努める。 (通常授業の場合) 期間内に到達度確認を実施し、最終授業で講評を行う。				
履修上の注意事項等	正当な理由なく5回以上(5回を含む)欠席した場合は、評価の対象とせず、単位を出しません。WEB 授業の場合は、毎回の期限内の提出課題提出をもって出席とみなします。期限を過ぎると一切受け付けませんので、注意してください。				
テキスト	なし				
参考書	なし				
授業内容	<p>1. 教育相談と生徒指導</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教育相談の目的・意義について復習する。</p> <p>2. 予防的・開発的教育相談</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 生徒指導提要における8つの手法について復習する。</p> <p>3. 不登校-----[予習・復習] WEB 授業であれば解説を聞いて、通常授業であれば他の学生の意見を聞いて、さらに自分の意見を見直し、様々な支援の視点を復習しておく。</p> <p>4. 児童期・思春期の精神病理の基礎知識(1)うつ、統合失調症、PTSD など-----[予習・復習] それまで知らなかった事項があれば復習して理解しておく。</p>				

科目名	教育相談心理学(二)	担当教員	☆ 飯田 香織
<p>授業内容</p>	<p>5. 児童期・思春期の精神病理の基礎知識(2) 自傷行為や自殺予防など-----[予習・復習] 授業資料について復習しておく。</p> <p>6. 発達障害(1) 概念</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 発達障害の概念について復習する。</p> <p>7. 発達障害(2) 援助</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 不適応や対人関係の困難などに教師として自分ならどう援助したいかを考える(復習)。</p> <p>8. 虐待・反社会的問題行動</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 概念や対応について復習する。</p> <p>9. さまざまな心理療法の理論(1) 精神分析など</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 各理論について大まかに理解できるところまで復習する。</p> <p>10. さまざまな心理療法の理論(2) 行動論、認知行動療法など-----[予習・復習] 行動論、認知行動療法の考え方について復習する。</p> <p>11. 知能</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 特に知能検査について復習する。</p> <p>12. パーソナリティ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 特に類型論と特性論の違いと、それぞれの代表的理論について復習する。</p> <p>13. いじめ-----[予習・復習] 授業内容を踏まえて、いじめ事案にかかわる際に自分はどういうようにするとよいのかを考えておく。</p> <p>14. 保護者支援-----[予習・復習] 保護者支援の重要性についてや具体的対応について、授業の内容をふりかえり、自身の考えを相対化し深める(復習)。</p> <p>15. 授業まとめ</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 到達度確認に向けて全ての授業内容を復習しておく。</p>		

科目名	教職実践演習(中・高)		担当教員	大西 英人.辻 寛司.山本 雅一.中戸 義雄	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	4年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	大学での学びや教育実習・教員採用試験等の体験をもとに自己の課題を把握し、自らがめざすべき教師像を確認するとともに、教職専門職として求められる資質・能力を磨く。				
到達目標	教師として必要な基礎的資質の形成について、以下の項目について確認していく。① 教育に対する使命感や責任感をもち、生徒に対する愛情をもっていること。② 生徒の成長に寄与し、教職員や保護者と連携していくための社会性やコミュニケーション能力を身につけていること。③ 生徒理解や学級経営等に関する能力の基礎を身につけていること。④ 教科に関する十分な知識や指導力の基礎を形成していること。				
授業概要	受講生がこれまでの教職課程および教育実習で学び、経験してきた内容事項を確認しながら、グループ討論や事例研究などを行っていく。とくに今日困難の増している生徒指導については、事例研究と並んでロールプレイを取り入れることでより実践的な検討を重ねていく。また、各教科の指導についてもモデル授業の検討や模擬授業の実施によって基礎的能力の充実を図っていく。				
評価方法・基準	各授業時に提出する小レポート等 50%(授業内容の理解度、実践への応用的視点を重視)、模擬授業に関する指導案及びその模擬授業 50%(指導案の完成度と模擬授業準備の程度を重視)とする。				
課題のフィードバック方法	小レポートでの主な質問・疑問等は次回以降の授業で回答する。模擬授業については授業時間内に担当教員が講評する。				
履修上の注意事項等	積極的・能動的な態度で受講すること。模擬授業を行わない場合は単位認定の対象としない。				
テキスト	必要に応じて資料を配布する予定				
参考書					
授業内容	<p>1. イントロダクション ―本演習の目的と概要―(全体講義)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業の概要を理解する。</p> <p>2. 「教職科目」を学んで教員のあり方をどうとらえたか(グループ討論)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] これまでの教職科目を振り返り、自分の学びをノートに整理しておく。授業後は討議内容も踏まえながら、教員のあり方をノートにまとめる。</p> <p>3. 教員としての役割・職務内容について(グループ討論)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教職課程での学習や教育実習での経験を踏まえ、教員の役割や職務内容をノートに整理しておく。授業後は討議内容も踏まえながら、役割や職務内容のポイントをノートにまとめる。</p> <p>4. 生徒とのコミュニケーションについて(ロールプレイを中心に)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 教育実習や自分の学校体験をもとに、生徒と教員とのコミュニケーションにおける問題点を3つ以上あげておく。授業後はロールプレイや学習内容を踏まえながら、対生徒のコミュニケーションにおける課題をノートにまとめる。</p>				

科目名	教職実践演習(中・高)	担当教員	大西 英人.辻 寛司.山本 雅一.中戸 義雄
授業内容	5. 保護者・家庭への対応と連携について(グループ討論)		
	[予習・復習] 保護者・家庭対応における問題点を3つ以上あげておく。授業後は、学習内容や討論を踏まえながら保護者・家庭との連携への課題をノートにまとめる。		
	6. 学級経営案の作成と現職教員の事例(作成と検討)		
	[予習・復習] 学級経営の概要を資料等で通読しておく。授業後は授業内で作成・検討した事例をもとにポイントをノートにまとめる。		
	7. カウンセリングマンドの実際(ロールプレイを中心に)		
	[予習・復習] 教育実習などの経験をもとに、自分が教員として生徒にどう向かい合うことができるかを1つの具体例をあげてシミュレーションしておく。授業後は自分の対応の問題点・課題をノートのまとめ、今後の改善につなげていく。		
	8. いじめや不登校の問題についてI(事例研究)		
	[予習・復習] 配布資料で、いじめや不登校問題の原因をそれぞれ3つ以上あげておく。授業後はそれぞれの問題への対応のポイントについてノートにまとめる。		
	9. いじめや不登校の問題についてII(ロールプレイを中心に)		
	[予習・復習] 第8回の事例研究をもとに、自分が教員としてどう対応できるかをシミュレーションしておく。授業後は自分の対応の問題点・課題を確認しノートにまとめ、今後の改善につなげていく。		
	10. 特別に支援を要する子どもについて(事例研究)		
	[予習・復習] 教育実習や介護等体験等の経験もとに、子どもたちのニーズについて、調査しまとめておく。授業後は事例研究による学習内容をもとに、対応のポイントについてノートのまとめ。		
	11. 学校の見学及び現職教員の講話(見学・講義)		
	[予習・復習] 予習では当該校の情報(教育方針や実践活動)をHPや資料で閲覧しておく。復習では現職教員による講話や質疑から何を学んだかを整理して、レポートを作成し提出する。		
	12. 教科の指導についてI(学習指導案の作成、モデル授業の検討)		
[予習・復習] 担当する模擬授業の学習指導案をあらかじめ作成しておく。復習では、学習内容を踏まえ自らの指導案の問題点を確認し、修正を行う。			
13. 教科の指導についてII(模擬授業実施)			
[予習・復習] 自ら作成した学習指導案に基づき、模擬授業の練習準備を繰り返す。授業後は自らの模擬授業を振り返り、担当教員からの指導や助言も踏まえながら課題・問題点を整理し、ノートにまとめる。			
14. 教科の指導についてIII(模擬授業参観)			
[予習・復習] 他の模擬授業を参観し、そこから学び取れることをノートにまとめ、自らの授業改善へとつなげていく。			
15. これからの学校教育について(グループ討論)			
[予習・復習] 本演習を通じた学習内容について、ノートや資料などを通読しておく。授業後は討論や学習内容をもとに、本演習での学びを小レポートとしてまとめる。			

科目名	人権教育の研究(一)		担当教員	大西 英人	
開講期間	前期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人権が尊重され擁護される社会を築く「人権文化の創造」を目指した人権教育の推進				
到達目標	人権尊重の視点に立った学校づくりを推進するための確かな理論とスキルの習得				
授業概要	人権教育を通じて育てたい資質・能力・感性を明らかにし、「生きる力」として人権問題を考え、解決に取り組もうとする意思と意欲を醸成するための教育及び啓発の進め方を探究する。また、この教育活動の性質を踏まえ、演習においては、グループワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で関心、意欲、態度等を評価する。 課題レポート及び学習指導案作成(90%)で考察力、表現力等を評価する。				
課題のフィードバック方法	対話カードの内容について講評等を行う。 課題レポートについても講評を行う。 学習指導案については、模擬授業の中で講評を行う。				
履修上の注意事項等	講義中の内容を深めるために学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、課題意識を持って積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	適宜配付する講義関係資料				
参考書	随時紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス(人権教育推進の基本的な考え方)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。人権文化の創造のための人権教育の意義について確認し、その要点を整理する。</p> <p>2. 人権教育推進上の課題(固定観念・偏見・差別)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 現状における自己の人権感覚をふり返り、人権教育に関わる課題を考える。講義及び演習を通して確認できた自己の人権意識を確認し、教員として養うべき人権感覚をの存在を確認し、整理する。</p> <p>3. 学校における人権教育の成立基盤</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 卑近な事例を通し人権教育はなぜ必要なのかを考える。人権と教育の関わりを通し、人権教育の成立基盤について具体的に確認し、整理する。</p> <p>4. 人権教育に向けた潮流</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] これまでの学びから、歴史的な人権に関わる事例を調べ、どのような特徴があるかを考える。講義を通して学んだ人権教育の潮流の現状と今後について確認し、整理する。</p>				

科目名	人権教育の研究(一)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 「世界人権宣言」と「子どもの権利条約」 -----		
	[予習・復習] 事前配付の資料を通し、世界人権宣言及び子どもの権利条約について考える。講義内容をふまえ、世界人権宣言の持つ意義についてレポートを作成する。		
	6. 「子どもの権利条約」と「児童憲章」(グループワーク) -----		
	[予習・復習] 事前配付の資料を通し、子どもの権利条約及び児童憲章それぞれの特色を把握する。講義内容をふまえ、子どもの権利条約の持つ基本的視座を確認し、整理する。		
	7. 「子どもの権利条約」(演習) -----		
	[予習・復習] 前時に確認した子どもの権利条約の持つ特徴及び基本的視座についてよく考える。講義や演習内容をふまえ、想定事例における課題及び対応策についてレポートを作成する。		
	8. 学校教育における人権教育の現状と課題 -----		
	[予習・復習] 自己が受けた人権教育の内容をふり返り、推進及び改善すべきことを整理しておく。講義内容を基に学校教育における現状と課題を確認すると共に、今後の在り方を展望する。		
	9. 学校教育における人権教育の進め方 -----		
	[予習・復習] これまでの講義内容から学校教育における人権教育の進め方・留意すべき事項について考える。講義や討議の内容をふまえ、より効果的で実践が可能な人権教育の在り方を確認し、整理する。		
	10. 個別の人権課題に対する取り組みの観点 -----		
	[予習・復習] 事前配付資料に基づき個別の人権課題について考える。講義・演習を通して確認し合った事項を基に、学校教育における人権教育の現状と課題について確認し、整理する。		
	11. 授業づくり演習(1)教材と指導案 -----		
	[予習・復習] 事前配付資料に基づき、共通テーマ(なかまづくり・子どもの権利条約)の学習指導案を作成する。学習指導案を基にした演習、講義を基に、学校教育における人権教育の視座を確認し、整理する。		
	12. 授業づくり演習(2)模擬授業、授業研究・相互評価 -----		
[予習・復習] 模擬授業実施に向けて学習指導案を再検討する。「なかまづくり」をテーマにした模擬授業及び授業研究を通して人権教育の視座を再確認する。また、効果的な授業の在り方についてポイントを確認する。			
13. 授業づくり演習(3)模擬授業、授業研究・相互評価 -----			
[予習・復習] 模擬授業実施に向けて学習指導案を再検討する。「子どもの権利条約」の内容に関する模擬授業及び授業研究を通して人権教育の視座を再確認する。また、効果的な授業の在り方についてポイントを整理する。			
14. 授業づくり演習(4)模擬授業、授業研究・相互評価 -----			
[予習・復習] 模擬授業の成果と課題を基に権教育推進のためのスキルについて考える。講義・討議を通して気付いた理論及びスキルを確認し、整理する。			
15. 人権教育の総括、授業まとめ -----			
[予習・復習] 講義を通して学んだことを整理し、人権尊重の視点に立った学校づくりの推進を考える。学習到達度の確認を通し、「生きる力」として人権問題を捉え、課題解決に取り組むことができる意思と意欲の醸成を図る。			

科目名	人権教育の研究(二)		担当教員	大西 英人	
開講期間	後期	単位数	2	配当年次	3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	人権が尊重され擁護される社会を築く「人権文化の創造」を目指した人権教育の推進				
到達目標	人権尊重の視点に立った学校づくりを推進するための確かな理論とスキルの習得				
授業概要	人権教育を通じて育てたい資質・能力・感性を明らかにし、「生きる力」として人権問題を考え、解決に取り組もうとする意思と意欲を醸成するための教育及び啓発の進め方を探究する。また、この教育活動の性質を踏まえ、演習においては、グループワークやプレゼンテーションを積極的に取り入れる。				
評価方法・基準	対話カード(10%)で関心、意欲、態度等を評価する。 課題レポート及び学習指導案作成(90%)で考察力、表現力等を評価する。				
課題のフィードバック方法	対話カードの内容について講評等を行う。 課題レポートについても講評を行う。 学習指導案については、模擬授業の中で講評を行う。				
履修上の注意事項等	講義中の内容を深めるために学生の発表や質疑を適宜取り入れるので、課題意識を持って積極的・能動的な態度で受講すること。				
テキスト	適宜配付する講義関係資料				
参考書	随時紹介する。				
授業内容	<p>1. ガイダンス(人権教育推進の基本的な考え方)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] シラバスを読み、授業内容について理解する。人権文化の創造のための人権教育の意義について確認し、その要点を整理する。</p> <p>2. 人権教育推進上の課題(固定観念・偏見・差別)</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 現状における自己の人権感覚をふり返り、人権教育に関わる課題を考える。講義及び演習を通して確認できた自己の人権意識を確認し、教員として養うべき人権感覚をの存在を確認し、整理する。</p> <p>3. 学校における人権教育の成立基盤</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] 卑近な事例を通し人権教育はなぜ必要なのかを考える。人権と教育の関わりを通し、人権教育の成立基盤について具体的に確認し、整理する。</p> <p>4. 人権教育に向けた潮流</p> <p>-----</p> <p>[予習・復習] これまでの学びから、歴史的な人権に関わる事例を調べ、どのような特徴があるかを考える。講義を通して学んだ人権教育の潮流の現状と今後について確認し、整理する。</p>				

科目名	人権教育の研究(二)	担当教員	大西 英人
授業内容	5. 「世界人権宣言」と「子どもの権利条約」		
	[予習・復習] 事前配付の資料を通し、世界人権宣言及び子どもの権利条約について考える。講義内容をふまえ、世界人権宣言の持つ意義についてレポートを作成する。		
	6. 「子どもの権利条約」と「児童憲章」(グループワーク)		
	[予習・復習] 事前配付の資料を通し、子どもの権利条約及び児童憲章それぞれの特色を把握する。講義内容をふまえ、子どもの権利条約の持つ基本的視座を確認し、整理する。		
	7. 「子どもの権利条約」(演習)		
	[予習・復習] 前時に確認した子どもの権利条約の持つ特徴及び基本的視座についてよく考える。講義や演習内容をふまえ、想定事例における課題及び対応策についてレポートを作成する。		
	8. 学校教育における人権教育の現状と課題		
	[予習・復習] 自己が受けた人権教育の内容をふり返り、推進及び改善すべきことを整理しておく。講義内容を基に学校教育における現状と課題を確認すると共に、今後の在り方を展望する。		
	9. 学校教育における人権教育の進め方		
	[予習・復習] これまでの講義内容から学校教育における人権教育の進め方・留意すべき事項について考える。講義や討議の内容をふまえ、より効果的で実践が可能な人権教育の在り方を確認し、整理する。		
	10. 個別の人権課題に対する取り組みの観点		
	[予習・復習] 事前配付資料に基づき個別の人権課題について考える。講義・演習を通して確認し合った事項を基に、学校教育における人権教育の現状と課題について確認し、整理する。		
	11. 授業づくり演習(1)教材と指導案		
	[予習・復習] 事前配付資料に基づき、共通テーマ(なかまづくり・子どもの権利条約)の学習指導案を作成する。学習指導案を基にした演習、講義を基に、学校教育における人権教育の視座を確認し、整理する。		
	12. 授業づくり演習(2)模擬授業、授業研究・相互評価		
[予習・復習] 模擬授業実施に向けて学習指導案を再検討する。「なかまづくり」をテーマにした模擬授業及び授業研究を通して人権教育の視座を再確認する。また、効果的な授業の在り方についてポイントを確認する。			
13. 授業づくり演習(3)模擬授業、授業研究・相互評価			
[予習・復習] 模擬授業実施に向けて学習指導案を再検討する。「子どもの権利条約」の内容に関する模擬授業及び授業研究を通して人権教育の視座を再確認する。また、効果的な授業の在り方についてポイントを整理する。			
14. 授業づくり演習(4)模擬授業、授業研究・相互評価			
[予習・復習] 模擬授業の成果と課題を基に権教育推進のためのスキルについて考える。講義・討議を通して気付いた理論及びスキルを確認し、整理する。			
15. 人権教育の総括、授業まとめ			
[予習・復習] 講義を通して学んだことを整理し、人権尊重の視点に立った学校づくりの推進を考える。学習到達度の確認を通し、「生きる力」として人権問題を捉え、課題解決に取り組むことができる意思と意欲の醸成を図る。			

科目名	教育実習指導(二)			担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
開講期間	通年	単位数	1	配当年次	4年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:1時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	教育実習の直前および事後の指導				
到達目標	事前段階では教育実習の準備を十分行なうこと。事後では教育実習を振り返り今後の課題を整理検討すること。				
授業概要	教育実習直前の指導としてガイダンスを行なう。教育実習生としての心構え、サービス内容の概略、教科指導、生徒指導、学級運営、校務分掌などに関わる留意事項や注意点について理解を深める。また実習後は、実習報告会への参加や体験記の執筆を通して、自己評価、自己点検を行なう。				
評価方法・基準	上記に関わる提出物、報告会等への参加態度による総合評価とする。				
課題のフィードバック方法	各授業時でのコメントカードへの記入内容に対する回答を必要に応じて次回授業時に行うとともに、模擬授業に関しては終了後に個別に評価を行っていく。				
履修上の注意事項等	無断欠席については実習後であっても単位認定を行なわない。				
テキスト	使用しない				
参考書					

科目名	教育実習指導(二)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.		

科目名	教育実習指導(二)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.		

科目名	教育実習指導(二)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30.		

科目名	教育実習指導(一)		担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
開講期間	通年	単位数	0	配当年次 3年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:4時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)
テーマ	教育実習の事前指導			
到達目標	次年度の教育実習を、立派に実践できる力を身につける。			
授業概要	教育実習は、学生が教育実践に携われる初めての機会である。短期間であるが、実習校で一般教職員として教育実習をすることになるのであるから、その責任は極めて重大である。現在の教育界の動向を見据えながら、教職員としての自覚、意欲や学校、教職員、生徒のあり方等を把握し、次年度の教育実習を前向きに確実に実践できるように、下記の内容について講義を進め、また模擬授業を通じて理解を深めさせる。教育実習ガイダンスにて配付する「教職課程日程表」のとおり。			
評価方法・基準	レポート(学習指導案等)、模擬授業の出来ばえ及び参加態度等を総合評価する。			
課題のフィードバック方法	各授業時でのコメントカードへの記入内容に対する回答を必要に応じて次回授業時に行うとともに、模擬授業に関しては終了後に個別に評価を行っていく。			
履修上の注意事項等	・『教職課程ハンドブック』を熟読のこと。また年間予定表は教職課程ガイダンスにて配付する。 ・次年度は実習校で教職員として生徒を指導する立場であることを自覚して授業に臨むこと。「追試験」対象事由以外での欠席及び遅刻は認めない。			
テキスト	プリントを配付する			
参考書				

科目名	教育実習指導(一)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	1. 授業の進め方・教育実習とは 2. 教育実習と学校法規 3. 教育実習と学力向上 4. 教育実習と生徒指導 5. 教育実習と人権 6. 学習指導案の作成 7. 模擬授業班分け・個別指導1 8. 模擬授業班分け・個別指導2 9. 模擬授業班分け・個別指導3 10. 模擬授業の実施		

科目名	教育実習指導(一)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	11. 模擬授業の実施 12. 模擬授業の実施 13. 模擬授業の実施 14. 模擬授業の実施 15. 模擬授業の実施 16. 模擬授業の実施 17. 模擬授業の実施 18. 模擬授業の実施 19. 模擬授業の実施 20. 模擬授業の実施		

科目名	教育実習指導(一)	担当教員	大西 英人 ☆辻 寛司 中戸 義雄
授業内容	21. 模擬授業の実施 22. 模擬授業の実施 23. 模擬授業の実施 24. 模擬授業の実施 25. 模擬授業の実施 26. 模擬授業の実施 27. 模擬授業の実施 28. 模擬授業の実施 29. 模擬授業の実施 30. 模擬授業の実施／模擬授業のまとめ		

科目名	教育実習 I		担当教員	大西 英人 中戸 義雄	
開講期間	その他	単位数	4	配当年次	4年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業 1 回分(1 週間あたり)の準備学修時間数の合計:4 時間(1 日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	学校現場における教育実習				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職に対する自覚を深めること 2 十分な教材研究をもとにした授業を展開できること 3 生徒理解、生徒指導を積極的におこなうこと 4 学校運営にかかわる事務処理を適切に遂行すること 				
授業概要	<p>教職課程の総仕上げとして、中学校において教師になるための実習を行なう。この実習には、それまでに専門科目、教養科目、教職科目を通して学んだ知識や技術、また、培ってきた「ものの見方・考え方」が反映されることとなる。同時に、この実習によって、それぞれの専門領域の研究について再吟味され、自己の生き方に新たな目を開く契機ともなるだろう。準備段階からの注意事項など詳細については『教職課程ハンドブック』に記載されているので、それをよく読んで理解しておくこと。そして前もって(3年生の間に)実習予定校に実習受け入れのお願いをしておくことが必要である。また実習が始まる前に実習校を訪問し、指導教諭の指示を受けて、授業の参観や教材研究などに早めに取りかかしておくことが望ましい。なお、実習は4週間、教育実習校において従事する。実習中は勤務と同じである。したがって非常事態でないかぎり、無遅刻無欠勤であること。指導教諭の指示のもと、生徒理解や教材研究について積極的な姿勢を示すことが必要である。教育実習ガイダンスにて配付する「教職課程日程表」のとおり。</p>				
評価方法・基準	実習校からの成績が中核をなすが、加えて実習日誌を確認するとともに、実習に関する提出物等をもとに総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	教育実習終了後に行われる反省会で、全体にかかわる評価を示すとともに、個別事項については必要に応じて指摘、指導を行う。				
履修上の注意事項等	指導教諭の指導のもとに学校教育の実践を体験するわけであるが、それに際して「学習指導案」「教育実習日誌」「実習体験記」などを作成・記入し提出しなければならない。実習直前に「直前オリエンテーション」を、実習後に「反省会」を実施する。出席しないものには単位認定を行わない。				
テキスト					
参考書					

科目名	教育実習 I	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	<ol style="list-style-type: none">1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.		

科目名	教育実習 I	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.		

科目名	教育実習 I	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30.		

科目名	教育実習Ⅱ		担当教員	大西 英人 中戸 義雄	
開講期間	その他	単位数	2	配当年次	4年
ナンバリング	『開講科目表』参照	この科目とディプロマポリシーの関係		『履修要項』の「カリキュラムマップ」参照。 2016年度以前入学生は大学公式HP「情報公開」参照	
授業1回分(1週間あたり)の準備学習時間数の合計				授業1回分(1週間あたり)の準備学修時間数の合計:1時間(1日あたりの準備学修時間は自分のペースを考え、各自で判断の上確保すること)	
テーマ	学校現場における教育実習				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職に対する自覚を深めること 2 十分な教材研究をもとにした授業を展開できること 3 生徒理解、生徒指導を積極的におこなうこと 4 学校運営にかかわる事務処理を適切に遂行すること 				
授業概要	<p>教職課程の総仕上げとして、実際の教育現場(高等学校)において教員になるための実習を行なう。この実習には、それまでに専門科目、教養科目、教職科目を通して学んだ知識や技術、また、培ってきた「ものの見方・考え方」が反映されることとなる。同時に、それぞれの専門領域の研究についても、「教える」という場面を通じて再吟味でき、さらには自己の生き方に新たな目を開く契機ともなるだろう。準備段階からの注意事項など詳細については『教職課程ハンドブック』をよく読んで理解しておくこと。ついては、事前に(3年次の間に)実習予定校に実習受入れをお願いしておくことが必要である。また、実習が始まる迄に実習校を訪問し、指導教諭の指示を受けるなどして、授業の参観や教材研究等早めに準備に取りかかっていることが望ましい。なお、2週間の実習であっても、実習期間中は勤務と同じである。非常時でないかぎり無遅刻無欠勤であることはもちろんのこと、指導教諭の指導のもと、生徒理解や教材研究について積極的真摯な姿勢で臨むことが肝要である。教育実習ガイダンスにて配付する「教職課程日程表」のとおり。</p>				
評価方法・基準	実習校からの成績が中核をなすが、加えて実習日誌を確認するとともに、実習に関する提出物等をもとに総合的に評価する。				
課題のフィードバック方法	教育実習終了後に行われる反省会で、全体にかかわる評価を示すとともに、個別事項については必要に応じて指摘、指導を行う。				
履修上の注意事項等	指導教諭の指導のもとに学校教育の実践を体験するわけであるが、それに際して「学習指導案」「教育実習日誌」「実習体験記」などを作成・記入し提出しなければならない。実習直前に「直前オリエンテーション」を、実習後に「反省会」を実施する。出席しないものには単位認定を行わない。				
テキスト					
参考書					

科目名	教育実習Ⅱ	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	<ol style="list-style-type: none">1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.		

科目名	教育実習Ⅱ	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20.		

科目名	教育実習Ⅱ	担当教員	大西 英人 中戸 義雄
授業内容	21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30.		